

米文学特殊研究 1 A

Studies in American Literature 1A

詩人たちの想像——アメリカン・ルネサンス期の詩を読む

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB139

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB321

授業の目標 / Course Objectives

エマソンは複数の講演をまとめた晩年のエッセイ“Poetry and Imagination”（1876）の中で、自然の真の意義は、その実相ではなくその象徴の中にあるとし、詩人は想像力を使って、その象徴を透かし見る、と述べていました。そのような想像力をもった者のみが詩人の名に値する、というのです。

そこで本科目では、広義のアメリカン・ルネサンス期の詩人たちの想像力ゆたかな秀作を地道にそしてクリティカルに読み、その詩人たる所以を探ることによって、カリキュラム・マップに示された「内容を分析総合する能力」と、「的確で客観的な調査を行う技能」を養うとともに、作品の魅力を翫味することができるようになります。

In his late essay “Poetry and Imagination”（1876）, which consolidated several lectures, Emerson asserted that the true significance of nature lies not in its tangible reality but in its symbols. He stated that poets, utilizing their imagination, perceive these symbols as if seeing through its actuality. Only those with such imaginative power, he maintained, are worthy of the title of poet.

In this course, we will meticulously and critically read the imaginative works of poets from the broader

American Renaissance period. By exploring the reasons behind their status as poets, students will be able to appreciate the appeal of their works and to develop “the ability to analyze as well as synthesize content” and “the skills to conduct accurate and objective surveys” as outlined in the Curriculum Map.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、「アメリカン・ルネサンス期」を広くとらえ、新しいアメリカ詩の黎明を告げたというべきブライアントの“Thanatopsis”（執筆 1811 頃、初出 1817）からメルヴィルの“In a Bye-Canal”（執筆 1857 頃、初出 1891）までカバーしています。“Thanatopsis”のような、文学史には必ず言及されるものの精読されることが少ない作品や、詩人たちの代表作とはいえないが想像力の飛翔が愉快的な作品を集めました。なお詩人たちを取り巻いていたアメリカの文化や社会についてもしばしば光を当ててゆきます。文化や社会が理解できなければ、文学を理解したことにはなりません。

本演習は、あらかじめ定められた担当者がハンドアウトに基づいて発表することによって進められます。担当でない参加者もみずからすすんで翫味しなければなりません。

In this course, we will take a broad view of the “American Renaissance period,” spanning from Bryant’s “Thanatopsis” (written around 1811, first published in 1817), which can be considered the dawn of new American poetry, to Melville’s “In a Bye-Canal” (written around 1857, first published in 1891). Our selection includes works like “Thanatopsis,” which, though often referenced in literary history, are seldom closely examined, as well as pieces that may not be the poets’ representative works but are delightful for their imaginative flights.

This seminar will proceed through presentations conducted by assigned individuals based on provided handouts. Participants who are not presenting are also required to actively engage in savoring and exploring the materials on their own.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：英語詩入門
- 2 回：アメリカン・ルネサンスの詩人たち
- 3 回：William Cullen Bryant, “Inscription for the Entrance to a Wood”
- 4 回：William Cullen Bryant, “Thanatopsis” 1
- 5 回：William Cullen Bryant, “Thanatopsis” 2
- 6 回：Henry Wadsworth Longfellow, “The Belfry of Bruges”
- 7 回：Henry Wadsworth Longfellow, “The Children’s Hour”
- 8 回：John Greenleaf Whittier, “Telling the Bees”
- 9 回：Edgar Allan Poe, “Alone,” “A Dream within a Dream”
- 10 回：Oliver Wendell Holmes, “The Chambered Nautilus”
- 11 回：Jones Very, “The Prayer,” “The Dead”
- 12 回：Henry David Thoreau, “Fog,” “Smoke,” “The Inward Morning”
- 13 回：Walt Whitman, “Song of Myself” Section 11
(Michael Moon, “The Twenty-Ninth Bather”)
- 14 回：Herman Melville, “In a Bye-Canal,” “Shiloh”

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後にオンラインでおこないます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と応答（議論・貢献度など）:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

プリントを配付します。

参考文献 / Readings

Richard Gray A History of American Poetry Wiley Blackwell 2015 1118795350

John Hollander, ed. American Poetry: The Nineteenth Century, vol. 1 The Library of America 1993
0940450607

英文学特殊研究 3 A

Studies in English Literature 3A

小説と相続の問題：ジェイン・オースティンの場合

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB143

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB305

授業の目標 / Course Objectives

ジェイン・オースティン（1775-1817）の *Sense and Sensibility* を精読することによって、オースティンが描いた市民社会において相続という問題がいかなる意味を帯びていたか、オースティンがそれをいかに表象したかを考察します。

By closely reading Jane Austen's *Sense and Sensibility*, the class will try to understand what the act of inheritance meant in the civil society of Austen's time and how Austen represented the theme in her novel.

授業の内容 / Course Contents

相続という問題は、あらゆる社会の存続にとって核心的な位置を占めるものです。そこで意味されるのは金銭的・経済的な相続のみならず、政治的な相続(社会体制の受け継ぎ)や文化的な相続(国家的・家族的・個人的な自己定義の受け継ぎ)でもあります。市民社会とともに発展してきたイギリスの小説において、その重要性は暗黙のうちに隅々まで浸透していると言えるでしょう。春学期はジェイン・オースティンの *Sense and Sensibility* を扱い、個々人のロマンスや結婚をめぐるプロットの背後に相続という問題のネットワークがいかに張り巡らされているかを考えます。

毎回、発表者を決めて報告してもらい、それを出発点としてディスカッションに入ってゆきます。発表者のみならず、全参加者の積極的な発言を期待します。

The problem of inheritance occupies a pivotal place in the continuation of any form of society. What is meant there is not only monetary/ economic take-over, but political take-over (the inheritance of social systems) and cultural take-over (the inheritance of national/ familial/ personal self-definitions). In the British novel, which developed along with the growth of civil society, its importance implicitly penetrates every corner of the genre. In the spring semester, we take up Jane Austen's *Sense and Sensibility* and consider how the network of inheritance works behind the plots around individual romances and marriages.

In each class, we will appoint presenters and use their report as the starting point for the discussion. It is expected that not only the presenters, but all participants will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Sense and Sensibility 講読第1回
- 3回：Sense and Sensibility 講読第2回
- 4回：Sense and Sensibility 講読第3回
- 5回：Sense and Sensibility 講読第4回
- 6回：Sense and Sensibility 講読第5回
- 7回：Sense and Sensibility 講読第6回
- 8回：Sense and Sensibility 講読第7回
- 9回：Sense and Sensibility 講読第8回
- 10回：Sense and Sensibility 講読第9回
- 11回：Sense and Sensibility 講読第10回
- 12回：Sense and Sensibility 講読第11回
- 13回：Sense and Sensibility 講読第12回
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当の回は、レジュメを丹念に用意してください。その以外の回も、次回の範囲を精読しておくようにしてください。参考文献が指定された場合は、それもしっかり読んでおいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Jane Austen *The Annotated Sense and Sensibility* Anchor Books 2011 9780307390769 ○

参考文献 / Readings

受講者の理解度を見極めながら、授業内で適宜指示してゆきます。

英文学特殊研究 3 B

Studies in English Literature 3B

小説と相続の問題：チャールズ・ディケンズの場合

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB144

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB306

授業の目標 / Course Objectives

チャールズ・ディケンズ（1812-70）の Bleak House を精読することによって、ディケンズが相続という問題をヴィクトリア朝社会の閉塞感とどのように結び付けて描き出そうとしたか、ディケンズのトレードマークであったヒューマニズムはそこにおいてどの程度まで有効であったかを考察します。

By closely reading Charles Dickens's Bleak House, the class will try to analyse how Dickens tried to connect the problem of inheritance with the Victorian sense of social stagnation and to what extent Dickens's trade-mark humanism was effective in the plot and solution of the novel.

授業の内容 / Course Contents

相続という問題は、あらゆる社会の存続にとって核心的な位置を占めるものです。そこで意味されるのは金銭的・経済的な相続のみならず、政治的な相続(社会体制の受け継ぎ)や文化的な相続(国家的・家族的・個人的な自己定義の受け継ぎ)でもあります。市民社会とともに発展してきたイギリスの小説において、その重要性は暗黙のうちに隅々まで浸透していると言えるでしょう。秋学期はチャールズ・ディケンズの後期作品 Bleak House を扱い、相続という問題のネットワークがいかに個々人の社会的・個人的生活を束縛するものとして作

者によって緻密に張り巡らされているかを考えます。

毎回、発表者を決めて報告してもらい、それを出発点としてディスカッションに入ってゆきます。発表者のみならず、全参加者の積極的な発言を期待します。

The problem of inheritance occupies a pivotal place in the continuation of any form of society. What is meant there is not only monetary/ economic take-over, but political take-over (the inheritance of social systems) and cultural take-over (the inheritance of national/ familial/ personal self-definitions). In the British novel, which developed along with the growth of civil society, its importance implicitly penetrates every corner of the genre. In the spring semester, we take up Charles Dickens's Bleak House and consider how the network of inheritance is meticulously constructed by the author as something that powerfully constricts the social and personal lives of the individuals.

In each class, we will appoint presenters and use their report as the starting point for the discussion. It is expected that not only the presenters, but all participants will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Bleak House 講読第1回
- 3回：Bleak House 講読第2回
- 4回：Bleak House 講読第3回
- 5回：Bleak House 講読第4回
- 6回：Bleak House 講読第5回
- 7回：Bleak House 講読第6回
- 8回：Bleak House 講読第7回
- 9回：Bleak House 講読第8回
- 10回：Bleak House 講読第9回
- 11回：Bleak House 講読第10回
- 12回：Bleak House 講読第11回
- 13回：Bleak House 講読第12回
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当の回は、レジюмеを丹念に用意してください。その以外の回も、次回の範囲を精読しておくようにしてください。参考文献が指定された場合は、それもしっかり読んでおいてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Charles Dickens Bleak House Penguin 2003 9780141439723 ○

参考文献 / Readings

受講者の理解度を見極めながら、授業内で適宜指示してゆきます。

英米文学研究方法論 1

Methodology of Eng.& Amer. Literature 1

Introduction to Literary Theory and Criticism

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB145

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL5811

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course introduces students to the world of literary and cultural theory. We will explore a wide variety of influential schools and figures, from Plato to contemporary approaches to literary analysis.

授業の内容 / Course Contents

Upon successful completion of this course, students are expected to be able to:

- describe major theoretical schools and approaches;
- use a range of theoretical concepts, and understand how concepts travel across time and cultures;
- demonstrate increased awareness of the relationships between language, literature and culture;
- connect theories with their cultural, political, and technological environments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: What is "Theory"?

2 回： The Norton Anthology of Theory and Criticism Plato (1)

3 回： The Norton Anthology of Theory and Criticism Plato (2)

- 4 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Aristotle (1)
 5 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Aristotle (2)
 6 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Nietzsche (1)
 7 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Nietzsche (2)
 8 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Ferdinand de Saussure
 9 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Roman Jakobson (1)
 10 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Roman Jakobson (2)
 11 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Michel Foucault
 12 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Roland Barthes (1)
 13 回：The Norton Anthology of Theory and Criticism Roland Barthes (2)
 14 回：Final Oral Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will work towards the composition of a scholarly research essay (of at least 5 pages in length) on a topic related to their own area of academic interest. This essay will be revised and re-submitted for a secondary mark. This course will also involve the preparation and oral delivery of an academic presentation.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Oral Presentation:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Vincent B. Leitch The Norton Anthology of Theory & Criticism Norton 2010 9780393932928 ○

参考文献 / Readings

英米文学研究方法論 2

Methodology of Eng.& Amer. Literature 2

唐澤 一友／小山 太一／古井 義昭／新田 啓子／舌津 智之／イエイツ, M. /藤巻 明 (KARASAWA KAZUTOMO/ KOYAMA TAICHI/ FURUI YOSHIAKI/ NITTA KEIKO/ ZETTSU TOMOYUKI/ YATES MICHAEL D. H./FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JB146
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EAL6813
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2 時限連続（隔週開講）

授業の目標 / Course Objectives

学位授与方針に示された「自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための論理構築と表現技法」を身につけ、同時に、参加者が相互に啓発し合うことによって批評・批判の技術を習得します。

Students will gain an understanding of “logical constructs and techniques of expression for objectively and persuasively communicating one’s own knowledge” as stated in the Policy on Conferment of Degrees.

Participants will also learn critical reviewing techniques through giving critiques to one another.

授業の内容 / Course Contents

本科目では毎回数名の院生が個々の研究計画や成果を発表し、教員を含む全参加者がそれぞれの研究方法の有効性や発展性、実証性を評価します。発表予定者はつねに徹底した発表原稿を準備し、より効果的な発表方法を検討しなければなりません。他方、参加者の方も、自己の問題意識を先鋭化し、研究姿勢や研究方法の充実に図るため、積極的に討論に参加することが要求されます。

In this module, several graduate students will present their individual research plans and/or findings in each

class. Then all participants, including teaching staff, will evaluate the effectiveness, expansiveness and validity of their various research methods. Students who will present must always prepare a thorough script for their presentation and consider more effective presentation techniques. On the other hand, students in the audience must also actively participate in debates in order to improve their attitude to research, research methodology and awareness of relevant issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：発表と討論 1
- 2 回：発表と討論 2
- 3 回：発表と討論 3
- 4 回：発表と討論 4
- 5 回：発表と討論 5
- 6 回：発表と討論 6
- 7 回：発表と討論 7
- 8 回：発表と討論 8
- 9 回：発表と討論 9
- 10 回：発表と討論 1 0
- 11 回：発表と討論 1 1
- 12 回：発表と討論 1 2
- 13 回：発表と討論 1 3
- 14 回：発表と討論 1 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表の対象となる作家の主要作品をあらかじめ読み、発表者が事前に用意する発表要旨にも目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・授業貢献:60% レポート:40%

テキスト / Textbooks

発表者の準備する資料と、発表で扱う作家の作品。

参考文献 / Readings

発表者の資料にあげられている参考文献。

英語学特殊研究 1 A

Studies in Eng. Philology & Linguistics 1A

古英語文献講読

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB147

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB351

授業の目標 / Course Objectives

古英語文献の読解を通じ、古英語文学や英語文献学の分野における研究の基礎を学ぶ。また、同分野において英語論文を書くために必要な英作文能力の養成を目指す。

Acquiring reading skills in Old English and writing skills of academic English in the field of English philology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では Oxford, Bodleian Library, Junius 11 写本に含まれる古英詩 Genesis B を精読しながら、古英語や古英詩、また、古英詩を記録した写本、同時代の歴史や文化について学ぶ。Genesis B は古英詩としては特殊なバックグラウンドを持った作品であることを踏まえ、より伝統的な古英詩と比較し、その異同を確認する作業を通じ、伝統的な古英詩の特徴および Genesis B の特異性について考える。これに加え、毎回、受講生の研究テーマに沿った内容の短い英文を予め作文しておいてもらい、これについて添削しながら、この分野における英語論文等の書き方を指導する。

We will read the Old English texts listed below and also do some training in academic English composition.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：Genesis B 講読 1
 3回：Genesis B 講読 2
 4回：Genesis B 講読 3
 5回：Genesis B 講読 4
 6回：Genesis B 講読 5
 7回：Genesis B 講読 6
 8回：Genesis B 講読 7
 9回：Genesis B 講読 8
 10回：Genesis B 講読 9
 11回：Genesis B 講読 10
 12回：Genesis B 講読 11
 13回：Genesis B 講読 12
 14回：Genesis B 講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で読むテキストは事前に必ず良く予習しておいてください。また、各回には事前に用意した英作文も使いますので、指示に従って英文を事前に準備してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み (英作文、発表、授業内発言等) :100%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業内で適宜紹介する。

英語学特殊研究 1 B

Studies in Eng. Philology & Linguistics 1B

古英語文献講読

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB148

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB352

授業の目標 / Course Objectives

古英語文献の読解を通じ、古英語文学や英語文献学の分野における研究の基礎を学ぶ。また、同分野において英語論文を書くために必要な英作文能力の養成を目指す。

Acquiring reading skills in Old English and writing skills of academic English in the field of English philology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、春学期に引き続き、Oxford, Bodleian Library, Junius 11 写本に含まれる古英詩 Genesis B を精読しながら、古英語や古英詩、また、古英詩を記録した写本、同時代の歴史や文化について学ぶ。Genesis B は古英詩としては特殊なバックグラウンドを持った作品であることを踏まえ、より伝統的な古英詩と比較し、その異同を確認する作業を通じ、伝統的な古英詩の特徴および Genesis B の特異性について考える。これに加え、毎回、受講生の研究テーマに沿った内容の短い英文を予め作文しておいてもらい、これについて添削しながら、この分野における英語論文等の書き方を指導する。

We will read the Old English texts listed below and also do some training in academic English composition.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Genesis B 講読 1
- 3回：Genesis B 講読 2
- 4回：Genesis B 講読 3
- 5回：Genesis B 講読 4
- 6回：Genesis B 講読 5
- 7回：Genesis B 講読 6
- 8回：Genesis B 講読 7
- 9回：Genesis B 講読 8
- 10回：Genesis B 講読 9
- 11回：Genesis B 講読 10
- 12回：Genesis B 講読 11
- 13回：Genesis B 講読 12
- 14回：Genesis B 講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で読むテキストは事前に必ず良く予習しておいてください。また、各回には事前に用意した英作文も使いますので、授業での指示に従って事前に作文をしておいてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み (英作文、発表、授業内発言等) :100%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業中に適宜紹介する。

英文学特殊研究 1 B

Studies in English Literature 1B

William Wordsworth: The Prelude

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB150

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB302

授業の目標 / Course Objectives

イギリス・ロマン主義詩人 William Wordsworth の自伝的長篇叙事詩 The Prelude（1805 年版）の選りすぐりの箇所を読んで、ロマン主義文学における自我と自己表現の問題について考える。併せて、現代の批評を通して、文学作品を解釈して自分なりの見方を構築する方法も学ぶ。

This course aims to read some of the very best passages chosen from an English Romantic poet William Wordsworth's autobiographical epic The Prelude (1805) and consider the problems of self and self-expression in Romantic literature. At the same time, through consultation with various modern literary criticism, we will learn how to interpret literary works and construct our own view on them as well.

授業の内容 / Course Contents

詩人の湖水地方における幼少期から大学時代を経て、フランス革命への期待が裏切られて絶望し、そこから想像力の力によって立ち直るまでを描く自伝的長篇詩の抜粋箇所を熟読するだけでなく、時に批評を参照してテキスト理解を深める。授業では、以下の授業計画に沿って 1 回に 100 行前後を読む予定だが、受講者の希望によって多少の修正を施す可能性はある。

We will peruse some chosen passages from the long autobiographical epic, depicting from the poet's childhood in the Lake District, through his Cambridge days and his hopes for the French Revolution to be followed by utter disillusionment, to the final recovery from despair by the power of imagination and deepen our comprehension of the text by referring to modern literary criticism as well. In each class we will read about 100 lines of poetry according to the lesson plan shown below. This plan could be slightly revised depending on students' wishes. Details will be provided in the course syllabus given on the first day of class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction with a short video and M. H. Abrams, 'The Idea of The Prelude.'
 2 回：Criticism 1 and The Prelude Book I, lines 1-54.
 3 回：The Prelude Book I, lines 274-374.
 4 回：The Prelude Book I, lines 375-492.
 5 回：The Prelude Book II, lines 237-341.
 6 回：The Prelude Book II, lines 341-434.
 7 回：The Prelude Book IV, lines 361-63, 400-505.
 8 回：Criticism 2.
 9 回：The Prelude Book VI, lines 338-60, 452-68 and 488-548.
 10 回：The Prelude Book XI, lines 258-345.
 11 回：The Prelude Book XI, lines 345-97 and Book XII, lines 145-84.
 12 回：The Prelude Book XIII, 1-119.
 13 回：The Prelude Book XIII, lines 367-452.
 14 回：Criticism 3 & Review.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講希望者は第1回の授業までに上記 M. H. Abrams, 'The Idea of The Prelude'（テキストに指定した Nicholas Halmi 編 Norton Critical Edition, pp. 678-83 所収）を読んでおく。それ以後は、毎回扱う詩行と批評を予め読んで授業に臨み、授業後は紹介された参考文献を読んで詩についての理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 常日頃の授業への貢献度と担当時の発表内容:50%

テキスト / Textbooks

Nicholas Halmi (ed.) Wordsworth's Poetry and Prose: A Norton Critical Edition W. W. Norton 2014
 9780393924787 -

上記書籍を購入するか、立教大学図書館に蔵書があるので該当箇所を参照するか、いずれかの方法で各自準備する。

参考文献 / Readings

Stephen Gill William Wordsworth: A Life Oxford UP 1989 9780198817116

ウィリアム・ワーズワス著、岡三郎訳 『序曲』 国文社 1968 9784772001168

山内久明編訳 『対訳ワーズワス詩集』 岩波文庫 1998 9784003221822

1805年版の隣に1850年版が収録されている Norton や Penguin などの The Prelude を併せて持っている则便利。その他、授業中折に触れて紹介する。

英文学特殊研究 5 A

Studies in English Literature 5A

Samuel Beckett の小説を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB155

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンラインに授業とする。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ126「文明工学演習3」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

この授業では Samuel Beckett, Watt(1953), Molloy(1955)を精読します。

In this course, we will closely read Samuel Beckett's Watt(1953) and Molloy(1955).

授業の内容 / Course Contents

20 世紀イギリス・フランス文学を代表する小説家、劇作家 Samuel Beckett(1906-1989)は小説と演劇の両ジャンルで革命を起こしました。彼の破格な作品は、言語とは何か、語ることは何か、ひいては生きるとは何かについてどんな作家よりも鋭く、また深く追究しています。この授業では Watt(1953)、およびフランス語で先に書いて自ら英語に翻訳した（正確に言うと助手とともに英訳した）Molloy(1955)を読みます。これらは彼の中期の代表作と言えます。第二次世界大戦中にナチスから逃れて潜伏している間に書いた前者、そして戦後創作意欲が急激に高まったときに書いた後者を合わせ読むことで、20 世紀の文学の最先端の問題に触れ、かつベケットが固執した二人組という形象について考察します。

Samuel Beckett (1906-1989) is the most important figure in the twentieth-century English and French literature. His extraordinary work, which revolutionized both the novel and the drama, explores the fundamental questions

regarding language, story-telling and life itself, more sharply and deeply than any other author's work. In this course, we are reading Watt(1953), which he wrote while he was hiding from the Nazis during WWII, and Molloy(1955), which marks the start of his most productive period after the war. (The latter was first written in French and translated into English by the author with the help of an assistant.) By reading these novels, which represent Beckett's middle period, we will consider the most important questions of the twentieth literature, including the figure of the 'pseudocouple' that obsessed Beckett.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Watt
- 3回：Watt
- 4回：Watt
- 5回：Watt
- 6回：Watt
- 7回：Watt
- 8回：Molloy
- 9回：Molloy
- 10回：Molloy
- 11回：Molloy
- 12回：Molloy
- 13回：Molloy
- 14回：Molloy

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めて発表してもらいます。その他の参加者も全員そのときの範囲を読んで予習してることが義務付けられます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%
 平常点割合 :40% 平常の授業への参加度:40%
 欠席が3回を超えると単位を取得できません。

テキスト / Textbooks

- Samuel Beckett Watt Faber and Faber 2009 9780571244744 ○
- Samuel Beckett Molloy Faber and Faber 2009 9780571243716 ○

参考文献 / Readings

英文学特殊研究 5 B

Studies in English Literature 5B

Samuel Beckett の戯曲を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB156

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンラインに授業とする。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ127「文明工学演習4」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

この授業では Samuel Beckett の主要な戯曲を精読します。

In this course, we will closely read Samuel Beckett's major plays.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀イギリス・フランス文学を代表する小説家、劇作家 Samuel Beckett(1906-1989)は小説と演劇の両ジャンルで革命を起こしました。彼の破格な作品は、言語とは何か、語ることは何か、ひいては生きるとは何かについてどんな作家よりも鋭く、また深く追究しています。この授業では Waiting for Godot(1953)、Endgame(1957)、Happy Days(1961)などの主要な戯曲を読みます。また視覚的にもできる限り鑑賞します。ベケットは徐々にラジオ、テレビ、映画などの別のジャンルにも手を広げたので、そのような展開にも留意します。現代演劇の極北と言われる彼の戯曲の何がアクチュアルなのかをじっくりと考えることを主眼とします。同時に彼が固執した二人組という形象についても考察していきます。

Samuel Beckett (1906-1989) is the most important figure in the twentieth-century English and French literature. His extraordinary work, which revolutionized both the novel and the drama, explores the fundamental questions

regarding language, story-telling and life itself, more sharply and deeply than any other author's work. In this course, we are reading his major plays such as *Waiting for Godot*(1953), *Endgame*(1957), and *Happy Days*(1961). We will try as much as possible to appreciate them visually too. We will also pay attention to his later forays into other media such as radio television and film. We will mainly consider what is really actually in his plays which are often called the extreme point of modern drama.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Waiting for Godot
- 3回：Waiting for Godot
- 4回：Waiting for Godot
- 5回：Waiting for Godot
- 6回：Endgame
- 7回：Endgame
- 8回：Endgame
- 9回：Happy Days
- 10回：Happy Days
- 11回：Happy Days
- 12回：Other Works
- 13回：Other Works
- 14回：Other Works

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めて発表してもらいます。その他の参加者も全員そのときの範囲を読んで予習してることが義務付けられます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 平常の授業への参加度:40%

欠席が3回を超えると単位を取得できません。

テキスト / Textbooks

Samuel Beckett Complete Dramatic Works Faber and Faber 1986 9780571229154 ○

参考文献 / Readings

米文学特殊研究 3 A

Studies in American Literature 3A

The European Fairy Tale Tradition: Straparola, Basile, Perrault, and Grimm

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB161

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB325

授業の目標 / Course Objectives

Learning how to critically interpret the literary fairy tale and write a coherent literary analysis.

授業の内容 / Course Contents

Folklorist and literary translator, Jack Zipes, writes: “Each innovative retelling and rewriting of a well-known tale in the cultural heritage is an independent human act seeking to align itself with the original utopian impulse of the first-told tale.” And by tracing the parallel structures of the fairy tale—across culture, time, and place—these “utopian impulses” can be analysed for their narrative dimensions and ideological contents. In this course, we will be reading and comparing works by Straparola, Basile, Perrault, and the Grimm brothers (among others), with the intention of using these works as a source for understanding how the fairy tale serves as a blueprint for social structures, cultural logic, and systems of morality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Week 1: Course syllabus, class rules, and general introduction

2 回：Week 2: The Great Fairy Tale Tradition

Incestuous Fathers

1.Straparola, "Tebaldo"

2.Basile, "The Bear"

3 回 : Week 3: The Great Fairy Tale Tradition

The Wishes of Fools

1.Straparola, "Pietro the Fool"

2.Basile, "Peruonto"

4 回 : Week 4: The Great Fairy Tale Tradition

Wild Men

1.Straparola, "Guerrino and the Wild Man"

2.de Mailly, "Prince Guerini"

5 回 : Week 5: The Great Fairy Tale Tradition

Shrewd Cats

1.Perrault, "The Master Cat; or, Puss in Boots"

2.Grimm, "Puss in Boots"

6 回 : Week 6: The Great Fairy Tale Tradition

The Revenge and Reward of Neglected Daughters

1.Perrault, "Cinderella; or, the Glass Slipper"

2.d'Aulnoy, "Finette Cendron"

7 回 : Week 7: The Great Fairy Tale Tradition

The Power of Love

1.Basile, "Petrosinella"

2.Schultz, "Rapunzel"

8 回 : Week 8: The Great Fairy Tale Tradition

Magical Transformations

1.Basile, "The Three Animal Kings"

2.Grimm, "The Crystal Ball"

9 回 : Week 9: The Great Fairy Tale Tradition

The Fate of Spinning

1.Lhéritier, "Ricdin-Ricdon"

2.Grimm, "Rumpelstilskin"

10 回 : Week 10: The Great Fairy Tale Tradition

The Fruitful Sleep

1.Basile, "Sun, Moon, and Talia"

2.Grimm, "Brier Rose"

11 回 : Week 11: The Great Fairy Tale Tradition

Abandoned Children

1.Basile, "Ninnillo and Nennella"

2.Grimm, "Hansel and Gretel"

12 回 : Week 12: The Great Fairy Tale Tradition

Bloodthirsty Husbands

1.Perrault, “Bluebeard”

2.Grimm, “Bluebeard”

13 回：Week 13: The Great Fairy Tale Tradition

Dangerous Wolves and Naïve Girls

1.Perrault, “Little Red Riding Hood”

2.Grimm, “Little Red Cap”

14 回：Final Quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, brief student presentations, and a close reading of the text(s) assigned for the week (mostly short stories and excerpts from longer texts). Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Jack Zipes The Great Fairy Tale Tradition: From Straparola and Basile to the Brothers Grimm Norton 2001
9780393976366 ○

参考文献 / Readings

米文学特殊研究 3 B

Studies in American Literature 3B

Postmodern Fairytales: Angela Carter, The Bloody Chamber & Other Stories

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面（全回対面）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB326

授業の目標 / Course Objectives

Learning how to critically interpret the postmodern fairy tale and write a coherent literary analysis.

授業の内容 / Course Contents

As a writer, critic, and translator of tales and traditions from a variety of cultures and social contexts, Angela Carter's literary project is as multifaceted as it is rich in evocative detail. This course will focus on the works in Carter's most famous collection of stories, *The Bloody Chamber* (1979). Through a reading of these stories in comparison to Carter's translations of Charles Perrault's fairytales (*Histoires ou Contes du Temps Passé avec des Moralités*, 1697), this course will explore the language of Carter's enchanted tales and critically engage with the ideas, characters, and politics of Carter's postmodern folklore.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course syllabus, class rules, and general introduction

Reading:

"Ashputtle or, The Mother's Ghost," from Angela Carter, *Burning Your Boats*, 1996.

(Copies will be provided.)

2 回：The Bluebeard Tradition – (1)

Reading:

“The Bloody Chamber” (Bloody Chamber, pages 1-19)

&

“Bluebeard,” from Angela Carter, *The Fairy Tales of Charles Perrault*.

(Copies will be provided.)

3 回：The Bluebeard Tradition – (2)

Reading:

“The Bloody Chamber” (Bloody Chamber, pages 19-42)

4 回：Beauty and the Beast – (1)

Reading:

“The Courtship of Mr. Lyon” (Bloody Chamber, pages 43-55)

&

“Beauty and the Beast” from Joseph Jacobs, *Europa’s Fairy Book*, 1916.

(Copies will be provided.)

5 回：Beauty and the Beast – (2)

Reading:

“The Tiger’s Bride” (Bloody Chamber, pages 56-75)

6 回：Puss-in-Boots

Reading:

“Puss-in-Boots” (Bloody Chamber, pages 76-95)

&

“Puss in Boots” from Angela Carter, *The Fairy Tales of Charles Perrault*.

(Copies will be provided.)

7 回：Enchanted Transformations – (1)

Reading:

“The Erl-King” (Bloody Chamber, pages 96-104)

8 回：Enchanted Transformations – (2)

Reading:

“The Snow Child” (Bloody Chamber, pages 105-06)

&

“The Snow Maiden,” from Edith M. S. Hodgetts, *Tales and Legends from the Land of the Tzars*, 1891.

(Copies will be provided.)

9 回：Academic Writing Session

Reading:

Sections from *MLA Handbook for Writers of Research Papers*

&

A selection of essays and journal articles related to the study of Carter’s *Bloody Chamber*

(Copies will be provided.)

10 回：Vampires and Occult Magic

Reading:

“The Lady of the House of Love” (Bloody Chamber, pages 107-25)

11 回：Thrown to the Wolves – (1)

Reading:

“The Werewolf” (Bloody Chamber, pages 126-28)

&

“Mr. Fox” from Joseph Jacobs, Europa’s Fairy Book, 1916.

(Copies will be provided.)

12 回：Thrown to the Wolves – (2)

Reading:

“The Company of Wolves” (Bloody Chamber, pages 129-39)

&

“Little Red Riding Hood” from Angela Carter, The Fairy Tales of Charles Perrault.

(Copies will be provided.)

13 回：Thrown to the Wolves – (3)

Reading:

“Wolf-Alice” (Bloody Chamber, pages 140-49)

14 回：Final Quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, brief student presentations, and a close reading of the text(s) assigned for the week (mostly short stories and excerpts from longer texts). Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Angela Carter The Bloody Chamber and Other Stories Vintage 2006 9780099588115 ○

参考文献 / Readings

米文学特殊研究 5 A

Studies in American Literature 5A

Herman Melville 研究

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JB165
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EAL6313
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PB329

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じて、語学的に正確に読解することはもちろん、作品の背後にある歴史的・文化的コンテクストに留意しながら作品解釈することを目指す。

Students in this course will improve their reading comprehension skills through conducting an intensive reading of an American literary work and build their interpretation with a conscious understanding of the work's background, historical period, and literary contexts.

授業の内容 / Course Contents

Herman Melville, *Moby-Dick* (1851) を読解する。言わずと知れたアメリカ文学を代表する傑作であるが、その難解さと長大さゆえ、通読したことのある読者はそこまで多くはないだろう。そこで本演習では、教員が読みどころと歴史的・文化的背景を示しつつ、クラスで協力し合いながら全体を読み切ることを目指す。その上で、アメリカとは何か、個人主義とは何か、民主主義とは何かなど、この作品が取り組んでいる壮大な諸問題について考察してみたい。この名作はあらゆる読解の可能性に開かれているので、各自の問題意識のもとに読解に取り組んでほしい。

また、読解の補助となる資料も共有しながら読み進めるので、『白鯨』を読んだことがない、でも読んでみたいと思っている学生にこそ本演習を受講してもらいたい。

In this seminar, we will read Herman Melville's Moby-Dick (1851). It is a well-known masterpiece of American literature, but not many readers have read it in its entirety due to its difficulty and length. Through the reading of this novel, we will discuss a variety of issues the work addresses, such as individualism and American democracy. As this masterpiece is open to every possibility of interpretation, students are encouraged to bring their own unique perspectives into their reading of this novel.

As this course will also share materials to aid in reading comprehension, I encourage students who have never read Moby-Dick but are interested in reading it to take this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Moby-Dick 読解 (1)
- 3回：Moby-Dick 読解 (2)
- 4回：Moby-Dick 読解 (3)
- 5回：Moby-Dick 読解 (4)
- 6回：Moby-Dick 読解 (5)
- 7回：Moby-Dick 読解 (6)
- 8回：Moby-Dick 読解 (7)
- 9回：Moby-Dick 読解 (8)
- 10回：Moby-Dick 読解 (9)
- 11回：Moby-Dick 読解 (10)
- 12回：Moby-Dick 読解 (11)
- 13回：Moby-Dick 読解 (12)
- 14回：Moby-Dick 読解 (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

英語による学位論文執筆に備えるため、学期を通じて英作文のトレーニングを行う。具体的には、毎週300wordsほどの英語によるレスポンス・ペーパーの提出を義務づけ、毎回添削の上で返却する。また、学期末レポートも英語で書くことを必須とする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの貢献度:30% 毎週のレスポンスペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Herman Melville Moby-Dick Norton 2017 0393285006 ○

必ず指定された版を購入のこと。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

米文学特殊研究 5 B

Studies in American Literature 5B

Harriet Beecher Stowe 研究

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB330

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じて、語学的に正確に読解することはもちろん、作品の背後にある歴史的・文化的コンテクストに留意しながら作品解釈することを目指す。

Students in this course will improve their reading comprehension skills through conducting an intensive reading of an American literary work and build their interpretation with a conscious understanding of the work's background, historical period, and literary contexts.

授業の内容 / Course Contents

Harriet Beecher Stowe, *Uncle Tom's Cabin* (1852) を読解する。アンテベラム期アメリカを理解するうえで必読の古典であるが、その長ささゆえ味読される機会が少ない作品でもある。本書の読解を通じて奴隷制度をめぐる当時の言説を理解することはもちろん、感傷小説というジャンルへの理解を深め、さらには本作品の審美的価値に関しても吟味検討したい。Jane Tompkins が古典的研究書 *Sensational Designs* において本作品を再評価してから 40 年近く経過した現在において、この作品をどのような見地から評価できるだろうか。

さらに、本授業では作品だけではなく代表的な批評の読解も行い、論文とは何か、論文とはどうあるべきか

などのプラクティカルな問題についても討議する。

In this seminar, we will read Harriet Beecher Stowe's *Uncle Tom's Cabin* (1852). This is a must-read classic for understanding antebellum America, but it is also a work that is rarely read in its entirety for its length. Reading this book will help us better understand not only the discourse of slavery at the time but also the genre of sentimental fiction. In this seminar, we will also reexamine the aesthetic, cultural, and historical values of this classic novel by putting it in conversation with the current critical climate, nearly forty years after Jane Tompkins reappraised the novel in *Sensational Designs*.

In addition to Stowe's text, we will also read the criticism of this work and debate practical issues such as what an academic essay is and how it should be written.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Uncle Tom's Cabin 読解 (1)
- 3回：Uncle Tom's Cabin 読解 (2)
- 4回：Uncle Tom's Cabin 読解 (3)
- 5回：Uncle Tom's Cabin 読解 (4)
- 6回：Uncle Tom's Cabin 読解 (5)
- 7回：Uncle Tom's Cabin 読解 (6)
- 8回：Uncle Tom's Cabin 読解 (7)
- 9回：Uncle Tom's Cabin 読解 (8)
- 10回：Uncle Tom's Cabin 読解 (9)
- 11回：批評読解 (1)
- 12回：批評読解 (2)
- 13回：批評読解 (3)
- 14回：レポート構想発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

英語による学位論文執筆に備えるため、学期を通じて英作文のトレーニングを行う。具体的には、毎週300wordsほどの英語によるレスポンス・ペーパーの提出を義務づけ、毎回添削の上で返却する。また、学期末レポートも英語で書くことを必須とする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの貢献度:30% 毎週のレスポンスペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Harriet Beecher Stowe *Uncle Tom's Cabin* Norton 2017 9780393283785 ○

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

米文学特殊研究 6 A

Studies in American Literature 6A

William Faulkner 演習

後藤 和彦 (GOTO KAZUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB167

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ミシシッピの人、ウィリアム・フォークナーとはどんな小説家だったのか、どうしてこういう小説家になったのか、さほど有名ではない作品を一作、比較的ゆっくりと通読し、さまざまな観点から考え、議論してみよう。

This seminar aims to understand why and how William Faulkner, a Mississippian, became William Faulkner the novelist by reading and analyzing one of his not-very-major works through various approaches.

授業の内容 / Course Contents

授業方法は、毎回、あらかじめ指定された作品と批評に関する担当者による報告に引き続き、参加者全員で作品を再吟味します。担当者は割り振られた作品の比較的詳細な要約を作成し、小説読解上の種々の問題点を指摘した上、上記授業の目的に関する議論へと参加者を誘導できるような準備をおこなっておくことが求められます。

The format of each class will consist of a verbal report concerning preassigned part of the work from a designated student, followed by the whole class reexamining his/her report. The reporter is required to prepare a relatively

detailed summary of the assigned part, to point out issues that others are likely to encounter, and to lead the other participants into discussing problems that are related with the general aim of this seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：取り上げる作品・批評の紹介と具体的な授業の進行手順の説明など
 2 回：作品読解 1
 3 回：作品読解 2
 4 回：作品読解 3
 5 回：作品読解 4
 6 回：作品読解 5
 7 回：作品読解 6
 8 回：作品読解 7
 9 回：作品読解 8
 10 回：作品読解 9
 11 回：作品読解 10
 12 回：作品読解 11
 13 回：作品読解 12
 14 回：授業全体を振り返り、当初の問題点について総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

フォークナーについては数多くの翻訳に加え、評伝や研究書が出ているので、どれか手頃なものを一冊読んで授業に臨んでもらいたいと思います。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業担当時におけるプレゼンテーション:40% 担当時以外の授業ディスカッションへの貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

William Faulkner The Town Vintage 2011 0307946819 ○

参考文献 / Readings

日本ウィリアム・フォークナー協会編 『フォークナー事典』 松柏社 2008 4775401416

Calvin S. Brown A Glossary of Faulkner's South Yale UP 1976 0300019440

その他、第1回授業時に紹介いたします。

米文学特殊研究 6 B

Studies in American Literature 6B

William Faulkner 演習

後藤 和彦 (GOTO KAZUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB168

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ミシシッピの人、ウィリアム・フォークナーとはどんな小説家だったのか、どうしてこういう小説家になったのか、さほど有名ではない作品を一作、比較的ゆっくりと通読し、さまざまな観点から考え、議論してみましよう。

This seminar aims to understand why and how William Faulkner, a Mississippian, became William Faulkner the novelist by reading and analyzing one of his not-very-major works through various approaches.

授業の内容 / Course Contents

授業方法は、毎回、あらかじめ指定された作品と批評に関する担当者による報告に引き続き、参加者全員で作品を再吟味します。担当者は割り振られた作品の比較的詳細な要約を作成し、小説読解上の種々の問題点を指摘した上、上記授業の目的に関する議論へと参加者を誘導できるような準備をおこなっておくことが求められます。

The format of each class will consist of a verbal report concerning preassigned part of the work from a designated student, followed by the whole class reexamining his/her report. The reporter is required to prepare a relatively

detailed summary of the assigned part, to point out issues that others are likely to encounter, and to lead the other participants into discussing problems that are related with the general aim of this seminar.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：取り上げる作品・批評の紹介と具体的な授業の進行手順の説明など
 2 回：作品読解 1
 3 回：作品読解 2
 4 回：作品読解 3
 5 回：作品読解 4
 6 回：作品読解 5
 7 回：作品読解 6
 8 回：作品読解 7
 9 回：作品読解 8
 10 回：作品読解 9
 11 回：作品読解 10
 12 回：作品読解 11
 13 回：作品読解 12
 14 回：授業全体を振り返り、当初の問題点について総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フォークナーについては数多くの翻訳に加え、評伝や研究書が出ているので、どれか手頃なものを一冊読んで授業に臨んでもらいたいと思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業担当時におけるプレゼンテーション:40% 担当時以外の授業ディスカッションへの貢献度:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

William Faulkner The Mansion Vintage 2011 0307946827 ○

参考文献 / Readings

日本ウィリアム・フォークナー協会編 『フォークナー事典』 松柏社 2008 4775401416

Calvin S. Brown A Glossary of Faulkner's South Yale UP 1976 0300019440

その他、第1回授業時に紹介いたします。

米文学特殊研究 7 A

Studies in American Literature 7A

Ralph Ellison, Invisible Man 研究

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JB169
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL6313
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PB333

授業の目標 / Course Objectives

現代アメリカにおいて最も重要な黒人作家の 1 人 Ralph Ellison の最高傑作、Invisible Man (1952) の精読を行い、作品理解を深めるとともに、小説の背景となっているジムクロウ時代の文化的推移、ならびに哲学から政治学まで、作家が物語に込めた思想についての理解を深める。

This course intends a comprehensive analysis of Ralph Ellison's seminal work, Invisible Man (1952), one of the most significant works of modern American literature. Through close examination, students are required to analyze the multifaceted layers of the narrative as well as elucidate its thematic richness and cultural significance within the context of the Jim Crow era.

授業の内容 / Course Contents

Ralph Ellison (1914-94) は、先駆者である Richard Wright, そして James Baldwin とともに、現代アメリカ黒人文学の完成者であると考えられている。だが、Baldwin もまたそうであったように、この作家も、Wright 流の抗議文学の流れを汲んだ創作から出発しながら、その範疇に括ることはできない極めてオリジナルな作家である。彼の唯一の長編小説にして、現代アメリカ文学史上最も重要な作品の 1 つに数えられる Invisible Man

は、シュールリアリズム的な心理描写、黒人霊歌やジャズ音楽のイメージ、さらには民話をはじめとする黒人の民俗伝統を取り入れた、モダニズム色の強い独自の芸術を達成している。

本講では、アメリカ黒人文学としてのみならず、西洋芸術の一つの成果となることを強く意識して創作されたこの小説を丹念に読み、現在に至るまで蓄積された黒人の文化的経験と芸術的達成を多角的に考察することを目的とする。受講者は、本講を通して得た知識を援用し、各自、出版を目指した完成度の高い研究論文を作成することが望まれる。

Like Richard Wright and James Baldwin, Ralph Ellison (1914-94) stands as a luminary in contemporary African American literature. Ellison's seminal and only full-length novel, *Invisible Man*, defies categorization within traditional protest literature, employing surrealistic psychological descriptions, evocative imagery from black spirituals and jazz, and a mosaic of folk traditions.

This course aims to meticulously unpack this novel, recognizing its dual identity: a cornerstone of African American literature and a literary work representing the Western artistic canon. It seeks to explore modern African American authors' original explorations of cumulative cultural experiences and artistic achievements while illuminating Ellison's deliberate departure from conventional literary confines. By utilizing knowledge acquired through the course, students are supposed to write a high-quality research paper on the assigned text and submit that to an appropriate journal.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業内容、テキストの説明
- 2 回：Invisible Man (1)
- 3 回：Invisible Man (2)
- 4 回：Invisible Man (3)
- 5 回：Invisible Man (4)
- 6 回：Invisible Man (5)
- 7 回：Invisible Man (6)
- 8 回：Invisible Man (7)
- 9 回：Invisible Man (8)
- 10 回：Invisible Man (9)
- 11 回：Invisible Man (10)
- 12 回：批評研究 (1)
- 13 回：批評研究 (2)
- 14 回：批評研究 (3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲は毎回 40-50 ページにわたる。各自の英語力に合わせた予習時間が毎週 8-10 時間程度必要になると思われる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表における準備状況:35% ディスカッション・リーディングのパフォーマンス:30%
最終レポート割合 :35%

テキスト/ Textbooks

Ellison, Ralph Invisible Man Vintage International 1995 9780679732761 ○

参考文献 / Readings

Ralph Ellison の評論や学術論文に関しては、授業時に適宜提供する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

毎週決められた箇所を予習してくる計画性と積極性。英語の解読ならびに解釈に必要な調査を大学図書館のオンラインデータベースにアクセスして行う勤勉さと熱心さ。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

発表のためのハンドアウトを作成し、授業で使う LMS にアクセスするためのコンピュータ。大学図書館におけるオンラインデータベース。

米文学特殊研究 7B

Studies in American Literature 7B

Louisa May Alcott and "Blood and Thunder" Tales

大串 尚代 (OGUSHI HISAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB170

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ141「言語多文化演習3」との併置科目

後期課程用科目コード：PB334

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、19世紀の女性作家 Louisa May Alcott のスリラー作品、いわゆる“Blood and Thunder” Tales を再考し、19世紀の大衆娯楽と女性作家の関係を考察することを目的とする。

The purpose of this lecture is to reconsidering the thriller works of the 19th-century female writer Louisa May Alcott, commonly known as “Blood and Thunder” Tales, and to examine the relationship between 19th-century popular entertainment and female authors.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、一般的には若年層向けの作品を執筆したことで人気を博し、死後に出版された伝記でも「子供たちの友」と称された Louisa May Alcott のもうひとつの側面である、スリラー作家としての顔を見ていく。経済的な理由から、時に別名義を用いながら執筆されたとする作品群であるが、中には Alcott の筆が冴え、単に金銭的理由から書いたとは思えないような楽しさが伝わってくるように思われる作品もある。本講義では、現在 Alcott が執筆したことが判明しているスリラー作品を読みつつ、19世紀における大衆小説の出版状況や、女性

作家の位置を探るものである。

授業では“Pauline's Passion and Punishment,” “A Whisper in the Dark,” “Behind a Mask”を取り上げ、その成立背景とともに、作品を読解する。授業は基本的に発表形式で行われ、その後クラス全体でディスカッションを行う。

In this lecture, we will explore another facet of Louisa May Alcott, who gained popularity for her works generally targeted towards a younger audience and was posthumously referred to as the “Children's Friend” in her biography. Allegedly due to economic reasons, she occasionally wrote thriller stories under pseudonyms, but within these works, Alcott's talent shines through, and it is possible for us to sense her enjoyment that goes beyond mere financial motivations. This lecture aims to examine Alcott's thriller works, considering the publishing conditions of popular novels in the 19th century and exploring the position of female writers. The class will focus on “Pauline's Passion and Punishment,” “A Whisper in the Dark,” and “Behind a Mask,” putting these works along with their historical context. The format of the class primarily involves presentations, followed by a class discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション（取り扱う作品の説明、発表についての説明）

2 回：19 世紀における女性のオーサーシップ

Susan S. Williams, *Reclaiming Authorship: Literary Women in America 1850-1900* から抜粋を読みディスカッション

3 回：女性と匿名性

Judith Gardiner, “On Female Identity”を読み、ディスカッション

4 回：19 世紀の大衆小説

David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* からの抜粋を読み、ディスカッション

5 回：“Pauline's Passion and Punishment” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

6 回：“Pauline's Passion and Punishment” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

7 回：“Pauline's Passion and Punishment” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

8 回：“A Whisper in the Dark” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

9 回：“A Whisper in the Dark” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

10 回：“A Whisper in the Dark” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

11 回：“Behind a Mask” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

12 回：“Behind a Mask” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

13 回：“Behind a Mask” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

14 回：全体のディスカッションおよび総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを事前に読了してから授業に参加することが求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストについては、授業内で指示する。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

テキスト配布、およびレポートの提出のために LMS を活用する予定であるため、それが可能な機材を持っていることが望ましいが、難しい場合は個別に相談されたい。

米文学特殊研究 8 A

Studies in American Literature 8A

ポリアモリーと人種

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PB335

授業の目標 / Course Objectives

アメリカの文学を精読することで、その審美的な手触りを確かめるとともに、人種・ジェンダー・セクシュアリティの歴史的・文化的諸相を探り、日英両言語による自己表現能力を養う。

By reading American literary works, we will not only experience the aesthetic feeling they provide but also explore the historical and cultural aspects of race, gender, and sexuality. In doing so, we will cultivate self-expression skills in both Japanese and English.

授業の内容 / Course Contents

文学研究における交差性（intersectionality）の概念に注目が集まる昨今、とりわけ人種とセクシュアリティの問題系は、その抑圧と抵抗の力学において、連動的に理解されねばならない。この授業では、性的少数派でありつつアフリカ系アメリカ人でもあるという二重のマイノリティ性に向き合った作家、James Baldwin の *Another Country* を取り上げ、時代の規範を攪乱する性と人種の諸相を考える。

なお、授業は、あらかじめ指名された担当者による英語の発表を出発点に、前半は英語、後半は日本語によるディスカッション形式で行うので、受講者の積極的な発言が期待される。

In the present period when attention is focused on the concept of intersectionality in literary studies, the issues of race and sexuality, in particular, must be understood interactively in the dynamics of oppression and resistance. In this course, we will examine *Another Country* by James Baldwin, a writer who confronts the dual identity of being a sexual minority and an African American. Through this exploration, we will contemplate the various aspects of sexuality and race that disrupt the norms of the time.

Please note that the English presentation by the designated presenter will be followed by a Q&A session in English during the first half and in Japanese during the second half of the class. Therefore, it is expected that students will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションならびに発表担当者の決定
- 2回：James Baldwin, *Another Country* を読む (1)
- 3回：James Baldwin, *Another Country* を読む (2)
- 4回：James Baldwin, *Another Country* を読む (3)
- 5回：James Baldwin, *Another Country* を読む (4)
- 6回：James Baldwin, *Another Country* を読む (5)
- 7回：James Baldwin, *Another Country* を読む (6)
- 8回：James Baldwin, *Another Country* を読む (7)
- 9回：James Baldwin, *Another Country* を読む (8)
- 10回：James Baldwin, *Another Country* を読む (9)
- 11回：James Baldwin, *Another Country* を読む (10)
- 12回：今学期の総括
- 13回：レポート中間報告会 (1)
- 14回：レポート中間報告会 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

とりわけ授業前半の英語によるディスカッションに積極的な貢献ができるよう、毎週、事前にテキストを精読するとともに、自分の問題意識を整理し、それをメモにまとめたうえで授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の担当発表とディスカッションへの参加:60% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

James Baldwin *Another Country* Penguin Classics 2001 9780141186375 ○

参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業時に指示する。

米文学特殊研究 8 B

Studies in American Literature 8B

ポリアモリーと人種

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JB172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EAL6313
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PB336

授業の目標 / Course Objectives

アメリカの文学を精読することで、その審美的な手触りを確かめるとともに、人種・ジェンダー・セクシュアリティの歴史的・文化的諸相を探り、日英両言語による自己表現能力を養う。

By reading American literary works, we will not only experience the aesthetic feeling they provide but also explore the historical and cultural aspects of race, gender, and sexuality. In doing so, we will cultivate self-expression skills in both Japanese and English.

授業の内容 / Course Contents

文学研究における交差性（intersectionality）の概念に注目が集まる昨今、とりわけ人種とセクシュアリティの問題系は、その抑圧と抵抗の力学において、連動的に理解されねばならない。この授業では、アフリカ系アメリカ人作家 Raven Leilani の *Luster* (2020) と、韓国系アメリカ人作家 Joon Oluchi Lee の *Neotenica* (2020) を読む。前者は、2020 年の Kirkus Prize（小説部門）を受賞した非規範的な家族の物語であり、後者は、2021 年、LGBTQ 文学に対して授与される Lambda Literary Awards を受賞した攪乱的前衛小説である。評価が定まっておらず、先行研究もほぼ存在しない現在進行形の作家について、みずからの判断力をもった的確な分析を

行う訓練の機会としたい。

なお、授業は、あらかじめ指名された担当者による英語の発表を出発点に、前半は英語、後半は日本語によるディスカッション形式で行うので、受講者の積極的な発言が期待される。

In this course, we will read *Luster* (2020) by African American author Raven Leilani and *Neotenica* (2020) by Korean American author Joon Oluchi Lee. The former is an unconventional family narrative that won the 2020 Kirkus Prize in the fiction category, while the latter is a disruptive avant-garde novel that received the Lambda Literary Award (for LGBTQ literature) in 2021.

Please note that the English presentation by the designated presenter will be followed by a Q&A session in English during the first half and in Japanese during the second half of the class. Therefore, it is expected that students will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションならびに発表担当者の決定
- 2回：Raven Leilani, *Luster* を読む (1)
- 3回：Raven Leilani, *Luster* を読む (2)
- 4回：Raven Leilani, *Luster* を読む (3)
- 5回：Raven Leilani, *Luster* を読む (4)
- 6回：Raven Leilani, *Luster* を読む (5)
- 7回：Raven Leilani, *Luster* を読む (6)
- 8回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (1)
- 9回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (2)
- 10回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (3)
- 11回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (4)
- 12回：今学期の総括
- 13回：レポート中間報告会 (1)
- 14回：レポート中間報告会 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

とりわけ授業前半の英語によるディスカッションに積極的な貢献ができるよう、毎週、事前にテキストを精読するとともに、自分の問題意識を整理し、それをメモにまとめたうえで授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の担当発表とディスカッションへの参加:60% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

Raven Leilani *Luster* Picador Paper 2021 9781250798671 ○

Joon Oluchi Lee *Neotenica* Nightboat Books 2020 9781643620206 ○

参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業時に指示する。

英語学特殊研究 3 A

Studies in Eng. Philology & Linguistics 3A

Sir Thomas Malory, Le Morte Darthur を Field 版で読む

不破 有理 (FUWA YURI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB175

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

英文学のアーサー王物語の金字塔トマス・マロリー『アーサー王の死』（Sir Thomas Malory, Le Morte Darthur, 1469）を Field 版（2013）で精読し、中英語（ME）の読解力を養いマロリーの作品を解釈できるようになることを第一の目標とする。Malory 学の成立には日本の研究者の貢献がめざましい。マロリーのテキストをめぐる論争を例に、マロリーの批評史と研究手法を学び、アーサー王研究の導入とすることを第二の目標とする。

This course focuses on close reading of Sir Thomas Malory's Arthurian masterpiece, Le Morte Darthur (1469), using the Field edition (2013). Goals include developing proficiency in Middle English comprehension, appreciating Malory's narratives, and acquiring research skills through controversies in Malory scholarship.

Notably, Japanese scholars have influenced Malory studies. The course aims to provide insight into critical textual history of Malory and research methodologies, hopefully laying the foundation for advanced studies in Arthurian literature.

授業の内容 / Course Contents

マロリーのテキストには Caxton 版と Winchester 写本の二つの流れが存在する。Field 版はマロリーが依拠した

原典との比較対照および最新の研究成果を踏まえて校訂・編集された画期的なテキストで、これまで決定版とされていたヴィナーヴァ・フィールド (Vinaver-Field) 版(1990)よりもさらに原作に近いといえる。この版のテキストを精読する。詳細な注釈や中英語辞典、Winchester 写本と Caxton 版のファクシミリ版など必要に応じて活用し、中英語テキストの読解方法を学ぶ。また Field 版の成立にも貢献した日本のマロリー研究者が英米の研究者と展開した一連の論争を英語論文で読む。事例を検討することで、テキスト批評史のみならず、論証のための研究手法を学び、ひいては今後のアーサー王研究へとつなげてほしい。本演習は春学期に『アーサー王の死』のアーサー王誕生から円卓騎士団の形成への物語を扱い、秋学期に物語終盤の珠玉のエピソード「ランスロットとエレイン」から「最後の戦い」への完結編を精読する。マロリーの語りの妙を堪能したい。Malory's text has been transmitted through the Caxton edition and the Winchester manuscript. The Field edition (2013) is a groundbreaking reconstruction, meticulously edited to reflect Malory's original work, surpassing the Vinaver-Field edition (1990). We will closely read this edition, utilizing commentaries, the online Middle English Dictionary, and facsimiles of the Winchester manuscript and Caxton edition as needed. This approach will impart valuable skills for understanding Middle English texts. Additionally, we will explore debates among American, British, and Japanese scholars on the Malory text; by examining key papers on the topic, students will grasp the history of Malory's text criticism, learn research methods for effective argumentation, and connect these skills and interests to broader future Arthurian studies. This seminar covers King Arthur's birth to the Round Table's formation in spring. In autumn, we will explore concluding episodes from popularly known as "Lancelot and Elaine" to the "Last Battle." Enjoy Malory's storytelling artistry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：Sir Thomas Malory, William Caxton and the Winchester Manuscript (1)
- 2 回：発表とディスカッション：Uther Pendragon and Merlin (1)
- 3 回：発表とディスカッション：Uther Pendragon and Merlin (2)
- 4 回：発表とディスカッション：Uther Pendragon and Merlin (3)
- 5 回：発表とディスカッション：Uther Pendragon and Merlin (4)
- 6 回：発表とディスカッション：Balyn le Sauvage (1)
- 7 回：発表とディスカッション：Balyn le Sauvage (2)
- 8 回：発表とディスカッション：The Wedding of King Arthur
- 9 回：発表とディスカッション：The Book of Adventures (1)
- 10 回：発表とディスカッション：The Book of Adventures (2)
- 11 回：発表とディスカッション：The Book of Adventures (3)
- 12 回：発表とディスカッション：The Book of Adventures (4)
- 13 回：鑑賞／批評読解とディスカッション
- 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当者を決めますので、担当箇所のテキストは Vinaver-Field edition (1990)のテキストと比較し、Commentary

や Glossary を活用して読み、MED (Middle English Dictionary) で語義を確認の上、準備をしてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と授業貢献度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Sir Thomas Malory/P.J.C. Field Le Morte Darthur D.S. Brewer 2017 9781843844600 ○

参考文献 / Readings

Bonnie Wheeler et al. The Malory Debate D.S.Brewer 2000 0859915832

Yuji Nakao Philological and Textual Studies of Sir Thomas Malory's Arthurian Eihosha 2008
9784269720916

Sir Thomas Malory/P.J.C. Field Le Morte Darthur Apparatus, Commentary, Glossary and Index of Names
D.S.Brewer 2013 02619814

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Clarendon Press 1990 0198123442

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Clarendon Press 1990 0198123450

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Eugène Vinaver/P.J.C.Field 1990
0198123469

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Malory の英語は Chaucer よりは現代英語に近く読みやすいかもしれませんが、精確な読みを得るためには Glossary や中英語辞典による丹念な下調べが求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Middle English Dictionary はオンラインで公開されており適宜参照するので、できればネットに接続可能な PC があると便利でしょう。

英語学特殊研究 3 B

Studies in Eng. Philology & Linguistics 3B

Sir Thomas Malory, Le Morte Darthur を Field 版で読む

不破 有理 (FUWA YURI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面（全回）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

英文学のアーサー王物語の金字塔トマス・マロリー『アーサー王の死』（Sir Thomas Malory, Le Morte Darthur, 1469）を Field 版（2013）で精読し、中英語（ME）の読解力を養いマロリーの作品を解釈できるようになることを第一の目標とする。Malory 学の成立には日本の研究者の貢献がめざましい。マロリーのテキストをめぐる論争を例に、マロリーの批評史と研究手法を学び、アーサー王研究の導入とすることを第二の目標とする。

This course focuses on close reading of Sir Thomas Malory's Arthurian masterpiece, Le Morte Darthur (1469), using the Field edition (2013). Goals include developing proficiency in Middle English comprehension, appreciating Malory's narratives, and acquiring research skills through controversies in Malory scholarship.

Notably, Japanese scholars have influenced Malory studies. The course aims to provide insight into critical textual history of Malory and research methodologies, hopefully laying the foundation for advanced studies in Arthurian literature.

授業の内容 / Course Contents

マロリーのテキストには Caxton 版と Winchester 写本の二つの流れが存在する。Field 版はマロリーが依拠した

原典との比較対照および最新の研究成果を踏まえて校訂・編集された画期的なテキストで、これまで決定版とされていたヴィナーヴァ・フィールド (Vinaver-Field) 版(1990)よりもさらに原作に近いといえる。この版のテキストを精読する。詳細な注釈や中英語辞典、Winchester 写本と Caxton 版のファクシミリ版など必要に応じて活用し、中英語テキストの読解方法を学ぶ。また Field 版の成立にも貢献した日本のマロリー研究者が英米の研究者と展開した一連の論争を英語論文で読む。実例を検討することで、テキスト批評史のみならず、論証のための研究手法を学び、ひいては今後のアーサー王研究へとつなげてほしい。本演習は春学期に『アーサー王の死』のアーサー王誕生から円卓騎士団の形成への物語を扱い、秋学期に物語終盤の珠玉のエピソード「ランスロットとエレイン」から「最後の戦い」への完結編を精読する。マロリーの語りの妙を堪能したい。Malory's text has been transmitted through the Caxton edition and the Winchester manuscript. The Field edition (2013) is a groundbreaking reconstruction, meticulously edited to reflect Malory's original work, surpassing the Vinaver-Field edition (1990). We will closely read this edition, utilizing commentaries, the online Middle English Dictionary, and facsimiles of the Winchester manuscript and Caxton edition as needed. This approach will impart valuable skills for understanding Middle English texts. Additionally, we will explore debates among American, British, and Japanese scholars on the Malory text; by examining key papers on the topic, students will grasp the history of Malory's text criticism, learn research methods for effective argumentation, and connect these skills and interests to broader future Arthurian studies. This seminar is the second half of the course: In the autumn term, we will explore Malory's concluding episodes from popularly known as "Lancelot and Elaine" to the "Last Battle." Enjoy Malory's storytelling artistry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション: Sir Thomas Malory, William Caxton and the Winchester Manuscript (2)
- 2 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (1) Sir Mador de la Porte
- 3 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (2) The Fair Maiden of Ascolat [1]
- 4 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (3) The Fair Maiden of Ascolat [2]
- 5 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (4) The Tournament at Westminster
- 6 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (5) The Knight of the Cart
- 7 回：発表とディスカッション：Sir Launcelot and Queen Guenivere (6) Sir Urry of Hungary
- 8 回：発表とディスカッション：The Morte Arthur (1) Sir Aggravayne
- 9 回：発表とディスカッション：The Morte Arthur (2) Sir Gawayne
- 10 回：発表とディスカッション：The Morte Arthur (3) The Siege of Benwick
- 11 回：発表とディスカッション：The Morte Arthur (4) Sir Mordred
- 12 回：発表とディスカッション：The Morte Arthur (5) Sir Launcelot
- 13 回：鑑賞／批評読解とディスカッション
- 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

担当者を決めますので、担当箇所のテキストは Vinaver-Field edition (1990)のテキストと比較し、Commentary

や Glossary を活用して読み、MED (Middle English Dictionary) で語義を確認の上、準備をしてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と授業貢献度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Sir Thomas Malory/P.J.C. Field Le Morte Darthur D.S. Brewer 2017 9781843844600 ○

参考文献 / Readings

Bonnie Wheeler et al. The Malory Debate D.S.Brewer 2000 0859915832

Yuji Nakao Philological and Textual Studies of Sir Thomas Malory's Arthurian Eihosha 2008
9784269720916

Sir Thomas Malory/P.J.C. Field Le Morte Darthur Apparatus, Commentary, Glossary and Index of Names
D.S.Brewer 2013 02619814

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Claredon Press 1990 0198123442

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Claredon Press 1990 0198123450

Eugène Vinaver/P.J.C.Field The Works of Sir Thomas Malory Eugène Vinaver/P.J.C.Field 1990
0198123469

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Malory の英語は Chaucer よりは現代英語に近く読みやすいかもしれませんが、精確な読みを得るためには Glossary や中英語辞典による丹念な下調べが求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Middle English Dictionary はオンラインで公開されており適宜参照するので、できればネットに接続可能な PC があると便利でしょう。

英語学特殊研究 4 A

Studies in Eng. Philology & Linguistics 4A

英語の歴史および形態論

小池 剛史 (KOIKE TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB177

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

英語の語彙を、主に形態論および英語の歴史の側面から説明した文献を読み解き、英語の語彙について専門用語を用いて論じることができるようになることが目標です。レポート試験および口頭発表を通じて評価します。

The target of this course is to read and understand the textbook on English vocabulary and to be able to discuss it from the point of view of morphology and history of English.

授業の内容 / Course Contents

英語の語彙を、主に形態論および英語の歴史の側面から論じた英語テキストを読み解きます。主に、テキストを元にした講義とディスクリプションを中心に進めますが、テキストのいくつかのセクションを院生に口頭発表して頂きます。

We follow the textbook on English vocabulary described from the perspectives of morphology and history of English. Each class mainly consists of lecture and class discussion. Students will also give presentations on some sections in the textbook.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation; Chapter 1 Word-Origins: English Lexical Heritage
 2 回：Chapter 1 Word Origin: English Regular Word Formation
 3 回：Chapter 1 Word Origin: New Word Creation/Word-Obsolescences and word-death
 4 回：Chapter 2 The background of English: The family history of English
 5 回：Chapter 2 The background of English: Historical influences on the early vocabulary of English (1)
 6 回：Chapter 2 The background of English: Historical influences on the early vocabulary of English (2)
 7 回：Chapter 2 The background of English: Historical influences on the early vocabulary of English (3)
 8 回：Chapter 3 Composition of the Early Modern and Modern English vocabulary (1)
 9 回：Chapter 3 Composition of the Early Modern and Modern English vocabulary (2)
 10 回：Chapter 3 Composition of the Early Modern and Modern English vocabulary (3)
 11 回：Chapter 4 Smaller than words: morphemes and types of morphemes (1)
 12 回：Chapter 4 Smaller than words: morphemes and types of morphemes (2)
 13 回：Chapter 4 Smaller than words: morphemes and types of morphemes (3)
 14 回：Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で読む箇所をあらかじめ予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 個人発表:40% 授業内での発言:10%

テキスト / Textbooks

Donka Minkova & Robert Stockwel English Words History and Structure (2nd edition) Cambridge University Press 2009年 9780521709170 -

参考文献 / Readings

寺澤芳雄（編） 英語語源辞典 研究社 2002年 9784767431055

Oxford English Dictionary (www.oed.com)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Oxford English Dictionary (www.oed.com) を使えるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に Oxford English Dictionary (www.oed.com) を使うことがありますので、パソコンを持参してください。

英語学特殊研究 4 B

Studies in Eng. Philology & Linguistics 4B

英語形態論および音韻論

小池 剛史 (KOIKE TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JB178

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 講義および学生による個人発表

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL6413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

英語の語彙を、主に形態論および音韻論の側面から説明した文献を読み解き、英語の語彙について専門用語を用いて論じることができるようになることが目標です。レポート試験および口頭発表を通じて評価します。

The target of this course is to read and understand the textbook on English vocabulary and to be able to discuss it from the point of view of morphology and phonology.

授業の内容 / Course Contents

英語の語彙を、主に形態論および音韻論の側面から論じた英語テキストを読み解きます。主に、テキストを元にした講義とディスクリプションを中心に進めますが、テキストのいくつかのセクションを院生に口頭発表します。

We follow the textbook on English vocabulary described from the perspectives of morphology and history of English. Each class mainly consists of lecture and class discussion. Students will also give presentations on some sections in the textbook.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation; morphology
 2 回：Chapter 5 Allomorphy, phonetics, and affixation (1)
 3 回：Chapter 5 Allomorphy, phonetics, and affixation (2)
 4 回：Chapter 5 Allomorphy, phonetics, and affixation (3)
 5 回：Chapter 6 replacement rules (1)
 6 回：Chapter 6 replacement rules (2)
 7 回：Chapter 6 replacement rules (3)
 8 回：Chapter 7 Deletion rules and other kinds of allomorphy (1)
 9 回：Chapter 7 Deletion rules and other kinds of allomorphy (2)
 10 回：Chapter 7 Deletion rules and other kinds of allomorphy (3)
 11 回：Chapter 8 Fossilized allomorphy: false cognates and other etymological pitfalls (1)
 12 回：Chapter 8 Fossilized allomorphy: false cognates and other etymological pitfalls (2)
 13 回：Chapter 8 Fossilized allomorphy: false cognates and other etymological pitfalls (3)
 14 回：Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で読む箇所をあらかじめ予習しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 個人発表:40% 授業内での発言:10%

テキスト / Textbooks

Donka Minkova & Robert Stockwel English Words History and Structure (2nd edition) Cambridge University Press 2009年 -

参考文献 / Readings

寺澤芳雄 (編) 英語語源辞典 研究社 1997 9784767431055

Oxford English Dictionary (www.oed.com)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Oxford English Dictionary (www.oed.com) を使えるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に Oxford English Dictionary (www.oed.com) を使うことがありますので、パソコンを持参してください。

日本史演習 2

Seminar in Japanese History 2

日本中世史演習

菊地 大樹 (KIKUCHI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PC312

授業の目標 / Course Objectives

日本中世史に関する研究論文、および中世史料の読解力を向上し、各自の論文作成に向けての準備を促進する。

This course will enhance students' comprehension of medieval historical sources and research papers on medieval Japan, which will help students writing their essays and dissertations.

授業の内容 / Course Contents

- ①日本中世の公家日記に関する輪読・研究
- ②日本中世（特に院政期・鎌倉期）の研究書・学術論文の講読
- ③参加者の研究報告（執筆中の草稿の検討・討論を含む）

以上の三つを行う予定である。

①について、講読史料については初回の授業で参加者とともに相談して決定する。具体的には、「亀山天皇凶事記」（『公衡公記』）、『中右記部類』など、天皇・公家の崩御および仏神事関係の古記録を考えている。また、随時、参加者の研究テーマに即した研究報告を行う。

ゼミのやり方としては、毎回、報告者を決めて、分担箇所について関連史料・研究文献を調査してもらい、そのレジュメをもとに参加者全員で討議を行う。

②③については、初回に参加者と相談して決定する。

(1) Group reading and research for court journals in medieval Japan

(2) Reviews of academic bibliographies on medieval Japan (particularly the Insei and Kamakura period, 1068-1333)

(3) Research reports by participant

Students will engage in these three projects.

Regarding (1), Professor will discuss what documents will be appreciated with participants at the first session. Professor will suggest reading court journals including entries of the death of emperor Kameyama ("Kinhirakoki") and the collection of court rituals from "Chuyuki" ("Chuyuki-burui"). The course will also have participants conduct research reports in regard to their research.

In every session the assigned student report his or her appointed part of documents by researching referred materials and essays. The reporter should prepare handouts. for the participants.

With regard to (2) and (3), these will be decided in the first session in consultation with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

2回：中世史料輪読（1）

3回：中世史料輪読（2）

4回：中世史料輪読（3）

5回：中世史料輪読（4）

6回：中世史文献講読（1）

7回：中世史文献講読（2）

8回：中世史文献講読（3）

9回：中世史文献講読（4）

10回：個人研究報告（1）

11回：個人研究報告（2）

12回：個人研究報告（3）

13回：個人研究報告（4）

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告:50% 授業への参加度:50%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。無断欠席は原則認めない。

テキスト/ Textbooks

菊地康明他校訂 『葉黄記1・2』 続群書類従完成会 1971~ 9784797102963 -

今江広道他校訂 『公衡公記1~4』 八木書店 2014 9784840632881 -

東京大学史料編纂所編 『中右記』別巻 岩波書店 2011 4000097369 -

「四条天皇凶事記」「亀山天皇凶事記」などは未翻刻のため、教員から写本の利用について説明し、便宜を図る。刊本史料については、授業内で指示するので、それまで購入等の必要はない。『中右記』別巻についても、受講者と利用方法について相談するので、それまで購入等の必要はない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本中世史を専門的に学ぶための、高度な和風漢文読解能力を身に付けることを目的とする。高校レベルの基礎的な漢文テキスト読解能力を身に付けていることが望ましく、十分でない場合には自習が必要である。

その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

授業中に適宜指示する。

日本史演習 3

Seminar in Japanese History 3

木村 涼 (KIMURA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC128
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PC313

授業の目標 / Course Objectives

日本近世史に関する研究論文、および近世史料（活字史料）の読解力を向上し、近世史についての理解を深めることを目標とする。

The aim of the course is to improve students' ability to comprehend historical materials (printed materials) and research papers concerning early modern Japanese history, and to deepen students' understanding of early modern history.

授業の内容 / Course Contents

参加者の状況によって、史料の輪読とするか、論文の輪読とするか、あるいはその両者の組み合わせとするか考える。論文を理解するためにも、史料が読めることは必須であるので、史料読解を重視していきたいと考えている。

Based on participants' situations, the course will consider whether to engage in group readings of historical materials, academic papers, or a combination of both. As the ability to read historical materials is a requirement for understanding academic papers, the course will emphasize comprehension of such materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：史料もしくは論文の輪読（1）
 3回：史料もしくは論文の輪読（2）
 4回：史料もしくは論文の輪読（3）
 5回：史料もしくは論文の輪読（4）
 6回：史料もしくは論文の輪読（5）
 7回：史料もしくは論文の輪読（6）
 8回：史料もしくは論文の輪読（7）
 9回：史料もしくは論文の輪読（8）
 10回：史料もしくは論文の輪読（9）
 11回：史料もしくは論文の輪読（10）
 12回：史料もしくは論文の輪読（11）
 13回：史料もしくは論文の輪読（12）
 14回：史料もしくは論文の輪読（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料および論文について、事前に検討することが求められる。とくに史料については、用語を事前に調べ、また文脈を重視して解釈し、どのようなことが読み取れるのかを正確に探り出すことが肝要となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加態度:50% 報告内容:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

日本史演習 4

Seminar in Japanese History 4

倉敷 伸子 (KURASHIKI NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC129

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PC314

授業の目標 / Course Objectives

日本の近現代、特に生活意識に関する史料および研究状況についての理解を深める。

Students taking this course will explore historical materials and current historical research about modern and contemporary history of Japan focusing on the consciousness of life.

授業の内容 / Course Contents

- (1)日本の近現代史、特に生活意識に関する史料、主要文献の講読
- (2)史料に対する多角的視点、特にジェンダーに留意した視点による検討

(1)Reading historical documents about consciousness of life

(2)Examining historical materials from multiple perspectives,particularly paying attention to gender issues

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：史料・文献の講読と議論 (1)

2 回：史料・文献の講読と議論 (2)

- 3回：史料・文献の講読と議論（3）
 4回：史料・文献の講読と議論（4）
 5回：史料・文献の講読と議論（5）
 6回：史料・文献の講読と議論（6）
 7回：史料・文献の講読と議論（7）
 8回：史料・文献の講読と議論（8）
 9回：史料・文献の講読と議論（9）
 10回：史料・文献の講読と議論（10）
 11回：史料・文献の講読と議論（11）
 12回：史料・文献の講読と議論（12）
 13回：史料・文献の講読と議論（13）
 14回：史料・文献の講読と議論（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前に、受講生各自が文献・史料の講読と検討、論点の抽出を行っておくこと。その他は授業内で指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加とその内容：60% 報告の内容：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本史演習 5

Seminar in Japanese History 5

戦後日本における空間性と食/Spatiality and Eating in Postwar Japan

塚原 浩太郎 (TSUKAHARA KOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC130

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PC315

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、主として第二次世界大戦後の日本における「食」をテーマとする。とりわけ空間性と食という観点から関連する史料を輪読し、史料についてのディスカッションを通じて、現在に至る「食」の歴史的な変遷を検討する。また関連史料の検索方法について参加者の間で共有を図り、歴史的な調査の行い方について知見を深める。

This seminar focuses on "eating" in post-war Japan. We will read historical materials related to "eating" and especially to spatiality. Through discussion of the historical materials, we will learn about the historical changes in "eating" up to the present. We will also learn how to search for related historical materials.

授業の内容 / Course Contents

戦後日本の空間性と食について史料をもとにした発見や理解を得ることを目指す。あわせて、「食」をはじめとする身近なテーマを歴史的に考える方法を習得することを目指す。

The aim of this seminar is to understand the relationship between spatiality and eating in post-war Japan and is to learn how to think historically about ordinary things like eating.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：食をめぐる諸論点
 (演習を通して議論したい点を提示する)
 3回：史料講読一食と身体①
 4回：史料講読一食と身体②
 5回：史料講読一食と身体③
 6回：史料講読一食と身体④
 7回：史料講読一食と他者①
 8回：史料講読一食と他者②
 9回：史料講読一食と他者③
 10回：史料講読一食と他者④
 11回：史料講読一食と空間①
 12回：史料講読一食と空間②
 13回：史料講読一食と空間③
 14回：総括と展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の史料を読んで事前にコメント (A4 一枚以内) を提出するため、2 時間ほど予習の時間を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のコメントの提出:70% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

日本史演習 6

Seminar in Japanese History 6

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC131

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用コード：PC316

授業の目標 / Course Objectives

日本中世史に関する研究論文、および中世史料の読解力を向上し、各自の論文作成に向けての準備を促進する。

This course will enhance students' comprehension of medieval historical materials and research papers concerning medieval Japanese history, and will promote students' preparations for writing their own theses.

授業の内容 / Course Contents

春学期の日本史特殊研究 2 A の継続である。今年度は荘園文書をテーマにしたい。具体的には、高野山領備後国大田荘に関する古文書を輪読する予定である。戦前以来、様々な視点から重厚な研究が積み重ねられてきた荘園であり、同荘を素材にして荘園研究の研究史及び基本的な研究方法を習得する。

ゼミのやり方としては、毎回、報告者を決めて、分担箇所について関連史料・研究文献を調査してもらい、そのレジュメをもとに参加者全員で討議を行う。

また、随時、参加者の研究テーマに関する個人報告を行う。

(1) Group reading and investigation concerning historical materials from the Middle Ages of Japan

(2) Joint reviews of research books and scholarly articles concerning Japan's Middle Ages (particularly the cloistered rule period and Kamakura period)

(3) Research reports by participants

The above three activities are planned.

With regard to (2) and (3), these will be decided in the first session in consultation with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：中世史料輪読（1）
- 3回：中世史料輪読（2）
- 4回：中世史料輪読（3）
- 5回：中世史料輪読（4）
- 6回：中世史文献講読（1）
- 7回：中世史文献講読（2）
- 8回：中世史文献講読（3）
- 9回：中世史文献講読（4）
- 10回：個人研究報告（1）
- 11回：個人研究報告（2）
- 12回：個人研究報告（3）
- 13回：個人研究報告（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告:40% 授業への参加度:40% レポート:20%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。無断欠席は原則認めない。

テキスト / Textbooks

-
-
-
-
-

鎌倉佐保ほか編『荘園研究の論点と展望 中世史を学ぶ人のために』（吉川弘文館、2022年）所収の土山祐之「備後国大田荘」が研究の現状を示している。必要な史料集・研究書に関しては、コピーを参加者に配布する。

参考文献 / Readings

佐藤進一 『中世法制史料集 第6巻』 岩波書店 2005 9784000013864

黒田俊雄 『寺院法』 集英社 2015 9784081970209

佐藤進一 『中世政治社会思想 下巻』 岩波書店 1981 9784007305283

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

探究心

その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

授業中に適宜指示する。

西洋史特殊研究 5 A

Studies in Western History 5A

中世～近代のヨーロッパ商人と経済発展

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC134

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン実施回は科目担当者に確認をすること

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA213「欧州経済史特論1」との併置科目

後期課程用科目コード：PC333

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパ経済史に関する知識を獲得し、ヨーロッパ経済の構造について考察できるようになる。それに基づき、経済史研究における問題の所在や議論の枠組みを理解する。

Students will acquire knowledge on Europe economic history and be able to analyze its economic structure.

Based on that, students will understand problems found in economic history researches and their discussion frameworks.

授業の内容 / Course Contents

社会・経済は、どのようにして発展するのでしょうか。この授業では、そのことを歴史的に考察・分析します。とくに注目するのは、商人・企業家が果たした役割です。商人・企業家は、人びとが求めるモノを調達し、商業で世界各地を結びつけ、また、さまざまな部門でイノベーションを引き起こします。

中世から近代にかけてのヨーロッパの商人について、英語を含む専門文献の精読を基に解説と議論を行います。

受講者は授業で与えられた課題（テーマに関する簡単なメモないしレジュメの作成，受講者の研究に関する自由発表）をこなすことが求められます。毎回何らかの課題が与えられます。

How society and economy develop? In this seminar, we consider and analyze this subject from the historical approaches. A special focus is put on the role of merchants/entrepreneurs. They procure products people demand, connect and integrate all parts of the world, create innovation in various economic sectors.

We argue the role of merchants/entrepreneur of Europe from the Middle Ages to the 19th century. Main topics will be "merchants/entrepreneur".

Students must complete assignments given in the class (create simple note or summary on these subjects or free research presentation). Professor will give assignment in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 3回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 4回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 5回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 6回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 7回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 8回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 9回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 10回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 11回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 12回：受講者による自由発表と議論
- 13回：受講者による自由発表と議論
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献（日本語・英語）を事前に指示あるいは配布します。それを授業前までに精読し，論点をまとめてくること。自由発表の準備を計画的に進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加（事前準備・議論への参加）:80% 発表:20%

テキスト / Textbooks

とくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

参考文献 / Readings

ここではとくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求められません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組めば理解できる内容になっています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはタブレット端末

西洋史特殊研究 5 B

Studies in Western History 5B

ハンザ史

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC135

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン実施回は科目担当者に確認をすること

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA214「欧州経済史特論2」との併置科目

後期課程用科目コード：PC334

授業の目標 / Course Objectives

「ハンザ」というテーマから、ヨーロッパ経済の地域的特徴を考察できるようになる。とくに制度やネットワークが経済発展に果たした役割について理解できるようになる。

Consider the regional characteristics from the perspective of the "Hanseatic History". Understand the role of institutions and networks for the economic development.

授業の内容 / Course Contents

「ハンザ」の歴史を学ぶことを通じて、ヨーロッパ経済の地域的・歴史的特徴とその発展過程を考察します。その際は、とくにハンザの制度やネットワークが果たした役割に注目します。

中世から近代にかけてのハンザ、またはハンザ都市およびハンザ商人の発展、衰退または構造変化について、英語を含む専門文献の精読を基に解説と議論を行います。

受講者は授業で与えられた課題（テーマに関する簡単なメモないしレジユメの作成、受講者の研究に関する自由発表）をこなすことが求められます。毎回何らかの課題が与えられます。

We consider the regional and historical characteristics of European economy and the process of its development through the history of the German Hanse. A special attention is put on the role of the institutions and networks of the Hanse.

We argue the historical development, decline, or structural change of the Hanse as well as Hanseatic cities and merchants, reading and discussing the relevant literature written in Japanese and English.

Students must complete assignments given in the class (create simple note or summary on these subjects or free research presentation). Professor will give assignment in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：ハンザ形成前の北海・バルト海地域（1）
- 3 回：ハンザ形成前の北海・バルト海地域（2）
- 4 回：ハンザの形成と興隆（1）
- 5 回：ハンザの形成と興隆（2）
- 6 回：ハンザの構造とハンザ経済（1）
- 7 回：ハンザの構造とハンザ経済（2）
- 8 回：ハンザの構造とハンザ経済（3）
- 9 回：ハンザの構造とハンザ経済（4）
- 10 回：ハンザの衰退をめぐって
- 11 回：近世・近代のハンザ（1）
- 12 回：近世・近代のハンザ（2）
- 13 回：近世・近代のハンザ（3）
- 14 回：まとめと研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献（日本語・英語）を事前に指示あるいは配布します。それを授業前までに精読し、論点をまとめてくること。自由発表の準備を計画的に進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加（事前準備・議論への参加）:80% 発表:20%

テキスト / Textbooks

とくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

参考文献 / Readings

ここではとくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求められません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組みれば理解できる内容にな

っています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはタブレット端末

日本史特殊研究 1 A

Studies in Japanese History 1A

古代東アジア・日本出土文字史料研究 A

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代東アジア出土文字史料を検討し、当該地域の文化・政治体制の特色を明らかにする。

This course aims to examine excavated written materials from ancient East Asia and to elucidate the characteristics of the cultures and political systems in the region.

授業の内容 / Course Contents

報告書および関連論文を輪読する。ただし、参加者の興味によって、演習内容を変更することがある。

Students engage in group reading of reports and related academic papers. However, the content of the course is subject to change according to students' interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：集安高句麗碑にかかわる研究文献の整理（1）中国

2 回：集安高句麗碑にかかわる研究文献の整理（2）日本

3 回：集安高句麗碑にかかわる研究文献の整理（3）韓国

4 回：集安高句麗碑発見の経緯（1）

- 5回：集安高句麗碑発見の経緯（2）
 6回：集安高句麗碑発見の経緯（3）
 7回：集安高句麗碑の拓本写真検討（1）
 8回：集安高句麗碑の拓本写真検討（2）
 9回：集安高句麗碑の拓本写真検討（3）
 10回：集安高句麗碑字体の確認（1）
 11回：集安高句麗碑字体の確認（2）
 12回：集安高句麗碑字体の確認（3）
 13回：集安高句麗碑字体の確認（4）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告書および関連論文を紹介するレジюмеを、発表前日までに用意すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:100%

テキスト / Textbooks

- 張福有 『集安高句麗碑』 吉林大学出版会 2013 9787560196572 -
 張福有 『集安麻線高句麗碑』 文物出版社 2014 9787501038824 -

参考文献 / Readings

日本史特殊研究 1 B

Studies in Japanese History 1B

古代東アジア・日本出土文字史料研究 B

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC142

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代東アジア出土文字史料を検討し、当該地域の文化・政治体制の特色を明らかにする。

This course aims to examine excavated written materials from ancient East Asia and to elucidate the characteristics of the cultures and political systems in the region.

授業の内容 / Course Contents

古代東アジア・日本出土文字史料研究 A を継続して、集安高句麗碑関連論文を輪読する。ただし、参加者の興味によって、演習内容を変更することがある。

Continuing from Research in Excavated Written Historical Materials in Ancient East Asia and Japan (3), this course conducts group readings of academic papers related to the Ji'an Goguryeo monument. However, the course content is subject to change according to students' interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：集文氏論文の検討（1）

2 回：集文氏論文の検討（2）

- 3回：望山氏論文の検討（1）
 4回：望山氏論文の検討（2）
 5回：張福有氏論文の検討（1）
 6回：張福有氏論文の検討（2）
 7回：張福有氏論文の検討（3）
 8回：徐建新氏論文の検討（1）
 9回：徐建新氏論文の検討（2）
 10回：魏存成氏論文の検討（1）
 11回：魏存成氏論文の検討（2）
 12回：その他関係論文の検討（1）
 13回：その他関係論文の検討（2）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告書および関連論文を紹介するレジュメを、発表前日までに用意すること。

2013年1月、中華人民共和国吉林省集安市麻線郷麻線河の西岸で前年7月に高句麗碑が発見されていたことが報道された。この貴重な新発見に学界の反応は早く、中国では報告書が刊行され、韓国では検討会や、中国での現地調査とその成果に基づく研究会が開催され、日本でも新碑発見の意義と問題点を整理する国際学会が行われた。本演習では中国語論文を扱うが、参加者は他言語の研究論文も読むことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:100%

テキスト / Textbooks

文物出版会 『集安麻線高句麗碑』 文物出版会 2014 9787501038824 -

参考文献 / Readings

『韓国古代史研究』70「集安高句麗碑特集号」（韓国古代史学界,2013年7月,公州）

その他 / Others

『第九回 早稲田大学総合研究機構研究成果報告会 広開土王碑研究 130年－集安高句麗碑発見と古代東アジア プロフィール・論文・要旨』（早稲田大学総合研究機構,2013年11月8日

<https://www.waseda.jp/inst/cro/other/2014/03/01/543/>

日本史特殊研究 2 A

Studies in Japanese History 2A

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC143

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本中世史に関する研究論文、および中世史料の読解力を向上し、各自の論文作成に向けての準備を促進する。

This course will enhance students' comprehension of medieval historical materials and research papers concerning medieval Japanese history, and will promote students' preparations for writing their own theses.

授業の内容 / Course Contents

今年度は荘園文書をテーマにしたい。具体的には、高野山領備後国大田荘に関する古文書を輪読する予定である。戦前以来、様々な視点から重厚な研究が積み重ねられてきた荘園であり、同荘を素材にして荘園研究の研究史及び基本的な研究方法を習得する。

ゼミのやり方としては、毎回、報告者を決めて、分担箇所について関連史料・研究文献を調査してもらい、そのレジュメをもとに参加者全員で討議を行う。

また、随時、参加者の研究テーマに関する個人報告を行う。

(1) Group reading and investigation concerning historical materials from the Middle Ages of Japan

(2) Joint reviews of research books and scholarly articles concerning Japan's Middle Ages (particularly the cloistered rule period and Kamakura period)

(3) Research reports by participants

The above three activities are planned.

With regard to (2) and (3), these will be decided in the first session in consultation with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：中世史料輪読（1）
- 3 回：中世史料輪読（2）
- 4 回：中世史料輪読（3）
- 5 回：中世史料輪読（4）
- 6 回：中世史文献講読（1）
- 7 回：中世史文献講読（2）
- 8 回：中世史文献講読（3）
- 9 回：中世史文献講読（4）
- 10 回：個人研究報告（1）
- 11 回：個人研究報告（2）
- 12 回：個人研究報告（3）
- 13 回：個人研究報告（4）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告:40% 授業への参加度:40% レポート:20%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。無断欠席は原則認めない。

テキスト / Textbooks

-
-
-
-
-

鎌倉佐保ほか編『荘園研究の論点と展望 中世史を学ぶ人のために』（吉川弘文館、2022年）所収の土山祐之「備後国大田荘」が研究の現状を示している。必要な史料集・研究書に関しては、コピーを参加者に配布する。

参考文献 / Readings

佐藤進一 『中世法制史料集 第6巻』 岩波書店 2005 9784000013864

黒田俊雄 『寺院法』 集英社 2015 9784081970209

佐藤進一 『中世政治社会思想 下巻』 岩波書店 1981 9784007305283

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

探究心

その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

授業中に適宜指示する。

日本史特殊研究 2 B

Studies in Japanese History 2B

日本史学研究と日本史教育

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC144

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本史学の研究方法を習得し、主に高等学校での日本史教育とのかかわりを論じることを目的とする。将来教職等に就いたときに、大学院で学んだ内容を活かすための方法を身につけることも目指している。

The aim of this course is to acquire methods to make use of what students have learnt in graduate school when they become teachers or other professions in the future. Specifically, the course aims to develop an understanding of the differences between what students learn (or teachers talk about) through textbooks and various teaching materials and Japanese history as an academic discipline, and to acquire basic methodologies on how to optimise the latter for the former.

授業の内容 / Course Contents

教科書や各種の教材を通じて生徒が学ぶ（あるいは教師が語る）内容について、学術としての日本史学の世界で研究されている内容を調査し、両者の差異を理解した上で、歴史教育の内容面での刷新の可能性を考える。

Based on an understanding of the differences between what students learn (or teachers talk about) through textbooks and various teaching materials and what is being researched in the academic world of Japanese history,

we will consider the possibility of renewing the content aspect of history education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・学習指導要領について
- 2回：探究学習について・日本史教科書の構成に関する検討
- 3回：日本史学研究と日本史教科書①：先史
- 4回：日本史学研究と日本史教科書②：古墳時代・飛鳥時代
- 5回：日本史学研究と日本史教科書③：奈良・平安時代
- 6回：日本史学研究と日本史教科書④：鎌倉時代
- 7回：日本史学研究と日本史教科書⑤：室町・戦国時代
- 8回：日本史学研究と日本史教科書⑥：安土桃山時代・江戸時代（前期）
- 9回：日本史学研究と日本史教科書⑦：江戸時代（後期）・幕末維新时期
- 10回：日本史学研究と日本史教科書⑧：明治・大正期
- 11回：日本史学研究と日本史教科書⑨：昭和戦前期
- 12回：日本史学研究と日本史教科書⑩：昭和戦後～平成期
- 13回：各自の研究テーマと探究学習①
- 14回：各自の研究テーマと探究学習②・総括・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) 各社の日本史探究教科書を比較検討すること。
- (2) 自らの研究テーマに基づいた探究型授業を考案すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各自の報告内容・開発した教材の内容:60% 他の学生の発表に対する討論における発言の回数・内容:40%

テキスト / Textbooks

各社の日本史探究の教科書・資料集

参考文献 / Readings

文部科学省 高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉 東山書房 2018 9784827815672
 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 東洋館出版社 2019 9784491036410
 岩城卓二ほか編 論点・日本史学 ミネルヴァ書房 2022 9784623093496
 高等学校学習指導要領および同解説は文部科学省のホームページからもダウンロードできる。

その他 / Others

教員志望者に限らず、この授業のテーマに興味ある方の受講をお待ちしております。

日本史特殊研究 3 A

Studies in Japanese History 3A

高見澤 美紀 (TAKAMISAWA MIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC145
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近世史に関する史料、および研究論文の読解力を向上し、近世史についての理解を深めることを目標とする。

The aim of the course is to improve students' ability to comprehend historical materials and research papers concerning early modern Japanese history, and to deepen students' understanding of early modern history.

授業の内容 / Course Contents

参加者の状況によって、史料の読解とするか、論文の輪読とするか、あるいはその両者の組み合わせとするか考える。論文を理解するためにも、史料が読めることは必須であるので、史料読解を重視していきたいと考えている。

Based on participants' situations, the course will consider whether to engage in group readings of historical materials, academic papers, or a combination of both. As the ability to read historical materials is a requirement for understanding academic papers, the course will emphasize comprehension of such materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業および近世史料に関するガイダンス

- 2回：史料読解もしくは論文の輪読（1）
 3回：史料読解もしくは論文の輪読（2）
 4回：史料読解もしくは論文の輪読（3）
 5回：史料読解もしくは論文の輪読（4）
 6回：史料読解もしくは論文の輪読（5）
 7回：史料読解もしくは論文の輪読（6）
 8回：史料読解もしくは論文の輪読（7）
 9回：史料読解もしくは論文の輪読（8）
 10回：史料読解もしくは論文の輪読（9）
 11回：史料読解もしくは論文の輪読（10）
 12回：史料読解もしくは論文の輪読（11）
 13回：史料読解もしくは論文の輪読（12）
 14回：史料読解もしくは論文の輪読（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

取り上げる史料および論文について、発表担当に関わらず履修者各自が事前に検討することが求められる。とくに史料については、ジャパンナレッジ等を利用して語句・用語を調べ、また文脈を重視して解釈し、どのようなことが読み取れるのかを正確に探り出すことが肝要となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加態度:50% 報告内容:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示・配布する。

参考文献 / Readings

適宜指示・配布する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習する日本史(江戸時代)の知識および翻刻された江戸時代の史資料に対する基礎的な読解力が必要。

日本史特殊研究 3 B

Studies in Japanese History 3B

天野 真志 (AMANO MASASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC146
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近世史に関する史料（活字史料）および研究論文の購読を通して読解力を向上し、各自の論文作成に向けた準備を促進する。

The aim is to improve reading comprehension of historical materials and research papers on the history of early modern Japan, and to promote students' preparations for writing their own theses.

授業の内容 / Course Contents

参加者の状況に応じて、史料および研究論文の講読を組み合わせ、参加者の報告により講義を進める。

Depending on the participant's situation, lectures will be given mainly by the participant's report by reading historical materials, reading thesis, and a combination of them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：史料講読/論文講読（1）
- 3 回：史料講読/論文講読（2）
- 4 回：史料講読/論文講読（3）

- 5回：史料講読/論文講読（4）
 6回：史料講読/論文講読（5）
 7回：史料講読/論文講読（6）
 8回：史料講読/論文講読（7）
 9回：史料講読/論文講読（8）
 10回：史料講読/論文講読（9）
 11回：史料講読/論文講読（10）
 12回：史料講読/論文講読（11）
 13回：史料講読/論文講読（12）
 14回：史料講読/論文講読（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題の史料・論文を事前に検討することが求められる。史料については、用語や読み方などの基礎情報を事前に調べ、解釈を検討することが必要である。授業終了後は史料を読み直すとともに、授業中に議論になった事項を検討するなど復習をすすめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告内容:50% 授業への参加度:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

日本史特殊研究 4 A

Studies in Japanese History 4A

小野沢 あかね (ONozAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC147
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近代史，とくに女性史・ジェンダー・社会運動史・民衆史などに関する研究史・研究状況・史料について理解を深めると同時に，各自の研究の進展をはかる。

Students will deepen their understanding of the history of research, state of research, and historical materials pertaining to the modern history of Japan, particularly women's history, gender and social movement history, popular history, etc., while working to advance their own research.

授業の内容 / Course Contents

(1) 日本近代史，とくに女性史・ジェンダー・社会運動史・民衆史などに関する研究成果や史料を講読し，報告者を定めて報告を行った上で議論し，研究史と近年の研究状況，史料講読に関して理解を深める。

(2) 各自の研究テーマにそくした研究報告・議論を行い，それぞれの研究の進化をはかる。

(1) Students will read research findings and historical materials pertaining to the modern history of Japan, particularly women's history, gender and social movement history, popular history, etc. They will engage in discussion of reports by designated reporters, and will deepen their understanding of the history of research, the state of recent research, and readings of historical materials.

(2) Students will engage in research reports and discussions on their own research themes, and will strive to evolve their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：受講生による報告と議論 (1)
 3回：受講生による報告と議論 (2)
 4回：受講生による報告と議論 (3)
 5回：受講生による報告と議論 (4)
 6回：受講生による報告と議論 (5)
 7回：受講生による報告と議論 (6)
 8回：受講生による報告と議論 (7)
 9回：受講生による報告と議論 (8)
 10回：受講生による報告と議論 (9)
 11回：受講生による報告と議論 (10)
 12回：受講生による報告と議論 (11)
 13回：受講生による報告と議論 (12)
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる文献や関連文献を読むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告の内容:50% 出席および議論への参加:50%

テキスト / Textbooks

授業の最初に受講生と相談の上、定める。

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

日本史特殊研究 4 B

Studies in Japanese History 4B

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC148
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近代史，とくに女性史・ジェンダー・社会運動史・民衆史などに関する研究史・研究状況・史料について理解を深めると同時に，各自の研究の進展をはかる。

Students will deepen their understanding of the history of research, state of research, and historical materials pertaining to the modern history of Japan, particularly women's history, gender and social movement history, popular history, etc., while working to advance their own research.

授業の内容 / Course Contents

(1) 日本近代史，とくに女性史・ジェンダー・社会運動史・民衆史などに関する研究成果や史料を講読し，報告者を定めて報告を行った上で議論し，研究史と近年の研究状況，史料講読に関して理解を深める。

(2) 各自の研究テーマにそくした研究報告・議論を行い，それぞれの研究の進化をはかる。

(1) Students will read research findings and historical materials pertaining to the modern history of Japan, particularly women's history, gender and social movement history, popular history, etc. They will engage in discussion of reports by designated reporters, and will deepen their understanding of the history of research, the state of recent research, and readings of historical materials.

(2) Students will engage in research reports and discussions on their own research themes, and will strive to evolve their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：受講生の報告と議論（1）
- 3回：受講生の報告と議論（2）
- 4回：受講生の報告と議論（3）
- 5回：受講生の報告と議論（4）
- 6回：受講生の報告と議論（5）
- 7回：受講生の報告と議論（6）
- 8回：受講生の報告と議論（7）
- 9回：受講生の報告と議論（8）
- 10回：受講生の報告と議論（9）
- 11回：受講生の報告と議論（10）
- 12回：受講生の報告と議論（11）
- 13回：受講生の報告と議論（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる文献や関連文献を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 議論の内容:50%

テキスト / Textbooks

授業時に受講生と相談の上、指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

日本史特殊研究 5 A

Studies in Japanese History 5A

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC149
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本現代史研究に関する課題と方法を、主に史料講読の講読と研究史把握を通じて理解し、自らの研究課題その中に位置づけることを目指す。

Primarily through the reading of historical materials and the assessment of the history of research, this course aims to have students understand issues and methods related to research in contemporary Japanese history, and to position their own research problems within this.

授業の内容 / Course Contents

日本現代史におけるミクロ歴史研究を、どのように目指すべきかという点にテーマを絞って、史料（可能であれば、日記史料の講読を進める）と主要文献の講読を行う。このほか、適宜、個人報告の機会を設け、修士論文作成に向けての準備を進める。

Narrowing down its theme to how to approach micro-historical research in the history of contemporary Japan, the course will conduct readings of historical materials (with readings of diaries if possible) and of key documents. In addition, the course will provide opportunities for individual reports as appropriate, and advance students' preparations for producing a master's thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（1）
 2回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（2）
 3回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（3）
 4回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（4）
 5回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（5）
 6回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（6）
 7回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（7）
 8回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（8）
 9回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（9）
 10回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（10）
 11回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（11）
 12回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（12）
 13回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（13）
 14回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回該当箇所の史料・文献を予習してくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と議論への参加度:50% 授業での報告と授業内提出物:50%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

日本史特殊研究 5 B

Studies in Japanese History 5B

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC150

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本史特殊研究 5A に引き続き、日本現代史研究に関する課題と方法を、主に史料講読の講読と研究史把握を通じて理解し、自らの研究課題その中に位置づけることを目指す。

Continuing from Studies in Japanese History 5A, this course aims to have students understand issues and methods related to research into contemporary Japanese history, primarily through the reading of historical materials and the assessment of the history of research, and to position their own research problems within this.

授業の内容 / Course Contents

日本現代史におけるミクロ歴史研究を、どのように目指すべきかという点にテーマを絞って、史料（可能であれば、日記史料の講読を進める）と主要文献の講読を行う。このほか、適宜、個人報告の機会を設け、修士論文作成に向けての準備を進める。

Narrowing down its theme to how to approach micro-historical research in the history of contemporary Japan, the course will conduct readings of historical materials (with readings of diaries if possible) and of key documents. In addition, the course will provide opportunities for individual reports as appropriate, and advance students' preparations for producing a master's thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（1）
 2回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（2）
 3回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（3）
 4回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（4）
 5回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（5）
 6回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（6）
 7回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（7）
 8回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（8）
 9回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（9）
 10回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（10）
 11回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（11）
 12回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（12）
 13回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（13）
 14回：日本現代史に関する史料・文献講読とそれに関する議論（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回該当箇所の史料・文献を予習してくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と議論への参加度:50% 授業での報告と授業内提出物:50%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

東洋史特殊研究 3 A

Studies in Asian History 3A

東西ユーラシアにおける瓔珞・宝飾の伝播に関する研究（方法論）

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC155

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA221「東洋史特論1」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

瓔珞・宝飾を研究資料とした歴史研究の方法論を習得し、実際に研究を進める能力を身につける。

Students will acquire methodologies for historical research using Yingluo (ornaments of Buddhist origin) and jewellery as research materials, and acquire the ability to carry out actual research.

授業の内容 / Course Contents

瓔珞・宝飾をめぐる諸問題についてのこれまでの研究を検証し、学術研究の方法について学ぶ。授業はゼミ形式で実施。受講生による発表と討論、教員による講評と指導を組み合わせる。

受講者は、発表時に分担された対象論文を要約し、使用している史資料および参考文献をチェックしたうえで、その研究に対する批評をおこなうこと。

This course will be conducted in a seminar format. Student presentations and discussions will be combined with faculty review and guidance to facilitate this course. Students will examine previous research on Yingluo (ornaments of Buddhist origin) and report it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導論
- 2回：資料実見・考察
- 3回：資料実見・考察
- 4回：先行研究に関する発表と討論
- 5回：先行研究に関する発表と討論
- 6回：先行研究に関する発表と討論
- 7回：先行研究に関する発表と討論
- 8回：資料実見・考察
- 9回：資料実見・考察
- 10回：先行研究に関する発表と討論
- 11回：先行研究に関する発表と討論
- 12回：先行研究に関する発表と討論
- 13回：先行研究に関する発表と討論
- 14回：授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は分担されたテーマに沿いながら先行研究の読解や史資料・参考文献の確認をおこなって発表準備をし、発表後には復習として発表内容の再検証をおこなう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度（授業内での発表の内容、方法、準備状況、授業内での意見の提示状況など）:100%

履修者は1回以上の発表をおこなうこと。

テキスト / Textbooks

- 周琳 辽代瓔珞佩饰研究 辽宁师范大学硕士论文 2011 -
- 王富松 辽代契丹族服饰研究 湖南工业大学硕士论文 2012 -
- 张晓艳 唐代外来宝石研究 西南大学硕士论文 2016 -
- 崔树增 《大正新修大藏经》所见唐代佛教典籍中的外来宝石研究 西南大学硕士论文 2018 -
- 李擘 中原地区4-6世纪菩萨造像研究——以弥勒和观音为中心 南京艺术学院博士论文 2022 -

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

先行研究を収集・分析・理解・整理し、その上で新たな知見を提示する能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートパソコンかタブレット、Miro(ホワイトボードアプリ)

東洋史特殊研究 3 B

Studies in Asian History 3B

東西ユーラシアにおける瓔珞・宝飾の伝播に関する発展研究（方法論）

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC156

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA222「東洋史特論2」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

瓔珞・宝飾を研究資料とした歴史研究の方法論を習得し、実際に研究を進める能力を身につける。

Students will acquire methodologies for historical research using Yingluo (ornaments of Buddhist origin) and jewellery as research materials, and acquire the ability to carry out actual research.

授業の内容 / Course Contents

春学期に引続き、瓔珞・宝飾をめぐる諸問題についてのこれまでの研究を検証し、学術研究の方法について学ぶ。授業はゼミ形式で実施。受講生による発表と討論、教員による講評と指導を組み合わせる。

受講者は、発表時に分担された対象論文を要約し、使用している史資料および参考文献をチェックしたうえで、その研究に対する批評をおこなうこと。

This course will be conducted in a seminar format. Student presentations and discussions will be combined with faculty review and guidance to facilitate this course. Students will examine previous research on Yingluo (ornaments of Buddhist origin) and report it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導論
- 2回：資料実見・考察
- 3回：資料実見・考察
- 4回：先行研究に関する発表と討論
- 5回：先行研究に関する発表と討論
- 6回：先行研究に関する発表と討論
- 7回：先行研究に関する発表と討論
- 8回：資料実見・考察
- 9回：資料実見・考察
- 10回：先行研究に関する発表と討論
- 11回：先行研究に関する発表と討論
- 12回：先行研究に関する発表と討論
- 13回：先行研究に関する発表と討論
- 14回：授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は分担されたテーマに沿いながら先行研究の読解や史資料・参考文献の確認をおこなって発表準備をし、発表後には復習として発表内容の再検証をおこなう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度（授業内での発表の内容、方法、準備状況、授業内での意見の提示状況など）:100%

履修者は1回以上の発表をおこなうこと。

テキスト / Textbooks

- 卓未央 仙裳珠垂缕—敦煌莫高窟晚唐璽珞在当代首饰设计中的活化 中国美术学院硕士论文 2019 -
- 唐洁诗 北京法海寺壁画人物服饰璽珞的形制研究 中国美术学院硕士论文 2022 -
- 刘燕 唐代“金筐宝钿”工艺研究 北京服装学院硕士论文 2018 -
- 徐胭胭 图像的“翻译”：中古时期莫高窟菩萨璽珞的流变 艺术设计研究 2015 -
- 李婧杰 草原丝绸之路东西方文化交流研究 文化交流 28 2021 -

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

先行研究を収集・分析・理解・整理し、その上で新たな知見を提示する能力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートパソコンかタブレット、Miro(ホワイトボードアプリ)

東洋史特殊研究 4 B

Studies in Asian History 4B

朝鮮史研究 History of Choson Korea

辻 大和 (TSUJI YAMATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC158

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮王朝時代の史料や研究文献の読解を通じて、当該地域・時代の研究法に習熟することを目的とする。

To learn the research method of Early modern history of Korea.

授業の内容 / Course Contents

朝鮮王朝時代の漢文史料や研究文献（日本語、韓国朝鮮語）のなかから、受講者の関心にしたがって選択し講読する。受講者は各自毎回予習を行うとともに、各回に発表担当者を定め、担当者はレジュメを作成する。大学図書館や近隣の朝鮮関係文献所蔵コーナーの見学も行う。

Students will read classic Chinese texts and articles in Japanese and Korean. Students are required to prepare before the classes. Some trips to libraries will take place.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入 日本における朝鮮史研究入門

2 回：導入 2 日本における朝鮮史研究の歴史

3 回：研究文献講読（1）

- 4回：研究文献講読（2）
 5回：研究文献講読（3）
 6回：資料所蔵機関見学（1）（候補：大学図書館内）
 7回：研究報告（1）
 8回：史料講読（1）
 9回：史料講読（2）
 10回：史料講読（3）
 11回：史料講読（4）
 12回：資料所蔵機関見学（2）
 13回：研究報告（2）
 14回：研究報告（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は各回文献を予習する。発表担当者はレジюмеを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時間中の発表等:35% 中間レポート:30% 最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

朝鮮史研究会編 『朝鮮史研究入門』 名古屋大学出版会 2011 9784815806651

山本英史 『現代中国の履歴書』 慶應義塾大学出版会 2003 9784766409796

漢字文献情報処理研究会編 『デジタル時代の中国学リファレンスマニュアル』 好文出版 2021

9784872202274

東洋史演習 2 A

Seminar in Asian History 2A

奥 美穂子 (OKU MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC163
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： JD177「超域文化学演習 1 A」との併置科目
後期課程用科目コード：PC323

授業の目標 / Course Objectives

オスマン帝国史を中心に歴史研究の手法や史料・文献を読み解く力を習得し、各自の研究の進展をはかる。
The aim of this course is to acquire historical research methods and the ability to read and understand historical documents and literature, with a focus on the history of the Ottoman Empire, in order to advance their own research.

授業の内容 / Course Contents

受講者が研究報告を行い、参加者全体で討論を行う。その他の内容については、受講者と相談の上、柔軟に対応する。

Participants present their research reports, which are discussed by the group. The contents of the course will be flexibly adapted in consultation with the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：受講者による報告と全体討論（1）
 3回：受講者による報告と全体討論（2）
 4回：受講者による報告と全体討論（3）
 5回：受講者による報告と全体討論（4）
 6回：受講者による報告と全体討論（5）
 7回：受講者による報告と全体討論（6）
 8回：受講者による報告と全体討論（7）
 9回：受講者による報告と全体討論（8）
 10回：受講者による報告と全体討論（9）
 11回：受講者による報告と全体討論（10）
 12回：受講者による報告と全体討論（11）
 13回：受講者による報告と全体討論（12）
 14回：総括ならびに補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

東洋史演習 2 B

Seminar in Asian History 2B

複合文化論

神田 惟 (KANDA YUI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC164
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： JD178「超域文化学演習 1 B」との併置科目
後期課程用科目コード：PC324

授業の目標 / Course Objectives

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する研究成果や史料を整理・検討する力をつける。

Throughout this course, students will enhance their ability to analyze and structure research discoveries and historical resources related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history.

授業の内容 / Course Contents

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する文献講読・史料精読を行う。毎回、報告者を定めて報告を行った上で議論し、研究史と近年の研究状況、史料を解釈する上での多様な手法に関して理解を深める。

In this seminar, participants will explore literature and documents related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history. Each class will include a designated presenter delivering a report, leading discussions aimed at enhancing understanding of previous literatures, recent trends in the field,

and various approaches to interpreting historical sources.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／授業の目的と進め方の説明
- 2回：受講者による報告と全体討論（1）
- 3回：受講者による報告と全体討論（2）
- 4回：受講者による報告と全体討論（3）
- 5回：受講者による報告と全体討論（4）
- 6回：受講者による報告と全体討論（5）
- 7回：受講者による報告と全体討論（6）
- 8回：受講者による報告と全体討論（7）
- 9回：受講者による報告と全体討論（8）
- 10回：受講者による報告と全体討論（9）
- 11回：受講者による報告と全体討論（10）
- 12回：受講者による報告と全体討論（11）
- 13回：受講者による報告と全体討論（12）
- 14回：受講者による報告と全体討論（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

東洋史演習 3A

Seminar in Asian History 3A

東ユーラシア圏域史研究

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ108「現代文明学演習1」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

東ユーラシア圏域（内陸アジア・東アジア・東南アジア・南アジア）の歴史を、実証的に探究する。

To empirically investigate the history of the East Eurasian Sphere (Inland Asia, East Asia, Southeast Asia, South Asia).

授業の内容 / Course Contents

履修者は各自の研究テーマを発展させるとともに、日本の歴史を東ユーラシア圏域の範疇のなかで検討する。

Students will develop their own research themes and will struggle to understand the history of Japan within the scope of the East Eurasian Sphere.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：東ユーラシア圏域とは何か

2 回：史的な思考法

3 回：履修者の研究報告

4 回：履修者の研究報告

- 5回：履修者の研究報告
 6回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 7回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 8回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 9回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 10回：履修者のテーマに関するレポート
 11回：履修者のテーマに関するレポート
 12回：履修者のテーマに関するレポート
 13回：東ユーラシア圏域史に関する総合討論
 14回：履修者の研究方針に関する討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献リストの作成
 研究文献の分析
 口頭発表の準備
 レポートの作成

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各自の研究テーマに基づく口頭発表:25% 各自の研究テーマに関するレポート:25% 東ユーラシア圏域史に関する口頭発表:25% 東ユーラシア圏域史に関するレポート:25%

テキスト / Textbooks

上田信 『海と帝国』(学術文庫版) 講談社 2021 9784065227770 ○

上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ』 清水書院 2018 9784389500849 ○

参考文献 / Readings

東洋史演習 3B

Seminar in Asian History 3B

東ユーラシア圏域史研究

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東ユーラシア圏域（内陸アジア・東アジア・東南アジア・南アジア）の歴史を、実証的に探究する。

To empirically investigate the history of the East Eurasian Sphere (Inland Asia, East Asia, Southeast Asia, South Asia).

授業の内容 / Course Contents

履修者は各自の研究テーマを発展させるとともに、東ユーラシア圏域史を検討する。

Students will develop their own research themes and will struggle to understand the history of the East Eurasian Sphere.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：東ユーラシア圏域とは何か

2 回：東ユーラシア圏域とは何か

3 回：履修者の研究報告

4 回：履修者の研究報告

- 5回：履修者の研究報告
 6回：東ユーラシア圏域史の検討
 7回：東ユーラシア圏域史の検討
 8回：東ユーラシア圏域史の検討
 9回：東ユーラシア圏域史の検討
 10回：履修者のテーマに関するレポート
 11回：履修者のテーマに関するレポート
 12回：履修者のテーマに関するレポート
 13回：東ユーラシア圏域史に関する総合討論
 14回：履修者の研究方針に関する討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 文献リストの作成
 研究文献の分析
 口頭発表の準備
 レポートの作成

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各自の研究テーマに基づく口頭発表:25% 各自の研究テーマに関するレポート:25% 東ユーラシア圏域史に関する口頭発表:25% 東ユーラシア圏域史に関するレポート:25%

テキスト / Textbooks

- 上田信 『海と帝国』（学術文庫版） 講談社 2021 9784065227770 ○
 上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ』 清水書院 2018 9784389500849 ○

参考文献 / Readings

- 小川幸司 『岩波講座世界歴史 11』 岩波書店 2022 9784000114219
 弘末雅士 『岩波講座世界歴史 12』 岩波書店 2022 9784000114226

東洋史演習 4 A

Seminar in Asian History 4A

山形 真理子／滝口 正哉 (YAMAGATA MARIKO/ TAKIGUCHI MASAYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC167
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： JD183「超域文化学特殊研究1」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

授業の前半では、ユネスコ世界遺産に登録された東南アジアの考古遺跡に注目する。各国の歴史的・文化的脈絡と現代社会の価値観を背景に、考古遺跡がどのように位置づけられ、活用されてきたか考察する。授業の後半では、巨大都市江戸の文化が明治～昭和初期においてどのように評価され、捉え直されていったのかについて、歴史・民俗・美術・人類学など多様な切り口から総合的に理解する。

The first half of this course focuses on the UNESCO World Heritage sites in Southeast Asia, especially those consisting of archaeological sites. The aims and significance of promoting archaeological sites as World Heritage are discussed in detail, taking each particular historical and cultural circumstances into account. In the second half of this course, students are required to get a comprehensive understanding about how the culture of the megacity Edo was evaluated and reinterpreted, during the Meiji and early Showa periods, from various perspectives such as history, folklore, art, and anthropology.

授業の内容 / Course Contents

授業の前半では、まず世界遺産の仕組みについて概説し、続いて各論として東南アジアの世界遺産 6 件を取り上げる。いずれも考古遺跡が世界遺産の重要な構成要素となっている事例である。遺跡自体の概説、世界遺産

登録への経緯、登録後の変化など、多様な視点から現代社会と遺跡の関わりを考察する。講義をふまえてディスカッションを行う。授業の後半では、近代の江戸文化再評価に関する文献や関連する論文・展示図録などを精読しながら、アプローチ方法や分析手法を学ぶとともに、各受講者が自分なりの問題関心から調べた関連トピックについて議論する。

In the first half of the course, firstly, the outline of the system of UNESCO World Heritage is reviewed. Then, six World Heritage sites of Southeast Asia with archaeological sites as main components are focused. The relationship between the archaeological sites and modern society is argued from various perspectives, including an overview of each archaeological site itself, the aim and the process towards the registration by UNESCO, changes caused by registration, and so on. Based on the lectures, discussion among students is held. In the second half of the course, students learn the approach method and analysis method by carefully reading the literature on re-evaluation of the modern Edo culture, including related papers and exhibition catalogs. Then, discussion on related topics that each student investigated from their own problem awareness and interest is held.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ユネスコ世界遺産について
- 2 回：サンギラン（インドネシア）：世界遺産となった初期人類の遺跡
- 3 回：バンチェン（タイ）：新たな価値が付与される先史時代遺跡
- 4 回：ミーソン（ベトナム）：ベトナムが活用するチャンパの文化遺産
- 5 回：アンコール（カンボジア）：東南アジアを代表する巨大建築遺跡群の保全
- 6 回：ホイアン（ベトナム）：観光開発に揺れる歴史的町並み
- 7 回：レンゴン（マレーシア）：多民族国家における考古遺跡の活用
- 8 回：江戸東京学について
- 9 回：廃仏毀釈の文化的影響
- 10 回：文明開化と江戸風俗の変化
- 11 回：東京開市三百年祭と江戸回顧の活動
- 12 回：北会とキリスト教徒原胤昭
- 13 回：人類学者フレデリック・スタールの日本文化発見
- 14 回：受け継がれる祭礼文化

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前半については、講義内容をふまえ、日本や世界各地に存在する考古遺跡が世界遺産となった事例について、受講生各自が積極的に情報を収集し、理解を深めること。授業の後半については、江戸文化についての基本的理解を得ておくとともに、関連する文献や論文を積極的に収集・分析し、自分なりの知見を整理すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:20% 出席状況ならびに授業態度:20%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

西山松之助 『江戸学事典 縮刷版』 弘文堂 1994 4335250533

小木新造 『江戸東京学事典 新装版』 三省堂 2003 4385153884

フレデリック・スタール 『お札行脚 (知の自由人叢書)』 国書刊行会 2007 9784336047168

滝口正哉 『江戸の祭礼と寺社文化』 同成社 2018 9784886217882

徳澤啓一・山形真理子 『東南アジアの文化遺産とミュージアム』 雄山閣 2023 9784639028925

その他の参考文献は随時指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布などに「Canvas LMS」を使用する。

西洋史特殊研究 2 A

Studies in Western History 2A

西洋古代史セミナー 1

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古典ギリシア語、ないしラテン語の古典文献を講読することを通じ、古典語のテキストクリティックに習熟する。古典ギリシア語やラテン語の知識がない者は、英訳テキストによる参加を認める。

By reading Classical Greek and/or Latin texts, participants' ability in text critique and knowledge about classical antiquity are expected to develop.

授業の内容 / Course Contents

今年度は、ローマ世界における「法」に焦点を当て、テオドシウス法典所収の公共輸送関連法文を読む。読むべきテキストについては初回に相談する。

This year, especially by reading the legislative text on public transportation in the Codex Theodosianus, participants shall be acquainted with the form and the process of legislation in the Later Roman Empire and learn about the development of the public transportation system in the fourth to fifth centuries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：テキスト講読 1

- 2回：テキスト講読2
 3回：テキスト講読3
 4回：テキスト講読4
 5回：テキスト講読5
 6回：テキスト講読6
 7回：テキスト講読7
 8回：テキスト講読8
 9回：テキスト講読9
 10回：テキスト講読10
 11回：テキスト講読11
 12回：テキスト講読12
 13回：テキスト講読13
 14回：テキスト講読14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストをあらかじめ一頁以上読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席態度:100%

テキスト / Textbooks

初回に指示する。

参考文献 / Readings

初回に指示する。

西洋史特殊研究 2 B

Studies in Western History 2B

西洋古代史セミナー2

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC174

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋古代史セミナー1に引き続き、テオドシウス法典の公共輸送関連法文を読み、後期ローマ帝国の立法行為の本質と公共輸送制度の発展を理解する。

By reading laws about the public transportation system in the Codex Theodosianus, participants will learn the genesis of the imperial legislation and the development of the administrative system in the Later Roman Empire.

授業の内容 / Course Contents

西洋史特殊研究2Aの西洋古代史セミナー1に引き続き、テオドシウス法典の公共輸送関連法文を読み、後期ローマ帝国の立法行為の本質と公共輸送制度の発展を理解する。

By reading laws about the public transportation system in the Codex Theodosianus, participants will learn the genesis of the imperial legislation and the development of the administrative system in the Later Roman Empire. This seminar is strongly correlated with "Studies in Western History 2A." It is a prerequisite for taking this course at the same time as "Studies in Western History 2A".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テキスト講読1
- 2回：テキスト講読2
- 3回：テキスト講読3
- 4回：テキスト講読4
- 5回：テキスト講読5
- 6回：テキスト講読6
- 7回：テキスト講読7
- 8回：テキスト講読8
- 9回：テキスト講読9
- 10回：テキスト講読10
- 11回：テキスト講読11
- 12回：テキスト講読12
- 13回：テキスト講読13
- 14回：テキスト講読14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストをあらかじめ一頁以上読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席態度:100%

テキスト / Textbooks

初回に指示する。

参考文献 / Readings

初回に指示する。

西洋史特殊研究 3 A

Studies in Western History 3A

荒井 雅子 (ARAI MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC175
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS5510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： KA223「西洋史特論1」との併置科目
後期課程用科目コード：PC331

授業の目標 / Course Objectives

自らの専門性に立脚しつつ、より広い歴史的文脈に自身の専門領域を置く視点を養う。そのために、専門性をより多くの人々と共有するための技能を習得する。

The purpose of this course is to help students develop a perspective that places their own expertise in a broader historical context. To this end, students will acquire the skills to share their area of expertise with a broad audience.

授業の内容 / Course Contents

履修生の研究・関心テーマについて確認したのち、履修生の専門以外の分野も含めて、幅広く研究論文を輪講します。近接諸地域や類似現象について理解することで、比較の視点を養いつつ、自身の専門性をより広い文脈に位置づけることを目指します。専門分野に限らず、幅広く現在の歴史学ではどのような研究がなされているのかを理解すること・伝えることをゴールとします。

After reviewing the students' research topics, the course will cover a wide range of research papers including topics outside of the students' field of research, in order to better understanding their own fields within larger

contexts. By understanding neighboring regions and similar phenomena, students will develop the ability to employ a comparative perspective and place their own major within a broader context. The goal of the course is to provide students with an understanding of current research in a wide range historical, not limited to their own field of specialization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究・関心テーマについての簡単な紹介、調査分野についての振り分け、文献の選定
- 2 回：文献講読（関連事項の発表）
- 3 回：文献講読（関連事項の発表）
- 4 回：文献講読（関連事項の発表）
- 5 回：文献講読（関連事項の発表）
- 6 回：文献講読（関連事項の発表）
- 7 回：文献講読（関連事項の発表）
- 8 回：文献講読（関連事項の発表）
- 9 回：文献講読（関連事項の発表）
- 10 回：文献講読（関連事項の発表）
- 11 回：文献講読（関連事項の発表）
- 12 回：文献講読（関連事項の発表）
- 13 回：文献講読（関連事項の発表）
- 14 回：プレゼン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

各種研究会への参加を推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:50% リアクションペーパー:30% レポート:20%

テキスト / Textbooks

桃木至朗 市民のための歴史学 大阪大学出版会 2022 9784872597561 ○

参考文献 / Readings

史学会 史学雑誌第 132 編 5 号 山川出版社 2023

『史学雑誌』各編 5 号(回顧と展望)、『岩波講座 世界歴史』を必要に応じて参照します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

初回授業時に A4 1 枚程度のレジュメを準備し、自身の研究計画を報告できるようにしておくこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンまたはタブレット等

西洋史特殊研究 3 B

Studies in Western History 3B

グローバル・フェミニズム史

小田原 琳 (ODAWARA RIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA224「西洋史特論2」との併置科目

後期課程用科目コード：PC332

授業の目標 / Course Objectives

- ・フェミニズムの思想と実践について、グローバルな視点から学ぶ
 - ・フェミニズムの多様な歴史について、基本的な知識を身につける
 - ・歴史上のさまざまなフェミニズムに関する課題について議論する
 - ・それぞれの問題関心と関連づけて議論する
- Learn about feminist thought and practice from a global perspective
- Acquire basic knowledge about the diverse history of feminism
- Discuss various issues related to feminism throughout history
- Discuss each issue in relation to your interests.

授業の内容 / Course Contents

- ・ Lucy Delap, *Feminisms: a global history* (The University of Chicago Press, 2020) の講読と、受講生の研究課題との関連性を重視したディスカッションを行う

- ・各回の担当者2名は内容のレジюме作成と議論のモデレートを行う
- ・受講生は期末に、それぞれの問題関心を主題と関連づけて研究発表を行う
- We will read Lucy Delap's *Feminisms: A Global History* (The University of Chicago Press, 2020) and discuss the relevance to the students' research questions.
- Two students in each session will make a resume of the content and moderate the discussion.
- The students will present on research topics related to the course theme at the term end.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction
- 2回：1. Dreams
- 3回：2. Ideas
- 4回：3. Spaces
- 5回：4. Objects
- 6回：5. Looks
- 7回：6. Feelings
- 8回：7. Actions
- 9回：8. Songs
- 10回：Conclusion
- 11回：受講生による研究発表
- 12回：受講生による研究発表
- 13回：受講生による研究発表
- 14回：全体のふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、問題点の整理を行う

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюме作成:30% ディスカッションへの参加度:35% 研究発表:35% 最終レポート割合：:0%最終テスト割合：:0%

テキスト / Textbooks

初回授業で指示します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語のリーディング能力を必須とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

初回授業で指示します。

西洋史演習 1 A

Seminar in Western History 1A

アメリカ合衆国史・近代史演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC181

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、近代史の研究動向を批判的に整理・検討できるようになる。

Students will learn to critically decipher the findings of research in history studies, with a focus on United States history.

授業の内容 / Course Contents

テキスト講読を中心に検討をすすめる。履修者の論文執筆を射程に、履修者に個人報告の機会を与える。

Students are required to read assigned texts for discussions every week. The course will give students opportunities for individual reports, aimed at the writing of their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)

4 回：演習 (3)

- 5回：個人研究報告（1）
- 6回：演習（4）
- 7回：演習（5）
- 8回：演習（6）
- 9回：個人研究報告（2）
- 10回：演習（7）
- 11回：演習（8）
- 12回：演習（9）
- 13回：演習（10）
- 14回：最終討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。

合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参画・貢献:60% 個人報告:40%

テキスト / Textbooks

講義時に指示する。Foner and McGirr, eds. American History Now. Philadelphia: Temple University Press, 2011 を参照すること。

参考文献 / Readings

講義時に案内する。

西洋史演習 1 B

Seminar in Western History 1B

アメリカ合衆国史・近代史演習

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC182

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ合衆国史を中心に、近代史の研究動向を批判的に整理・検討できるようになる。

Students will learn to critically decipher the findings of research in history studies, with a focus on United States history.

授業の内容 / Course Contents

テキスト講読を中心に検討をすすめる。履修者の論文執筆を射程に、履修者の個人報告を随時求める。

Students are required to read assigned texts for discussions every week. The course may request individual reports from students, aimed at the writing of their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習 (1)

3 回：演習 (2)

4 回：演習 (3)

- 5回：個人研究報告（1）
 6回：演習（4）
 7回：演習（5）
 8回：演習（6）
 9回：個人研究報告（2）
 10回：演習（7）
 11回：演習（8）
 12回：演習（9）
 13回：演習（10）
 14回：最終討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献・史料を事前に検討すること。

合宿や学外ワークショップを催すことがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参画・貢献:60% 個人報告:40%

テキスト / Textbooks

講義時に指示する。

参考文献 / Readings

講義時に案内する。

西洋史演習 2 A

Seminar in Western History 2A

西洋中近世文献読解

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC183

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主に西洋中近世に関連する欧語文献の読解を通じて、当該分野の専門知識を習得する。

This module provides expertise mainly on medieval and early modern Europe through the reading of literature on the relevant fields.

授業の内容 / Course Contents

欧語文献の読解を進めながら、参加者による研究報告も適宜行う。対象となるテキストについては、参加者と相談して決める。

While engaging in the reading, participants report their own research product in the middle. Texts to be read will be chosen based on discussions with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習①

3 回：演習②

- 4回：演習③
 5回：演習④
 6回：演習⑤
 7回：演習⑥
 8回：演習⑦
 9回：演習⑧
 10回：演習⑨
 11回：演習⑩
 12回：演習⑪
 13回：演習⑫
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては必要に応じ別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習内発表:60% 随時レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

西洋史演習 2 B

Seminar in Western History 2B

西洋中世史料研究

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC184

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋中世史料テキスト（ラテン語など）を、そのコンテキストに注意を払いつつ、読解できるようになることを目標とする。

This course aims to enable students to read the text of European medieval historical materials in Latin or in other languages, with special attention to the context.

授業の内容 / Course Contents

西洋中世史料の読解をすすめるとともに、参加者による研究報告も適宜行う。読解対象テキストは、出席者と相談して決定する。

While engaging in the reading of European medieval historical materials, participants will deliver research reports as appropriate. Texts to be read will be decided in consultation with course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：演習（1）

- 3回：演習（2）
 4回：演習（3）
 5回：演習（4）
 6回：演習（5）
 7回：演習（6）
 8回：演習（7）
 9回：演習（8）
 10回：演習（9）
 11回：演習（10）
 12回：演習（11）
 13回：演習（12）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された文献の予習とレジュメの作成。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習内発表:60% 随時レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

西洋史演習 3A

Seminar in Western History 3A

近現代イギリス史演習

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC185

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

イギリス近現代史を中心に、問題発見、見解の提示、論文構成、討論、英語文献の読解などの研究能力を高める。

Students learn necessary academic skills as to Western history studies, focusing on modern and contemporary British history studies. Through this, they enhance their research abilities, including finding research question, academic presentation, academic paper writing, discussion, and reading ability of English materials.

授業の内容 / Course Contents

参加者が各自の問題関心に即した研究報告をし、その内容について批判的に検討する。授業担当者を含めた参加者全員による討論を通じて、報告者が提示する研究の意義と問題点を明らかにし、当該研究のさらなる発展の可能性を探る。これに加えて、英語文献の読解を重点的に行う。

This course require students in a series of seminars to present a research report based on their personal interests. In doing so, it also requires other participating students to pose questions and comments in an academic manner, which would contribute to further development of research. In addition, it also requires students regularly to

read academic materials written in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：各回の報告者と課題文献（英語）を決定する。
 2回：個別報告1
 3回：個別報告2
 4回：英語文献読解1
 5回：英語文献読解2
 6回：英語文献読解3
 7回：英語文献読解4
 8回：英語文献読解5
 9回：英語文献読解6
 10回：英語文献読解7
 11回：英語文献読解8
 12回：個別報告3
 13回：個別報告4
 14回：まとめ：学期中の成果のふりかえりを行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 個別発表の内容:40% 討論への参加・貢献度:20% 文献読解に関する提出物の内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

西洋史演習 3B

Seminar in Western History 3B

近現代イギリス史演習（2）

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC186

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

イギリス近現代史を中心に、問題発見、見解の提示、論文構成、討論、一次史料読解などの研究能力を高める。

Students learn necessary academic skills as to Western history studies, focusing on modern and contemporary British history studies. Through this, they enhance their research abilities, including finding research question, academic presentation, academic paper writing, discussion and skills in reading primary sources.

授業の内容 / Course Contents

各自の問題関心に即した研究報告を行い、その内容について批判的に検討する。授業担当者を含めた参加者全員による討論を通じて、報告者が提示する研究の意義と問題点を明らかにし、当該研究のさらなる発展の可能性を探る。また、一次史料（英語）の読解に関しても重点的に実施する。

This course requires students in a series of seminars to present a research report based on their personal academic interests. In doing so, it also requires other participating students to pose questions and comments in an academic manner, which would contribute to further development of research. In addition, it also requires

students regularly to learn how to read primary sources written in English.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：各回の報告者と、とりあげる一次史料を決定する。
 2回：個別報告1
 3回：個別報告2
 4回：一次史料（英語）読解1
 5回：一次史料（英語）読解2
 6回：一次史料（英語）読解3
 7回：一次史料（英語）読解4
 8回：一次史料（英語）読解5
 9回：一次史料（英語）読解6
 10回：一次史料（英語）読解7
 11回：一次史料読解（英語）8
 12回：個別報告3
 13回：個別報告4
 14回：まとめ：学期中の成果のふりかえりを行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Cancas LMS を通じて履修者に対して準備学習の指示を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個別報告の内容:40% 討論への参加・貢献度:20% 一次史料読解に関する提出物の内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

史学史 A

Historiography A

歴史学の最近の研究動向と古典

成川 岳大 (NARIKAWA TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC191

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PC341

授業の目標 / Course Objectives

史学史中の重要なテーマに関する古典と最新の双方の文献に目を通すことで、歴史理論と史料解釈の方法論の基礎固めを行う。

By looking at both classical and recent literature on important themes in historiography, the course will lay the foundations of a methodology for interpreting historical theories and historical materials.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、現在の歴史学の基本となっている古典、基礎的著作、そして近年刊行された最新の文献の双方の精読を通じて、大学院で研究の端緒についた大学院生に対し、自らのよってたつ「歴史学」という学問そのものに対する理解を深めてもらい、自己の歴史研究の史学史上の位置付けに対しより自覚的になってもらうことを念頭に置いている。また、狭義の専門とは異なる受講生との対話や討論を通じ、幅広い視野から「歴史学」という学問を見る視座を身に付けてもらえれば幸いである。

具体的には、学期ごとにある一定のテーマに沿った古典、あるいは最新の著作の何点かに目を通し、担当者がレジュメを作成してそれに対して討論を行う形式で進める予定である。春学期のテーマとしては「歴史学研

究の古典と新潮流」を予定しているが、具体的に扱う教材については受講者と相談の上で決定したい。

In the class, graduate students who are beginning research at the graduate school will deepen their understanding of the academic discipline of historical studies itself, through detailed readings of the classics and fundamental writings that form the basis of present-day historical studies. The goal is to make students more aware of the positioning of their own history studies research within historiography. In addition, it is hoped that students will acquire a footing that views the academic discipline of historical studies from a broad perspective, through dialog and discussions with other course takers from outside the students' own narrowly-defined specialties.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：教材の選定
- 2回：講読①
- 3回：講読②
- 4回：講読③
- 5回：講読④
- 6回：講読⑤
- 7回：講読⑥
- 8回：講読⑦
- 9回：講読⑧
- 10回：講読⑨
- 11回：講読⑩
- 12回：講読⑪
- 13回：講読⑫
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各週で扱う教材の該当部分に予め目を通してきてもらうことが、参加する上での前提となる。あわせて、レジュメ作成の担当となった週にはレジュメの準備を担当者は行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と討論:100%

テキスト / Textbooks

受講者とイントロダクションで相談の上、具体的に決定する。

参考文献 / Readings

荒川正晴ほか 『岩波講座 世界歴史1：世界史とは何か』 岩波書店 2021 9784000114110

リン・ハント 『グローバル時代の歴史学』 岩波書店 2016 9784000226400

土肥恒之 『日本の西洋史学 先駆者たちの肖像』 講談社学術文庫 2023 9784065312636

南塚信吾 『「世界史」の誕生 ヨーロッパ中心史観の淵源』 ミネルヴァ書房 2023 9784000114110

ソニア・O・ローズ 『ジェンダー史とは何か』 法政大学出版局 2017 9784588350085

史学史 B

Historiography B

歴史学の最近の研究動向と古典

成川 岳大 (NARIKAWA TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JC192

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS5500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PC342

授業の目標 / Course Objectives

史学史中の重要なテーマに関する古典と最新の双方の文献に目を通すことで、歴史理論と史料解釈の方法論の基礎固めを行う。

By looking at both classical and recent literature on important themes in historiography, the course will lay the foundations of a methodology for interpreting historical theories and historical materials.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、現在の歴史学の基本となっている古典、基礎的著作、そして近年刊行された最新の文献の双方の精読を通じて、大学院で研究の端緒についた大学院生に対し、自らのよってたつ「歴史学」という学問そのものに対する理解を深めてもらい、自己の歴史研究の史学史上の位置付けに対しより自覚的になってもらうことを念頭に置いている。また、狭義の専門とは異なる受講生との対話や討論を通じ、幅広い視野から「歴史学」という学問を見る視座を身に付けてもらえれば幸いである。

具体的には、学期ごとにある一定のテーマに沿った古典、あるいは最新の著作の何点かに目を通し、担当者がレジュメを作成してそれに対して討論を行う形式で進める予定である。秋学期のテーマとしては「グローバ

ル・ヒストリー」を予定しているが、具体的に扱う教材については受講者と相談の上で決定したい。

In the class, graduate students who are beginning research at the graduate school will deepen their understanding of the academic discipline of historical studies itself, through detailed readings of the classics and fundamental writings that form the basis of present-day historical studies. The goal is to make students more aware of the positioning of their own history studies research within historiography. In addition, it is hoped that students will acquire a footing that views the academic discipline of historical studies from a broad perspective, through dialog and discussions with other course takers from outside the students' own narrowly-defined specialties.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：教材の選定
- 2回：講読①
- 3回：講読②
- 4回：講読③
- 5回：講読④
- 6回：講読⑤
- 7回：講読⑥
- 8回：講読⑦
- 9回：講読⑧
- 10回：講読⑨
- 11回：講読⑩
- 12回：講読⑪
- 13回：講読⑫
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各週で扱う教材の該当部分に予め目を通してきてもらうことが、参加する上での前提となる。あわせて、レジュメ作成の担当となった週にはレジュメの準備を担当者は行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と討論:100%

テキスト / Textbooks

受講者とイントロダクションで相談の上、具体的に決定する。

参考文献 / Readings

ゼバスティアン・コンラート 『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』 岩波書店 2021
9784000226448

リン・ハント 『グローバル時代の歴史学』 岩波書店 2016 9784000226400

スヴェン・ベッカート 『綿の帝国—グローバルヒストリーはいかに生まれたか』 紀伊国屋書店 2022

9784314011952

ヤン・ド・フリース 『勤勉革命』 筑摩書房 2021 9784480861375

荒川正晴ほか 『岩波講座世界歴史 11—構造化される世界 14～19 世紀』 岩波書店 2022

9784000114219

シドニー・W・ミンツ 『甘さと権力—砂糖が語る近代史』 ちくま学芸文庫 2021 9784480510488

ケイトリン・ローゼンタール 『奴隷会計—支配とマネジメント』 みすず書房 2022 9784622095248

修士論文指導演習

MA Thesis Seminar

小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野 沢 あかね／沼尻 晃伸 (OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE/NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC701
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 1
科目ナンバリング： HIS6510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PC301

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けてテーマ設定の仕方や研究の進め方について理解を深める。

Students will deepen their understanding of methods for setting themes and of advancing research in the writing of their master's degree theses.

授業の内容 / Course Contents

1 年生はテーマ設定についての研究報告を、2 年生以上はすでに設定されたテーマに関する研究報告をそれぞれ行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わした後、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

First-year students will deliver research reports on the setting of themes while second-year and higher students will deliver research reports on themes already established. Students will then receive guidance, following questions and answers among the course faculty members and participants. Each participant will deliver one

presentation, on a schedule to be determined in the first session.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究発表1
- 2回：研究発表2
- 3回：研究発表3
- 4回：研究発表4
- 5回：研究発表5
- 6回：研究発表6
- 7回：研究発表7
- 8回：研究発表8
- 9回：研究発表9
- 10回：研究発表10
- 11回：研究発表11
- 12回：研究発表12
- 13回：研究発表13
- 14回：研究発表14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習

MA Thesis Seminar

浦野 聡／小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野沢 あかね (URANO SATOSHI/ OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC702
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 1
科目ナンバリング： HIS6510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PC302

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて研究の進め方について理解を深める。

Students will deepen their understanding of methods for advancing research aimed at the writing of their master's degree theses.

授業の内容 / Course Contents

1 年生はすでに設定されたテーマに関する研究報告を、2 年生以上は修士論文の構想発表をそれぞれ行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わした後、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

First-year students will deliver research reports on themes already established while second-year and higher students deliver conceptual presentations on their master's degree theses. Students will then receive guidance, following questions and answers among the course faculty members and participants. Each participant will

deliver one presentation, on a schedule to be determined in the first session.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究発表1
- 2回：研究発表2
- 3回：研究発表3
- 4回：研究発表4
- 5回：研究発表5
- 6回：研究発表6
- 7回：研究発表7
- 8回：研究発表8
- 9回：研究発表9
- 10回：研究発表10
- 11回：研究発表11
- 12回：研究発表12
- 13回：研究発表13
- 14回：研究発表14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習

MA Thesis Seminar

小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野 沢 あかね／沼尻 晃伸 (OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE/NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 1
科目ナンバリング： HIS6510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 前期課程科目コード登録用コード：JC703
後期課程用科目コード：PC301

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けてテーマ設定の仕方や研究の進め方について理解を深める。

Students will deepen their understanding of methods for setting themes and of advancing research in the writing of their master's degree theses.

授業の内容 / Course Contents

1 年生はテーマ設定についての研究報告を、2 年生以上はすでに設定されたテーマに関する研究報告をそれぞれ行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わした後、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

First-year students will deliver research reports on the setting of themes while second-year and higher students will deliver research reports on themes already established. Students will then receive guidance, following

questions and answers among the course faculty members and participants. Each participant will deliver one presentation, on a schedule to be determined in the first session.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究発表 1
- 2 回：研究発表 2
- 3 回：研究発表 3
- 4 回：研究発表 4
- 5 回：研究発表 5
- 6 回：研究発表 6
- 7 回：研究発表 7
- 8 回：研究発表 8
- 9 回：研究発表 9
- 10 回：研究発表 1 0
- 11 回：研究発表 1 1
- 12 回：研究発表 1 2
- 13 回：研究発表 1 3
- 14 回：研究発表 1 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習

MA Thesis Seminar

浦野 聡／小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野沢 あかね (URANO SATOSHI/ OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JC704
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 1
科目ナンバリング： HIS6510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 前期課程科目コード登録用コード：JC704
後期課程用科目コード：PC302

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて研究の進め方について理解を深める。

Students will deepen their understanding of methods for advancing research aimed at the writing of their master's degree theses.

授業の内容 / Course Contents

1 年生はすでに設定されたテーマに関する研究報告を、2 年生以上は修士論文の構想発表をそれぞれ行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わした後、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

First-year students will deliver research reports on themes already established while second-year and higher students deliver conceptual presentations on their master's degree theses. Students will then receive guidance,

following questions and answers among the course faculty members and participants. Each participant will deliver one presentation, on a schedule to be determined in the first session.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究発表 1
- 2 回：研究発表 2
- 3 回：研究発表 3
- 4 回：研究発表 4
- 5 回：研究発表 5
- 6 回：研究発表 6
- 7 回：研究発表 7
- 8 回：研究発表 8
- 9 回：研究発表 9
- 10 回：研究発表 1 0
- 11 回：研究発表 1 1
- 12 回：研究発表 1 2
- 13 回：研究発表 1 3
- 14 回：研究発表 1 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

地域社会研究方法論 A

Method of Area Studies A

合同ゼミナール

野中 健一／橋本 栄莉 (NONAKA KENICHI/ HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS6610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PD301

授業の目標 / Course Objectives

地域研究をおこなう際の方法論を、人文地理学・文化人類学および関連する学問分野から学び、それを実際どのように生かすかを具体的に検討する。

From human geography, cultural anthropology, and related disciplines, students will learn methodologies for conducting regional research, and will specifically examine how to put those into practice.

授業の内容 / Course Contents

授業では、履修者がそれぞれの関心と現在の研究テーマに即して順次発表をおこなう。複数の関連教員と専攻の大学院生全員が常に出席して、コメントと討議を重ねる。発表は学会や研究会での口頭発表に準ずるものになるよう、発表者は資料の提示や論旨の組み立て、研究の位置づけなどにおいて、それぞれ説得力を発揮することが期待されている。

履修者の発表の順番は、大学院の新入生の学部での卒論紹介、本年度修士論文執筆予定者のスケジュール、フィールドワークの予定、所属学会の研究大会の日程などを勘案して定める。初回の授業時に学期（一部は年間）の発表予定を決めるので、かならず出席すること。

In the class, students will deliver presentations in line with their interests and current research themes. Multiple related faculty members and all graduate students in the course will attend to comment and engage in discussions. Presenters will be expected to demonstrate persuasiveness in the presentation of materials, assembly of main points, positioning of research, etc., so that presentations will conform to oral presentations in academic meetings or study groups.

The order of students' presentations will be determined with consideration of the introduction of faculty graduation theses by new graduate students, the schedules of students planning to write master's theses this academic year, field work schedules, the schedules of the research meets of academic societies, etc. Students are expected to attend the first session, as the presentation schedule for the semester (and partially for the year) will be decided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：大学院生による発表と議論 1 初回は新入大学院生による
 3回：大学院生による発表と議論 2
 4回：大学院生による発表と議論 3
 5回：大学院生による発表と議論 4
 6回：大学院生による発表と議論 5
 7回：大学院生による発表と議論 6
 8回：大学院生による発表と議論 7
 9回：大学院生による発表と議論 8
 10回：大学院生による発表と議論 9
 11回：大学院生による発表と議論 10
 12回：大学院生による発表と議論 11
 13回：大学院生による発表と議論 12
 14回：大学院生による発表と議論 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前に担当教員と発表内容について打ち合わせをしておくことが望まれる

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論、発表方法・内容:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

地域社会研究方法論 B

Method of Area Studies B

合同ゼミナール

丸山 浩明／野中 健一／橋本 栄莉 (MARUYAMA HIROAKI/ NONAKA KENICHI/ HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS6610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PD302

授業の目標 / Course Objectives

地域研究を行う際の方法論を、人文地理学・文化人類学および関連する学問分野から学び、それを実際にどのように生かすかを具体的に検討する。春学期の地域社会研究方法論 A を履修した大学院生が継続して本授業を履修し、さらに修学を深化させる。したがって春学期の地域社会研究方法論 A から継続して履修することが期待される。

From human geography, cultural anthropology, and related disciplines, students will learn methodologies for conducting regional research, and will specifically examine how to put those into practice. Graduate students who took Method of Area Studies A in the spring semester continue on to this class to deepen their studies.

Therefore, students expected to continue on to this course from Method of Area Studies A in the spring semester.

授業の内容 / Course Contents

履修者がそれぞれの関心と現在の研究テーマに即して順次発表を行う。複数の関連教員と専攻の大学院生全員が常に出席して討議を重ねる。発表は学会や研究会での口頭発表に準ずるものとなるよう、発表者は資料の提

示や論旨の組み立て、研究の位置づけなどにおいて、それぞれ説得力を発揮することが期待されている。修士論文執筆、各種学会誌への投稿、各種研究学会での発表に向けて、日程を調整しながら内容の高度化を図る。Course takers will deliver presentations on their current research themes of interest. Multiple related faculty members and all graduate students in the course will attend to engage in discussions. Presenters will be expected to demonstrate persuasiveness in the presentation of materials, assembly of main points, positioning of research, etc., so that presentations will conform to oral presentations in academic meetings or study groups. Adjusting the class schedule as required, the course will aim to enhance the content of students' master's degree theses, submissions to academic journals, and presentations in study groups.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：大学院生による発表と議論 1
- 3回：大学院生による発表と議論 2
- 4回：大学院生による発表と議論 3
- 5回：大学院生による発表と議論 4
- 6回：大学院生による発表と議論 5
- 7回：大学院生による発表と議論 6
- 8回：大学院生による発表と議論 7
- 9回：大学院生による発表と議論 8
- 10回：大学院生による発表と議論 9
- 11回：大学院生による発表と議論 10
- 12回：大学院生による発表と議論 11
- 13回：大学院生による発表と議論 12
- 14回：大学院生による発表と議論 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指導教員と十分な打ち合わせをしておくことが望まれる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論:40% 発表方法・内容:60%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

地理学特殊研究 3 B

Studies in Geography 3B

中米の開発地理学

池口 明子 (IKEGUCHI AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD158

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

先住民やアフロカリビアンの人権のための草の根運動が広がるラテンアメリカ・カリブ海地域では、知識の脱植民地化を先導する様々な思想が生まれてきた。この授業ではとくに、ニカラグアとコロンビアを舞台として記述された政治生態学・開発地理学の思想を批判的に読みながら、これらの思想について理解を深め、地誌の研究方法について議論する。

In Latin America and Caribbean region grassroots movement by indigenous people and the afro-caribbean to claim for human rights called for decolonization of knowledge. Some of the geographical thoughts developed and contributed to such practices. Drawing from such thoughts in political ecology and critical development theories we will discuss possible framework for geographical research.

授業の内容 / Course Contents

批判的開発地理学の基礎文献を輪読しながら、問題設定や研究方法、研究成果の意義と課題について報告と議論をおこなう。

The participants are required to read and summarise the literature. Based on the summaries, we will discuss

academic and geographical context, research framework, outcome and its implications.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：開発の民族誌と地誌
- 3回：開発とモダニティの人類学 Development and the Anthropology of Modernity
- 4回：開発とモダニティの人類学 Development and the Anthropology of Modernity
- 5回：貧困の問題化 The Problematization of Poverty
- 6回：貧困の問題化 The Problematization of Poverty
- 7回：経済と開発の空間 Economics and the Space of Development
- 8回：経済と開発の空間 Economics and the Space of Development
- 9回：食料と飢餓の物語 Tales of Food and Hunger
- 10回：食料と飢餓の物語 Tales of Food and Hunger
- 11回：農民，女性，環境の物語 Tales of Peasants, Women, and the Environment
- 12回：農民，女性，環境の物語 Tales of Peasants, Women, and the Environment
- 13回：ポスト開発の時代を想像する Imagining and Postdevelopment Era
- 14回：ポスト開発の時代を想像する Imagining and Postdevelopment Era

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

指定した文献を読みレジюмеと論点を考案して提示する Reading, summarizing and posing questions on the literature

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への準備と参加:100%

テキスト / Textbooks

A. エスコバル／北野収訳 開発との遭遇：第三世界の発明と解体 新評論 2022 9784794812018 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文献をもとに問いを立てる力 Ability to pose questions over text

文化人類学特殊研究 3 A

Studies in Cultural Anthropology 3A

移動からみる世界 I

松本 尚之 (MATSUMOTO HISASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、文化人類学の学説史や研究動向、民族誌を精読することで、これまでの研究が何を問題として取り上げてきたのかを整理し、自らの新たな知見を見出すための糸口とすることである。

The goal of this class is to read the academic histories, research trends, and ethnographies of cultural anthropology to help students sort out what issues have been addressed in previous studies and to provide clues to find their own new insights.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化が進む今日、様々な背景をもった人やモノが会う機会が急速に拡大しており、時には異文化間の摩擦や対立が生じている。その様な状況のなかで、「他者」や「異文化」という概念に対する理解を深めるとともに、それらの対象とどう向き合うかを考えていくことが、我々一人一人にとって重要な課題となっている。

文化人類学は、地球に生きる様々な「他者」を文化と社会の側面から理解することを目指す学問である。その最大の特徴は、フィールドワーク（参与観察）という手法に基づきながら、異なる文化や社会について経験的

かつ実証的に考え、民族誌（エスノグラフィー）を書くことにある。この作業は同時に、私たちが生きる社会の支配的な価値観を相対化することだけでなく、人間の普遍性を考えることを意味する。この授業では、民族誌を書くための第一歩として文化人類学の研究方法と視点について、グローバル化や移動をテーマとした文献の精読を通して学ぶ。ただし、輪読文献や講義内容は、受講生の興味関心に応じて授業内で相談しながら決定する。

Cultural anthropology is a discipline that aims to understand the various "others" living on the earth in terms of culture and society. Its main feature is to think empirically about different cultures and societies and to write ethnographies based on the method of fieldwork (participant observation). This work means simultaneously relativizing the dominant values of the societies in which we live as well as considering human universality. In this class, you will learn about research methods and perspectives in cultural anthropology through a reading of the literature as a first step to writing an ethnography. The readings and the content of the lecture will be determined by consultation within the class according to the interests of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：文献の講読
- 3 回：文献の講読
- 4 回：文献の講読
- 5 回：文献の講読
- 6 回：文献の講読
- 7 回：文献の講読
- 8 回：文献の講読
- 9 回：文献の講読
- 10 回：受講生の研究発表
- 11 回：受講生の研究発表
- 12 回：受講生の研究発表
- 13 回：受講生の研究発表
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指定するテキストを精読してくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備と内容:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

テキストは第1回授業時に決定する。

参考文献 / Readings

文化人類学特殊研究 3B

Studies in Cultural Anthropology 3B

移動からみる世界 II

松本 尚之 (MATSUMOTO HISASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5600

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、文化人類学の学説史や研究動向、民族誌を精読することで、これまでの研究が何を問題として取り上げてきたのかを整理し、自らの新たな知見を見出すための糸口とすることである。

The goal of this class is to read the academic histories, research trends, and ethnographies of cultural anthropology to help students sort out what issues have been addressed in previous studies and to provide clues to find their own new insights.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化が進む今日、様々な背景をもった人やモノが会う機会が急速に拡大しており、時には異文化間の摩擦や対立が生じている。その様な状況のなかで、「他者」や「異文化」という概念に対する理解を深めるとともに、それらの対象とどう向き合うかを考えていくことが、我々一人一人にとって重要な課題となっている。

文化人類学は、地球に生きる様々な「他者」を文化と社会の側面から理解することを目指す学問である。その最大の特徴は、フィールドワーク（参与観察）という手法に基づきながら、異なる文化や社会について経験的

かつ実証的に考え、民族誌（エスノグラフィー）を書くことにある。この作業は同時に、私たちが生きる社会の支配的な価値観を相対化することだけでなく、人間の普遍性を考えることを意味する。この授業では、春学期の授業に引き続き、グローバル化や移動をテーマとした文献の精読を通して学ぶ。ただし、輪読文献や講義内容は、受講生の興味関心に応じて授業内で相談しながら決定する。

Cultural anthropology is a discipline that aims to understand the various "others" living on the earth in terms of culture and society. Its main feature is to think empirically about different cultures and societies and to write ethnographies based on the method of fieldwork (participant observation). This work means simultaneously relativizing the dominant values of the societies in which we live as well as considering human universality. In this class, you will learn about research methods and perspectives in cultural anthropology through a reading of the literature as a first step to writing an ethnography. The readings and the content of the lecture will be determined by consultation within the class according to the interests of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：文献の講読
- 3 回：文献の講読
- 4 回：文献の講読
- 5 回：文献の講読
- 6 回：文献の講読
- 7 回：文献の講読
- 8 回：文献の講読
- 9 回：文献の講読
- 10 回：受講生の研究発表
- 11 回：受講生の研究発表
- 12 回：受講生の研究発表
- 13 回：受講生の研究発表
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指定するテキストを精読してくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表の準備と内容:50% 議論への貢献:50%

テキスト / Textbooks

テキストは第1回授業時に決定する。

参考文献 / Readings

地域社会調査演習 A

Regional Surveys A

沖縄を聴き、歩き、考える

阿部 小涼 (ABE KOSUZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD167

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第2、3、4、14週はオンライン予定

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PD311

授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、秋学期に沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, and by collecting and empirically elucidating data, students will learn theories and methods of regional studies and cultural environment studies.

授業の内容 / Course Contents

春学期は、日米関係史、沖縄・琉球史、沖縄社会論などの文献を購読して、各自の調査テーマを定める。授業での事前学習を踏まえ、春学期中もしくは夏季休業中に神奈川県横須賀（予定）をフィールドにして、予備調査を実施し、秋学期中に実施する本調査のための準備を進める。

Based on prior learning in classes, the course will schedule a one-day program during the summer vacation period or spring semester to search for regional topics, with Yokosuka (tentative), Kanagawa Prefecture, as the

field site. The course will conduct a preliminary survey based on participants' interests and will prepare for the main survey to be conducted in Okinawa during the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／本授業の目的や進め方の説明。
- 2 回：研究発表 1／研究テーマに即して、文献研究、資料調査を進める。調査計画を発表し、議論を通じて内容を深化させ、調査準備を行う。
- 3 回：研究発表 2／同上
- 4 回：研究発表 3／同上
- 5 回：研究発表 4／同上
- 6 回：研究発表 5／同上
- 7 回：研究発表 6／同上
- 8 回：研究発表 7／同上
- 9 回：研究発表 8／同上
- 10 回：研究テーマ・分担の確定 1／各自の発表を踏まえて現地調査のテーマとグルーピングを行い、役割分担を決める。
- 11 回：研究テーマ・分担の確定 2／同上。
- 12 回：現地予備調査 1／関係各位に挨拶および調査便宜供与の依頼。その後、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。なお、交通費・食事・宿泊費などは自己負担になる。
- 13 回：現地予備調査 2／フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 14 回：総合討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:30% フィールドワークへの参加:40% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

地域社会調査演習 A（春学期）の受講者は、続けて地域社会調査演習 B（秋学期）を受講し、同じ調査地での本調査を実施して報告書をまとめることが強く推奨される。この科目は「その他登録」で、最初の授業時に登録申請をする必要があるため、履修希望者はかならず出席すること。ここで履修申し込みをすると、秋も自動的に履修登録される。

フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合は選考することもある。

地域社会調査演習 B

Regional Surveys B

沖縄を聴き、歩き、考える

阿部 小涼 (ABE KOSUZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD168

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第1、12、13、14週はオンライン予定

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PD312

授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, collecting and empirically elucidating data, and summarizing reports based on the findings, students will learn methods for writing empirical papers.

授業の内容 / Course Contents

地域社会調査演習 A（春学期）の予備調査の結果をふまえて、秋学期中に4泊5日の予定で、沖縄（予定）をフィールドに各自のテーマに即して本調査を実施する。また、その成果を報告書にまとめる。

Based on the findings of the preliminary survey performed in Regional Surveys A (spring semester), the course will schedule a 5-day, 4-night program during the fall semester to perform main surveys in line with students' themes, with Okinawa (tentative) as the field site. Students will then summarize the findings in reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／本授業の目的や進め方などを説明する。予備調査をふまえて、本調査での研究テーマや分担を確認し、調査計画を練るので、受講希望者は必ず出席すること。
- 2回：本調査の準備1／本調査のテーマと実施計画などを、全体討論を経て決定する。
- 3回：本調査の準備2／同上
- 4回：現地調査1／関係各位に挨拶および本調査の便宜供与依頼。その後、フィールドワークを行う。なお、交通費・食費・宿泊費などは自己負担になる。
- 5回：現地調査2／引き続き、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 6回：現地調査3／同上
- 7回：現地調査4／同上
- 8回：現地調査5／同上
- 9回：報告書作成1／調査報告を行い、そのまとめ方について全体討論を行いつつ、論文の執筆を進めていく。
- 10回：報告書作成2／同上
- 11回：報告書作成3／同上
- 12回：報告書作成4／同上
- 13回：報告書作成5／同上
- 14回：総合討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:20% フィールドワークへの参加:40% 報告書レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

授業中に適宜指示する。

その他 / Others

この授業は、地域社会調査演習 A（春学期）の事前学習や予備調査の成果をもとに発展させるものである。

「その他登録」であり、履修希望者は地域社会調査演習 A（春学期）のガイダンス時に必ず出席すること。このガイダンス時に地域社会調査演習 A に履修申し込みをすると、秋学期の地域社会調査演習 B も自動的に履修登録される。フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合には、受講者を選考することもある。

地理学演習 1 A

Seminar in Geography 1A

地域研究論

吉村 郊子 (YOSHIMURA SATOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD169

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地理学や隣接諸分野における基礎的な理論と方法論について理解を深める。その過程で得た知と技法をふまえて自身の研究を構想し、今後の調査研究や論文執筆に生かす。

The course will enhance students' understanding of fundamental theories and methods of geography and its adjacent disciplines the findings of previous research and so on. In addition, students will learn and put into practice the methodologies for designing their research.

授業の内容 / Course Contents

各参加者の興味・関心や問題意識をふまえたうえで、地理学と地域研究や人類学など隣接諸分野から文献を選んで精読し、その紹介と討論を通して調査研究のプロセスや手法について学ぶ。そして、自身のこれまでの研究内容と問題意識を鑑みつつ、今後の研究を構想し、発表と討論を行う。

Students will engage in reading of research papers and discussing them with other participants, in line with their own interests and awareness of issues, to improve their capabilities for practice fieldwork-based research and writing research papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス
- 2回：参加者の自己紹介と研究紹介
- 3回：今後の文献紹介および研究発表の準備について
- 4回：参加者による文献紹介と討論（1）
- 5回：参加者による文献紹介と討論（2）
- 6回：参加者による文献紹介と討論（3）
- 7回：参加者による文献紹介と討論（4）
- 8回：参加者による研究発表と討論（1）
- 9回：参加者による研究発表と討論（2）
- 10回：参加者による研究発表と討論（3）
- 11回：参加者による研究発表と討論（4）
- 12回：これまでをふり返り、今後の調査研究や論文執筆に向けた課題について考える（1）
- 13回：これまでをふり返り、今後の調査研究や論文執筆に向けた課題について考える（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備に加えて、自身が興味・関心をもつテーマや問題意識にそって、関連する学術論文や研究書などを渉猟して読み、先行研究や研究史の整理を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表内容、各回の議論・授業参加態度:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて適宜、紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC など

その他 / Others

本科目の受講に際しては初回の授業ガイダンスに出席して、授業の概要や進め方を確認することを勧める。

地理学演習 1 B

Seminar in Geography 1B

地域研究論

丸山 浩明 (MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD170

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地理学の基礎的な理論や方法、先行研究の成果などについて、参加者の具体的な研究発表や全体討論を通じて理解力を高める。また、論文作成に関わる論理的・技術的手法を習得する。

The course will enhance students' understanding of fundamental theories and methods of geography, the findings of previous research, etc. through research presentations and general discussions by participants. In addition, students will learn logical and technical methods related to the writing of research papers.

授業の内容 / Course Contents

各自の興味・関心や問題意識に即した研究発表と参加者による全体討論を通じて、フィールドワークに立脚した地理学的研究能力や、論文執筆能力の向上を図る。なお、科目の性格上、地理学演習 1A とともに受講することが望ましい。

Through research presentations and general discussions by participants in line with their own interests and awareness of issues, the course aims to improve students' capabilities for fieldwork-based geographical research and for writing research papers. Due to the nature of the subject, students are recommended to take the course

together with Seminar in Geography 1A.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による報告（1）
- 3回：参加者による報告（2）
- 4回：参加者による報告（3）
- 5回：参加者による報告（4）
- 6回：参加者による報告（5）
- 7回：参加者による報告（6）
- 8回：参加者による報告（7）
- 9回：参加者による報告（8）
- 10回：参加者による報告（9）
- 11回：参加者による報告（10）
- 12回：参加者による報告（11）
- 13回：参加者による報告（12）
- 14回：参加者による報告（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の問題意識や興味関心に従い、関連の学術論文や研究書などを渉猟して、鋭意文献研究を進めておくこと。また、毎時の授業で指摘された課題については、次回の授業までに改善をはかること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論、発表方法・内容:100%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業において適宜指示する。

地理学演習 2A

Seminar in Geography 2A

地域史研究

飯島 みどり (IJIMA MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主として地域研究の観点から、世界と日本の今日的課題に対する認識を深め、これを分析し、論理的に説明・記述する手法を磨く。

Primarily from the perspective of Area Studies, students will deepen their concern on contemporary issues in the world or in Japan, analyze them, and refine methods to explain and describe them logically.

授業の内容 / Course Contents

各自の問題関心に即した報告・発表あるいは共通テキストの輪読をもとに討論。特に近代以降「植民地化」を被った社会の抱える諸問題を考察する。

Discussions will be based on reports, presentations, or reading of shared texts in line with students' issues of interest. In particular, the course will consider the problems proper to societies that have suffered colonization since the 15th century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2回：報告と討論
 3回：報告と討論
 4回：報告と討論
 5回：報告と討論
 6回：報告と討論
 7回：報告と討論
 8回：報告と討論
 9回：報告と討論
 10回：報告と討論
 11回：報告と討論
 12回：報告と討論
 13回：報告と討論
 14回：報告と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本学図書館はもちろん他大学図書館の利用方法、資料検索の手法を身につけておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回における報告・討論の水準:51% 各報告回の提出物:49%

テキスト / Textbooks

受講者の関心、使用可能言語などを把握の上、追って協議、指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

粘り強さ

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

その他 / Others

初回授業に出席できない者は必ず担当教員まで事前に連絡のこと。事前連絡なき者の途中参加は認めない。

科目の性格上、秋学期「地理学演習2B」も併せて受講することが望ましい。

地理学演習 2B

Seminar in Geography 2B

地域史研究

飯島 みどり (IJIMA MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD172

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主として地域研究の観点から、世界と日本の今日的課題に対する認識を深め、これを分析し、論理的に説明・記述する手法を磨く。

Primarily from the perspective of Area Studies, students will deepen their concern on contemporary issues in the world or in Japan, analyze them, and refine methods to explain and describe them logically.

授業の内容 / Course Contents

各自の問題関心に即した報告・発表あるいは共通テキストの輪読をもとに討論。特に近代以降「植民地化」を被った社会の抱える諸問題を考察する。

Discussions will be based on reports, presentations, or reading of shared texts in line with students' issues of interest. In particular, the course will consider the problems proper to societies that have suffered colonization since the 15th century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2回：報告と討論
 3回：報告と討論
 4回：報告と討論
 5回：報告と討論
 6回：報告と討論
 7回：報告と討論
 8回：報告と討論
 9回：報告と討論
 10回：報告と討論
 11回：報告と討論
 12回：報告と討論
 13回：報告と討論
 14回：報告と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本学図書館はもちろん他大学図書館の利用方法、資料探索の手法を身につけておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回における報告・討論の水準:51% 各報告回の提出物:49%

テキスト / Textbooks

受講者の関心、使用可能言語などを把握の上、追って協議、指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

粘り強さ

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

その他 / Others

初回授業に出席できない者は必ず担当教員まで事前に連絡のこと。事前連絡なき者の途中参加は認めない。

科目の性格上、春学期「地理学演習2 A」も併せて受講することが望ましい。

文化人類学演習 1 A

Seminar in Cultural Anthropology 1A

民族文化論

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、文化人類学の理論書または民族誌の精読を通じて、人類学の学説史と理論を学び、自身の研究と関連付けて問いを深化させることである。初回は対面実施とし、以後は履修者との相談により決定する。

In this class, we will study the history and theories of anthropology. Students will learn how to relate their concern or research topic to anthropological theories.

授業の内容 / Course Contents

人類学者の職人仕事は、フィールドワークによって観察された局地的な事実の中に、人類に共通する広く普遍的な原理を見つけ出すことである。そのために、調査対象となる社会に没入し、自身の思考枠組みを解体しながら、新たな現実のありかたを民族誌の記述によって構築する。本講義では、既存の思考枠組みを批判的に検討するための視点と、文脈や地域を越えて人類の普遍性を検討する技法を、民族誌または理論書の精読を通じて学ぶ。ただし、輪読文献や講義内容は、受講生の興味関心に応じて、授業内で相談しながら決定する。

Anthropological work is to elucidate universal principles common to human beings from the local facts observed by fieldwork. For this purpose, anthropologists immerse themselves in the local societies, disassembling their own

thinking frameworks, and constructing a new way of reality based on ethnographic descriptions. In this class, we will learn the viewpoint of deconstructing our analytical frameworks.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学生の研究紹介
- 3回：民族誌または理論書の読解と議論（1）
- 4回：民族誌または理論書の読解と議論（2）
- 5回：民族誌または理論書の読解と議論（3）
- 6回：民族誌または理論書の読解と議論（4）
- 7回：民族誌または理論書の読解と議論（5）
- 8回：民族誌または理論書の読解と議論（6）
- 9回：民族誌または理論書の読解と議論（7）
- 10回：学生による研究発表（1）
- 11回：学生による研究発表（2）
- 12回：学生による研究発表（3）
- 13回：学生による研究発表（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指定するテキストを精読してくること。テキストについては学生の研究関心と相談の上決定する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備:50% 議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文化人類学演習 1 B

Seminar in Cultural Anthropology 1B

民族文化論

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD174

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、文化人類学の観点から、他者の社会を描く技法を学び、自身の研究の問いを深化させることである。初回は対面実施とし、以後は履修者との相談により決定する。

In this class, we will study the history, theories of anthropology, and anthropological point of view. Students will learn how to relate their concern or research topic to anthropological theories.

授業の内容 / Course Contents

フィールドワークで得たデータや情報は、研究者自身の分析枠組みや視点により再構築される。研究者は時として、自身の分析観点が対象社会の「問題」構築に関与し、新たな「現実」を生み出すことを経験する。本講義では、学生自身の研究やフィールドワークの経験も参照しながら、それをデータや論文にしてゆく過程について学ぶ。必要に応じ、文化人類学の方法論に関する文献も参照する。輪読文献や講義内容は、受講生の興味関心に応じて、授業内で相談しながら決定する。

Anthropologists immerse themselves in the local societies, disassembling their own thinking frameworks, and constructing a new way of reality based on ethnographic descriptions. In this class, we will learn the viewpoint of

deconstructing our analytical frameworks, by referring to student's experience of fieldwork and anthropological readings on methodology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学生の研究進捗紹介
- 3回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（1）
- 4回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（2）
- 5回：学生による研究発表（1）
- 6回：学生による研究発表（2）
- 7回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（3）
- 8回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（4）
- 9回：学生による研究発表（3）
- 10回：学生による研究発表（4）
- 11回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（5）
- 12回：フィールドワークのデータと記述に関する議論（6）
- 13回：学生による研究発表（5）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指定するテキストを精読してくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加:50% 発表準備・内容:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文化人類学演習 2 A

Seminar in Cultural Anthropology 2A

文化環境論

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD175

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ111「現代文明学演習4」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

文化生態学的・生態人類学的観点にたった研究の方法論を理解し、自らのテーマに関連付けて実践する。

Students will learn and put into practice methodologies for research from cultural-ecological and ecological-anthropological points of view.

授業の内容 / Course Contents

現場の問題発見と解決のための文化生態学および生態人類学の方法論について国内外の論文を精読し、問題設定、方法、分析手法を学ぶ。

参加者と取り上げる学術誌論文および基本的専門書を検討し、分担を決め、毎回の発表を行い、研究分野の基礎の習得と自分自身の研究の構想を行う。

Students will engage in careful reading of research papers from Japan and from abroad on the methodologies of cultural ecology and ecological anthropology in order to discover and resolve issues in the field, and will learn about methods for analyzing and setting issues.

Participants will examine academic journal articles and basic technical documents, will divide these up and carry

out presentations every session, and will design their own research from the fundamentals of their research fields.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化研究の課題と展望 1 / 文献紹介と説明
- 2 回：文化研究の課題と展望 2 / 同上
- 3 回：研究課題の設定と研究レビュー 1 / 各自の発表と議論
- 4 回：研究課題の設定と研究レビュー 2 / 同上
- 5 回：研究課題の設定と研究レビュー 3 / 同上
- 6 回：データ収集方法の検討 1 / 各自の発表と議論
- 7 回：データ収集方法の検討 2 / 同上
- 8 回：データ収集方法の検討 3 / 同上
- 9 回：分析方法の検討 1 / 各自の発表と議論
- 10 回：分析方法の検討 2 / 同上
- 11 回：分析方法の検討 3 / 同上
- 12 回：空間的表現と説明 1 / 各自の発表と議論
- 13 回：空間的表現と説明 2 / 同上
- 14 回：空間的表現と説明 3 / 同上

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連分野の専門雑誌の論文を積極的に読み、専門分野の知識と研究史を蓄積する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 発表レポート:40% 授業参加態度:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜指示する

文化人類学演習 2 B

Seminar in Cultural Anthropology 2B

文化環境論

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化生態学的・生態人類学的観点にたった研究の方法論を理解し、自らのテーマで実践する。

Students will learn and put into practice methodologies for research from cultural-ecological and ecological-anthropological points of view.

授業の内容 / Course Contents

現場の問題発見と解決のための文化生態学および生態人類学および関連する学問分野の方法論について国内外の論文を精読し、問題設定、方法、分析手法を学ぶ。

参加者と取り上げる学術誌論文および基本的専門書を検討し、分担を決め、毎回の発表を行い、研究分野の基礎をふまえて、自分自身の研究の構想と実践を行う。

Students will engage in careful reading of research papers from Japan and from abroad on the methodologies of cultural ecology and ecological anthropology in order to discover and resolve issues in the field, and will learn about methods for analyzing and setting issues.

Participants will examine academic journal articles and basic technical documents, will divide these up and carry

out presentations every session, and will design their own research from the fundamentals of their research fields.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：研究課題の発展と研究整理 1 / 文献紹介と説明
- 2回：研究課題の発展と研究整理 2 / 各自の発表と議論
- 3回：研究課題の発展と研究整理 3 / 同上
- 4回：関連分野の分析方法の応用 1 / 文献紹介と説明
- 5回：関連分野の分析方法の応用 2 / 各自の発表と議論
- 6回：関連分野の分析方法の応用 3 / 同上
- 7回：研究史の再構築 1 / 文献紹介と説明
- 8回：研究史の再構築 2 / 各自の発表と議論
- 9回：研究史の再構築 3 / 同上
- 10回：課題論文発表 1 / 文献紹介と説明
- 11回：課題論文発表 2 / 各自の発表と議論
- 12回：課題論文発表 3 / 同上
- 13回：まとめと今後の展望 1 / 同上
- 14回：まとめと今後の展望 2 / 同上

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

専門論文を多く読み自らのテーマの研究史を整理する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 授業参加態度:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜指示する

超域文化学演習 1 A

Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 1A

奥 美穂子 (OKU MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JD177
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICS5610
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： JC163「東洋史演習 2 A」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

オスマン帝国史を中心に歴史研究の手法や史料・文献を読み解く力を習得し、各自の研究の進展をはかる。
The aim of this course is to acquire historical research methods and the ability to read and understand historical documents and literature, with a focus on the history of the Ottoman Empire, in order to advance their own research.

授業の内容 / Course Contents

受講者が研究報告を行い、参加者全体で討論を行う。その他の内容については、受講者と相談の上、柔軟に対応する。

Participants present their research reports, which are discussed by the group. The contents of the course will be flexibly adapted in consultation with the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：受講者による報告と全体討論（1）
 3回：受講者による報告と全体討論（2）
 4回：受講者による報告と全体討論（3）
 5回：受講者による報告と全体討論（4）
 6回：受講者による報告と全体討論（5）
 7回：受講者による報告と全体討論（6）
 8回：受講者による報告と全体討論（7）
 9回：受講者による報告と全体討論（8）
 10回：受講者による報告と全体討論（9）
 11回：受講者による報告と全体討論（10）
 12回：受講者による報告と全体討論（11）
 13回：受講者による報告と全体討論（12）
 14回：総括ならびに補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

超域文化学演習 1 B

Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 1B

複合文化論

神田 惟 (KANDA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD178

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JC164「東洋史演習 2 B」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する研究成果や史料を整理・検討する力をつける。

Throughout this course, students will enhance their ability to analyze and structure research discoveries and historical resources related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history.

授業の内容 / Course Contents

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する文献講読・史料精読を行う。毎回、報告者を定めて報告を行った上で議論し、研究史と近年の研究状況、史料を解釈する上での多様な手法に関して理解を深める。

In this seminar, participants will explore literature and documents related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history. Each class will include a designated presenter delivering a report, leading discussions aimed at enhancing understanding of previous literatures, recent trends in the field, and various approaches to interpreting historical sources.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／授業の目的と進め方の説明
 2回：受講者による報告と全体討論（1）
 3回：受講者による報告と全体討論（2）
 4回：受講者による報告と全体討論（3）
 5回：受講者による報告と全体討論（4）
 6回：受講者による報告と全体討論（5）
 7回：受講者による報告と全体討論（6）
 8回：受講者による報告と全体討論（7）
 9回：受講者による報告と全体討論（8）
 10回：受講者による報告と全体討論（9）
 11回：受講者による報告と全体討論（10）
 12回：受講者による報告と全体討論（11）
 13回：受講者による報告と全体討論（12）
 14回：受講者による報告と全体討論（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

授業中に指示する。

超域文化学演習 2 A

Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 2A

芸能論

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JD179
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICS5610
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

東アジアのパフォーマンスで、参加者各自の興味・関心のある対象について基礎知識を得ることを目指す。資料収集、分析、報告・発表などにより、論文作成やプレゼンテーションの訓練も行なう。

The course aims to provide participants with fundamental knowledge concerning their areas of interest in East Asian performance. Training for research paper production and presentation will also take place through collection of materials, analysis, reporting, and presentations.

授業の内容 / Course Contents

参加者は各自の興味・関心のある対象について、関連文献や資料の収集、分析を行い、対象とするものの属性や、その背景にある社会や人々の生活についての考察も踏まえた報告を行う。授業は各自の報告と全体でディスカッションが中心となるが、全員で共有できる文献資料の講読・分析・批評、及び観劇・劇評を行うといった機会も設けたい。なお、科目の性格上、秋学期の超域文化学演習 2B も併せて受講することが望ましい。

Participants will perform collection and analysis of literature and materials relevant to their subjects of interest, and will deliver reports on the attributes of the subject matter and on their consideration of underlying society

and people's lifestyles. While classes will center on students' own reports and overall discussion, the course will also provide opportunities to perform reading, analysis, and critique of literary materials shared by all, as well as theater appreciation and dramatic criticism. Due to the nature of the subject, students are recommended to take the course together with Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 2B in the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による報告とディスカッション（1）
- 3回：参加者による報告とディスカッション（2）
- 4回：参加者による報告とディスカッション（3）
- 5回：参加者による報告とディスカッション（4）
- 6回：参加者による報告とディスカッション（5）
- 7回：参加者による報告とディスカッション（6）
- 8回：参加者による報告とディスカッション（7）
- 9回：参加者による報告とディスカッション（8）
- 10回：参加者による報告とディスカッション（9）
- 11回：参加者による報告とディスカッション（10）
- 12回：参加者による報告とディスカッション（11）
- 13回：参加者による報告とディスカッション（12）
- 14回：参加者による報告とディスカッション（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の興味・関心のある対象に関連する文献資料やデータの収集、分析を進め、報告に反映すること。課題等は随時指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告・ディスカッションの内容:80% 授業の参加度:20%

テキスト / Textbooks

参加者の研究対象に応じ、適宜指示する。

参考文献 / Readings

参加者の研究対象に応じ、適宜指示する。

その他 / Others

・授業は対面式で行うが、新型コロナウイルスなど感染症の状況に応じてオンラインに切り替える可能性がある。

超域文化学演習 2 B

Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 2B

芸能論

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JD180

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS5610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東アジアのパフォーマンスで、参加者各自の興味・関心のあるテーマを設け、それについて詳細に研究し、論文作成に必要な資料・データの収集・分析などを行う。

Participants will set themes according to their own interests in East Asian performance, research these in detail, and engage in the collection and analysis of materials and data required for the writing of a research paper.

授業の内容 / Course Contents

参加者は東アジアのパフォーマンスの範疇で、各自が設定したテーマに基づき、先行研究の検討、資料・データの収集、分析を行う。各自の研究報告・発表、全体ディスカッションを通じて、各自の研究を深め、論文作成の手法を身につける。なお、科目の性格上、春学期の超域文化学演習 2A に引き続き受講することが望ましい。

Participants will investigate prior research and collect and analyze materials and data concerning the themes they have set, within the category of East Asian performance. Through their own research reports, presentations, and general discussions, students will deepen their own research and learn techniques for writing research papers.

Due to the nature of the subject, students are recommended to take the course together with Seminar in Interdisciplinary Cultural Studies 2A in the spring semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：参加者による報告とディスカッション（1）
- 3回：参加者による報告とディスカッション（2）
- 4回：参加者による報告とディスカッション（3）
- 5回：参加者による報告とディスカッション（4）
- 6回：参加者による報告とディスカッション（5）
- 7回：参加者による報告とディスカッション（6）
- 8回：参加者による報告とディスカッション（7）
- 9回：参加者による報告とディスカッション（8）
- 10回：参加者による報告とディスカッション（9）
- 11回：参加者による報告とディスカッション（10）
- 12回：参加者による報告とディスカッション（11）
- 13回：参加者による報告とディスカッション（12）
- 14回：参加者による報告とディスカッション（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の興味・関心のある対象に関連する文献資料やデータの収集、分析を進め、先行研究は解題を作成し、報告に反映する。また、必要に応じて実演の実見や実践者・関係者へのインタビュー調査など、一次資料の収集にも努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告・ディスカッションの内容:60% 課題の達成度:20% 授業の参加度:20%

テキスト / Textbooks

参加者の研究対象に応じ、適宜指示する。

参考文献 / Readings

参加者の研究対象に応じ、適宜指示する。

その他 / Others

・授業は対面式で行うが、新型コロナウイルスなどの感染症の状況に応じてオンラインに切り替える可能性がある。

超域文化学特殊研究 1

Studies in Interdisciplinary Cultural Studies 1

山形 真理子／滝口 正哉 (YAMAGATA MARIKO/ TAKIGUCHI MASAYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JD183
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICS5600
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2022 年度まで「超域文化学特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

授業の前半では、ユネスコ世界遺産に登録された東南アジアの考古遺跡に注目する。各国の歴史的・文化的脈絡と現代社会の価値観を背景に、考古遺跡がどのように位置づけられ、活用されてきたか考察する。授業の後半では、巨大都市江戸の文化が明治～昭和初期においてどのように評価され、捉え直されていったのかについて、歴史・民俗・美術・人類学など多様な切り口から総合的に理解する。

The first half of this course focuses on the UNESCO World Heritage sites in Southeast Asia, especially those consisting of archaeological sites. The aims and significance of promoting archaeological sites as World Heritage are discussed in detail, taking each particular historical and cultural circumstances into account. In the second half of this course, students are required to get a comprehensive understanding about how the culture of the megacity Edo was evaluated and reinterpreted, during the Meiji and early Showa periods, from various perspectives such as history, folklore, art, and anthropology.

授業の内容 / Course Contents

授業の前半では、まず世界遺産の仕組みについて概説し、続いて各論として東南アジアの世界遺産 6 件を取り上げる。いずれも考古遺跡が世界遺産の重要な構成要素となっている事例である。遺跡自体の概説、世界遺産

登録への経緯、登録後の変化など、多様な視点から現代社会と遺跡の関わりを考察する。講義をふまえてディスカッションを行う。授業の後半では、近代の江戸文化再評価に関する文献や関連する論文・展示図録などを精読しながら、アプローチ方法や分析手法を学ぶとともに、各受講者が自分なりの問題関心から調べた関連トピックについて議論する。

In the first half of the course, firstly, the outline of the system of UNESCO World Heritage is reviewed. Then, six World Heritage sites of Southeast Asia with archaeological sites as main components are focused. The relationship between the archaeological sites and modern society is argued from various perspectives, including an overview of each archaeological site itself, the aim and the process towards the registration by UNESCO, changes caused by registration, and so on. Based on the lectures, discussion among students is held. In the second half of the course, students learn the approach method and analysis method by carefully reading the literature on re-evaluation of the modern Edo culture, including related papers and exhibition catalogs. Then, discussion on related topics that each student investigated from their own problem awareness and interest is held.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ユネスコ世界遺産について
- 2 回：サンギラン（インドネシア）：世界遺産となった初期人類の遺跡
- 3 回：バンチェン（タイ）：新たな価値が付与される先史時代遺跡
- 4 回：ミーソン（ベトナム）：ベトナムが活用するチャンパの文化遺産
- 5 回：アンコール（カンボジア）：東南アジアを代表する巨大建築遺跡群の保全
- 6 回：ホイアン（ベトナム）：観光開発に揺れる歴史的町並み
- 7 回：レンゴン（マレーシア）：多民族国家における考古遺跡の活用
- 8 回：江戸東京学について
- 9 回：廃仏毀釈の文化的影響
- 10 回：文明開化と江戸風俗の変化
- 11 回：東京開市三百年祭と江戸回顧の活動
- 12 回：北会とキリスト教徒原胤昭
- 13 回：人類学者フレデリック・スタールの日本文化発見
- 14 回：受け継がれる祭礼文化

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前半については、講義内容をふまえ、日本や世界各地に存在する考古遺跡が世界遺産となった事例について、受講生各自が積極的に情報を収集し、理解を深めること。授業の後半については、江戸文化についての基本的理解を得ておくとともに、関連する文献や論文を積極的に収集・分析し、自分なりの知見を整理すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:20% 出席状況ならびに授業態度:20%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

西山松之助 『江戸学事典 縮刷版』 弘文堂 1994 4335250533

小木新造 『江戸東京学事典 新装版』 三省堂 2003 4385153884

フレデリック・スタール 『お札行脚 (知の自由人叢書)』 国書刊行会 2007 9784336047168

滝口正哉 『江戸の祭礼と寺社文化』 同成社 2018 9784886217882

徳澤啓一・山形真理子 『東南アジアの文化遺産とミュージアム』 雄山閣 2023 9784639028925

その他の参考文献は随時指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布などに「Canvas LMS」を使用する。

超域文化学特殊研究 2

Studies in Interdisciplinary Cultural Studies 2

花家 彩子 (HANAKE AYAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JD184
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICS5600
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目標は、演劇と教育の関係について基礎的な知識を得るとともに、自身の関心の相対的位置を意識した上で必要な情報を集められるようになることである。

This course aims to provide students with a basic knowledge of the relationship between theater and education and to enable them to gather the necessary information with an awareness of the relative position of their own interests.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、演劇と教育の関係について考えることのできる文献を精読し、討論する。

This course will review the literature that allows us to consider the relationship between theater and education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：文献講読とディスカッション
- 3 回：文献講読とディスカッション

- 4回：文献講読とディスカッション
 5回：文献講読とディスカッション
 6回：文献講読とディスカッション
 7回：文献講読とディスカッション
 8回：文献講読とディスカッション
 9回：文献講読とディスカッション
 10回：文献講読とディスカッション
 11回：文献講読とディスカッション
 12回：文献講読とディスカッション
 13回：文献講読とディスカッション
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指定するテキストを精読してくること。テキストに対する自身の意見を発言できるように準備しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 討論への貢献：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

受講生の関心に応じて、授業内で相談しながら決める

参考文献 / Readings

教育哲学研究 1

Studies in Philosophy of Education 1

教育哲学

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育哲学特殊研究」
後期課程用科目コード： PF301

授業の目標 / Course Objectives

「人間にとってそもそも教育とは何か」という教育哲学の根本問題について、学生による発表と文献講読を通して考察してゆきます。

In this course, through presentations and literature readings, students consider the fundamental issues of educational philosophy: "At its heart, what is education to human beings?"

授業の内容 / Course Contents

「教育とは何か」について哲学的に考察していきます。教育哲学、教育政策の原理、教育倫理、道徳教育、特別支援教育の哲学といったテーマを扱いますが、基本的に受講者それぞれによる発表とディスカッションを中心に進めていきます。今年度は、身体性認知やパフォーマンスの哲学をテーマにします。教科書として、The Oxford Handbook of 4E Cognition を挙げておきますが、受講者から共同して文献講読を行いたい希望があった場合には、それを取り上げます。また修士論文・博士論文に関連する発表を定期的に行います。

This course is a philosophical study of "what education is. Themes such as philosophy of education, principles of

educational policy, educational ethics, moral education, and philosophy of special-needs education will be covered, basically through presentations and discussions by each participant. This year, we will focus on the philosophy of embodied cognition and performance. The Oxford Handbook of 4E Cognition will be listed as the textbook, but if students wish to collaborate on literature reading, that will be taken up as well. Students will also give periodic presentations related to their master's thesis or doctoral dissertation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：講義内容と方法の説明
- 2回：受講者による発表（1）
- 3回：受講者による発表（2）
- 4回：受講者による発表（3）
- 5回：受講者による発表（4）
- 6回：受講者による発表（5）
- 7回：受講者による発表（6）
- 8回：受講者による発表（7）
- 9回：受講者による発表（8）
- 10回：受講者による発表（9）
- 11回：受講者による発表（10）
- 12回：受講者による発表（11）
- 13回：受講者による発表（12）
- 14回：まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備を怠らないこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表(複数回):70% 最終レポート割合：30%

最終レポートはかならず提出すること。

テキスト / Textbooks

- Gallagher, S. Performance/Art: The Venetian Lectures Mimesis International 2022 8869773361 -
 Kemp, R. Embodied Acting Routledge 2012 041550788 -
 Newen, A. et al. The Oxford Handbook of 4E Cognition Oxford 2018 0198735413 -
 それ以外は随時指定します。

参考文献 / Readings

- Steven M. Cahn Philosophy of Education: The Essential Texts Routledge 2009 9780415994408
 Harvey Siegel The Oxford Handbook of Philosophy of Education Oxford 2012 0199915725
 Randall Curren Philosophy of Education: An Anthology Wiley-Blackwell 2006 9781405130233

Nicholson, David W. Philosophy of Education in Action Routledge 2016 9781138843042
Bailey, R. et al. (ed.) The Sage handbook of Philosophy of Education Sage 2010 9781446270417
それ以外は随時指定します。

教育哲学研究 2

Studies in Philosophy of Education 2

教育哲学

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF202
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「教育哲学特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

「人間にとってそもそも教育とは何か」という教育哲学の根本問題について、学生による発表と文献講読を通して考察してゆきます。

In this course, through presentations and literature readings, students consider the fundamental issues of educational philosophy: "At its heart, what is education to human beings?"

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、「教育とは何か」について哲学的に考察していきます。教育哲学、教育政策の原理、教育倫理、道徳教育、特別支援教育の哲学といったテーマを扱いますが、基本的に受講者それぞれによる発表とディスカッションを中心に進めていきます。今年度は、身体性認知やパフォーマンスの哲学をテーマにします。教科書として、The Oxford Handbook of 4E Cognition を挙げておきますが、受講者から共同して文献講読を行いたい希望があった場合には、それを取り上げます。また修士論文・博士論文に関連する発表を定期的に行います。

This course is a philosophical study of "what education is. Themes such as philosophy of education, principles of

educational policy, educational ethics, moral education, and philosophy of special-needs education will be covered, basically through presentations and discussions by each participant. This year, we will focus on the philosophy of embodied cognition and performance. The Oxford Handbook of 4E Cognition will be listed as the textbook, but if students wish to collaborate on literature reading, that will be taken up as well. Students will also give periodic presentations related to their master's thesis or doctoral dissertation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：講義内容と方法の説明
- 2回：受講者による発表（1）
- 3回：受講者による発表（2）
- 4回：受講者による発表（3）
- 5回：受講者による発表（4）
- 6回：受講者による発表（5）
- 7回：受講者による発表（6）
- 8回：受講者による発表（7）
- 9回：受講者による発表（8）
- 10回：受講者による発表（9）
- 11回：受講者による発表（10）
- 12回：受講者による発表（11）
- 13回：受講者による発表（12）
- 14回：まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備を怠らないこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表(複数回):70% 最終レポート割合：30%

最終レポートはかならず提出すること。

テキスト / Textbooks

Gallagher, S. Performance/Art: The Venetian Lectures Mimesis International 2022 8869773361 -
 Kemp, R. Embodied Acting Routledge 2012 041550788 -
 Newen, A. et al. The Oxford Handbook of 4E Cognition Oxford 2018 0198735413 -
 それ以外は随時指定します。

参考文献 / Readings

Steven M. Cahn Philosophy of Education: The Essential Texts Routledge 2009 9780415994408
 Harvey Siegel The Oxford Handbook of Philosophy of Education Oxford 2012 0199915725
 Randall Curren Philosophy of Education: An Anthology Wiley-Blackwell 2006 9781405130233

Nicholson, David W. Philosophy of Education in Action Routledge 2016 9781138843042
Bailey, R. et al. (ed.) The Sage handbook of Philosophy of Education Sage 2010 9781446270417
それ以外は随時指定します。

日本教育史研究 1

Studies in the Hist. of Educ. in Japan 1

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF203

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「日本教育史特殊研究」

後期課程用科目コード： PF303

授業の目標 / Course Objectives

日本の教育に関わる歴史的視点を養い、研究到達点の確認、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術、史料読解に関わる知識などを習得する。

The first objective of this class is to develop a historical perspective on Japanese education. Secondly, it aims to confirm the achievement of research in the discipline, to learn how to set up a research agenda, to acquire basic techniques for writing research papers, and to acquire knowledge about decoding historical documents.

授業の内容 / Course Contents

日本近代の教育制度政策史や教育に関わる、あるいは教育を取り巻く諸事実に関する研究を検討し、教育史研究における研究到達点、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術などを習得する。テキストや論文を読み、関連する史料を収集し、読解するなどの作業を通して、受講者の課題意識、方法意識を明確にする。

「教育」が形作られていく過程を、幅広い観点から捉え、検証することを心がけたい。

In this class, we will examine research on the history of Japan's modern education system, the history of education policy, and various facts surrounding education. In this class, students will learn the research objectives

of the history of education research, how to set research questions, and the basic techniques for writing research papers. The purpose of this class is to clarify the students' awareness of issues and methods through reading texts, articles, and related historical materials. In this class, students will be expected to grasp and examine the process of shaping "education" from a wide range of perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読と史料読解 1
- 3回：文献講読と史料読解 2
- 4回：文献講読と史料読解 3
- 5回：文献講読と史料読解 4
- 6回：文献講読と史料読解 5
- 7回：文献講読と史料読解 6
- 8回：文献講読と史料読解 7
- 9回：文献講読と史料読解 8
- 10回：文献講読と史料読解 9
- 11回：文献講読と史料読解 10
- 12回：文献講読と史料読解 11
- 13回：文献講読と史料読解 12
- 14回：文献行動および史料読解の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読文献をあらかじめ読み込んでおくこと。

関連資料の検索、調査、確認などを行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:40% 発表および資料の内容:40% 質疑への参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

花井信 『論文の手法 日本教育史研究法序説』 川島書店 2000年 9784761007188

古田島洋介 『日本近代史を学ぶための文語文入門 漢文訓読体の地平』 吉川弘文館 2013年
9784642080934

佐藤秀夫 『教育の文化史』1（学校の構造） 阿吽社 2004年 9784900590809

佐藤秀夫 『教育の文化史』2（学校の文化） 阿吽社 2005年 9784900590816

日本教育史研究 2

Studies in the Hist. of Educ. in Japan 2

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「日本教育史特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

日本の教育に関わる歴史的視点を養い、歴史的視点を持った自らの課題設定を行い、関連する研究到達点の確認、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術、史料読解に関わる知識などを習得する。

The first objective of this class is for the students to develop a historical perspective on their own topic and to set their own issues from a historical perspective. Secondly, the course aims to help students confirm their research achievements, learn how to set up a research theme, acquire basic skills for writing a research paper, and acquire knowledge about deciphering historical documents.

授業の内容 / Course Contents

受講者の関心に基づく日本教育史上の諸問題を検討する。春学期に習得したことを踏まえて、受講者が選択した課題に関する発表、質疑応答を重ねる。それらの作業を通して、受講者の課題意識のオリジナリティを確認し、研究方法を磨いてゆく。春学期同様に、「教育」が形作られていく過程を幅広い観点から捉えることを心がけつつ、史料を通じて自分の仮説を実証することを目指したい。

Students will examine various issues in the history of Japanese education based on their interests. Students will conduct research on documents and historical materials, as well as make presentations and engage in question-

and-answer sessions on their own topics. Through such work, students will confirm the uniqueness of their own awareness of issues and develop and refine their research methods. Students will be expected to substantiate their hypotheses through historical documents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読と史料読解 1
- 3回：文献講読と史料読解 2
- 4回：文献講読と史料読解 3
- 5回：文献講読と史料読解 4
- 6回：文献講読と史料読解 5
- 7回：文献講読と史料読解 6
- 8回：文献講読と史料読解 7
- 9回：文献講読と史料読解 8
- 10回：文献講読と史料読解 9
- 11回：文献講読と史料読解 10
- 12回：文献講読と史料読解 11
- 13回：文献講読と史料読解 12
- 14回：各自のテーマの総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読文献をあらかじめ読み込んでおくこと。

講読文献、発表に関連する資史料の検索、調査、確認などを行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:40% 発表および資料の内容:40% 質疑への参加:20%

テキスト / Textbooks

特にテキストは指定しない。各自のテーマに合わせて指示する。

参考文献 / Readings

久保義三・米田俊彦・駒込武・児美川孝一郎編著 『現代教育史事典』 東京書籍 2001年 9784487796496
 米田俊彦 『近代日本教育関係法令体系』 港の人 2009年 9784896292084

教育社会学研究 1

Studies in Sociology of Education 1

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育社会学特殊研究」
後期課程用科目コード： PF307

授業の目標 / Course Objectives

内外の教育社会学系論文の批判的読解力を向上させること

The class will improve students' critical reading abilities regarding domestic and foreign academic papers related to Sociology of Education.

授業の内容 / Course Contents

内外の教育社会学や応用演劇の講読する力を養うこと

Students will read academic literature related to sociology of education and applied theater, both domestic and international.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：文献講読
- 3 回：文献講読
- 4 回：文献講読

5回：文献講読
 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連する文献も積極的に探し出しつつ、参加者間でシェアしていけるよう、受講者相互に研究能力を高めあえるような関係を常に築いていかれたい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告、ディスカッション等の授業内活動:100%

テキスト / Textbooks

相談して決定する

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する

教育社会学研究 2

Studies in Sociology of Education 2

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF208
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「教育社会学特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

内外の教育社会学系論文の批判的読解力を向上させること

The class will improve students' critical reading abilities regarding domestic and foreign academic papers related to Sociology of Education.

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、内外の教育社会学や応用演劇の読解する力を養うこと

Students will read academic literature related to sociology of education and applied theater, both domestic and international.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：文献講読
- 3 回：文献講読
- 4 回：文献講読
- 5 回：文献講読

- 6回：文献講読
 7回：文献講読
 8回：文献講読
 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連する文献を積極的に探し出しつつ、参加者間でシェアしていけるよう、受講者相互に研究能力を高めあえるような関係を常に築いていかれたい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告、ディスカッション等の授業内活動:100%

テキスト / Textbooks

相談して決定するが、応用文献をセレクトしたい

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する

教育心理学研究 1

Studies in Educational Psychology 1

実践分析入門：学習と発達に対する社会文化歴史的アプローチ

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育心理学特殊研究」

後期課程用科目コード： PF309

授業の目標 / Course Objectives

人間の発達と学習の過程を研究するための分析手法として、今期は実践分析について学ぶ。特に専門家 (professional) になる過程について検討したい。現代社会は常に学習を求められる生涯学習社会であると言われるが、そうした状況において人が専門家になるとはどのようなことをいうのであろうか。この点について既に基本文献として定着しているショーン (Donald A. Schön) の「省察的実践とは何か：プロフェッショナルの行為と思考 (The Reflective Practitioner)」を取り上げ、批判的に検討していく。本書は技術者、教師、科学者、建築家、経営者など、さまざまな領域の実践専門家の技 (art) の学習を考察する上で興味深い問いを提起している。現在では、専門家になること、熟達することが集合的で、協働的な「もつれ (entanglement)」と考えられるようになり、省察 (reflection) も回折 (diffraction) として捉え直されるなど、ポストヒューマニズム的な潮流の中で実践の理解も変化しつつある。こうした潮流を理解する上でも改めて既に古典となった本書を、さまざまな領域の学習過程に関心を持つ初学者が検討することには一定の意味があろう。履修者には自らの研究課題について実践分析を進める基礎的な知識をつけることが目標となる。

In this term, we will study practice analysis as an analytical method to study the process of human development and learning. In particular, we would like to study the process of becoming a professional. Modern society is said to be a lifelong learning society that demands constant learning, but what does it mean for a person to become a professional in such a situation? In this regard, we will take up Donald A. Schön's "The Reflective Practitioner: How professionals think in action," which has already been established as an essential reference work, and critically examine it. The book raises interesting questions in examining the learning of the art of practicing professionals in various domains, such as engineers, teachers, scientists, architects, and managers. Today, becoming an expert or becoming proficient is considered to be a collective, collaborative "entanglement," and reflection is being reinterpreted as diffraction. In order to understand these trends, it will make a certain amount of sense for beginning students interested in learning processes in various fields to review this book, which has already become a classic. The goal of the course is to provide students with the basic knowledge to analyze their own research projects.

授業の内容 / Course Contents

学習と発達に関わる共通課題論文の検討を中心に、必要に応じて履修者の研究報告、データセッションも随時行われる。共通課題論文は輪番での報告が求められるので、十分時間を掛けて事前準備をしてほしい。授業後には総括レポートを提出し、理解の確認を行う。海外ゲストなどが授業に参加し、特別授業を行うこともある。

The class consists of (1) a discussion of the papers concerning learning and development and (2) research studies and data sessions that are freely set according to the interests of each student. Since the common assignment will be presented in advance, students will read it to confirm unclear points and deepen their understanding through discussions. In the research review, students will introduce the papers they are interested in and the research studies they are currently working on.

Talk and think deeply in this community of research practice. Guests, including overseas researchers, will join our discussion anytime.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：論文検討あるいは研究検討
- 3回：論文検討あるいは研究検討
- 4回：論文検討あるいは研究検討
- 5回：論文検討あるいは研究検討
- 6回：論文検討あるいは研究検討
- 7回：論文検討あるいは研究検討
- 8回：論文検討あるいは研究検討
- 9回：論文検討あるいは研究検討
- 10回：論文検討あるいは研究検討
- 11回：論文検討あるいは研究検討
- 12回：論文検討あるいは研究検討
- 13回：論文検討あるいは研究検討
- 14回：論文検討あるいは研究検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に検討論文の講読と研究報告準備が必要である。また、授業終了時には授業内容を各自が総括したレポートの提出が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献報告（複数回）：50% 研究報告：20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

ドナルド.A.ショーン 『省察的実践とは何か』 鳳書房 2007 9784902455113 -

検討予定の本は現在絶版であり、授業開始時に入手できない場合には、複写物を使用する予定である。また、履修者の関心によっては、相談の上購読テキストを変更したり、関連する日本語、英語の文献を読むことがある。

参考文献 / Readings

佐伯胖 他 『心理学と教育実践の間で』 東京大学出版会 2013 9784130065092

石黒広昭 『社会文化的アプローチの実際』 北大路書房 2004 9784762823893

石黒広昭・亀田達也 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

その他 / Others

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

教育心理学研究 2

Studies in Educational Psychology 2

社会環境デザインとしての学習：学習と発達に対する社会文化歴史的アプローチ

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF210
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「教育心理学特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

人間の発達と学習の過程に対して、社会文化歴史的アプローチの立場から学ぶ。特に、今期は「社会環境デザインとしての学習」について検討する。従来学習は心理学や教育学において個人的な営為であると考えられることが多かった。しかし、実際の学習は社会的で物質的な絡み合いの中で生じており、個人の内的心理過程にのみ焦点を当てた分析では捉えることはできない。学習が持つ本質的社会性は、これまで個人能力の問題として捉えられてきた学力や知性、人格が社会的なものであることを示す。現代の社会では残念ながら社会的公正さ (social justice) が保障されているとはいいがたく、そのことが人々を周辺化し、社会的に不利な状況を維持更新することになっている。国際紛争や戦争の背後には教育における不平等や不公正がある。履修者には、こうした現状を認識し、どのように学習における社会的公正を実現できるのか、新たな社会環境デザインを構想することが求められる。

The course will study human development and learning from a socio-cultural-historical approach. In particular, this term will examine "learning as social environment design. Traditionally, learning has been considered an individual process in psychology and pedagogy. However, actual learning occurs in the context of social and

material entanglements and cannot be captured by analyses that focus only on the internal psychological processes of individuals. The inherent social nature of learning indicates that academic ability, intelligence, and personality, which have been viewed as matters of individual ability, are social. Unfortunately, social justice is not guaranteed in today's society, which makes people peripheral and maintains and renews social disadvantages. Inequality and injustice in education are behind international conflicts and wars. Students are expected to recognize this current situation and to envision a new social environment design to see how social justice in learning can be achieved.

授業の内容 / Course Contents

授業では「社会環境デザインとしての学習」に関連する文献を批判的に検討し、現代社会の現状、教育、学習、社会的公正などについて学ぶ。その他、履修者の研究報告、データセッション、海外研究者などのゲストを交えた研究検討も随時行う。授業終了時には総括レポートの提出が求められる。

The class will critically review the literature on "learning as social environment design" to learn about the current state of contemporary society, education, learning, and social injustice. In addition, we will also have research reports by students, data sessions, and research discussions with overseas researchers and other guests as needed. Students must submit a summary report at the end of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：論文検討あるいは研究検討
- 3回：論文検討あるいは研究検討
- 4回：論文検討あるいは研究検討
- 5回：論文検討あるいは研究検討
- 6回：論文検討あるいは研究検討
- 7回：論文検討あるいは研究検討
- 8回：論文検討あるいは研究検討
- 9回：論文検討あるいは研究検討
- 10回：論文検討あるいは研究検討
- 11回：論文検討あるいは研究検討
- 12回：論文検討あるいは研究検討
- 13回：論文検討あるいは研究検討
- 14回：論文検討あるいは研究検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に検討論文の講読と研究報告準備が必要である。

履修前あるいは早期に文献に目を通しておいてほしい。

また、授業後には授業内容を各自が総括したレポートの提出が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告:40% 論文検討活動:30%

最終レポート割合 :30%

テキスト/ Textbooks

基本テキストとして用いる「竹内・石黒 (2023) 社会環境デザインとしての学習：学習研究はなぜ公正と権力を問わなければならないのか？ 認知科学」はオンラインで入手可能である

(<https://doi.org/10.11225/cs.2022.089>)。取り上げる文献は日本語あるいは英語である。

参考文献 / Readings

佐伯胖 他 『心理学と教育実践の間で』 東京大学出版会 2013 9784130065092

石黒広昭 『社会文化的アプローチの実際』 北大路書房 2004 9784762823893

石黒広昭・亀田達也 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

Komatsu et al. Arts-Based Method in Education Research in Japan. Brill Sense 2022 9789004514126

参考文献は基本文献を理解するための参考となるものである。

その他/ Others

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

教育方法学研究 1

Studies in Curriculum, Instruction and Assessment 1

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF211
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育方法特殊研究」
後期課程用科目コード： PF311

授業の目標 / Course Objectives

教育方法学がその射程とする、授業論、カリキュラム論、学力論、教育評価論などの、基本的な理論枠組みを獲得する。その上で、それぞれの研究テーマ、問題意識を、教育方法学の理論的枠組みから照らし返すことによって、一層深めることができる。

This course aims for students to acquire the basic frameworks of theories related to the study of teaching methods, such as class theory, curriculum theory, learning ability theory, and educational evaluation theory. Building on those, students can then deepen their awareness of the issues and of each research theme by clarifying them using the theoretical frameworks of the study of teaching methods.

授業の内容 / Course Contents

ポスト近代社会において、初等教育から高等教育にいたるまで、さまざまな能力が、経済先進諸国で共通して教育目標に掲げられ、評価されるようになってきた。このような「新しい能力」の登場は、OECD が実施する PISA の影響が大きい。これまでの知識重視型とも、態度重視型とも異なる学力／能力が、現代に生きる子どもから成人に至るまですべての人間に必要とされているのである。この「新しい能力」の内実とそれに基づいた

国内外の教育改革の動向およびそのような動向に対する批判的検討を、本研究では行いたい。

In post-modern society, reaching from primary education to higher education, various common proficiencies have been put forward as educational goals and been appraised in economically advanced countries. The appearance of these “new proficiencies” have been significantly influenced by the Programme for International Student Assessment (PISA) conducted by the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD). Also, learning abilities and proficiencies different from both the knowledge emphasizing-style and the attitude emphasizing-style, used until now, are necessary for people from children through adults in the current age. The essence of these “new proficiencies,” educational revolution movements in Japan and abroad, and critical consideration towards them is examined through this research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：研究の進め方
- 2 回：文献講読・発表と議論
- 3 回：文献講読・発表と議論
- 4 回：文献講読・発表と議論
- 5 回：文献講読・発表と議論
- 6 回：文献講読・発表と議論
- 7 回：文献講読・発表と議論
- 8 回：個別テーマ発表
- 9 回：個別テーマ発表
- 10 回：個別テーマ発表
- 11 回：個別テーマ発表
- 12 回：個別テーマ発表
- 13 回：個別テーマ発表
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストの論文あるいは講義中に配布した資料などを毎回必ず読み、議論したい点などをもって毎回の授業に臨むこと

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの発表:30% ゼミでの議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

- 伊藤実歩子 『変動する大学入試』 大修館書店 2020 4469222722 ○
- 伊藤実歩子 『変動する総合・探究学習』 大修館書店 2023 9784469222784 ○

参考文献 / Readings

そのほかは適宜指示する

その他/ Others

受講者数や受講生の様子を見て、講義内容などを変更する可能性がある

教育方法学研究 2

Studies in Curriculum, Instruction and Assessment 2

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF212
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育方法特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

教育方法学がその射程とする、授業論、カリキュラム論、学力論、教育評価論などの、基本的な理論枠組みを獲得する。その上で、それぞれの研究テーマ、問題意識を、教育方法学の理論的枠組みから照らし返すことによって、一層深めることができる。

This course aims for students to acquire the basic frameworks of theories related to the study of teaching methods, such as class theory, curriculum theory, learning ability theory, and educational evaluation theory. Building on those, students can then deepen their awareness of the issues and of each research theme by clarifying them using the theoretical frameworks of the study of teaching methods.

授業の内容 / Course Contents

ポスト近代社会において、初等教育から高等教育にいたるまで、さまざまな能力が、経済先進諸国で共通して教育目標に掲げられ、評価されるようになってきた。このような「新しい能力」の登場は、OECD が実施する PISA の影響が大きい。これまでの知識重視型とも、態度重視型とも異なる学力／能力が、現代に生きる子どもから成人に至るまですべての人間に必要とされているのである。この「新しい能力」の内実とそれに基づいた国内外の教育改革の動向およびそのような動向に対する批判的検討を踏まえ、研究 2 では、とりわけ高大接続

の問題について議論していきたい。

In post-modern society, reaching from primary education to higher education, various common proficiencies have been put forward as educational goals and been appraised in economically advanced countries. The appearance of these “new proficiencies” have been significantly influenced by the Programme for International Student Assessment (PISA) conducted by the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD). Also, learning abilities and proficiencies different from both the knowledge emphasizing-style and the attitude emphasizing-style, used until now, are necessary for people from children through adults in the current age. The essence of these “new proficiencies,” educational revolution movements in Japan and abroad, and critical consideration towards them is examined through this research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：研究の進め方
- 2回：文献講読・発表と議論
- 3回：文献講読・発表と議論
- 4回：文献講読・発表と議論
- 5回：文献講読・発表と議論
- 6回：文献講読・発表と議論
- 7回：文献講読・発表と議論
- 8回：個別テーマ発表
- 9回：個別テーマ発表
- 10回：個別テーマ発表
- 11回：個別テーマ発表
- 12回：個別テーマ発表
- 13回：個別テーマ発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストの論文あるいは講義中に配布した資料などを毎回必ず読み、議論したい点などをもって毎回の授業に臨むこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミでの発表:30% ゼミでの議論への参加:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

伊藤実歩子編著 『変動する大学入試』 大修館出版 2020 9784469222722 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

受講者数や受講生の様子を見て、講義内容などを変更する可能性がある

社会教育研究 1

Studies in Adult and Community Education 1

辻浩の社会教育研究に学ぶ

和田 悠 (WADA YU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF213
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「社会教育特殊研究」
後期課程用科目コード：	PF313

授業の目標 / Course Objectives

辻浩の社会教育研究に学ぶことを通じて、社会教育を研究するにあたっての理論や方法を獲得する。そのなかでも社会教育研究の一環としての教育福祉論についての理解や認識を深める。

Through studying Tsuji Yutaka's research, this course aims to help students learn about theories and methods for researching adult and community education. In particular, students will deepen their understanding of educational welfare approach.

授業の内容 / Course Contents

辻浩『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』（旬報社、2022 年）を検討し、教育福祉論の歴史、理論と方法について学びます。その後は同書の内容に関連するいくつかの論文を検討します。検討する論文に関しては学生の興味関心や研究テーマに応じて決めていきます。

By examining Tsuji Yutaka's book "Social Education of Symbiosis and Self-governance': Polyphony of Educational Welfare and Community Building (Jyunposya, 2022), students will study the history, theories and

methods of adult and community education. After that, we will review several articles related to the content of the book. The papers to be reviewed will be decided according to the interests and research themes of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 3回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 4回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 5回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 6回：関連文献講読
- 7回：関連文献講読
- 8回：関連文献講読
- 9回：関連文献講読
- 10回：関連文献講読
- 11回：関連文献講読
- 12回：関連文献講読
- 13回：関連文献講読
- 14回：関連文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての発表・授業への取り組み・コメントなどにおける貢献度:100%

テキスト / Textbooks

辻浩 『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』 旬報社 2022

9784845117765 ○

参考文献 / Readings

社会教育研究 2

Studies in Adult and Community Education 2

大門正克の「生存」の歴史学に学ぶ

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF214

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「社会教育特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

大門正克が提唱している「生存」の歴史学の特徴や方法について考察を深め、それを自らの研究に活かせるようにする。

This course aims to help students learn about characteristics and methods of the historical study of "living" advocated by Masakatsu Okado, and apply it to one's own research.

授業の内容 / Course Contents

大門正克・長谷川貴彦編著『「生きること」の問い方—歴史の現場から』（日本経済評論社、2022 年）を精読する。適宜、修士論文執筆等に向けての個人研究発表の機会も設ける。

Students will intensively read "Questioning "Living": From the Field of History" edited by Okado Masakatsu and Hasegawa Takahiko (Nihon Keizai Hyoronsha, 2022). There will also be opportunities for students to present their research in preparation for writing their master's thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：『「生きること」の問い方』の検討
 3回：『「生きること」の問い方』の検討
 4回：『「生きること」の問い方』の検討
 5回：『「生きること」の問い方』の検討
 6回：『「生きること」の問い方』の検討
 7回：『「生きること」の問い方』の検討
 8回：『「生きること」の問い方』の検討
 9回：『「生きること」の問い方』の検討
 10回：『「生きること」の問い方』の検討
 11回：個人研究報告
 12回：個人研究報告
 13回：個人研究報告
 14回：個人研究報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての発表・授業への取り組み・コメントなどにおける貢献度:100%

テキスト / Textbooks

大門正克・長谷川貴彦 『「生きること」の問い方』 日本経済評論社 2022 9784818825956 ○

参考文献 / Readings

比較教育学研究 1

Studies in Comparative Education 1

人の移動と教育

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF215

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「比較教育学特殊研究」

後期課程用科目コード：PF315

授業の目標 / Course Objectives

比較教育学研究の論文講読の技能習得・向上を目指すとともに、参加学生間で各人の研究テーマの共有をはかる。

Along with aiming to acquire and improve their skills of reading academic papers in comparative educational research, students each share their individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

演習形式での文献講読を行う。

各回の担当学生は、文献の概要をまとめるとともに、その内容をふまえた発展調査を事前に行い、成果を授業時間に報告する。この報告をもとに、質疑応答に続いてディスカッションを行う。

今年度は前年度に引き続き、「教育と植民地・ポスト植民地主義」の問題を比較教育学の視点から取り上げたい。文献の候補として Malini Schueller 著 Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) または Charlie Veric 著 Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) を考えている。

担当は毎週1回ずつのローテーションを予定しているが、参加人数によって調整の可能性がある。

Students will do literature readings in a seminar format.

Each discussion leader, along with summarizing concepts from the literature, conducts an extended survey in advance based on the contents of those readings and reports the results. Along with this report, students continue question-and-answer sessions and carry out discussions.

This academic year aims to continue from the previous year, taking on the issue of “education and colonialism/postcolonialism” from a comparative education perspective. Malini Schueller’s Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) and Charlie Veric’s Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) are being considered as potential literature.

Students in charge rotate each week, but this might be adjusted depending on the number of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：文献講読 1
- 3回：文献講読 2
- 4回：文献講読 3
- 5回：文献講読 4
- 6回：文献講読 5
- 7回：文献講読 6
- 8回：文献講読 7
- 9回：文献講読 8
- 10回：文献講読 9
- 11回：文献講読 10
- 12回：文献講読 11
- 13回：文献講読 12
- 14回：文献講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

全員が事前に精読する。各回の担当学生は文献の概要をまとめる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の講読・討論への参加:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

内容は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

比較教育学研究 2

Studies in Comparative Education 2

人の移動と教育

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF216
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「比較教育学特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

比較教育学研究の論文講読の技能習得・向上を目指すとともに、参加学生間で各人の研究テーマの共有をはかる。

Along with aiming to acquire and improve their skills of reading academic papers in comparative educational research, students each share their individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

演習形式での文献講読を行う。

各回の担当学生は、文献の概要をまとめるとともに、その内容をふまえた発展調査を事前に行い、成果を授業時間に報告する。この報告をもとに、質疑応答に続いてディスカッションを行う。

今年度は前年度に引き続き、「教育と植民地・ポスト植民地主義」の問題を比較教育学の視点から取り上げたい。文献の候補として Malini Schueller 著 Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) または Charlie Veric 著 Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) を考えている。

担当は毎週 1 回ずつのローテーションを予定しているが、参加人数によって調整の可能性がある。

Students will do literature readings in a seminar format.

Each discussion leader, along with summarizing concepts from the literature, conducts an extended survey in advance based on the contents of those readings and reports the results. Along with this report, students continue question-and-answer sessions and carry out discussions.

This academic year aims to continue from the previous year, taking on the issue of “education and colonialism/postcolonialism” from a comparative education perspective. Malini Schueller’s Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) and Charlie Veric's Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) are being considered as potential literature.

Students in charge rotate each week, but this might be adjusted depending on the number of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：文献講読 1
- 3 回：文献講読 2
- 4 回：文献講読 3
- 5 回：文献講読 4
- 6 回：文献講読 5
- 7 回：文献講読 6
- 8 回：文献講読 7
- 9 回：文献講読 8
- 10 回：文献講読 9
- 11 回：文献講読 10
- 12 回：文献講読 11
- 13 回：文献講読 12
- 14 回：文献講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員が事前に精読する。各回の担当学生は文献の概要をまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の講読・討論への参加:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

JF215「比較教育学研究1」から継続した内容であり、同科目のテキストの読了部分の続きから開始する。このため同科目を履修していることが望ましい。

教育思想史研究 1

Studies in the Hist.of Educ. Thought 1

明治・大正期の教育学説史：槇山栄次の検討を中心に

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF217

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育思想史特殊研究」

後期課程用科目コード：PF317

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 明治・大正期の文献の読解に習熟する。
 - (2) 授業を通して、先行研究のレビュー、先行研究の問題点の抽出、それを乗り越えるための方策の見極めといった、研究の基礎を体験的に学ぶ。
 - (3) 槇山栄次の理論と思想を理解する。
- (1) Students will become proficient in reading and understanding Meiji and Taisho period literature.
 - (2) Students will learn the basics of research through the class, such as reviewing previous research, identifying problems in previous research, and identifying measures to overcome these problems.
 - (3) Students will gain an understanding of Eiji Makiyama's theory and thought.

授業の内容 / Course Contents

- 1) 樋口勘次郎の著作を手がかりに、明治・大正期の教育方法史の課題を探る。
- 2) 槇山栄次に関する先行研究をレビューし、槇山研究の到達点を把握する。

3) 槇山栄次の著作を講読する。

1) Students will explore issues in the history of educational methods in the Meiji and Taisho periods, using the writings of Higuchi Kanjiro as a starting point.

2) Students will review previous studies on Eiji Makiyama to understand the reach of Makiyama's research.

(3) Students will review Eiji Makiyama's writings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション (1) 槇山栄次を取り上げる理由に関する説明、受講者の研究状況報告

2 回：イントロダクション (2) 導入として樋口勘次郎を取り上げる意味、先行研究の紹介、輪読する槇山の著作の決定

3 回：これまで論じられてこなかった教育史上における槇山の役割 (1) 『学習研究』の論稿から

4 回：これまで論じられてこなかった教育史上における槇山の役割 (2) 大正新教育期の実践者との関わり

5 回：樋口勘次郎『統合主義新教授法』の講読 (1)

6 回：同上 (2)

7 回：同上 (3)

8 回：院生の研究状況報告 (1)

9 回：槇山の著作の講読 (1)

※講読する著作は受講者と相談の上決定する

10 回：同上 (2)

11 回：同上 (3)

12 回：同上 (4)

13 回：院生の研究状況報告 (2)

14 回：授業のまとめ、秋学期のゼミに向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

レポーターは当該担当箇所を報告するための準備が必要となる。レポーター以外も事前に文献を読みこんで議論に参加できるように準備する必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告資料の作成、議論への貢献:70%

最終レポート割合 : :30%

テキスト / Textbooks

講読する明治・大正期の文献は、すべて国会図書館のデジタルライブラリーで閲覧可能であるので、基本的にこちらで文献を入手することになる。

参考文献 / Readings

渡辺哲男 『「国語」教育の思想：声と文字の諸相』 勁草書房 2010 9784326250653

森田伸子編 『言語と教育をめぐる思想史』 勁草書房 2013 9784326250820

森田尚人・森田伸子編 『教育思想史で読む現代教育』 勁草書房 2013 9784326250875

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023
9784771037236

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC を毎回準備すること。

教育思想史研究 2

Studies in the Hist.of Educ. Thought 2

近代仏教と教育をめぐる思想史研究：アララギ派の歌人と近代仏教の関係を中心に

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF218

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育思想史特殊研究」

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 教育思想史、教育哲学研究の最新の知見に触れる。
- (2) 近代仏教と教育をめぐる学説史的研究の必要性を理解する。

The objectives of this class are as follows.

(1) Students will be exposed to the latest knowledge in the history of educational thought and the study of educational philosophy.

(2) Students understand the need for academic and historical research on modern Buddhism and education.

授業の内容 / Course Contents

教育思想史研究の最新トピックに触れるための研究書を読む。今年度は近代仏教と教育をめぐる問題を追究するため、アララギ派の歌人と近代仏教に関する文献を講読する。

Students will read research books that will expose them to current topics in the study of the history of educational thought. This year, in order to pursue issues surrounding modern Buddhism and education, we will be lecturing on literature related to the Araragi school of poets and modern Buddhism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：夏休みの学会成果報告など
- 2回：昨年度教育思想史学会シンポジウム「近代仏教と教育」で残された課題について：倉田百三とアララギ派をめぐる問題
- 3回：『斎藤茂吉 異形の短歌』の講読 (1)
- 4回：同上 (2)
- 5回：同上 (3)
- 6回：斎藤茂吉の歌論を読む (1)
- 7回：同上 (2)
- 8回：同上 (3)
- 9回：同上 (4)
- 10回：三井甲之の歌論を読む (1)
- 11回：同上 (2)
- 12回：倉田百三の『アララギ』所収論稿を読む
- 13回：保田與重郎のアララギ派批判を読む (1)
- 14回：同上 (2)、授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワー等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) 課題文献を事前に熟読のこと。
- (2) レポーターはレジюмеを作成して報告すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献、報告レジюмеの完成度:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

品田悦一 『斎藤茂吉 異形の短歌』 新潮社 2014 9784106037412 ○

上記以外の講読文献は絶版となっているので、国会図書館のデジタルライブラリー経由で入手していただくか、古書を購入していただく。

参考文献 / Readings

品田悦一 『万葉集の発明：国民国家と文化装置としての古典 (新装版)』 新曜社 2019 9784788516342

品田悦一 『斎藤茂吉:あかあかと一本の道とほりたり』 ミネルヴァ書房 2010 9784623057825

前田英樹 『保田與重郎の文学』 新曜社 2023 9784103515524

千葉俊二・坪内祐三編 『日本近代文学評論選 明治・大正篇』 岩波書店 2003 9784003117118

その他の参考文献は授業中に提示する。

教育学特殊研究 1

Studies in Educational Research 1

尊厳概念をめぐる最新の研究状況を学ぶ

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF231
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「教育学演習 1 A」

授業の目標 / Course Objectives

尊厳概念に関する最新研究を学び、その概念的意義を多角的に考察することで、教育や福祉の文脈における尊厳の重要性を確認しながら、人間の尊厳が直面する新たな課題に対する洞察力を高める。

By studying the latest research on the concept of dignity and examining its conceptual significance from multiple perspectives, the program will confirm the importance of dignity in the context of education and welfare, while enhancing insight into the new challenges facing human dignity.

授業の内容 / Course Contents

本授業の目標は、尊厳概念をめぐる最新の研究動向を多角的に理解することです。尊厳概念は、教育、福祉、医療や技術革新など、人間を対象とする様々な領域で中心的な位置付けを占めています。さらに、動物やロボットなど非人間的存在にも適用可能とする研究も現れています。本授業では、こうした尊厳概念の広がりやを反映した文献を精読し、尊厳の哲学的根拠、定義の変遷、現代社会における意義や課題について検討します。

The goal of this course is to provide students with a multifaceted understanding of the latest research trends surrounding the concept of dignity. The concept of dignity occupies a central position in a variety of fields that

deal with humans, such as education, welfare, medicine, and technological innovation. In addition, research has emerged to apply the concept to non-human entities such as animals and robots. In this class, we will examine the philosophical basis of dignity, the evolution of its definition, and its significance and challenges in contemporary society through a close reading of literature reflecting the expansion of this concept of dignity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献購読と資料読解
- 3回：文献購読と資料読解
- 4回：文献購読と資料読解
- 5回：文献購読と資料読解
- 6回：文献購読と資料読解
- 7回：文献購読と資料読解
- 8回：文献購読と資料読解
- 9回：文献購読と資料読解
- 10回：文献購読と資料読解
- 11回：文献購読と資料読解
- 12回：文献購読と資料読解
- 13回：文献購読と資料読解
- 14回：総括と討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、文献の精読を通じて、その分野の先行研究について理解を深めることを目的とします。

授業の進め方は以下の通りです。

毎回の授業前に、担当者は指定箇所についてレジюмеを作成しておく。報告者以外の受講生も文献の指定箇所を読み、内容を理解しておく。

授業では、担当者が作成したレジюмеに基づき、担当箇所の内容を報告する。他の受講生は、報告に関する質疑応答に参加する。

報告後は、教員および受講生全員で討議を行う。文献の論旨や方法、知見について議論し、理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジюме作成を含む報告（複数回）:60% 討論への積極的参加:40%

テキスト / Textbooks

加藤 泰史：編 『尊厳概念のダイナミズム』 法政大学出版社 2017 9784588150869 -

適宜コピー等を配布するので、各自で文献を用意する必要はない。

参考文献 / Readings

教育学特殊研究 2

Studies in Educational Research 2

競争の倫理学

堀内 進之介 (HORIUCHI SHINNOSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF232
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育学演習 1 B」

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における競争と倫理の関係を多角的に検討し、生産的な議論を展開する素養を身につける。

Examine the relationship between competition and ethics in today's society from multiple perspectives and develop a predisposition for productive discussion.

授業の内容 / Course Contents

競争は社会経済活動に不可欠な要素である一方、その倫理性については賛否両論があります。本講義では、競争を支持する側と批判する側の立場を概観したうえで、競争と倫理の関係を考察します。

いくつかの文献の中から必要と思われる箇所を、参加者と相談の上、精読し、議論します。

While competition is an essential element of social and economic activity, its ethicality is controversial. In this lecture, we will examine the relationship between competition and ethics after reviewing the positions of those who support and those who criticize competition.

We will read closely and discuss, in consultation with participants, passages from several literature sources as deemed necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：文献購読と資料読解
 3回：文献購読と資料読解
 4回：文献購読と資料読解
 5回：文献購読と資料読解
 6回：文献購読と資料読解
 7回：文献購読と資料読解
 8回：文献購読と資料読解
 9回：文献購読と資料読解
 10回：文献購読と資料読解
 11回：文献購読と資料読解
 12回：文献購読と資料読解
 13回：文献購読と資料読解
 14回：総括と討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は、文献の精読を通じて、その分野の先行研究について理解を深めることを目的とします。

授業の進め方は以下の通りです。

毎回の授業前に、担当者は指定箇所についてレジюмеを作成しておく。報告者以外の受講生も文献の指定箇所を読み、内容を理解しておく。

授業では、担当者が作成したレジюмеに基づき、担当箇所の内容を報告する。他の受講生は、報告に関する質疑応答に参加する。

報告後は、教員および受講生全員で討議を行う。文献の論旨や方法、知見について議論し、理解を深める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジюме作成を含む報告 (複数回) :60% 討論への積極的参加:40%

テキスト / Textbooks

- 神代 健彦 『「生存競争」教育への反抗』 集英社新書 2020 4087211290 ○
 井上 義朗 『二つの「競争」—競争観をめぐる現代経済思想』 講談社現代新書 2012 4062881748 ○
 クリストフ・リュトゲ 『「競争」は社会の役に立つのか:競争の倫理入門』 慶應義塾大学出版会 2020
 9784766426380 ○

参考文献 / Readings

教育学特殊研究 3

Studies in Educational Research 3

教科教育史研究

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF233

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学演習 2 A」

授業の目標 / Course Objectives

教科教育の歴史を、教科書、試験問題、実践者による記録等を用いて、教育史的アプローチにより分析する方法を学ぶ。

Students in this course are expected to gain understanding of school curriculum history in modern Japan and will study methods for this subject through educational history research investigating textbooks, entrance examination questions, and others.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、日本の学校教育における教科教育史を扱った先行研究の整理・検討を文献講読の形で進めた上で、受講者ごとにテーマを設定して資料を用いた分析を行い、各自発表を行っていく。

扱う教科教育史は、初等教育に限らず、中等教育における教科教育史についても扱うことを予定している。また、テーマに即した資料調査方法について紹介し、可能ならば、専門図書館の見学・利用なども行う。

The course reviews preceding studies of school curriculum history in modern Japan. Students are expected to engage in a discussion of the report by a designated reporter. They are also expected to engage in a report of

their own theme concerning school curriculum history in modern Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業担当者による発題）
- 2回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（1）
- 3回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（2）
- 4回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（3）
- 5回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（4）
- 6回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（5）
- 7回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（6）
- 8回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（7）
- 9回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（8）
- 10回：教科教育史に関する先行研究の文献講読（9）
- 11回：受講者の設定したテーマでの発表（1）
- 12回：受講者の設定したテーマでの発表（2）
- 13回：受講者の設定したテーマでの発表（3）
- 14回：まとめ，ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

先行研究の文献講読については，受講者で分担して発表を進めていくが，扱う文献については発表者以外にも各自読んでおくこと。また自分の設定したテーマでの発表は，各自準備を進めておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内における発表（複数回）：70% 授業への取り組み，コメントなどにおける貢献度：30%

テキスト / Textbooks

教科書は特に指定しない。

参考文献 / Readings

参考文献は授業の中で随時指示する。

教育学特殊研究 4

Studies in Educational Research 4

マイノリティおよび先住民のための教育

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF234

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学演習 2 B」

授業の目標 / Course Objectives

世界のマイノリティおよび先住民のための教育の現状を理解する。その際、学校教育だけでなく、社会教育、特に図書館の果たす役割に注目する。

To understand the current status of the education for minority and indigenous peoples in the world. The understanding should not be limited to the school education and should extend to the social education and the role of the library.

授業の内容 / Course Contents

日本語と英語の文献の講読を通して、世界各国のマイノリティおよび先住民のための教育に関する理解を得る。

Understanding the education for minority and indigenous peoples in the world, through reading papers and discussing them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

- 2回：文献講読 1)
- 3回：文献講読 2)
- 4回：文献講読 3)
- 5回：文献講読 4)
- 6回：文献講読 5)
- 7回：文献講読 6)
- 8回：文献講読 7)
- 9回：文献講読 8)
- 10回：文献講読 9)
- 11回：文献講読 10)
- 12回：文献講読 11)
- 13回：文献講読 12)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読の対象とする文献をはじめとして、授業の進め方については、初回の授業時に履修生と相談し、合意して決定する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献講読発表（複数回）:80% 授業への積極的参加:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画を相談するので、初回授業は必ず出席のこと。

教育学演習 1

Seminar in Educational Research 1

科学的な視点から発達障害の特別支援教育について考える

渥美 剛史 (ATSUMI TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF241

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 1 A」

後期課程用科目コード： PF341

授業の目標 / Course Objectives

発達障害の当事者が抱える問題を理解し、特別支援教育のあり方について考えられる。

To acquire the ability to think about special needs education based on an understanding of the challenges faced by people with developmental disabilities.

授業の内容 / Course Contents

特別支援教育において発達障害をもつ児童生徒の理解に基づく支援が求められている。特に近年では、発達障害者の多くが抱える感覚過敏や感覚鈍麻といった感覚の特性が、適応困難の背景にある可能性が注目されている。本講義は、こうした感覚の問題を始め発達障害当事者の社会性、運動などの特性に関する科学的知見を理解し、教育の視点に引きつけた問題提起やその解決について考える機会を提供する。

Supports based on an understanding of students with developmental disabilities is required in education. In recent years, attention has focused on the possibility that sensory characteristics such as sensory hyper/hyperresponsivity, in which many people with developmental disabilities have, may underlie their

maladaptation. We will be given the opportunity to understand the scientific evidence on these sensory issues, as well as the other social and motor characteristics of people with developmental disabilities, and to consider the related problems and their solutions from an educational perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 講義の進め方
- 2回：発達障害の概要（学習障害、ADHD、自閉スペクトラム症等）
- 3回：発達障害者の社会コミュニケーション困難
- 4回：発達障害者の感覚・運動の問題
- 5回：発達障害中核症状についての考察
- 6回：発達障害者の感覚処理に関する実証的証拠（1）認知神経科学の知見
- 7回：発達障害者の感覚処理に関する実証的証拠（2）情動・不安傾向
- 8回：発達障害と自律神経、身体の不調
- 9回：困り事の客観的な測定・解釈についての考察
- 10回：発達性協調運動障害とそのアセスメント
- 11回：発達障害における感覚—運動の協応に関する実証的証拠
- 12回：発達障害における豊かな感性と表現
- 13回：発達障害の心理社会的課題についての考察
- 14回：科学から見た特別支援教育についての総合考察

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の担当者は発表資料を用意し、議論に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントペーパー:20% 授業での発表:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

井手正和 『科学から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界』 金子書房 2022 9784760826858 ○

参考文献 / Readings

井手正和 『発達障害の人には世界がどう見えるのか』 SB新書 2022 4815617953

岩永竜一郎 『発達障害のある子の感覚・運動への支援』 金子書房 2022 9784760895588

教育学演習 2

Seminar in Educational Research 2

相互行為における行為の構成

西阪 仰 (NISHIZAKA AUG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JF242
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU6710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 1 B」
後期課程用科目コード： PF342

授業の目標 / Course Objectives

「会話分析」の分析手法を体系的に学習する。その過程において、そもそも人間の相互行為とはどのように成り立っているのかについての、様々な洞察を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、エスノメソドロジエ的相互行為分析、とくに「会話分析」と呼ばれる分析法の基本的な考え方と方法を体系的に紹介する。社会の基盤である社会的相互行為がどのように組織されているかを、行為の構成に焦点を絞りながら考察する。会話分析は、実際の会話の録音・録画を、発話の重なりやわずかな沈黙を見逃さずに、詳細に検討する。そのような詳細な分析がなぜ必要なのか、人間の行為にとって、そのような細かなことがらとはどのような意味があるのかなどを、考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション。実際の会話の録音を検討することにより、相互行為の詳細を見ることの意味を考える。それにより、本講義が何をめざすかの感覚を得てもらう。第 2 回のための読書課題を提示するので、第

- 1 回目に欠席した者は、必ず担当者（下の授業ホームページ内の連絡先）に連絡すること。
- 2 回：J. L. オースティンの言語行為論。エスノメソドロジエ的相互行為分析の一つのバックグラウンドとして、言語を用いることと、行為との関係についての古典的な考えを検討する。第3回のための読書課題を提示する。
- 3 回：隣接ペア。相互行為における行為の組織を考える上での最も基本的な概念である「隣接ペア」について、John Heritage の文章をもとに検討する。第4回のための分析課題を提示する。
- 4 回：発話連鎖の組織。発話と発話の関係、その関係の関係を、実際の会話の録音をとおして考える。第5回のための読書課題を提示する。
- 5 回：E.A. シェグロフの「プレプレ」論文について検討する。第6回のための分析課題を提示する。
- 6 回：先行連鎖・挿入連鎖。実際の会話の録音を検討しながら、隣接ペアどうしの関係について理解を深める。第7回のための分析課題を提示する。
- 7 回：実際の会話の録音を検討しながら、先行連鎖・挿入連鎖についての理解を深める。第8回のための分析課題を提示する。
- 8 回：実際の会話の録音を検討しながら、発話連鎖の組織についての理解を深める。第9回のための読書課題を提示する。
- 9 回：優先組織。A. Pomerantz の文章を検討しながら、優先組織について検討する。第10回のための分析課題を提示する。
- 10 回：実際の会話の録音を検討しながら、優先組織についての理解を深める。第11回のため読書課題を提示する。
- 11 回：成員カテゴリー化装置。H. サックスの「ホットロッダー」講義をてがかりに、成員カテゴリー化装置について検討する。第12回のための分析課題を提示する。
- 12 回：実際の会話の録音を検討しながら、成員カテゴリー化装置についての理解を深める。第13回のための分析課題を提示する。
- 13 回：言葉の選択。実際の会話の録音を検討しながら、発話における言葉の選択と行為の構成との関係を考える。
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は、読書課題、講義、分析課題、ディスカッションのサイクルによって成り立つ。毎週必ず、読書課題もしくは分析課題がでる。毎回の課題はすべて必ず提出することが、単位認定の必要条件である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題の内容:50% ディスカッションへの参加度:50%

テキスト / Textbooks

毎回、読書課題用のテキストを教室で指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

相互行為に関心があれば、誰でも参加できる。ただし、授業は、実際に録音・ビデオを分析するための訓練として組織されるので、自身の研究で、録音・ビデオの分析を計画していることが望ましい

その他/ Others

2024年9月中に次のURLに授業ホームページを作成するので、そちらを必ず参照すること。

www.augnishizaka.com/rikkyo/2024ca2.html

教育学演習 3

Seminar in Educational Research 3

質的研究法概論

能智 正博 (NOCHI MASAHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JF243
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU6710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度まで「教育学特殊研究 2 A」
後期課程用科目コード：	PF343

授業の目標 / Course Objectives

教育学や教育心理学において近年注目されている質的研究法に関し、その多様な理論的基礎を概観し、より質の高い研究を行うための手続きの理解を深める。

This course provides an overview of the theoretical foundations of qualitative research methods, which have recently attracted attention in pedagogy and educational psychology, and deepens understanding of the procedures for conducting high-quality research.

授業の内容 / Course Contents

学期の前半では、多様な質的研究法の理論について学んだ後、インタビュー研究を例にとりその過程をたどって必要となるスキルを身につける。学期の後半では文献にあたり、質の高い質的研究論文を書くための基準について学ぶ。

In the first half of the semester, the students will learn about the theories of various qualitative research methods, and follow the process of interview research to develop the necessary skills. In the second half of the semester, the

literature will be reviewed, and the students will learn the criteria for writing a good qualitative research paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction of qualitative research
- 2 回：Background of qualitative research (1)
- 3 回：Background of qualitative research (2)
- 4 回：Collecting qualitative data
- 5 回：Reading and interpreting qualitative data
- 6 回：Initial coding of qualitative data
- 7 回：Making categories from qualitative data
- 8 回：Constructing a story from qualitative data
- 9 回：Reporting Standard (1)
- 10 回：Reporting Standard (2)
- 11 回：Reporting Standard (3)
- 12 回：Reporting Standard (4)
- 13 回：Evaluating qualitative research papers
- 14 回：Wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストには必ず目を通してから授業を受けてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加度:20% レジュメ 1:20% レジュメ 2:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

H. M. レヴィット 『心理学における質的研究の論文作法』 新曜社 2023 9784788518285 ○

必要箇所のコピーを配布する。

参考文献 / Readings

能智正博 『質的研究法』 東京大学出版会 2011 9784130151368

教育学演習 4

Seminar in Educational Research 4

ヴィゴツキー理論における「体験」概念の検討

高木 光太郎 (TAKAGI KOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF244

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 2 B」

後期課程用科目コード： PF344

授業の目標 / Course Objectives

L. S. ヴィゴツキーの心理学理論における「体験（ペレジバーニエ）」概念の検討を通して、心理学における「体験」の捉え方について新たな理論的展望を得ることを目指すと共に、理論的な文献を検討するための読解技法の基礎を身につけることを目標とする。

The course aims to explore the concept of "experiencing" in the psychological theory of L. S. Vygotsky, to gain new theoretical perspectives on how "experience/experiencing" is understood in psychology. Additionally, the course aims to equip students with the foundational skills for examining theoretical literature.

授業の内容 / Course Contents

ヴィゴツキー理論の概要について講義形式で解説したのち、指定された文献を検討する。受講者はその回で検討する箇所を予め精読したうえで授業に参加し、授業内ではグループワークおよびディスカッション形式で該当箇所の論理展開、理論的含意、現代的な研究課題への適用可能性などの検討を行う。

The course will begin with a lecture-style explanation of the overview of Vygotsky's theory, followed by a

discussion of selected literature. Participants are expected to pre-read the assigned sections before each session and actively participate in the class. In-class activities will involve group work and discussions, focusing on the logical development, theoretical implications, and the applicability of the discussed sections to contemporary research issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ヴィゴツキー理論の概要について講義形式で解説する。
- 2回：ヴィゴツキー学派の現代的展開について講義形式で解説する。
- 3回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 4回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 5回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 6回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 7回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 8回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 9回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 10回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 11回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 12回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 13回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 14回：授業のまとめと総括的な討論を行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を検討する回については、あらかじめ検討箇所を精読し、論の展開について口頭で説明できるよう準備しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 文献の事前検討・報告:25% 質疑・討論への参加:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育学演習 5

Seminar in Educational Research 5

近代日本における非正規の学びの実態史

三上 敦史 (MIKAMI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF245

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 3」

後期課程用科目コード： PF345

授業の目標 / Course Objectives

近代日本の教育制度の広がりについて説明できること。

Students will acquire enough knowledge to be able to explain the expansion of the modern Japanese education system.

授業の内容 / Course Contents

近代日本の教育制度は、諸学校令に基づく文部省所管の学校のみで形成されていたわけではない。代表的なものは、以下の3点である。

- ① 正規の学校制度には位置づかない各種学校・青年訓練所・私塾の形態で授業を行う夜間中学・夜間女学校。
- ② 鉄道省・通信省・陸軍省・海軍省など文部省以外の省庁が持っていた中等・高等教育程度の学校。
- ③ 正規の学校制度のバイパスとなる多様な検定制度。

これらについて知見を得ることで、近代日本の教育制度の広がりについて理解を深めてもらう。

Modern Japan's educational system was not only formed by schools under the jurisdiction of the Ministry of

Education based on various school ordinances. Typical examples are as follows.

- ①Night middle schools and night girls' middle schools in the form of various schools, youth training centers, and private schools that are not part of the formal school system.
- ②Secondary and higher education level schools owned by ministries other than the Ministry of Education, such as the Ministry of Railways, the Ministry of Communications, the Ministry of War, and the Ministry of the Navy.
- ③Diverse examination systems that bypass the formal school system.

By gaining knowledge about these things, students will deepen their understanding of the spread of the modern Japanese education system.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 2回：夜間中学①（夜間中学の誕生と拡大）
- 3回：夜間中学②（「北海道庁中等夜学校準則」と関東大震災の与えた影響）
- 4回：夜間中学③（「専検指定」の時代）
- 5回：鉄道教習所①（鉄道教習所の誕生）
- 6回：鉄道教習所②（「省教」開設と「東教専門部」への縮小）
- 7回：鉄道教習所③（戦時拡大から学校教育廃止まで）
- 8回：通信講習所
- 9回：軍学校
- 10回：各種検定試験①（「専検」）
- 11回：各種検定試験②（「実検」「高検」）
- 12回：各種検定試験③（教員検定）
- 13回：各種検定試験④（「高文」「普文」）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義へのコメント（リアクションペーパーの提出）：60% レポートや講義時間内の筆記テスト：40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

授業中、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習する日本史の知識があることが望ましい（必須ではない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付，授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので，授業に PC を持参すること。

教育学演習 6

Seminar in Educational Research 6

質的調査法の理論と実践

額賀 美紗子 (NUKAGA MISAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF246

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 4」

後期課程用科目コード： PF346

授業の目標 / Course Objectives

質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。

This course aims to provide students with opportunities to learn about the characteristics of qualitative methods and various approaches within them. Students can acquire the knowledge and skills required to write a coherent and convincing paper using qualitative methods.

授業の内容 / Course Contents

本授業は以下の 3 つによって構成される。

- 1) 質的方法論の基本的知識に関するレクチャーとディスカッション
- 2) 質的方法論を使った文献についてのディスカッション
- 3) 参与観察・インタビューの実践およびデータ分析

This course requires students to engage in discussion about readings and to conduct qualitative data collection as

well as analysis: 1) a lecture and a discussion about basic principles of qualitative methods, 2) discussion based on literature using a qualitative method, and 3) practicing fieldwork and interviews followed by data analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：質的研究法の特長・リサーチデザイン・発展の経緯
- 2回：参与観察を行う：現場のメモからフィールドノートへ
- 3回：フィールドノートを書く①：何をどう見てどのように書くのか
- 4回：フィールドノートを書く②「分厚い記述」
- 5回：質的テキストを分析する：コーディングとグラウンデッドセオリーアプローチの実践
- 6回：研究者のポジショナリティ、リフレクシビリティと研究倫理
- 7回：研究計画を立てる
- 8回：話を聴く：半構造化インタビュー、ライフストーリー、生活史調査
- 9回：グループプロジェクト：インタビューテーマの設定とインタビューガイドの作成
- 10回：インタビューの技法：授業内ミニ実践
- 11回：インタビューを使った文献講読
- 12回：インタビューの分析①：コーディング
- 13回：インタビューデータの分析②：仮説生成へ
- 14回：インタビュープロジェクトの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドノートの作成やインタビューデータの収集が求められます。また、ディスカッションの多い授業になるので積極的に参加してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 通常の授業における複数回の課題提出:50% 出席および授業参加度:10% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小田博志 『エスノグラフィー入門—<現場>を質的研究する』 春秋社 2010
- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』 有斐閣ストゥディア 2016
- 藤田結子・北村文 『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』 新曜社 2013
- 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社 2002

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを持参してください。

教育学演習 7

Seminar in Educational Research 7

美的教育の条件変化——シラーとベンヤミン

今井 康雄 (IMAI YASUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF247

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 5」

後期課程用科目コード： PF347

授業の目標 / Course Objectives

(1) 美的教育に関する古典的理念を理解するとともに、(2) その理念を支えていた諸条件の 20 世紀以降の社会における変化を考察し、(3) 美的教育の現代的可能性を探ることを目標とします。

To understand both (1) the classical idea of the aesthetic education and (2) its changing conditions in the 20th century onward, and (3) to considerate possibilities of the aesthetic education in our time.

授業の内容 / Course Contents

(1) (2) についてはそれぞれ以下のテキストを読んで討論を行います。

(1) シラー「人間の美的教育について」

(2) ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」

(3) については今井が行った共同研究を紹介して討論を行います。

Concerning (1) and (2), discussing on the basis of the following texts:

(1) Schiller: On the Aesthetic Education of Man

(2) Benjamin: The Work of Art in the Age of Its Mechanical Reproduction.
Concerning (3), discussing on the basis of my own empirical and theoretical investigations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本授業への導入
- 2回：シラー「人間の美的教育について」書簡第一～第十
- 3回：シラー「人間の美的教育について」書簡第十一～第十六
- 4回：シラー「人間の美的教育について」書簡第十七～第二十三
- 5回：シラー「人間の美的教育について」書簡第二十四～第二十七
- 6回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」I～III
- 7回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」IV～VI
- 8回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」VII～X
- 9回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XI～XIII
- 10回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XIV～XVI
- 11回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XVII～XIX
- 12回：今井編『モノの経験の教育学』(1)
- 13回：今井編『モノの経験の教育学』(2)
- 14回：まとめの討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の回についてはレジュメ等の準備をしてください。また、担当以外の回にも対象となるテキストを精読して授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個人発表（複数回）：80% 討論参加：20%

テキスト / Textbooks

- シラー 『美学芸術論集』 富山房 1993 ○
ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション 1』 筑摩書店 1995 ○

参考文献 / Readings

今井康雄 『モノの経験の教育学——アート制作から人間形成論へ』 東京大学出版会 2021

教育学演習 8

Seminar in Educational Research 8

教育学における社会調査／量的調査を中心に

遠藤 健 (ENDO TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JF248

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU6710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度まで「教育学特殊研究 6」

後期課程用科目コード： PF348

授業の目標 / Course Objectives

この授業では教育学分野で実施される量的な社会調査について、基礎から学び、履修者自身が社会調査の意義や方法を理解し、自ら仮説を立て、データを分析し、結果をまとめることができる能力を身につけることを目指します。

In this class, students will learn from the basics about quantitative social research conducted in the field of pedagogy, understand the significance and method of social research, make their own hypotheses, analyze the data, and summarize the results.

授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、授業の目標達成に向けて①基礎理解、②調査企画・分析方法の理解、③実践の3部構成となります。なお、各履修者の研究関心や調査方法の理解度、修得度を十分に考慮して進め、復習や補習用のオンデマンド教材も用います。

第一部では、社会調査の基礎や社会調査を取り巻く状況を概説します。

第二部では、調査の企画・分析方法について概説します。

第三部では、授業内で利用できるデータを実際を使用し、分析を行い報告書を取りまとめます（授業内で調査自体は行いません）。

The content of the class will consist of the following three parts to achieve the goal of the class.

(1) Basic understanding, (2) Understanding of survey planning and analysis methods, (3) Practice.

In addition, we will proceed with careful consideration of each student's research interests, understanding of survey methods, and acquisition level, and we will also use on-demand teaching materials for review and supplementary class.

The first part outlines the basics of social research and the circumstances surrounding social research.

The second part outlines how to plan and analyze the survey.

In the third part, we will actually use the data available in the class, analyze it, and compile a report (the survey itself will not be conducted in the class).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：授業全体の目標や内容、進め方を説明します。履修者のテーマや関心、社会調査の理解度や修得度もヒアリングします。

2回：社会調査の基礎①：社会調査を取り巻く状況（科学的根拠の重要性、研究倫理等）について概説し、社会調査の意義を説明します。※参考：「社会と調査」第21号 特集：エビデンス・ベースド・ポリシーと教育調査、同第12号 特集：社会調査とデータの利用をめぐる研究倫理の動向

3回：社会調査の基礎②：社会調査をはじめる前の作業（先行調査の整理など）について説明します。※参考：「社会と調査」第8号 特集：データ・アーカイブと二次分析の最前線、同27号 特集：社会調査の再現可能性とデータ標準

4回：社会調査の基礎③：社会調査でどのような事が明らかにできるのか概説します。※参考：「社会と調査」第17号 特集：社会調査と政策のあいだ

5回：調査の企画・分析方法①：調査の企画を具体化する手順（仮説の設定等）を説明します。

6回：調査の企画・分析方法②：実際の調査の進め方について説明します。※参考：「社会と調査」第2号 特集：調査のフィールドとしての学校

7回：調査の企画・分析方法③：サンプリングの考え方や方法について説明します。※参考：「社会と調査」第5号 特集：回収率を考える

8回：調査の企画・分析方法④：調査票の作成手順や方法を説明します。

9回：調査の企画・分析方法⑤：収集したデータの整理（データクリーニング等）について説明します。

10回：調査の企画・分析方法⑥：データを分析するにあたっての基礎（単純集計、クロス集計等）を説明します。

11回：分析実践①：これまでの授業を踏まえ、問題関心と仮説の設定、データ分析について実践します。

12回：分析実践②：これまでの授業を踏まえ、単純集計票を作成します。

13回：分析実践③：これまでの授業を踏まえ、報告書として取りまとめ、履修者間で批判的に検討します。

14回：分析実践④：前回授業の振り返りを踏まえ、修正報告書を取りまとめ報告します。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1部、第2部では、テキストの予習を必須とし、担当履修者は該当章を要約する。復習は、授業後に設定する小テストにて理解度を確認し、知識の定着を図ります。

第3部では履修者が事前にある程度の分析や報告書のとりまとめを実践したことを前提に授業を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の小テスト（複数回）:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

森岡清志 『ガイドブック社会調査（第2版）』 日本評論社 2007（第2版は2016） 9784535582460 -

参考文献 / Readings

「社会と調査」（社会調査協会）各号も参考とする。

その他 / Others

履修にあたっては、各人の社会調査への理解度や分析スキル等は問いません。初学者の方も歓迎します。

データ分析にあたっては、授業の教育として利用可能なデータ（できるだけ履修者の関心に違いデータを想定）を分析し、とりまとめてもらう予定です。

分析ソフトは授業ではIBMのSPSSを使用する予定です。大学への利用申請等によって利用できる環境にしてください（初回の授業でも確認します）。

日本文学演習 2 A

Seminar in Japanese Literature 2A

『源平盛衰記』精読

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『源平盛衰記』を精読し、その特質を理解するとともに、同時代文芸との関係についての理解を深める。

The Genpei Josuiki will be read in depth, and along with understanding its peculiarities, understanding relating to its connect with other works of the same period will be deepened.

授業の内容 / Course Contents

ていねいに注解を施しながら本文を読み進める。『平家物語』との差異、依拠資料・周辺資料との関係、同時代の諸文芸との関係、物語絵としての再生の様相などに目を配りつつ、『源平盛衰記』の文学史上の意義を照らし出していく。各自の研究テーマや問題関心とも共鳴させながら、本文を精読していく。

The main text will be read in depth while being annotated in detail. This in-depth reading will cover differences between this text and the Tale of the Heike, foundational and peripheral materials of the text, comparison between the text and others of the same era, and aspects of the text as reproduced as an illuminated text, while the meaning of the text in a literary history context will also be considered. Deep reading will be advanced while also taking up specific research topics and themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概説・共通課題の確認
 2 回：担当者による発表と質疑応答 1
 3 回：担当者による発表と質疑応答 2
 4 回：担当者による発表と質疑応答 3
 5 回：担当者による発表と質疑応答 4
 6 回：担当者による発表と質疑応答 5
 7 回：担当者による発表と質疑応答 6
 8 回：担当者による発表と質疑応答 7
 9 回：担当者による発表と質疑応答 8
 10 回：担当者による発表と質疑応答 9
 11 回：担当者による発表と質疑応答 10
 12 回：担当者による発表と質疑応答 11
 13 回：担当者による発表と質疑応答 12
 14 回：担当者による発表と質疑応答 13, まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う章段を下読みしたり，関連論文を読むなどして，自主的に基礎的知識を身につけて授業に臨むこと。

関連論文・資料等の収集を各自で進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表（複数回）：70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

底本については初回に指示する。

参考文献 / Readings

授業の中で随時紹介する。

その他 / Others

発表者は発表資料をもとに報告する。自分の研究テーマとの関係を意識すること。

日本文学演習 3A

Seminar in Japanese Literature 3A

『六百番歌合』四季部を読む

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『六百番歌合』は、藤原良経が主催し定家・家隆・慈円ら 12 名の歌人が出詠した歌合である。本演習は、この歌合を精読することにより、和歌文学についての理解を深めることを目標とする。

The "Ropyyakuban Utaawase" is a poetry contest organized by Fujiwara Yoshitsune, in which Teika, Ietaka, Jien and 12 other poets participated. In this seminar, we will deepen our understanding of waka literature through a close reading of this poetry contest.

In this seminar, students will deepen their understanding of waka literature and acquire specialized research methods.

授業の内容 / Course Contents

『六百番歌合』は、独特の歌題設定、新旧両派の詠風の違い、白熱した議論、藤原俊成による質の高い判詞など見るべき点が多く、表現意図、歌題の詠出技法、和歌批評の方法など様々な切り口で分析することができる作品である。本演習では秋・冬部を取り上げ、最初に作品の概要と発表の方法を説明した上で、担当者による発表と討議を行っていく。

There are many things to be seen in "Ropyakuban Utaawase", such as the unique setting of poetry titles, the differences in poetic styles between the old and new schools, heated discussions, and the high quality of the poems written by Toshinari Fujiwara. There are many points to be seen in this poetry contest, such as the intention of expression, the technique of composing poetry titles, and the method of criticizing waka poems. In this exercise, we will take up the fall and the winter sections, and after explaining the outline of the works and the method of presentation at the beginning, the lecturers will make presentations and hold discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：『六百番歌合』の概要
- 2 回：調査・発表の方法
- 3 回：担当者による発表と討議 1
- 4 回：担当者による発表と討議 2
- 5 回：担当者による発表と討議 3
- 6 回：担当者による発表と討議 4
- 7 回：担当者による発表と討議 5
- 8 回：担当者による発表と討議 6
- 9 回：担当者による発表と討議 7
- 10 回：担当者による発表と討議 8
- 11 回：担当者による発表と討議 9
- 12 回：担当者による発表と討議 10
- 13 回：担当者による発表と討議 11
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の担当回以外でも、毎回下読みを行い問題意識をもって授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 討論への貢献度:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

その他 / Others

授業は原則として対面による演習形式で行う。発表資料やコメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

日本文学演習 4 A

Seminar in Japanese Literature 4A

俳諧研究－元禄の俳諧を読む－

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

俳諧の奥深さやおもしろさを味わいながら、解釈・調査の多様な方法を習得し、近世文学研究の基礎を身につける。

Students will learn various methods of interpreting and researching Haikai, and acquire the basics of modern literary research.

授業の内容 / Course Contents

元禄期の京・大坂・江戸の俳人たちの連句に注釈を加え、精読し、作者や地域毎の違い、それぞれの特徴について検討する。

Students will annotate the renku of the poets of Kyoto, Osaka, and Edo during the Genroku period, read them carefully, and examine the differences between the authors and regions, and the characteristics of each.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法など）

2 回：俳諧史と俳諧研究の方法（1）

- 3回：俳諧史と俳諧研究の方法（2）
 4回：演習（1）
 5回：演習（2）
 6回：演習（3）
 7回：演習（4）
 8回：演習（5）
 9回：演習（6）
 10回：演習（7）
 11回：演習（8）
 12回：演習（9）
 13回：演習（10）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:40% 受講態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

日本文学演習 5A

Seminar in Japanese Literature 5A

日本近現代文学

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

非暴力をキーワードとして、履修者個々人の興味関心に即して日本近現代文学に関連した論文を執筆する。その発表と議論を通して、キーワードに関わる文学作品や批評、思想哲学の考察を深めると同時に、文学研究のあり方についても理解を進める。

With non-violence as the keyword, each participant will write a paper related to modern and contemporary Japanese literature in line with his/her own interests.

Through the presentation and discussion, participants will deepen their understanding of literary works, criticism, and philosophy of thought related to the keywords, and at the same time, advance their understanding of the latest literary research.

授業の内容 / Course Contents

非暴力をテーマとして、この問題を考えるための基本的な概念を学びつつ、文学テキストを読解する。

また、履修者の口頭発表のスキルや個別の研究の進め方に関して議論、指導を行う。

対象となるテキストは明治期に発表されたものから現代文学までに至る。さらに、非暴力を考えるためには当

然ながら暴力や自己防衛、戦争やレイシズムについても知っている必要があり、それらに対する理解を涵養することも求められる。

The theme of non-violence will be used to read literary texts while learning the basic concepts for considering this issue.

It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

The texts covered will range from those published in the Meiji period to contemporary literature.

Furthermore, in order to think about nonviolence, it is of course necessary to know about violence, self-defense, war, and racism, and to cultivate an understanding of these issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：文学テキストと先行研究の講読

3回：文学テキストと先行研究の講読

4回：発表1

5回：発表2

6回：発表3

7回：発表4

8回：発表5

9回：発表6

10回：発表7

11回：発表8

12回：発表9

13回：発表10

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

予習としては次回以降の授業で取り上げられる文学テキストや各種資料を読了する作業がこれに該当する。復習に該当するものとしては、自身が発表した場合は授業時の質疑応答の内容等をふまえ、考察をブラッシュアップすることが挙げられる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容（複数回）:50% 授業への積極的な参加:50%

テキスト / Textbooks

授業時にプリント等を配付する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

日本文学演習 6A

Seminar in Japanese Literature 6A

大正12年の文学を読む

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

大正期文学の展開期の文学作品の多様性を知り、大正期文学の展開と背景を理解することを目標とします。またそのプロセスを通して、文学研究のための基本的スキルの向上を目指します。

The goal of the class is to understand the variety of literary works in the development period of Taisho era literature, and to understand the development and background of Taisho era literature. Through this process, we aim to improve basic skills for literary studies.

授業の内容 / Course Contents

大正12年は関東大震災が起きた年であり、東京の出版機構が一時的に停滞してしまったことによって、メディア環境に大きな変化が起こると同時に、文学に関わる人々の大規模な移動が生じました。また、震災に直接的・間接的に関連する文学的表現も生まれています。

この授業では、この年に発表された具体的な作品に即して、その内容の検討に加え、同時代的な評価、メディア的背景などを検討し、それらの関係性を視野に入れることによって、この時期の文学作品の社会的位相や文学的傾向の意味を再検討します。なお、参加者による報告は、具体的な課題・作品をめぐる報告と、どのよ

うな作品・文学的動向を素材とするかの二段階とし、その過程で研究スキルの向上を図ります。

In addition to examination of the content of specific works presented in the year, the class will engage in contemporary evaluation, examination of media background, etc., and, by taking the relationships among these into consideration, will re-examine the meaning of literary trends and social aspects of literary works of this period. Reports by participants will be in two stages: reports on specific works, and what sort of works to use as materials. Through that process, participants will improve their research skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業のねらい、進行など）
- 2回：授業で取り上げる作品の決定、分担、スケジュールの確定
- 3回：大正12年の文学概況1
- 4回：大正12年の文学概況2
- 5回：参加者による報告と討議1
- 6回：参加者による報告と討議2
- 7回：参加者による報告と討議3
- 8回：参加者による報告と討議4
- 9回：参加者による報告と討議5
- 10回：参加者による報告と討議6
- 11回：参加者による報告と討議7
- 12回：参加者による報告と討議8
- 13回：参加者による報告と討議9
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

取り上げる作品についての主要な先行研究などにあたり、報告者の議論の妥当性を判断する準備をし、討議に参加できるようにすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告内容の評価:40% 演習への参加態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

使用する作品本文については授業の中で指示する。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

日本文学演習 7 A

Seminar in Japanese Literature 7A

近代文学研究の実践 (1)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

問題編成・注解・テキスト分析という観点からテキストを読み解き、文学研究に関する方法と知識を身につけるとともに、自らの研究テーマに関する論文の執筆を行う。

Students will read and interpret texts from the perspectives of problem organization, annotation, and textual analysis, will acquire methods and knowledge related to literary research, and will write research papers on their own research themes.

授業の内容 / Course Contents

毎回、発表者がレジュメを用意し、1時間程度の発表を行ったあと、その内容をめぐって2時間にわたる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定し、将来的には活字化することを前提として発表してもらう。

In every session, the presenter will prepare an outline and give a presentation of about 1 hour, after which the class will discuss the content for 2 hours. Presenters will designate texts according to their own research themes, and will give presentations that will be presumably put into print in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：発表1
 3回：発表2
 4回：発表3
 5回：発表4
 6回：発表5
 7回：発表6
 8回：発表7
 9回：発表8
 10回：発表9
 11回：発表10
 12回：発表11
 13回：発表12
 14回：発表13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表のレジュメに関しては、（1）同時代評、周辺言説、作者自解、先行研究などの資料、（2）テキスト内の語彙に関する注釈、（3）問題編成、（4）テキストの分析と考察、（5）結論、などを明確にし、議論の叩き台とする。演習の参加者はテキストを精読し、自分の「読み」を示すことができるようにして演習に臨むこと。ゼミでは他者への敬意をはらいつつ容赦のない相互批評を展開してもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合：40%

最終レポートに関しては、活字化できる水準の論文提出を求める。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

日本文学研究 1 A

Studies in Japanese Literature 1A

古文辞学と国学における詩歌論とその思想との連関

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG301

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 古文辞学・国学における詩論・歌論の連続性を理解する。
 - (2) 古文辞学・国学における詩論・歌論とその思想との結びつきを考察する。
 - (3) 英語圏の研究者による日本前近代の文献を対象とした議論の方法を学ぶ。
- (1) To understand the continuity of poetics in Kobunjigaku and Kokugaku.
 - (2) To examine the connection between poetics in Kobunjigaku and Kokugaku and their thought.
 - (3) Learn how to discuss the pre-modern Japanese literature through studies in English-speaking countries

授業の内容 / Course Contents

古文辞学と国学との関係を論じた以下の英文研究書を訳読します。

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

江戸中期において古代の人間感情や社会のあり方の究明を目指した古文辞学・国学が、最も重視した対象が詩・歌でした。彼らは単に理想的な詩歌の制作方法を探究・試作しただけではなく、その思想的根幹にある古

代社会へのアクセスのための方法論を詩歌に則して論じました。

本演習では上掲書を訳読しながら、古文辞学と国学の詩歌論はいかにその思想と連関しているのかを受講者とともに議論していきます。

該当書の目次は以下の URL から確認できます。

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

We will translate and read the following English-language research book that discusses the relationship between Kobunjigaku and Kokugaku.

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

In the mid-Edo period, Kobunjigaku and Kokugaku, which aimed to investigate ancient human emotions and the nature of society, placed the greatest emphasis on poetry and song. They not only explored and developed ideal methods of poetry production, but also discussed the methodology for accessing ancient society, which was at the root of their ideology, in terms of poetry.

In this course, we will translate the above book and discuss with participants how the poetic theory of Kobunjigaku and Kokugaku is linked to their thought.

The table of contents of the book can be found at the following URL

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：発表方法の共有
- 3 回：発表・討議 1
- 4 回：発表・討議 2
- 5 回：発表・討議 3
- 6 回：発表・討議 4
- 7 回：発表・討議 5
- 8 回：中間総括
- 9 回：発表・討議 6
- 10 回：発表・討議 7
- 11 回：発表・討議 8
- 12 回：発表・討議 9
- 13 回：発表・討議 10
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する訳読箇所を翻訳した上で、議論すべきトピックについてまとめてくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表（複数回）:50% 討議への参加度:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

Peter Flueckiger Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism Stanford University Press 2010 0804761574 -

参考文献 / Readings

W. J. Boot and Takayama Daiki, eds Tetsugaku Companion to Ogyu Sorai : The Thought and Reception of Japan's Most Innovative Confucian Philosopher Springer 2019 9783030154745

板東 洋介 『徂徠学派から国学へ 表現する人間』 ペリカン社 2019 4831515302

酒井直樹 『過去の声 18世紀日本の言説における言語の地位』 以文社 2002 4753102211

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ 英語文献を読んでいく粘り強さ
- ・ 自身の研究の視野を広げようとする柔軟さ

日本文学研究 3A

Studies in Japanese Literature 3A

龍澤 彩 (RYUSAWA AYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JG111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL6310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PG305

授業の目標 / Course Objectives

絵巻や屏風、扇面画などの絵画作品を通じて、視覚的イメージの読み解き方を学ぶこと。美術史研究の対象と研究方法を理解し、各自が修士論文のために取り組んでいる研究に応用、活用できるようになること。

The goal of this lecture is to learn how to read and interpret visual images through pictorial works such as emaki, folding screens, and fan paintings. To understand the subject matter and research methods of art history research, and to be able to apply and utilize them in the research that each student is undertaking for their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

物語絵をテーマに、美術史の流れをふまえつつ、絵巻や扇面画、屏風絵などを取りあげ、源氏物語や平家物語、御伽草子などのテキスト内容がどのように絵画化されているかを読み解く。講義では画像を用いて、同一主題の図様が描き継がれる事例や、制作者や媒体によって表現が変わる事例などを示しつつ、文学作品の享受史の一形態について講じる。

また、作品の見方を実地で学ぶため、展覧会見学と、大学図書館で、絵巻や扇面画、屏風絵などの貴重書の閲覧を予定している。本科目の内容は、秋学期の「日本文学研究 3B」と連動しているため、あわせて履修するこ

とが望ましい。

The lecture will focus on the theme of narrative pictures, taking up picture scrolls, fan paintings, and byobu-e (folding screen paintings), while taking into account the flow of art history, to decipher how the contents of texts such as The Tale of Genji, The Tale of the Heike, and The Tale of Otogi-zoshi (fairy tales) are depicted in paintings. Using images, the lecture will discuss a form of history of the reception of literary works, showing examples of paintings of the same subject matter that have been passed down through generations, as well as examples in which the expression has changed depending on the creator and medium.

In addition, in order to learn how to look at works of literature, we will visit exhibitions and browse rare books such as emaki (picture scrolls), fan paintings, and byobu-e (folding screen paintings) at the university library. Since the content of this course is linked to "Japanese Literature 3B" in the fall semester, it is recommended that students take this course in conjunction with Japanese Literature 3B.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 美術史の対象と研究方法
- 2回：日本の物語絵概説①（題材・媒体）
- 3回：日本の物語絵概説②（絵師・画派）
- 4回：作品調査（立教大学図書館にて貴重書閲覧）①
- 5回：作品調査（立教大学図書館にて貴重書閲覧）②
- 6回：調査結果のまとめと展示見学のガイダンス
- 7回：展覧会见学・実地指導①（東京国立博物館本館）
- 8回：展覧会见学・実地指導②（東京国立博物館本館）
- 9回：展覧会见学・実地指導③（東京国立博物館平成館）
- 10回：展覧会见学・実地指導④（東京国立博物館東洋館）
- 11回：テキストとイメージ（源氏物語・平家物語・御伽草子ほか）
- 12回：研究報告とディスカッション①
- 13回：研究報告とディスカッション②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表（研究報告）：30% リアクションペーパー：30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ 8/2(金)3～4 限(13:25～17:00)
- ・ 8/5(月)2～5 限(10:45～18:50)
- ・ 8/6(火)2～5 限(10:45～18:50)*学外実施予定日
- ・ 8/7(水)2～5 限(10:45～18:50)

教室：6206

日本文学研究 4 A

Studies in Japanese Literature 4A

日本の戦後文学に関するアダプテーションの理論—小説をめぐる映画・演劇・翻訳と異文化表象

久保田 裕子 (KUBOTA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG307

授業の目標 / Course Objectives

戦後文学における小説と映画・演劇という領域のメディア特性に関わる問題及び、翻訳という共同性に基づく表現の問題について、アダプテーションの理論に基づき分析し、その方法論を理解することを目標とする。さらに戦後文学においてアジア地域が表象化された経緯を理解することで、異文化の受容と表象化の観点から、政治や文化をめぐる同時代言説などの資料をテキスト分析に応用する方法論を身に付ける。博士課程前期課程の学生においては、アダプテーションの理論などの研究方法論を理解することを目標とする。

The goal is to analyze issues related to the media characteristics of novels, movies, and plays in postwar literature, as well as issues of expression based on the communal nature of translation, based on the theory of adaptation, and to understand the methodology. Furthermore, by understanding how the Asian region came to be represented in postwar literature, you will acquire a methodology for applying materials such as contemporary discourses on politics and culture to textual analysis from the perspective of the acceptance and representation of different cultures. For students in the master's program, the goal is to understand research methodologies such as adaptation theory.

授業の内容 / Course Contents

小説が映画化、演劇化される創作過程における相互の関係性において、メディア特性に応じてどのような創造的変質を遂げていくかという問題をアダプテーションの理論を援用しつつ考察する。戦後文学においてアジアが表象化されてきた経緯と共に、翻訳を通じた戦後文学の国際的受容という問題について、テキストの背後にある政治や文化との比較の位相のもとに明らかにする。

In the interrelationship between novels in the creative process of being made into movies and dramatizations, we will consider the question of how the novel undergoes a creative transformation according to the characteristics of the media, using the theory of adaptation. In addition to the background of the representation of Asia in postwar literature, the issue of international acceptance of postwar literature through translation will be clarified in the context of comparison with the politics and culture behind the texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス—文学研究における方法論…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 2 回：小説と映画のあいだ①—『愛の渇き』をめぐる 1960 年代の日活映画…ICT の活用による学習活動
- 3 回：小説と映画のあいだ②—小説と映画の表現特性とアダプテーションの理論…ICT の活用による学習活動
- 4 回：戦後演劇とアダプテーション①—三島由紀夫『鹿鳴館』…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 5 回：戦後演劇とアダプテーション②—三島由紀夫『鹿鳴館』…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 6 回：戦後文学の国際的受容①—三島由紀夫の被翻訳テキスト…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 7 回：戦後文学の国際的受容②—翻訳とアダプテーションの理論…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 8 回：戦後文学におけるアジア表象①村上春樹『タイランド』における文化の力学…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 9 回：戦後文学におけるアジア表象②村上春樹『タイランド』における文化の力学…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 10 回：戦後文学におけるアジア表象③—三島由紀夫『暁の寺』とアジアの王権…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 11 回：戦後文学におけるアジア表象④—三島由紀夫『暁の寺』と 1950 年代の占領下の文学と政治…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 12 回：戦後文学におけるアジア表象⑤—三島由紀夫『文化防衛論』と 1960 年代の保守政治…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 13 回：研究課題を考える①—研究課題の設定と文学研究の方法論の検討…受講生の課題発表を通じて、演習発表の口頭発表資料とレポートを表現特性に応じて書く学習活動
- 14 回：研究課題を考える②—研究課題の設定と文学研究の方法論の検討…受講生の課題発表を通じて、演習発表の口頭発表資料とレポートを表現特性に応じて書く学習活動

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

【授業計画】で取り上げる予定作品は各自で準備し、事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内における課題となる小レポート:30% 授業内発表:20% 出席および授業参加度:20% 最終レポート割合 :30%

前期課程の学生は、授業において講義した文学研究の方法論について適切に理解しているかという点を討論・レポート等を通じて評価する。

テキスト/ Textbooks

テキストは指定しない。ただし取り上げる予定作品は各自準備すること。説明資料は授業中に配布する。

参考文献 / Readings

有元伸子・久保田裕子編著 『21世紀の三島由紀夫』 翰林書房 2015 9784877373917

井上隆史・久保田裕子・田尻芳樹・福田大輔・山中剛史編著 『混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界』 水声社 2016 9784801002012

井上隆史・久保田裕子・田尻芳樹・福田大輔・山中剛史編著 『三島由紀夫小百科』 水声社 2021 9784801006010

リンダ・ハッチオン、片渕悦久、鴨川 啓信、武田 雅史訳 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 9784771022676

注意事項

- ・ 8/5(月)3~5 限(13:25~18:50)
- ・ 8/6(火)2~5 限(10:45~18:50)
- ・ 8/7(水)2~5 限(10:45~18:50)
- ・ 8/8(木)2~4 限(10:45~17:00)

教室：4255

日本文学研究 5 A

Studies in Japanese Literature 5A

平井 吾門／水谷 隆之／家永 香織／石川 巧／金子 明雄／尾崎 名津子／鈴木 彰／藤井 嘉章
(HIRAI AMON/MIZUTANI TAKAYUKI/IENAGA KAORI/ISHIKAWA TAKUMI/KANEKO AKIO/OZAKI
NATSUKO/SUZUKI AKIRA/FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JG113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL6310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PG309

授業の目標 / Course Objectives

日本文学研究における多種多様な方法や視点について、徹底した知識の獲得とその理解を身につけるための自主講座。

This is a self-directed course for acquiring thorough knowledge and understanding of diverse methods and viewpoints for research into Japanese literature.

授業の内容 / Course Contents

学生主導による自主講座として、それぞれ明確なテーマと問題意識のもとに演習や調査あるいは読書会などのプロジェクトを組む。各テーマに応じて、指導教員の指導や助言を受けるとともに、参加者全員の自主的な活動が中心となる。

As a student-led self-directed course, the course will organize projects such as exercises, surveys, or reading sessions under clear themes and awareness of issues. Students will receive guidance and advice from the instructor in line with their themes, focused on the self-directed activities of all participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業内容・テーマについてのガイダンス
 2回：発表と質疑応答1
 3回：発表と質疑応答2
 4回：発表と質疑応答3
 5回：発表と質疑応答4
 6回：発表と質疑応答5
 7回：発表と質疑応答6
 8回：発表と質疑応答7
 9回：発表と質疑応答8
 10回：発表と質疑応答9
 11回：発表と質疑応答10
 12回：発表と質疑応答11
 13回：発表と質疑応答12
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

プロジェクトの計画と運営に積極的に加わることを求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常の参加・活動:60% 報告書:40%

テキスト / Textbooks

履修する学生の主体的な選択にゆだねる。

参考文献 / Readings

指導教員の指示による。

その他 / Others

指導教員の指示による。

日本文学研究 6 A

Studies in Japanese Literature 6A

戦後詩における「私」……貫戦期 (trans-war regime) における詩の変容を意識しながら

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG114

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG311

授業の目標 / Course Objectives

主として戦後詩を扱う。その際には、関東大震災後、日中戦争、アジア・太平洋戦争、GHQ 占領期、冷戦期における詩と時代と文化の関係を意識し考察する。

宮沢賢治、鮎川信夫、谷川俊太郎、川崎洋、天沢退二郎らの作品を扱う。

This class mainly deals with postwar poetry. In doing so, we will consider the relationship between poetry, time, and culture after the Great Kanto Earthquake to the Sino-Japanese War, the Asia-Pacific War, the GHQ occupation period, and the Cold War period.

The class will cover poems by Kenji Miyazawa, Nobuo Ayukawa, Shuntaro Tanikawa, Hiroshi Kawasaki, and Taijiro Amasawa.

授業の内容 / Course Contents

この授業はゼミナール形式で行う。

理論研究と模擬授業の後に、各自の論文課題の研究報告を行う。

理論研究においては詩論・アダプテーション・パロディについてとりあげる。

This class will be held in a seminar format.

After theoretical research and mock classes, each student will present a research report on their thesis topic.

In theoretical research, we will focus on poetics, adaptation, and parody.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション。研究課題、発表分担の確認。
- 2回：理論研究 1
- 3回：理論研究 2
- 4回：模擬授業
- 5回：研究発表
- 6回：研究発表
- 7回：研究発表
- 8回：研究発表
- 9回：研究発表
- 10回：研究発表
- 11回：研究発表
- 12回：理論研究 3
- 13回：理論研究 4
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表者はレジュメを準備してくる。

発表の後、フォローアップを行う。

各自研究発表を担当した課題についてレポートを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:30% ディスカッションへの積極的参加:30% フォローアップ:10%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

リンダ・ハッチオン 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 4771022674

岩田 和男、武田 美保、武田 悠一編 『アダプテーションとは何か』 世織書房 2017 4902163942

リンダ・ハッチオン 『パロディの理論』 未来社 1993 4624710606

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

中国文学研究 1

Studies in Chinese Literature 1

漢文訓読論

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ120「文明工学特殊研究3」との併置科目

後期課程用科目コード：PG371

授業の目標 / Course Objectives

- 漢文訓読法の文明史的意義について認識する。
- 漢文訓読法の概要を理解する。
- 漢文訓読法の知識を漢文資料の読解に適用する。

The purposes of this course are to (1) recognize the significance of kanbun-kundoku-ho (methods of reading classical Chinese writings in ancient Japanese) in the history of civilizations; (2) understand the overview of kanbun-kundoku-ho; and (3) apply knowledge of kanbun-kundoku-ho to reading Chinese materials.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業時間を前半と後半に分けて実施する。

前半では、漢文訓読法の文明史的意義について、教員の講義および参加者による関係論文についての報告により理解を深める。

後半では、授業期間の最初、漢文訓読法の基礎知識の習得に努め、残りの期間においては資料読解の実践的練

習を行う。

In meetings' first half, students deepen their understanding of the significance of the kanbun-kundoku-ho (methods of reading classical Chinese writings in ancient Japanese) in the history of civilization through lectures by the instructor and readings by the participants.

In the latter half of meetings at the beginning of the semester, students strive to acquire basic knowledge of reading kanbun-kundoku-ho and practice practical reading of materials in the remaining period.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（1）
- 3回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（2）
- 4回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（3）
- 5回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（4）
- 6回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（5）
- 7回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（6）
- 8回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（7）
- 9回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（8）
- 10回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（9）
- 11回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（10）
- 12回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（11）
- 13回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（12）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告については担当者による事前準備のほか、対象テキストを他の参加者も予習する。

漢文訓読には語学学習としての側面があることから、予習と復習は必須。

詳しくは授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告の担当:50% 議論参加度:30% 最終レポート割合：:20%

テキスト / Textbooks

プリント・コピーを用意する。

参考文献 / Readings

金文京 『漢文と東アジア 訓読の文化圏』 岩波書店 2010 9784004312628

そのほかは適宜紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・日本語学術論文を読解・要約すること。
- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール説明を理解すること（漢文訓読の経験者である必要はない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のために Canvas LMS を用いる。

発表資料を作成するために PC が必要。

その他/ Others

関係論文についての報告は一回ごとに担当を決めて演習形式で行う。

漢文読解の実践練習は、教室で必要事項を解説しつつ、参加者に理解定着のための質問を行い回答を求める。

日本語学演習 1

Seminar in the Japanese Language 1

日本語学研究法

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語学の研究法について専門的な手法を身につける。

Students will learn specialized techniques concerning research methods for Japanese linguistics.

授業の内容 / Course Contents

受講者は、日本語学に関する任意の研究・論考を取り上げ、自らの研究テーマとの関わりからその意義について発表するとともに、受講者全員で討議する。発表に際しては、先行研究、研究目的、研究手法、現状と展望などについて論点を提示しつつ、他の受講者に分かりやすく伝えることが求められる。必要に応じて、受講者全員で関連研究の調査分析などを行うことがある。

Students will take up an study of their choice on Japanese linguistics, present its significance in relation to their own research theme, and discuss it with the entire class. In their presentations, students will be expected to present their points of view on previous research, research objectives, research methods, current status and future prospects, etc., and to communicate them clearly to the other participants. If necessary, all participants may conduct a survey and analysis of related research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：受講者による報告（1）
 3回：受講者による報告（2）
 4回：受講者による報告（3）
 5回：受講者による報告（4）
 6回：受講者による報告（5）
 7回：受講者による報告（6）
 8回：受講者による報告（7）
 9回：受講者による報告（8）
 10回：受講者による報告（9）
 11回：受講者による報告（10）
 12回：受講者による報告（11）
 13回：受講者による報告（12）
 14回：受講者による報告（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日本語学の入門書・概説書などを熟読するとともに、関連諸分野の先行研究を広く探しておくこと。また、分からなかったことも含めて、何（書籍や論文その他）をどのように調べたのか、ということ具体的に明らかにして臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション（複数回）:50% 討議への参加状況:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

日本語学研究 1 A

Studies in the Japanese Language 1A

日本語史とコーパス言語学

大川 孔明 (OHKAWA KOMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG351

授業の目標 / Course Objectives

日本語史に関する問題について、コーパスを用いて検討・解決できるようになる。

Student will be able to examine and solve problems related to the history of the Japanese language using corpora.

授業の内容 / Course Contents

日本語の歴史には、いまだ多くの問題・疑問が残る。これを解決するには、さまざまなアプローチ方法が考えられるのだが、そのひとつにコーパスというものの利用が挙げられる。コーパスは非常に手軽に利用でき、また利便性の高いツールであるが、気をつけなければいけない点も多く存在する。

そこで本授業では、コーパスの利用法を学ぶとともに、コーパスを用いて日本語史上の問題について分析・検討し、日本語史研究への理解を深めることを実践的に目指す。

Many problems and questions still remain in the history of the Japanese language. There are various approaches that can be taken to solve these problems, one of which is the use of corpus. Although corpus are very easy to use and highly convenient tools, there are many points to be aware of.

In this class, students will learn how to use corpus, analyze and discuss issues in the history of the Japanese

language using corpus, and deepen their understanding of the history of the Japanese language in a practical way.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・コーパス概観
- 2回：コーパス言語学とは
- 3回：『日本語歴史コーパス』とその周辺 (1)
- 4回：『日本語歴史コーパス』とその周辺 (2)
- 5回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (1)
- 6回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (2)
- 7回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (3)
- 8回：コーパスを利用した日本語史上の問題発見 (1)
- 9回：コーパスを利用した日本語史上の問題発見 (2)
- 10回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (1)
- 11回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (2)
- 12回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (3)
- 13回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (4)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日常的にコーパスを利用し、慣れること。本授業はコーパスを利用した日本語史上の問題を検討することに主眼を置くため、具体的な調査や考察を授業外で行う必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間課題:40% 授業参加態度:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 田中牧郎 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』 朝倉書店 2020 9784254516548
 田中牧郎他 『コーパスによる日本語史研究 近代偏』 ひつじ書房 2021 9784823410970
 青木博史他 『コーパスによる日本語史研究 中古偏』 ひつじ書房 2022 9784823411335

授業内で適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット等、コーパスにアクセスできる環境を整えてください。

日本語学研究 2 A

Studies in the Japanese Language 2A

アカデミックライティング基礎

Introduction to Academic Writing

川瀬 卓 (KAWASE SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG353

授業の目標 / Course Objectives

アカデミックライティングの基礎的な力を身につけることを目標とします。

The aim of this course is for students to acquire basic academic writing skills.

授業の内容 / Course Contents

テキストを読み進めながら、レポート・論文の執筆方法（レポート・論文とはどういうものか、テーマの決め方、研究方法、論文の構成、引用の作法など）を学んでいきます。

Through reading the text, students will learn how to write reports and papers (what reports and papers are, how to decide on a topic, research methodology, paper structure, citation style, etc.).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：取材（1）読むこと

3 回：取材（2）聴くこと

- 4回：取材（3）調べること、考えること
 5回：補足：論文の読み方、「先行研究」とは
 6回：執筆（1）文章の基本構造
 7回：執筆（2）構成の考え方
 8回：補足：文章の構成—論文の場合—
 9回：執筆（3）原稿のスタイル
 10回：執筆（4）原稿をつくる
 11回：補足：引用の作法
 12回：推敲（1）推敲の方法
 13回：推敲（2）原稿を書き上げる
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当箇所をあらかじめ読んでくること。また、授業時に示される参考文献もあわせて読み、自身の研究にどう生かせるか考えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題:20% 口頭発表:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

古賀史健 『取材・執筆・推敲—書く人の教科書』 ダイヤモンド社 2021 9784478112748 ○

参考文献 / Readings

トーマス・S・マラニー／クリストファー・レア著、安原和見訳 『リサーチのはじめかた—「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 筑摩書房 2023 9784480837257

読書猿 『独学大全—絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法』 ダイヤモンド社 2020 9784478108536

小熊英二 『基礎からわかる論文の書き方』 講談社 2022 9784065280867

そのほか、授業時に紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCやタブレットなどを用意してください。

なお、Google Classroomを使用予定です。

日本文学演習 1 B

Seminar in Japanese Literature 1B

『源氏物語』を精読する

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG161

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面7回（オンライン7回）

ゼミの時間中に、各自パソコンに向かってさまざまな調査を行ったり、各自の手元にある多数の文献を見ながらゼミを進めていくため、オンラインを7回実施する。

オンライン（1・3・5・7・9・11・13回目の授業）

対面（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古注釈から現代の注釈書に至るまでの注釈の歴史を俯瞰し、さまざまな写本における本文異同にも目を配りながら、『源氏物語』への理解を深めます。

Students will deepen their understanding of Genji Monogatari, while taking a comprehensive view of the vast history of annotations from ancient to modern commentaries, and noting the textual differences among various manuscripts.

授業の内容 / Course Contents

本演習では、分担箇所を決め、古注釈から現代の注釈書に至るまでの注を並べ、諸本における本文異同を載せたレジュメを作って発表してもらいます。注釈の歴史がどのように変わってきたのか、本文のちょっとした違

いがどのようなニュアンスの違いを生むのかなど、さまざまな問題を考えます。

This seminar will assign course takers specific areas, and have them create and present outlines that order notes covering ancient to modern annotations, and that list textual differences among different manuscripts. The course will consider how the history of annotations has changed, how minor differences in texts lead to differences in nuance, and other issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 1 ー発表の順番と分担、参考文献など
- 2回：ガイダンス 2 ーレジュメの作り方など
- 3回：担当者による発表（1）
- 4回：担当者による発表（2）
- 5回：担当者による発表（3）
- 6回：担当者による発表（4）
- 7回：担当者による発表（5）
- 8回：担当者による発表（6）
- 9回：担当者による発表（7）
- 10回：担当者による発表（8）
- 11回：担当者による発表（9）
- 12回：担当者による発表（10）
- 13回：担当者による発表（11）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の担当する箇所についてレジュメを作成し、他の発表者の担当箇所についての予習・復習をするのはもちろんのこと、常に平安文学への興味・関心を持って自分なりの課題をみつけて追究すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:40% 授業への参加態度:28% 最終レポート割合 :32%

テキスト / Textbooks

プリントを使用します。

参考文献 / Readings

適宜紹介します。

日本文学演習 2 B

Seminar in Japanese Literature 2B

『源平盛衰記』精読II

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『源平盛衰記』を精読し、その特質を理解するとともに、同時代文芸との関係についての理解を深める。

The Genpei Josuiki will be read in depth, and along with understanding its peculiarities, understanding relating to its connect with other works of the same period will be deepened.

授業の内容 / Course Contents

ていねいに注解を施しながら本文を読み進める。『平家物語』との差異、依拠資料・周辺資料との関係、同時代の諸文芸との関係、物語絵としての再生の様相などに目を配りつつ、『源平盛衰記』の文学史上の意義を照らし出していく。各自の研究テーマや問題関心とも共鳴させながら、本文を精読していく。

The main text will be read in depth while being annotated in detail. This in-depth reading will cover differences between this text and the Tale of the Heike, foundational and peripheral materials of the text, comparison between the text and others of the same era, and aspects of the text as reproduced as an illuminated text, while the meaning of the text in a literary history context will also be considered. Deep reading will be advanced while also taking up specific research topics and themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：概説・共通課題の確認

春学期からの継続課題の確認

2 回：担当者による発表と質疑応答 1

3 回：担当者による発表と質疑応答 2

4 回：担当者による発表と質疑応答 3

5 回：担当者による発表と質疑応答 4

6 回：担当者による発表と質疑応答 5

7 回：担当者による発表と質疑応答 6

8 回：担当者による発表と質疑応答 7

9 回：担当者による発表と質疑応答 8

10 回：担当者による発表と質疑応答 9

11 回：担当者による発表と質疑応答 10

12 回：担当者による発表と質疑応答 11

13 回：担当者による発表と質疑応答 12

14 回：担当者による発表と質疑応答 13, まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う章段を下読みしたり，関連論文を読むなどして，自主的に基礎的知識を身につけて授業に臨むこと。

関連論文・資料等の収集を各自で進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表（複数回）：70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

底本については初回に指示する。

参考文献 / Readings

授業の中で随時紹介する。

その他 / Others

発表者は発表資料をもとに報告する。自分の研究テーマとの関係を意識すること。

日本文学演習 3B

Seminar in Japanese Literature 3B

『六百番歌合』恋部を読む

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

『六百番歌合』は、藤原良経が主催し定家・家隆・慈円ら 12 名の歌人が出詠した歌合である。本演習は、この歌合を精読することにより、和歌文学についての理解を深めることを目標とする。

The "Ropyyakuban Utaawase" is a poetry contest organized by Fujiwara Yoshitsune, in which Teika, Ietaka, Jien and 12 other poets participated. In this seminar, we will deepen our understanding of waka literature through a close reading of this poetry contest.

In this seminar, students will deepen their understanding of waka literature and acquire specialized research methods.

授業の内容 / Course Contents

『六百番歌合』は、独特の歌題設定、新旧両派の詠風の違い、白熱した議論、藤原俊成による質の高い判詞など見るべき点が多く、表現意図、歌題の詠出技法、和歌批評の方法など様々な切り口で分析することができる作品である。本演習では恋六～十を取り上げ、担当者による発表と討議を行っていく。

There are many things to be seen in "Ropyyakuban Utaawase", such as the unique setting of poetry titles, the

differences in poetic styles between the old and new schools, heated discussions, and the high quality of the poems written by Toshinari Fujiwara. There are many points to be seen in this poetry contest, such as the intention of expression, the technique of composing poetry titles, and the method of criticizing waka poems. In this exercise, we will take up the love sections 6-10 and have a presentation and discussion by the person in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：『六百番歌合』の概要
- 2 回：調査・発表の方法
- 3 回：担当者による発表と討議 1
- 4 回：担当者による発表と討議 2
- 5 回：担当者による発表と討議 3
- 6 回：担当者による発表と討議 4
- 7 回：担当者による発表と討議 5
- 8 回：担当者による発表と討議 6
- 9 回：担当者による発表と討議 7
- 10 回：担当者による発表と討議 8
- 11 回：担当者による発表と討議 9
- 12 回：担当者による発表と討議 10
- 13 回：担当者による発表と討議 11
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の担当回以外でも、毎回下読みを行い問題意識をもって授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:40% 討論への貢献度:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

その他 / Others

授業は原則として対面による演習形式で行う。発表資料やコメントの提出、レポート課題の提示などに「Canvas LMS」を利用する。

日本文学演習 4 B

Seminar in Japanese Literature 4B

俳諧研究－元禄の俳諧を読む－

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

俳諧の奥深さやおもしろさを味わいながら、解釈・調査の方法を習得し、近世文学研究の基礎を身につける。

Students will learn various methods of interpreting and researching Haikai, and acquire the basics of modern literary research.

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、元禄期の京・大坂・江戸の俳人たちの連句に注釈を加え、精読し、作者や地域毎の違い、それぞれの特徴について検討する。

Students will annotate the renku of the poets of Kyoto, Osaka, and Edo during the Genroku period, read them carefully, and examine the differences between the authors and regions, and the characteristics of each.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：はじめに（授業の進め方、成績評価の方法など）

2 回：俳諧史と俳諧研究の方法（1）

3 回：俳諧史と俳諧研究の方法（2）

- 4回：演習（1）
 5回：演習（2）
 6回：演習（3）
 7回：演習（4）
 8回：演習（5）
 9回：演習（6）
 10回：演習（7）
 11回：演習（8）
 12回：演習（9）
 13回：演習（10）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:40% 受講態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する。

日本文学演習 5B

Seminar in Japanese Literature 5B

日本近現代文学

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「汚れ（よごれ）」をキーワードとして、履修者個々人の興味関心に即して日本近現代文学に関連した論文を執筆する。

その発表と議論を通して、キーワードに関わる文学作品や批評、思想哲学の考察を深めると同時に、文学研究のあり方についても理解を進める。

With "dirt" (yogore) as the keyword, each participant will write a paper related to modern and contemporary Japanese literature in line with his/her own interests.

Through the presentation and discussion, participants will deepen their understanding of literary works, criticism, and philosophy of thought related to the keywords, and at the same time, advance their understanding of the latest literary research.

授業の内容 / Course Contents

「汚れ（よごれ）」をキーワードとして、この問題を考えるための基本的な概念を学びつつ、文学テキストを読解する。

また、履修者の口頭発表のスキルや個別の研究の進め方に関して議論、指導を行う。

対象となるテキストは明治期に発表されたものから現代文学までに至る。

「汚れ」とは、不可逆性や過剰さ、落そうとはできるが落ちきらないものといった意味をひとまずは含意しようとしている。それは純粹性に対置され、「傷」とは区別される。あるいは、論理と実践の二項を設定した場合、実践を示唆するものとしてひとまずはイメージされる。「汚れ」としか名状のしようがないものがこの世界にはあり、それを文学テキストは別扱するときがある、という前提に立ち、発表と議論を通して考察を深められればと思う。

Using "dirt" (yogore) as a key word, students will read literary texts while learning basic concepts to consider this issue.

It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

The texts covered will range from those published in the Meiji period to contemporary literature.

The term "dirt" is intended to imply, for the moment, irreversibility, excess, and that which can be tried to be removed but cannot be. It is opposed to purity and distinguished from vulnerability. Or, if we set up a dichotomy between logic and practice, it can be imagined as something that suggests practice. Based on the premise that there are things in this world that can only be described as "dirt," and that literary texts can sometimes carve out such things, I hope to deepen our discussion through this presentation and discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：文学テキストと先行研究の講読

3回：文学テキストと先行研究の講読

4回：発表1

5回：発表2

6回：発表3

7回：発表4

8回：発表5

9回：発表6

10回：発表7

11回：発表8

12回：発表9

13回：発表10

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

予習としては次回以降の授業で取り上げられる文学テキストや各種資料を読了する作業がこれに該当する。復習に該当するものとしては、自身が発表した場合は授業時の質疑応答の内容等をふまえ、考察をブラッシュアップ

ップすることが挙げられる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容（複数回）:50% 授業への積極的な参加:50%

テキスト / Textbooks

授業時にプリント等を配付する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

日本文学演習 6B

Seminar in Japanese Literature 6B

文学理論を学ぼう

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG166

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学研究を進める上で利用可能な方法論的レパートリーを拡張し、文学や文化に関わる幅広い知的領域の中に自分の関心を位置づけることをねらいとします。単に批評理論をマスターするだけでなく、そこを起点に現代の批評研究理論を横断していく思考を期待します。

The aim of the course is to expand the methodological repertoire available for advancing literary research, and to position students' interests within a wide range of intellectual areas related to literature and culture. The course will expect students to not only master critical theory but also, from there, to display thinking that cuts across modern critical research theories.

授業の内容 / Course Contents

飯田裕子・小平麻衣子編『ジェンダー×小説 ガイドブック』（ひつじ書房）をテキストに、ジェンダー批評の重要な概念や、最新の研究方法論の動向について学びます。基本的に演習形式をとり、テキストの各章について、担当する受講者の報告に基づいた議論を通して理解していきます。

Using "Gender × Novel Guidebook", students will learn about basic concept in Gender studies and the latest

trends in research methodology. The course will essentially adopt a seminar format, and students will understand each chapter of the text through discussions based on reports by course takers in charge of the assigned subject matter.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（ジェンダー批評とはどのようなものか）／授業の目的と概要、進め方について説明する。
- 2回：01 文学史・文学場
- 3回：02 ジェンダーカテゴリー
- 4回：03 女性作家・ガイノクリティシズム
- 5回：04 脱構築・クィア批評
- 6回：05 メディア論
- 7回：06 恋愛
- 8回：07 セクシュアリティ
- 9回：08 結婚・家族
- 10回：10 少女・学校・友情
- 11回：12 暴力
- 12回：14 労働・資本主義・社会運動
- 13回：17 越境・日本語文学
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習としては、担当者は分担した章について報告の準備をする。また、受講者は授業で扱う章をあらかじめ熟読しておき、討論に参加できる準備をする。

事後学習としては、授業で学んだ理論を実際の文学テキストに応用する実践を重ね、理論的な分析記述の経験を積むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 話題毎に提出を求める授業内レポート:40% 授業への参加態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

飯田裕子・小平麻衣子 『ジェンダー×小説 ガイドブック』 ひつじ書房 2023 9784823411922 -

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

日本文学演習 7B

Seminar in Japanese Literature 7B

近代文学研究の実践 (2)

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG167

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

問題編成・注解・テキスト分析という観点からテキストを読み解き、文学研究に関する方法と知識を身につけるとともに、自らの研究テーマに関する論文の執筆を行う。

Students will read and interpret texts from the perspectives of problem organization, annotation, and textual analysis, will acquire methods and knowledge related to literary research, and will write research papers on their own research themes.

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、毎回、発表者がレジユメを用意し、1時間程度の発表を行ったあと、その内容をめぐって2時間にわたる議論を行う。各発表者は自分の研究テーマに即したテキストを指定し、将来的には活字化することを前提として発表してもらう。

In every session, the presenter will prepare an outline and give a presentation of about 1 hour, after which the class will discuss the content for 2 hours. Presenters will designate texts according to their own research themes, and will give presentations that will be presumably put into print in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
 2回：発表1
 3回：発表2
 4回：発表3
 5回：発表4
 6回：発表5
 7回：発表6
 8回：発表7
 9回：発表8
 10回：発表9
 11回：発表10
 12回：発表11
 13回：発表12
 14回：発表13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワー等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表のレジュメに関しては、(1) 同時代評、周辺言説、作者自解、先行研究などの資料、(2) テキスト内の語彙に関する注釈、(3) 問題編成、(4) テキストの分析と考察、(5) 結論、などを明確にし、議論の叩き台とする。演習の参加者はテキストを精読し、自分の「読み」を示すことができるようにして演習に臨むこと。ゼミでは他者への敬意をはらいつつ容赦のない相互批評を展開してもらいたい。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

最終レポートに関しては、活字化できる水準の論文提出を求める。

テキスト/ Textbooks**参考文献 / Readings**

日本文学研究 1 B

Studies in Japanese Literature 1B

古文辞学と国学における詩歌論とその思想との連関

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG169

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG302

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 古文辞学・国学における詩論・歌論の連続性を理解する。
 - (2) 古文辞学・国学における詩論・歌論とその思想との結びつきを考察する。
 - (3) 英語圏の研究者による日本前近代の文献を対象とした議論の方法を学ぶ。
- (1) To understand the continuity of poetics in Kobunjigaku and Kokugaku.
 - (2) To examine the connection between poetics in Kobunjigaku and Kokugaku and their thought.
 - (3) Learn how to discuss the pre-modern Japanese literature through studies in English-speaking countries

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、古文辞学と国学との関係を論じた以下の英文研究書を訳読します。

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

江戸中期において古代の人間感情や社会のあり方の究明を目指した古文辞学・国学が、最も重視した対象が詩・歌でした。彼らは単に理想的な詩歌の制作方法を探究・試作しただけではなく、その思想的根幹にある古

代社会へのアクセスのための方法論を詩歌に則して論じました。

本演習では上掲書を訳読しながら、古文辞学と国学の詩歌論はいかにその思想と連関しているのかを受講者とともに議論していきます。

該当書の目次は以下の URL から確認できます。

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

We will translate and read the following English-language research book that discusses the relationship between Kobunjigaku and Kokugaku.

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

In the mid-Edo period, Kobunjigaku and Kokugaku, which aimed to investigate ancient human emotions and the nature of society, placed the greatest emphasis on poetry and song. They not only explored and developed ideal methods of poetry production, but also discussed the methodology for accessing ancient society, which was at the root of their ideology, in terms of poetry.

In this course, we will translate the above book and discuss with participants how the poetic theory of Kobunjigaku and Kokugaku is linked to their thought.

The table of contents of the book can be found at the following URL

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：発表方法の共有
- 3 回：発表・討議 1
- 4 回：発表・討議 2
- 5 回：発表・討議 3
- 6 回：発表・討議 4
- 7 回：発表・討議 5
- 8 回：中間総括
- 9 回：発表・討議 6
- 10 回：発表・討議 7
- 11 回：発表・討議 8
- 12 回：発表・討議 9
- 13 回：発表・討議 10
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する訳読箇所を翻訳した上で、議論すべきトピックについてまとめてくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表（複数回）:50% 討議への参加度:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

Peter Flueckiger Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism Stanford University Press 2010 0804761574 -

参考文献 / Readings

W. J. Boot and Takayama Daiki, eds Tetsugaku Companion to Ogyu Sorai : The Thought and Reception of Japan's Most Innovative Confucian Philosopher Springer 2019 9783030154745

板東 洋介 『徂徠学派から国学へ 表現する人間』 ペリカン社 2019 4831515302

酒井直樹 『過去の声 18世紀日本の言説における言語の地位』 以文社 2002 4753102211

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ 英語文献を読んでいく粘り強さ
- ・ 自身の研究の視野を広げようとする柔軟さ

日本文学研究 3B

Studies in Japanese Literature 3B

龍澤 彩 (RYUSAWA AYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JG171
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンライン回は第3、5、9、10、11、14回
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： JAL6310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PG306

授業の目標 / Course Objectives

源氏物語を主題とする絵画「源氏絵」を通じて、テキストの絵画化について理解を深めること。美術史研究の基本を学びつつ、源氏絵を文学作品受容の一形態として捉える視点を得て、その方法論を各自の研究に活用できるようにすること。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of the pictorialization of texts through "Genji-e," paintings based on The Tale of Genji. While learning the basics of art history research, students will also be able to apply this methodology to their own research by viewing Genji-e as a form of reception of literary works.

授業の内容 / Course Contents

講義では主として、源氏物語を主題とする絵画「源氏絵」を取りあげる。源氏物語は美術史においても、平安時代から現代まで視覚化され続けてきている希有な主題であり、毎回の講義では、多様な作品を画像を用いて紹介しながら図様の継承と変容について講じる。物語絵を文学作品受容の一形態として捉え、受講者各自がそれぞれの研究において視覚的イメージを活用していけるよう、方法論を共有し、ディスカッションを交えながら進める。この講義は「日本文学研究 3A」と連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

The lectures will focus mainly on "Genji-e," paintings based on The Tale of Genji. The Tale of Genji is a rare

subject that has been visualized in art history from the Heian period to the present, and in each lecture, we will introduce various works using images and discuss the inheritance and transformation of the motifs. The lectures will share methodologies and engage in discussion so that each student can utilize visual images in their own research, viewing story pictures as a form of reception of literary works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：源氏絵概説
- 3回：徳川・五島本源氏物語絵巻①（オンライン）
- 4回：徳川・五島本源氏物語絵巻②
- 5回：徳川・五島本源氏物語絵巻③（オンライン）
- 6回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション①
- 7回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション②
- 8回：中世の源氏絵
- 9回：近世の源氏絵①（オンライン）
- 10回：近世の源氏絵②（オンライン）
- 11回：源氏絵と工芸デザイン（オンライン）
- 12回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション③
- 13回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション④
- 14回：近現代の源氏絵とアレンジ(オンライン)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術館・博物館での展覧会見学に基づく課題を出題する予定である（学期中に講義内容に適した展覧会が開催される場合）。詳細は講義内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート:30% リアクションペーパー:10% 研究報告:20% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本文学研究 4 B

Studies in Japanese Literature 4B

原爆・戦争文学を読み直す

川口 隆行 (KAWAGUCHI TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG172

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 講義と演習

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG308

授業の目標 / Course Objectives

日本の近現代文学（小説、詩歌、評論、証言など）とその隣接領域（絵画などの視覚文化、雑誌メディア）についての知見を整理したうえで、新たな課題を見つけ、実践的に研究を遂行する能力を身に付ける。

Acquire the ability to organize knowledge of modern and contemporary Japanese literature (novels, poetry, criticism, testimonies, etc.) and its adjacent fields (painting and other visual culture, magazine media), find new issues, and carry out theoretical, empirical, or practical research.

授業の内容 / Course Contents

原爆や戦争を描いた文学について、研究史や研究動向を概観しながら、作品の新たな読み直しを实践することで、「戦後」や「戦争」あるいは「平和」といった概念を問い直す。具体的には、授業前半では川口隆行『広島抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動』（琥珀書房、2022）を講読、授業後半では、講談社学芸文庫『戦争小説短篇名作選』（講談社、2015）所収の作品の演習をそれぞれ行う。

The class will review the history and trends of research on literature depicting the atomic bombing and war, and practice new readings of works to question the concepts of "postwar", "war", or "peace". Specifically, in the first

half of the class, students will subscribe to Kawaguchi Takayuki's "The Poetics of Resistance in Hiroshima-Analyses of A-Bomb Literature and Post-World War II Cultural MovementS" (Kohaku Shobo, 2022), and in the second half of the class, they will practice reading works from the Kodansha Gakugei Bunko "A Short Masterpiece of War Fiction" (Kodansha, 2015).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：研究史・研究動向概説

※教員による講義

2回：講読1：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第1、2、3章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

3回：講読2：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第4章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

4回：講読3：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第5章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

5回：講読4：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第6章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

6回：講読5：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第7、8章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

7回：講読6：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第9章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

8回：演習1：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

9回：演習2：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

10回：演習3：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

11回：演習4：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

12回：演習5：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

13回：演習6：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

14回：演習7：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読の回については、あらかじめ講読テキストを読み、質問や疑問点を整理した配付資料（A4一枚程度でも良い）を各自用意しておくこと。演習の回については、演習担当者は発表の準備を行い、ほかの受講生は作品を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講読における質疑:40% 演習の発表:60%

テキスト / Textbooks

川口隆行 『広島 抗いの詩学』 琥珀書房 2022 9784910723273 -

遠藤周作ほか 『戦争小説短篇名作選』 講談社 2015 9784062902779 -

参考文献 / Readings

川口隆行 『原爆文学という問題領域』 創元社 2008 9784881465769

石川巧・川口隆行 『戦争を〈読む〉』 ひつじ書房 2013 9784894766440

川口隆行編 『〈原爆〉を読む文化事典』 青弓社 2017 9784787234230

五味渕典嗣 『「敗け方」の問題』 有志舎 2024 9784908672699

その他 / Others

教科書二冊については、図書館等で借りるなり、購入するなりして各自準備してください。『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』については、購入する場合は出版社のホームページ

(<https://kohakubooks.com/>) から申込みすれば、割引購入できるようにしておきます。

注意事項

・ 11/1(金)3～5限(13:25～18:50)

・ 11/2(土)2～5限(10:45～18:50)

教室：6401

・ 12/6(金)3～5限(13:25～18:50)

・ 12/7(土)1～5限(08:50～18:50)

※12/6、7は通常の授業期間である。他科目と曜日時限重複のないよう注意すること。

教室：4408

日本文学研究 5B

Studies in Japanese Literature 5B

平井 吾門／水谷 隆之／家永 香織／石川 巧／金子 明雄／尾崎 名津子／鈴木 彰／井野 葉子／藤井 嘉章 (HIRAI AMON/ MIZUTANI TAKAYUKI/ IENAGA KAORI/ ISHIKAWA TAKUMI/ KANEKO AKIO/ OZAKI NATSUKO/SUZUKI AKIRA/INO YOKO /FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JG173
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL6310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 後期課程用科目コード：PG310

授業の目標 / Course Objectives

日本文学研究における多種多様な方法や視点について、徹底した知識の獲得とその理解を身につけるための自主講座。

This is a self-directed course for acquiring thorough knowledge and understanding of diverse methods and viewpoints for research into Japanese literature.

授業の内容 / Course Contents

学生主導による自主講座として、それぞれ明確なテーマと問題意識のもとに演習や調査あるいは読書会などのプロジェクトを組む。各テーマに応じて、指導教員の指導や助言を受けるとともに、参加者全員の自主的な活動が中心となる。

As a student-led self-directed course, the course will organize projects such as exercises, surveys, or reading sessions under clear themes and awareness of issues. Students will receive guidance and advice from the instructor in line with their themes, focused on the self-directed activities of all participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業内容・テーマについてのガイダンス
 2 回：発表と質疑応答 1
 3 回：発表と質疑応答 2
 4 回：発表と質疑応答 3
 5 回：発表と質疑応答 4
 6 回：発表と質疑応答 5
 7 回：発表と質疑応答 6
 8 回：発表と質疑応答 7
 9 回：発表と質疑応答 8
 10 回：発表と質疑応答 9
 11 回：発表と質疑応答 1 0
 12 回：発表と質疑応答 1 1
 13 回：発表と質疑応答 1 2
 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

プロジェクトの計画と運営に積極的に加わることを求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常の参加・活動:60% 報告書:40%

テキスト / Textbooks

履修する学生の主体的な選択にゆだねる。

参考文献 / Readings

指導教員の指示による。

その他 / Others

指導教員の指示による。

日本文学研究 6B

Studies in Japanese Literature 6B

戦後文学における「義」……貫戦期 (trans-war regime)における日本文学の変容を意識しながら

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG174

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG312

授業の目標 / Course Objectives

主として戦後の散文作品を扱う。その際には、関東大震災後、日中戦争、アジア・太平洋戦争、GHQ 占領期、冷戦期における散文と時代と文化の関係を意識し考察する。考察を通じて、散文作品に描かれた「義」について考えていきたい。

宮沢賢治、太宰治、大江健三郎、深沢七郎らの作品を扱う。

Mainly deals with postwar prose works. In doing so, we will consider the relationship between prose, time, and culture after the Great Kanto Earthquake to the Sino-Japanese War, the Asia-Pacific War, the GHQ occupation period, and the Cold War period. Through this discussion, I would like to think about the "righteousness" depicted in prose works.

We handle works by Kenji Miyazawa, Osamu Dazai, Kenzaburo Oe, Shichiro Fukazawa, and others.

授業の内容 / Course Contents

この授業はゼミナール形式で行う。

理論研究と模擬授業の後に、各自の論文課題の研究報告を行う。

理論研究においてはアダプテーション・パロディについてとりあげる。

This class will be held in a seminar format.

After theoretical research and mock classes, each student will present a research report on their thesis topic.

In theoretical research, we will focus on adaptation, and parody.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション。研究課題、発表分担の確認。
- 2 回：理論研究 1
- 3 回：理論研究 2
- 4 回：模擬授業
- 5 回：研究発表
- 6 回：研究発表
- 7 回：研究発表
- 8 回：研究発表
- 9 回：研究発表
- 10 回：研究発表
- 11 回：研究発表
- 12 回：理論研究 3
- 13 回：理論研究 4
- 14 回：まとめ。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

理論研究及び受講生各自の研究発表関連テキストを共有し、あらかじめ予習してくる。

発表者はレジュメを準備してくる。

各自研究発表を担当した課題についてレポートを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:30% ディスカッションへの積極的参加:30% フォローアップ:10%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

リンダ・ハッチオン 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 4771022674

大島丈志 『現代文化のなかの〈宮沢賢治〉』 新典社 2023 4787968696

尾崎真理子 『大江健三郎の「義」』 講談社 2022 4065284449

中国文学研究 2

Studies in Chinese Literature 2

中国哲学文献研究

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JJ110「現代文明学演習3」との併置科目

後期課程用科目コード：PG372

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 漢文訓読法を用いて中国哲学の資料を読解できる。
- ・ 資料から思想的内容を正確に読み取り、哲学的・文学的あるいは比較文明的観点から評価できる。

The goals of this course are to

- ・ be able to read Chinese philosophical materials using the kanbun-kundoku-ho.
- ・ be able to accurately read ideological content from materials and evaluate it from a philosophical / literary or comparative civilization viewpoint.

授業の内容 / Course Contents

中国哲学の資料を、漢文訓読法を用いて読解する。あわせて、その内容がいかなる射程を備えているかについて議論する。

テキストとしては、「漢文大系」もしくは「漢籍国字解全書」所収の中国古典を用いる。

In this course, we will use methods of reading Chinese texts in Japanese in order to comprehend Chinese

philosophical documents. At the same time, we will debate the scope possessed by their contents.

As the text, we use Chinese classics from “Kanbun Taikai” or “Kanseki Kokuji-kai Zensho”.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（1）
- 3回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（2）
- 4回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（3）
- 5回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（4）
- 6回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（5）
- 7回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（6）
- 8回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（7）
- 9回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（8）
- 10回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（9）
- 11回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（10）
- 12回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（11）
- 13回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（12）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は一定量を分担し、本文ならびに注の訓読と日本語訳を用意する。担当に当たっていない参加者も、次回に読むべき範囲を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告の担当（複数回）：50% 議論への参加度：30% 最終レポート割合：20%

テキスト / Textbooks

プリントなどを配付する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール理解に対応すること。
- ・担当箇所の内容について現代日本語での訳文を含む発表資料を作成すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のため Canvas LMS を使う可能性がある。

発表資料や最終レポート作成のために PC が必要。

その他/ Others

演習形式。基本的に一回ごとに担当者を決め、所定の内容を報告してもらう。

日本語学演習 2

Seminar in the Japanese Language 2

日本語学史探求

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG181

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語学史を専門的に探究する手法を身に付ける。

To acquire a specialized method of exploring the history of Japanese language studies.

授業の内容 / Course Contents

時枝誠記『国語学史』を精読し、研究史を丹念に追うことで現代の水準から注釈を打っていく。受講生は、分担箇所について調査報告し、議論の中でさらに質と量の向上を図るものである。これらを通じて、日本語学史の探究について、その方法論を学び取っていくことになる。

The course will be a close reading of Tokieda Motoki's "History of Japanese Linguistics" and will be annotated from a modern level by carefully following the research history. Students will report on their research in the assigned sections and further improve the quality and quantity of their work through discussion. Through these activities, students will learn about the methodology of research in the history of Japanese linguistics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：受講者による報告（1）
 3回：受講者による報告（2）
 4回：受講者による報告（3）
 5回：受講者による報告（4）
 6回：受講者による報告（5）
 7回：受講者による報告（6）
 8回：受講者による報告（7）
 9回：受講者による報告（8）
 10回：受講者による報告（9）
 11回：受講者による報告（10）
 12回：受講者による報告（11）
 13回：受講者による報告（12）
 14回：受講者による報告（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日本語学の入門書・概説書などを熟読するとともに、関連諸分野の先行研究を広く探しておくこと。また、分からなかったことも含めて、何（書籍や論文その他）をどのように調べたのか、ということ具体的に明らかにして臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション（複数回）:50% 討議への参加状況:50%

テキスト / Textbooks

時枝誠記 『国語学史』 岩波書店 2018 9784003815045 -

とりあえず受講生の方向性を探るため、テキスト購入については参加者に追って指示します。

参考文献 / Readings

日本語学研究 1 B

Studies in the Japanese Language 1B

日本語史と計量言語学

大川 孔明 (OHKAWA KOMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG182

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG352

授業の目標 / Course Objectives

日本語の歴史的な問題について、計量的な手法を用いて検討できるようになる。

Students will be able to examine historical issues in the Japanese language using quantitative methods.

授業の内容 / Course Contents

日本語の歴史についての研究は、さまざまな方法でなされてきた。その中には、対象の言語要素の数量に着目した方法（計量言語学）が存在する。計量的手法を用いることで、言語事象について客観的に検討することが可能となる。

本授業では、計量言語学的方法論に基づいて日本語の歴史的な問題について検討し、議論する中で、計量言語学と日本語史に関する知識を理解し、また研究上の技術を身につけることを目指す。

In this class, students will examine and discuss historical issues of the Japanese language based on metrolinguistic methodology, aiming to understand knowledge about metrolinguistics and the history of the Japanese language, as well as to acquire research skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・計量言語学とは
- 2回：計量言語学と日本語史研究
- 3回：計量言語学の手法（1）
- 4回：計量言語学の手法（2）
- 5回：計量言語学の手法（3）
- 6回：計量的手法を用いた日本語史研究の実例（1）
- 7回：計量的手法を用いた日本語史研究の実例（2）
- 8回：計量的手法を用いた日本語の問題発見（1）
- 9回：計量的手法を用いた日本語の問題発見（2）
- 10回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（1）
- 11回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（2）
- 12回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（3）
- 13回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は日本語の問題を検討することに主眼を置くため、具体的な調査や考察を授業外で行う必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間課題:40% 授業参加態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

村上征勝他 『計量文献学の射程』 勉誠出版 2016 9784585240075

金明哲 『テキストアナリティクスの基礎と実践』 岩波書店 2021 9784000298964

授業内で適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット等、コーパスにアクセスできる環境を整えてください。

日本語学研究 2B

Studies in the Japanese Language 2B

アカデミックライティング応用

Developing Academic Writing skills

川瀬 卓 (KAWASE SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JG183

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL6410

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PG354

授業の目標 / Course Objectives

達成目標は次のとおりです。

- 著者の意図するところをくみとりながら、論文の内容を過不足なく押さえられるようになる。
- 先行研究を発展的に継承して、論文執筆を行えるようになる。
- 調査・考察した内容をわかりやすく説得力のある文章で表現できるようになる。

This course aims for students

- to become able to understand the content of an article appropriately, taking into account the author's intention.
- to become able to write papers while critically reviewing previous research.
- to become able to express research results and discussions intelligibly and to form persuasive sentences.

授業の内容 / Course Contents

学術論文の読解、および研究発表を行います。学術論文の読解では、日本語学の研究方法、分析の観点を学ぶ

とともに、論文の読み方を学びます。研究発表では、各自の興味・関心に応じたテーマについて具体的な課題を設定し、調査した結果を発表します。

Students will read academic papers on Japanese linguistics and present their research. In reading academic papers, they will learn research methods and analytical perspectives in Japanese linguistics, as well as how to read papers. In the student research presentations, students will present the results of their research on specific topics of interest to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：受講者による報告 (1)
- 3回：受講者による報告 (2)
- 4回：受講者による報告 (3)
- 5回：読むこと
- 6回：調べること、考えること
- 7回：先行研究
- 8回：受講者による報告 (4)
- 9回：受講者による報告 (5)
- 10回：受講者による報告 (6)
- 11回：受講者による報告 (7)
- 12回：受講者による報告 (8)
- 13回：レポート・ピアレビュー
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 演習担当者は入念に準備を行ってください。見やすく、要点を押さえた演習資料を作成してください。担当者以外の受講生も、取り上げられる論文をあらかじめ読み、講読票を作成することが求められます。用語を調べるなどして内容を理解しておくとともに、議論になりそうな点を考えておいてください。

(復習) 授業で話題となった事象について関連文献を調べたり、授業中に紹介された参考文献を読んだりして、理解を深めてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表:40% 討議への参加状況:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、授業時に資料を配布します。

参考文献 / Readings

適宜、授業時に紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

原則として、受講は「日本語学研究 2A」を履修した者のみとします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレットなどを用意してください。

なお、Google Classroom を使用予定です。

その他/ Others

取り上げる論文は受講生と相談の上、決定します。扱う分野やテーマなど、授業内容の調整をすることもあります。

フランス文学演習 1 A

Seminar in French Literature 1A

ケベック文学を読む

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀ケベック文学を代表するアンヌ・エベール (Anne Hébert, 1916-2000) の作品を講読しながら、ケベック文学の成立と現代ケベック社会を考察できるようになる。

Students will be able to consider the establishment of Quebec literature and modern Quebec society by reading the works of Anne Hébert (1916-2000), a representative of 20th-century Quebec literature.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化が進み、国境の概念が揺らいできている今日、フランス文学についても、フランス語圏を視野に入れることによってより鮮明に見えてくるものがあるのではないだろうか。ケベック州は 1960 年代に起きた「静かな革命」により伝統社会から一気に近代化した。カナダに留まりつつも、北米における独自のフランス語文化を育んでいる興味深い地域である。

中でもアンヌ・エベールは 20 世紀後半のケベックを代表する作家で、ケベックのフランス語系社会や女性のアイデンティティの問題を文学的に先取りし、掘り下げた作家である。彼女が 1950 年に発表した中編小説集『激流』Le Torrent の中から同題の作品を読みながら、ケベックの歴史や社会を振り返り、フランス語を核にして

多民族が共生する現代ケベックの姿までも眺めてみたい。

Today, as globalization progresses and the concept of national borders is shaken up, we may be able to see French literature more clearly from the perspective of the French-speaking world. The province of Quebec was quickly modernized from a traditional society by the "Quiet Revolution" that took place in the 1960s. It is an interesting region that has nurtured its own French-language culture in North America while remaining part of Canada.

Anne Hébert, among others, is a writer who is representative of Quebec in the second half of the twentieth century. She was a writer of literary clairvoyance who explored the issues of francophone Quebec society and women's identity. By reading *Le Torrent* published in 1950, students will reflect upon the history and society of Quebec, and examine the contemporary Quebec where people of various origins live together with French as the core.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：概略カナダの歴史
- 3回：概略ケベックの歴史と社会
- 4回：Le torrent 講読 (1)
- 5回：Le torrent 講読 (2)
- 6回：Le torrent 講読 (3)
- 7回：Le torrent 講読 (4)
- 8回：Le torrent 講読 (5)
- 9回：Le torrent 講読 (6)
- 10回：Le torrent 講読 (7)
- 11回：Le torrent 講読 (8)
- 12回：Le torrent 講読 (9)
- 13回：Le torrent 講読 (10)
- 14回：Le torrent 講読 まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業で行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業への参加度 (口頭発表や質疑応答) :60%

最終レポート割

合 :40%

テキスト / Textbooks

プリントを使用

参考文献 / Readings

- 日本ケベック学会 『ケベックを知るための56章(第2版)』 明石書店 2024 9784750356617
小倉和子 『記憶と風景：間文化社会ケベックのエクリチュール』 彩流社 2021 9784779127960
ジャック・ラクルシエール 『ケベックの歴史』 水声社 2023 9784801007499
Anne Hébert Le Torrent Bibliothèque québécoise 2002 9782894060339

フランス文学演習 1 B

Seminar in French Literature 1B

紀行文学を読む

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

旅が余暇の過ごし方として定着しつつあった時代にそれがどのように受容されていたかを、文学作品を通して考察できるようになる。

Through literary works, students will be able to examine how travel was accepted at a time when it was becoming an established way of spending leisure time.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀フランスの紀行文学を読む。本年度は主としてロマン主義の作家シャトーブリアン（François-René de Chateaubriand, 1768-1848）が 1806 年に発表した『モン・ブランへの旅』（Voyage au Mont-Blanc）という小冊子を取り上げる。作家たちが風景を描写することに目覚めた時期の作品を通して、シャトーブリアンが壮大な山岳風景を描く独特の手つきを分析する。併せて、ミシュレ（Jules Michelet, 1798-1874）の『山』（La Montagne）の抜粋も読み、比較することにより、シャトーブリアンのテキストの特異性を考察する。

Students will read 19th century French travel literature. This year, the focus will be on the Romantic writer Chateaubriand (1768-1848), whose Voyage au Mont-Blanc was published in 1806. The writer's unique technique

of describing spectacular mountain landscapes will be analyzed through the work from a period when artists and writers were discovering the art of describing landscapes. We will also read excerpts from *La Montagne* by Jules Michelet (1798-1874) and compare them to examine the specificity of Chateaubriand's text.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (1)
- 3回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (2)
- 4回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (3)
- 5回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (4)
- 6回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (5)
- 7回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (6)
- 8回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (7)
- 9回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (8)
- 10回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (9)
- 11回：Voyage au Mont-Blanc 講読 (10)
- 12回：La montagne 講読 (1)
- 13回：La montagne 講読 (2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業で行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業への参加度 (口頭発表や質疑応答) :60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

プリントを使用

参考文献 / Readings

Chateaubriand *Voyage au Mont-Blanc & réflexions sur les paysages de montagnes* Séquences 1994
2907156322

Michelet et Theurier *La montagne, étude* Hachette Livre BNF 2021 9782329586496

フランス文学特殊研究 2 A

Study in French Literature 2A

20 世紀フランス小説と批評を読む

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH303

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀フランス文学を代表する小説や批評を素材にして、フランス語テキストの精読をおこないながら、修士論文を書くうえで役に立つ文学研究の方法論を習得する。

Students will read French text carefully and learn about methodology of literature research that will help them to write their graduate thesis.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀の小説の抜粋や研究論文を読みながら、フランス文学の原典を分析し論じるためのコツを身につけてもらう。必要に応じて、おもにプルースト研究を例にとり、伝記研究、テーマ批評、ナラトロジー（物語の技法論）、脱構築、表象文化史的アプローチ、ディスクール分析、草稿研究（生成批評）など、フランス文学研究の方法論、批評の歴史について紹介する。学んだ読解の技法を、受講者自身の研究対象に応用する機会にもしたい。

Students will learn how to analyze and discuss literary texts in French.

Students will apply reading technique they have learnt on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：精読と発表1
- 3回：精読と発表2
- 4回：精読と発表3
- 5回：精読と発表4
- 6回：精読と発表5
- 7回：精読と発表6
- 8回：精読と発表7
- 9回：精読と発表8
- 10回：精読と発表9
- 11回：精読と発表10
- 12回：精読と発表11
- 13回：精読と発表12
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワーポイント等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト/ Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

初回授業時に指示する。

フランス文学特殊研究 2B

Study in French Literature 2B

20 世紀フランス小説と批評を読む

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH164

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH304

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀フランス文学を代表する小説や批評を素材にして、フランス語テキストの精読をおこないながら、修士論文を書くうえで役に立つ文学研究の方法論を習得する。

Students will read French text carefully and learn about methodology of literature research that will help them to write their graduate thesis.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀の小説の抜粋や研究論文を読みながら、フランス文学の原典を分析し論じるためのコツを身につけてもらう。必要に応じて、おもにプルースト研究を例にとり、伝記研究、テーマ批評、ナラトロジー（物語の技法論）、脱構築、表象文化史的アプローチ、ディスクール分析、草稿研究（生成批評）など、フランス文学研究の方法論、批評の歴史について紹介する。学んだ読解の技法を、受講者自身の研究対象に応用する機会にもしたい。

Students will learn how to analyze and discuss literary texts in French.

Students will apply reading technique they have learnt on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：精読と発表1
- 3回：精読と発表2
- 4回：精読と発表3
- 5回：精読と発表4
- 6回：精読と発表5
- 7回：精読と発表6
- 8回：精読と発表7
- 9回：精読と発表8
- 10回：精読と発表9
- 11回：精読と発表10
- 12回：精読と発表11
- 13回：精読と発表12
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

初回授業時に指示する。

フランス文学特殊研究 3 A

Study in French Literature 3A

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JH165
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL6313
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PH305

授業の目標 / Course Objectives

フランス現代哲学の原書講読を通して、テキスト読解の力を深めるとともに、思想と文学の基本的な知識の習得を目指す。

Students will learn the Modern French philosophy and learn about methodology of literature research, by reading French text.

授業の内容 / Course Contents

フランス現代思想や文芸評論の重要なテキストを原文で精読することによって、テキスト読解の技法を深めるとともに、現代思想の基本的な流れについても学ぶ。

参加者は毎回、テキストを丁寧に予習するのみならず、基本的な概念などについても十分に調べた上で参加すること。

Students will deepen the techniques of reading texts and learn the basic flow of modern thought by reading the important texts of French contemporary thought and literary criticism in the original text.

Participants should not only prepare for the text carefully, but also thoroughly study basic concepts before participating.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入授業
- 2回：演習・作業1
- 3回：演習・作業2
- 4回：演習・作業3
- 5回：演習・作業4
- 6回：演習・作業5
- 7回：演習・作業6
- 8回：演習・作業7
- 9回：演習・作業8
- 10回：演習・作業9
- 11回：演習・作業10
- 12回：演習・作業11
- 13回：演習・作業12
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ただの訳読にとどまらず、関連項目などを調べて、授業に臨むこと。自分の研究テーマと接続させる形で、テキストを読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

履修者と相談の上、決めることにします。

参考文献 / Readings

授業時に随時、指示します。

フランス文学特殊研究 3 B

Study in French Literature 3B

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JH166
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL6313
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PH306

授業の目標 / Course Objectives

フランス現代哲学の原書講読を通して、テキスト読解の力を深めるとともに、思想と文学の基本的な知識の習得を目指す。

Students will learn the Modern French philosophy and learn about methodology of literature research, by reading French text.

授業の内容 / Course Contents

フランス現代思想や文芸評論の重要なテキストを原文で精読することによって、テキスト読解の技法を深めるとともに、現代思想の基本的な流れについても学ぶ。

参加者は毎回、テキストを丁寧に予習するのみならず、基本的な概念などについても十分に調べた上で参加すること。

Students will deepen the techniques of reading texts and learn the basic flow of modern thought by reading the important texts of French contemporary thought and literary criticism in the original text.

Participants should not only prepare for the text carefully, but also thoroughly study basic concepts before participating.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入授業
- 2回：演習・作業1
- 3回：演習・作業2
- 4回：演習・作業3
- 5回：演習・作業4
- 6回：演習・作業5
- 7回：演習・作業6
- 8回：演習・作業7
- 9回：演習・作業8
- 10回：演習・作業9
- 11回：演習・作業10
- 12回：演習・作業11
- 13回：演習・作業12
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ただの訳読にとどまらず、関連項目などを調べて、授業に臨むこと。自分の研究テーマと接続させる形で、テキストを読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

履修者と相談の上、決めることにします。

参考文献 / Readings

授業時に随時、指示します。

フランス文学特殊研究 4 B

Study in French Literature 4B

フランス語テキストの精読（中世）

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH168

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH308

授業の目標 / Course Objectives

中世・ルネサンスの作品を中心にフランス語テキストの精読を行う。

Students will read French texts of the Middle Ages and Renaissance.

授業の内容 / Course Contents

中世・ルネサンスのテキストを取り上げ、精読を行う。学生の関心とレベルに応じて内容を検討。必要に応じて古フランスや中フランス語の文法説明を行う。あわせて背景となるフランスの文化や歴史についても案内を行う予定。

学生による各自の研究テーマの簡単な発表も予定している。

Students will read French texts of the Middle Ages and Renaissance. They will learn elementary grammar of the Old French and the Middle French. At the same time, students will be introduced to background French culture and history.

Students will also make simple presentations on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：中世概論
- 3回：文法
- 4回：講読
- 5回：講読
- 6回：講読
- 7回：講読
- 8回：講読
- 9回：講読
- 10回：講読
- 11回：講読
- 12回：発表1
- 13回：発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行う予定。また各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な現代フランス語の力

フランス文学特殊研究 5 A

Study in French Literature 5A

ルソー『告白』から：フランス自伝文学の世界への招待

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH169

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL6313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH309

授業の目標 / Course Objectives

2022,23 年度に続き、『告白』を精読します。2022,23 年度とは異なる観点から分析します。

自伝の終わり？自伝のはじまり？フランス自伝文学の最高傑作、ジャン＝ジャック・ルソーの『告白』を読みます。ところで、『告白』は、「これまでに例がなく、そしてこれからも誰も真似ておこなうことのないであろう企図」、つまりは反自伝ともいえる作品です。自伝でありながら自伝ではない…そのようなものとしてこのあまりにも有名な作品を読み解いていきます。

Is this the end of autobiography? Or the beginning of it? Students will read the best of French autobiographies, Jean-Jacques Rousseau's Les Confessions. By the way, Les Confessions was written so that no such work had been written and no imitation work will be done. In other words, it is an anti-autobiography. It is and isn't an autobiography at the same time... Students will read and understand this overtly popular work.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀以降のフランス文学・思想はこの作品なしでは正確に理解できません。たえず『告白』以前にさかのぼりながら、そして『告白』以降の文学史・思想史を想起しながら、この作品を読んでいきます。またこの授

業では「草稿」も（少しだけ）読みます。いわゆる「草稿研究」をおこなうわけではありませんが、「草稿」が思いがけぬ「発見」、あるいは読解のヒントを与えてくれることを確認し、修士論文執筆の参考となるようにします。

Without this work, students will not understand post-19th century French literature and thinking. Students will read this work by continuously tracing time before Les Confessions and imagining history of literature and thinking after Les Confessions. In addition, students will also read draft in this class. Students will not conduct the draft research literally, but students will check draft to find clues to help them understand the text.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：作品の背景について
- 3 回：テキスト読解（1）
- 4 回：テキスト読解（2）
- 5 回：テキスト読解（3）
- 6 回：テキスト読解（4）
- 7 回：テキスト読解（5）
- 8 回：テキスト読解（6）
- 9 回：テキスト読解（7）
- 10 回：テキスト読解（8）
- 11 回：テキスト読解（9）
- 12 回：テキスト読解（10）
- 13 回：テキスト読解（11）
- 14 回：テキスト読解（12）＋まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストと草稿の読解はもちろんのこと、作品全体の理解につとめてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度（予習状況）:30% 課題:30% 授業内での報告:30% テキスト理解度:10%

テキスト / Textbooks

コピー配布。さらに電子版テキストを使用。

参考文献 / Readings

参考文献等については一回目の授業で指示します。

フランス語学特殊研究 1 A

Study in the French Language 1A

フランス語テキストの精読と文学研究の方法論

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH181

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL5813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH351

授業の目標 / Course Objectives

修士論文を書くために必要な文学研究の方法論を習得しながら、フランス語テキストの精読を行う。

Students will learn literature research methods required to write their graduate thesis. Students will read French texts carefully.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学研究に必要な、テーマの選び方、文献調査の仕方、論文の構成方法などを紹介し、受講生の関心とレベルに合わせて具体的な訓練を行い、学生自身による研究発表も行う。

また、ユゴー、スタンダール、フローベールなど 19 世紀文学の主要なテキストの抜粋を読む。

Students will be introduced to methods to select subjects, research literatures, and compose thesis, which are required in French literature research. Students will receive specific training according to their interests and levels and make their own presentations.

In addition, students will read excerpts from major texts in 19th century literature, including Hugo, Stendhal, and Flaubert.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
 2回：文学研究の方法論1
 3回：文学研究の方法論2
 4回：先行研究の調べ方、まとめ方、図書館ガイダンス
 5回：仏語辞書の引き方
 6回：テキスト精読1
 7回：テキスト精読2
 8回：テキスト精読3
 9回：テキスト精読4
 10回：テキスト精読5
 11回：テキスト精読6
 12回：学生発表1
 13回：学生発表2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行うので、準備が必要。また、各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

工藤庸子 恋愛小説のレトリック 東京大学出版会 1998 9784130830263

その他 / Others

オンラインの仏語辞書サイト

<http://micmap.org/dicfro/>

立教大学 Master of Writing, Master of Presentation

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofWriting.pdf>

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofPresenta>

フランス語学特殊研究 1 B

Study in the French Language 1B

フランス語テキストの精読と文学研究の方法論

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH182

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL5813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PH352

授業の目標 / Course Objectives

修士論文を書くために必要な文学研究の方法論を習得しながら、フランス語テキストの精読を行う。

Students will learn literature research methods required to write their graduate thesis and read French texts carefully.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学研究に必要な、テーマの選び方、文献調査の仕方、論文の構成方法などを紹介し、具体的な訓練を行う。春学期に扱った作品のほか、他の時代のテキストを取り上げ、精読を行う。あわせて背景となるフランスの文化や歴史についても案内を行う。

学生による各自の研究テーマの簡単な発表も予定している。

Students will be introduced to methods to select subjects, research literatures, and compose thesis, while receiving specific training. In addition to works introduced in the spring semester, students will select and read carefully several texts of other centuries. At the same time, students will be introduced to background French culture and history.

Students will also make simple presentations on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：文学研究の方法論 1
- 3回：文学研究の方法論 2
- 4回：先行研究の調べ方、まとめ方
- 5回：フランス語文法の確認・書誌作成の練習
- 6回：テーマ的検討 1
- 7回：テーマ的検討 2
- 8回：精読の技法 1
- 9回：精読の技法 2
- 10回：精読の技法 3
- 11回：精読の技法 4
- 12回：発表 1
- 13回：発表 2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行うので、準備が必要。また各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

フランス語学演習 1 A

Seminar in the French Language 1A

Ecriture académique en français (I)

グロワザール (GROISARD JOCELYN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH191

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL5412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、フランス語作文（dissertation）の方法を習得することである。学習を通じて、口頭発表の準備の仕方、小論文の構想のまとめ方、小論文の執筆技法といった実践的な能力が得られる。

In this class, you will learn a specific writing technique in French called "dissertation". In the process, you will also practice the techniques of oral exposition, paper composition, and text redaction.

授業の内容 / Course Contents

この授業での学習を通じて、論理的に構築された文章をフランス語で執筆する能力を発展させる。的確な論理にもとづいて自分の考えを明瞭に述べる練習が行われる。

また、十分に練られた筋道（問題の提示、議論の展開、結論）に即して自分の考えを構成して文章を作成する。

本演習での学習はフランス語作文の技法を習得するのに役立つが、より広義には、自分の考えを表現するためにフランス語で書き表わす能力全般の訓練になる。

Thanks to this class, you will develop your ability to write texts in French with a firm logical structure. This will

improve your general capacity to express yourselves in a logical way.

Besides, you will also enhance your linguistic level in French by practicing various exercises of oral exposition, reading, and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：「dissertation」とは何か
- 2回：自分の考えを表現する
- 3回：自分の考えを根拠づける
- 4回：適切な例を示す
- 5回：作文の構成法 I：文章の構想
- 6回：作文の構成法 II：構想の種類例
- 7回：導入部の書き方 I：主題の提示
- 8回：導入部の書き方 II：主題の問題化
- 9回：導入部の書き方 III：構成の告知
- 10回：議論のつなげ方
- 11回：結論の書き方 I：自分の考えを要約する
- 12回：結論の書き方 II：肝心な考えに注目させる
- 13回：つづり・文法の確認の方法
- 14回：執筆した作文の講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の発表:30% 宿題:30% 最終テスト:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

フランス語学演習 1 B

Seminar in the French Language 1B

Ecriture académique en français (II)

グロワザール (GROISARD JOCELYN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JH192

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL5412

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、フランス語作文（dissertation）の方法を習得することである。学習を通じて、口頭発表の準備の仕方、小論文の構想のまとめ方、小論文の執筆技法といった実践的な能力が得られる。

In this class, you will learn a specific writing technique in French called "dissertation". In the process, you will also practice the techniques of oral exposition, paper composition, and text redaction.

授業の内容 / Course Contents

この授業での学習を通じて、論理的に構築された文章をフランス語で執筆する能力を発展させる。的確な論理にもとづいて自分の考えを明瞭に述べる練習が行われる。

また、十分に練られた筋道（問題の提示、議論の展開、結論）に即して自分の考えを構成して文章を作成する。

本演習での学習はフランス語作文の技法を習得するのに役立つが、より広義には、自分の考えを表現するためにフランス語で書き表わす能力全般の訓練になる。

Thanks to this class, you will develop your ability to write texts in French with a firm logical structure. This will

improve your general capacity to express yourselves in a logical way.

Besides, you will also enhance your linguistic level in French by practicing various exercises of oral exposition, reading, and writing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：「dissertation」とは何か
- 2回：自分の考えを表現する
- 3回：自分の考えを根拠づける
- 4回：適切な例を示す
- 5回：作文の構成法 I：文章の構想
- 6回：作文の構成法 II：構想の種類例
- 7回：導入部の書き方 I：主題の提示
- 8回：導入部の書き方 II：主題の問題化
- 9回：導入部の書き方 III：構成の告知
- 10回：議論のつなげ方
- 11回：結論の書き方 I：自分の考えを要約する
- 12回：結論の書き方 II：肝心な考えに注目させる
- 13回：つづり・文法の確認の方法
- 14回：執筆した作文の講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の発表:30% 宿題:30% 最終テスト:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

フランス語学演習 3 A

Seminar in the French Language 3A

マレシャル, B (MARECHAL BEATRICE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JH195
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： FRL6412
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、フランス文学におけるさまざまなタイプの文体について学び、それを活用して自分で文章を書くことを目標とする。主な目的は、たくさん書くことではなく、むしろ明確に書くことであり、そのためには伝えたいことを適切な文体でよりよく表現することが重要である。したがって、本授業では、実際の文学作品を読み、その文体を味わうと同時に、文学作品の文体を「盗み」、自分のフランス語として表現することを目指す。

After learning about different types of writing styles in French literature, this course aims at using them in order to write texts. What is important is not to write a lot, but rather to write clearly, and to do this to get to express oneself in an appropriate style. Therefore, in this course we will taste the style of an actual literary works and, as well as to 'steal' the style of literary works, the students will express it as their own French.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学を物語と議論のジャンルに分け、感情表現と親密さ、描写と対話、情報と芸術的批評、そして研究に関わる問題性に基づき、短文からある一定の長さを持った長文まで、授業を通して書く能力が総合的に身につくように進める。タスクのレベルは学生それぞれのレベルに合わせ、全員が自分のペースで上達できるよ

うに心がける。したがって、参加者は、自分に合った形でフランス語表現を習得できるようになる。

Dividing French literature into narrative and argumentative genres, this course is designed to provide students with a comprehensive range of writing skills, from short texts to essays, based on emotional expression and intimacy, description and dialogue, information and artistic criticism, and the problematics involved in research. The students are encouraged to develop their writing skills, from short texts to longer texts of a certain length. The level of the tasks is adapted to each student's level, allowing everyone to progress at their own pace. Thus, participants will be able to acquire French expressions in a way that suits them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Genres littéraires : présentation et différenciation
- 2 回： Genre narratif : réalisme
- 3 回： Genre narratif : romance
- 4 回： Genre épistolaire : lettre d'amour
- 5 回： Genre théâtral : dialogue
- 6 回： Point de vue (focalisation) : qui parle, qui lit ?
- 7 回： Structure du conte : raconter une histoire
- 8 回： Examen de mi-semestre
- 9 回： Fiction et autofiction : la part du vrai
- 10 回： Autobiographie : écrire sur soi
- 11 回： Roman graphique : la description
- 12 回： Des motifs : l'exemple de la porte
- 13 回： Résumé : exercice de résumé
- 14 回： Examen de fin de semestre

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Relire ses notes,
Lire des histoires, la presse,
Regarder des vidéos ou des films en français.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Test mi-semestre:40% Participation:20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

毎回の授業では、私が用意したテキストのコピーを配布しています。

参考文献 / Readings

フランス語学演習 3 B

Seminar in the French Language 3B

マレシャル, B (MARECHAL BEATRICE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JH196
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL6412
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、フランス文学におけるさまざまなタイプの文体について学び、それを活用して自分で文章を書くことを目標とする。主な目的は、たくさん書くことではなく、むしろ明確に書くことであり、そのためには伝えたいことを適切な文体でよりよく表現することが重要である。したがって、本授業では、実際の文学作品を読み、その文体を味わうと同時に、文学作品の文体を「盗み」、自分のフランス語として表現することを目指す。

After learning about different types of writing styles in French literature, this course aims at using them in order to write texts. What is important is not to write a lot, but rather to write clearly, and to do this to get to express oneself in an appropriate style. Therefore, in this course we will taste the style of an actual literary works and, as well as to 'steal' the style of literary works, the students will express it as their own French.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学を物語と議論のジャンルに分け、感情表現と親密さ、描写と対話、情報と芸術的批評、そして研究に関わる問題性に基づき、短文からある一定の長さを持った長文まで、授業を通して書く能力が総合的に身につくように進める。タスクのレベルは学生それぞれのレベルに合わせ、全員が自分のペースで上達できるよ

うに心がける。したがって、参加者は、自分に合った形でフランス語表現を習得できるようになる。

Dividing French literature into narrative and argumentative genres, this course is designed to provide students with a comprehensive range of writing skills, from short texts to essays, based on emotional expression and intimacy, description and dialogue, information and artistic criticism, and the problematics involved in research. The students are encouraged to develop their writing skills, from short texts to longer texts of a certain length. The level of the tasks is adapted to each student's level, allowing everyone to progress at their own pace. Thus, participants will be able to acquire French expressions in a way that suits them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Genre argumentatif : présentation et différenciation
- 2回：Encyclopédie : écrire une définition
- 3回：Information : rapporter un événement
- 4回：Résumer une information
- 5回：Critique artistique : musique, peinture, cinéma
- 6回：Critique artistique : publication
- 7回：Cerner une problématique
- 8回：Examen de mi-semestre
- 9回：Distinguer la problématique de thèmes
- 10回：Dissertation : plan
- 11回：Dissertation : conclusion, introduction
- 12回：Commentaire composé : la poésie
- 13回：Commentaire composé : le texte
- 14回：Examen de fin de semestre

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Relire ses notes,
Lire des histoires, la presse,
Regarder des vidéos ou des films en français.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Test mi-semestre:40% Participation:20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

毎回の授業では、私が用意したテキストのコピーを配布しています。

参考文献 / Readings

ドイツ文学特殊研究 7 A

Study in German Literature 7A

ドイツ語圏の戯曲を読む

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI156

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL5340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ブレヒトの戯曲の読解を通して、なぜ彼の戯曲が現代でも繰り返し上演されるのか、その魅力を探る。

Students will read carefully Brecht's dramas to explore their appeals and to understand why these dramas are still played repeatedly.

授業の内容 / Course Contents

ブレヒトの戯曲の中から代表作『セチュアンの善人』を取り上げて読むとともに、関連する公演や参考文献、映像等を取り上げて議論する。

Students will read "Der gute Mensch von Sezuan", one of Brecht's iconic dramas, while using related public performances, reference materials, and films for discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（授業全体の進行の確認）

2 回：『セチュアンの善人』の紹介。

3 回：『セチュアンの善人』を読む。

- 4回：第三回の続き。
 5回：第四回の続き。
 6回：第五回の続き。
 7回：第六回の続き。
 8回：第七回の続き。
 9回：第八回の続き。
 10回：第九回の続き。
 11回：第十回の続き。
 12回：第十一回の続き。
 13回：第十二回の続き。
 14回：全体のまとめと振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への積極的な参加:50% 授業内での発表や課題等の提出:50%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じて毎回の授業中に指示する。

ドイツ文学特殊研究 7 B

Study in German Literature 7B

ドイツ語圏の戯曲を読む

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI157

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL6340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ブレヒトの戯曲の読解を通して、なぜ彼の戯曲が現代でも繰り返し上演されるのか、その魅力を探る。

Students will read carefully Brecht's dramas to explore their appeals and to understand why these dramas are still played repeatedly.

授業の内容 / Course Contents

春学期に続き、ブレヒトの戯曲の中から代表作『セチュアンの善人』を取り上げて読むとともに、関連する公演や参考文献、映像等を取り上げて議論する。

Students will read "Der gute Mensch von Sezuan", one of Brecht's iconic dramas, while using related public performances, reference materials, and films for discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（授業全体の進行の確認）

2 回：『セチュアンの善人』を読む。

3 回：第二回の続き。

- 4回：第三回の続き。
 5回：第四回の続き。
 6回：第五回の続き。
 7回：第六回の続き。
 8回：第七回の続き。
 9回：第八回の続き。
 10回：第九回の続き。
 11回：第十回の続き。
 12回：第十一回の続き。
 13回：第十二回の続き。
 14回：全体のまとめと振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への積極的な参加:50% 授業内での発表や課題等の提出:50%

テキスト / Textbooks

授業中に指示する。

参考文献 / Readings

必要に応じて毎回の授業中に指示する。

ドイツ文学特殊研究 4 A

Study in German Literature 4A

「同性愛者」概念登場前の文学にみるクィアな欲望：Adalbert Stifter 作品

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JI158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： GRL5340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Homosexualität (homosexuality) 概念は 1867 年に提唱されたとされている。

同性愛のカテゴリー化および「同性愛者」という人物類型の確立の少し前に書かれた Adalbert Stifter の小説には同性愛的欲望が複数の形で記されているものがある。その例となる作品と先行研究を購読しつつ、その文化史的意味を議論するとともに、クィア批評の在り方を模索していく。

The modern notion of homosexuality was born in 1867.

In some novels of Adalbert Stifter, which were written in 1840s and 1850s, we can find some kinds of homoerotic desire and homoerotic relationships.

We will two Stifter's novels as well as secondary literature focusing on this topic, so that we would discuss about the historical constellation and meanings of such texts.

授業の内容 / Course Contents

シュティフターの中編小説「ブリギッタ」と「石灰石」の講読

これらの作品または背景文化と関連する、同性愛的欲望に注目した二次文献の講読

- to read Adalbert Stifter's novels "Brigitta" and "Kalkstein"
- to read secondary literature about these texts focusing on homoerotic desire

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

Adalbert Stifter 作家紹介

2回：バトラー「欲望」

Judith Butler "Desire"

(英語原文と日本語訳を配布します)

所収：F. レントリッキア、T. マクローリン編著『続：現代批評理論+6の基本概念』（大橋 洋一 ほか訳）平凡社 2001

Frank Lentricchia and Thomas McLaughlin (Ed.); Critical Terms for Literary Studies. Second Edition. Duke Univ. Press. 1995.

3回：星乃治彦『男たちの帝国—ヴィルヘルム2世からナチスへ』岩波 2006

第2章

4回：Robert Deam Tobin: Peripheral Desires: The German Discovery of Sex, Pennsylvania Univ. Press, 2015. Introduction (pp.1-25)

5回：Robert Deam Tobin: Introduction つづき

6回：Stifter「ブリギッタ」Brigitta 第1章

7回：Stifter「ブリギッタ」Brigitta 第2章

8回：Stifter「ブリギッタ」Brigitta 第3章

9回：Stifter「ブリギッタ」Brigitta 第4章

10回：Tobin (2015) Chapter 4: Homosexuality and Nation in Austria(110-133)より Brigitta (Stifter)についての箇所：S.127-133.

11回：Stifter「石灰石」Kalkstein 前半

12回：Stifter「石灰石」Kalkstein 中盤

13回：Stifter「石灰石」Kalkstein 後半

14回：Samantha Michele Riley (2011) "Deviant Desires: The Queerness of the Fetish in Adalbert Stifter's Kalkstein".

PSYART: A Hyperlink Journal for the Psychological Study of the Arts.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の講読の予習

担当個所のレジュメ作成・人数分の印刷

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の予習と議論における発言:50% 作品の担当個所についての発表:25% 二次文献の

担当個所についての発表:25%

テキスト/ Textbooks

シュティフター 『ブリギッタ・森の泉 他1篇』 岩波書店 2011 9784003242261 ○

参考文献 / Readings

シュティフター 『石さまざま (上)』 松籟社 2006

「石灰石」(Kalkstein) は PDF を配布する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ドイツ文学専攻の院生は、文学作品のドイツ語原文も読むこと。

他専攻の院生または学部生（ドイツ語未修者）は文学作品の日本語訳だけを読むということでも構わない。

他専攻の院生または学部生（ドイツ語既修者）は、レベルに応じて部分的にドイツ語も併読する。

Tobin(2015)と Riley (2011) の文献は、全員でレジユメを分担して英語を購読する。

ドイツ文学特殊研究 4 B

Study in German Literature 4B

東ドイツのフェミニズム

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI159

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL6340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東ドイツにおけるフェミニズム文化の潮流、およびそれに関連する社会的諸問題について知識を得る。

Students will acquire basic knowledge about feminist culture in the GDR.

授業の内容 / Course Contents

- 東ドイツのフェミニズムについての研究文献を読む。

- 「女性映画」とされる映画「ソロ・サニー」を視聴し、関連する映画研究の論文を読む。

Students will read some academic texts about women and feminism in the GDR.

Students will watch the film "Solo Sunny", one of the so called "Frauenfilme (women films)" of the GDR cinema and read related articles of cinema studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

映画 Solo Sunny (1980)冒頭 (00-40)

2 回：映画 Solo Sunny (1980)中盤 (40-60)

ハイドゥッシュケ『東ドイツ映画』第13章「ソロ・シンガー」152-160頁

3回: 映画 Solo Sunny (1980) 後半 (60-80)

Hennig Wrage (2020) Neue Männer braucht das Land. Solo Sunny und die Frauenfilme der DEFA (IN: Mauerschau)S.133, 136-7.

4回: 映画 Solo Sunny (1980) 終盤 (80-100)

Hennig Wrage (2020) Neue Männer braucht das Land. Solo Sunny und die Frauenfilme der DEFA (IN: Mauerschau)S.138-147.

5回: 上野・田中・前『ドイツの见えない壁』(1993) 序章、第1章

6回: 上野・田中・前『ドイツの见えない壁』(1993) 第5章

Uhlendorf 2023 Family and Family Orientation in East Germany pp.209-228 前半

7回: Uhlendorf 2023 Family and Family Orientation in East Germany pp.209-228 後半

8回: 姫岡とし子『統一ドイツと女たち』(1992)

第二章 仕事も子供も

9回: 姫岡とし子『統一ドイツと女たち』(1992)

第三章 1 女性運動の現在 132-150頁;

補論 一つの国家、二つのフェミニズム 200-209頁。

10回: Brigitte Young: Triumph of the Fatherland (1999) Introduction: Feminisms and the German Political Regimes, pp.1-28.

11回: 香月 1995「女性と平和」(クリスタ・ヴォルフのビュヒナー章受賞1980について) 『戦後ドイツ文学とビュヒナー』108-123頁

12回: あごら 1987 東ドイツ女性の来日時スピーチ記録を読む

映画 Uferfrauen (2020) 一部視聴

13回: Irene Dölling (2022)Wie modern waren die Geschlechterverhältnisse in der DDR? In: Karin Aleksander u.a. (Hg.): Feministische Visionen vor und nach 1989, S. 165-178. 前半

14回: Irene Dölling (2022)後半

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

購読の予習

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週の予習:40% 積極的な討論への参加:20% 担当個所の発表 (2回) :40%

参加者の人数・語学のレベルによっては進度をやや変える可能性がある

テキスト / Textbooks

購読箇所のみコピーを配布する

参考文献 / Readings

上野・田中・前 『ドイツの见えない壁』 岩波書店 1993

姫岡とし子 『統一ドイツと女たち』 時事通信社 1992

セバスティアン・ハイドゥシュケ 『東ドイツ (山本佳樹 訳)』 鳥影社 2018

ドイツ文学特殊研究 1 A

Study in German Literature 1A

レッシング『ゲーツェ論駁』（1778年）を読む

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL5340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

レッシング『ゲーツェ論駁』（1778年）を読む

Seminar on the series of Lessing's theological texts "Anti-Goeze".

授業の内容 / Course Contents

レッシングの『ゲーツェ論駁』を理解する。

Seminar on the series of Lessing's theological texts "Anti-Goeze".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

2 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

3 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

4 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

5 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

6 回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

- 7回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 8回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 9回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 10回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 11回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 12回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 13回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 14回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ドイツ語テキストの予習

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業内発表:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Gotthold Ephraim Lessing Lessing Werke und Briefe Bd.9 Deutscher Klassiker 1993 -

参考文献 / Readings

ドイツ文学特殊研究 1 B

Study in German Literature 1B

レッシング『ゲーツェ論駁』（1778年）を読む

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI163

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL6340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

レッシング『ゲーツェ論駁』（1778年）を読む

Seminar on the series of Lessing's theological texts "Anti-Goeze".

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、レッシングの『ゲーツェ論駁』を理解する。

Seminar on the series of Lessing's theological texts "Anti-Goeze".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

2回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

3回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

4回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

5回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

6回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

- 7回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 8回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 9回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 10回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 11回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 12回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 13回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。
 14回：ドイツ語のテキストを読んで、検討を行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ドイツ語テキストの予習

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業内発表:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Gotthold Ephraim Lessing Lessing Werke und Briefe Bd.9 Deutscher Klassiker 1993 -

参考文献 / Readings

ドイツ文学特殊研究 8 B

Study in German Literature 8B

Krabat - ein sorbisches Epos

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	J1169
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	Seminar
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL6342
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PI302

授業の目標 / Course Objectives

Im Mittelunkt des Seminars steht der Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976) von Jurji Brezan. Die Studierenden sollen die Geschichte des Krabat-Stoffs vor dem Hintergrund seiner Verankerung in der sorbischen Minderheit verstehen. Die vergleichende Analyse der Krabat-Adaptionen von Brezan, Nowak-Neumann und Preußler soll ferner auf die Differenz zwischen der Literaturgeschichte der BRD (Preußler) und der DDR (Nowak-Neumann, Brezan) hinweisen.

The objective of this course is to provide students with an understanding of the history of the literary Krabat tradition and its significance in the context of the Sorbian minority

授業の内容 / Course Contents

Peter Hankde weist in seinem Vorwort zu Jurij Brezans Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976) auf Parallelen zu Günter Grass' "Deutschen-Epos" "Die Blechtrommel" hin und bezeichnet den Krabat-Stoff in Analogie dazu als "Sorben-Epos".

Im vorliegenden Seminar soll die Genese dieses "Epos" literaturgeschichtlich nachgezeichnet und vor dem

Hintergrund der wechselhaften Geschichte der sorbischen Sprach- und Kulturminderheit analysiert werden. Im Mittelpunkt der Betrachtung steht schließlich Brezans Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976). Die ebenfalls dem Krabat-Stoff gewidmete Erzählung "Schwarze Mühle" (1968) und der 1993 nachfolgende Roman "Krabat oder die Beahrung der Welt" desselben Autors werden auch berücksichtigt. Ferner werden Asuzüge aus den Kinder- und Jugendbücher von Otfried Preußler ("Krabat", Roman 1971) und Mercin Nowak-Neumann ("Meister Krabat der gute sorbische Zauberer", aus dem sorbischen übersetzt von Jurij Brzan, Erzählung, sorbisch: 1954, deutsch: 1955) gelesen und in Kontrast zu den Texten von Brezan analysiert.

In the preface to Jurij Brezans's novel "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976), Peter Handke discerns parallels with Günter Grass' "Epos of the Germans" "Die Blechtrommel" and designates Krabat as an "Epos of the Sorbs". The seminar explores the development of the Krabat tradition, tracing its roots within literary history, while concurrently subjecting it to an analysis in the face of the Sorbian minority. The focal point of this seminar lies in the analyses of Brezan's novel "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976). Additionally, attention is devoted to the narrative "Die Schwarze Mühle" (1968), which similarly delves into the Krabat tradition, and the subsequent novel "Krabat oder die Bewahrung der Welt" (1993), both penned by Brezan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Einführung: Die sorbische Minderheit, die Krabat-Tradition, Krabat-Fassungen
- 2 回： Der Krabat-Stoff nach 1945/1949 vor dem Hintergrund der Literaturgeschichte in Ost- und Westdeutschland (mit einer Einführung in Leben und Werk der Autoren Jurij Brezan, Mercin Nowak-Neumann und Otfried Preußler)
- 3 回： Jrij Brezan: Krabat oder die Verwandlung der Welt (1976):
Textanalyse Teil 1
- 4 回： Textanalyse Teil 2
- 5 回： Textanalyse Teil 3
- 6 回： Textanalyse Teil 4
- 7 回： Textanalyse Teil 5
- 8 回： Textanalyse Teil 6
- 9 回： Erzählung Die Schwarze Mühle (1968) und der Roman Krabat oder die Bewahrung der Welt (1993) von Jurij Brezan.
- 10 回： Analyse von Mercin Nowak-Neumanns Erzählung Meister Krabat der gute Sorbische Zauberer
- 11 回： Analyse von Otfried Preußlers Roman Krabat.
- 12 回： Vergleichende Analyse Brezan, Preußler, Nowak-Neumann
- 13 回： Referate
- 14 回： Abschlussdiskussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワーポイント等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合 :34%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Jurij Brezan Krabat oder die Verwandlung der Welt Suhrkamp 2004

Otfried Preußler Krabat Thienemann 2021

Mercin Nowak-Neumann Meister Krabat der gute Sorbische Zauberer Domowina 2020

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他 / Others

Verschiedene Texte werden im Unterricht verteilt

ドイツ語学特殊研究 1 A

Study in the German Language 1A

ドイツ語四能力の向上

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI170

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL5440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

リスニング・スピーキングスキルおよび読解・作文スキルの向上

Developing of Competences in Listening, Speaking, Reading and Writing.

授業の内容 / Course Contents

毎回リスニング課題を行い、音声学的分析を行ったのち、スピーキング練習を行う。また毎週独文和訳と独作文を提出する。

Phonetical analysis and repeating of spoken German, Training of reading and writing competence.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：テキスト読解・独作文第 1 回, リスニング・スピーキング第 1 回

2 回：テキスト読解・独作文第 2 回, リスニング・スピーキング第 2 回

3 回：テキスト読解・独作文第 3 回, リスニング・スピーキング第 3 回

4 回：テキスト読解・独作文第 4 回, リスニング・スピーキング第 4 回

5 回：テキスト読解・独作文第 5 回, リスニング・スピーキング第 5 回

- 6回：テキスト読解・独作文第6回，リスニング・スピーキング第6回
 7回：テキスト読解・独作文第7回，リスニング・スピーキング第7回
 8回：テキスト読解・独作文第8回，リスニング・スピーキング第8回
 9回：テキスト読解・独作文第9回，リスニング・スピーキング第9回
 10回：テキスト読解・独作文第10回，リスニング・スピーキング第10回
 11回：テキスト読解・独作文第11回，リスニング・スピーキング第11回
 12回：テキスト読解・独作文第12回，リスニング・スピーキング第12回
 13回：テキスト読解・独作文第13回，リスニング・スピーキング第13回
 14回：テキスト読解・独作文第14回，リスニング・スピーキング第14回

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週リスニング，独文和訳，独作文を提出する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回課題:35% 発音:35% 授業参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ドイツ語学特殊研究 1 B

Study in the German Language 1B

ドイツ語四技能の向上

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL6440

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング能力の向上

Development of Competences in listening, speaking, reading and writing

授業の内容 / Course Contents

毎回、リスニング課題を提出し、音声学的分析を行った後、スピーキング練習。読解・作文は課題提出とその添削の形で行う。

Phonetical analysis of spoken German and its speaking in the class. Reading and Writing are submitted and returned with commentary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：テキスト読解・独作文第 1 回，リスニング・スピーキング第 1 回

2 回：テキスト読解・独作文第 2 回，リスニング・スピーキング第 2 回

3 回：テキスト読解・独作文第 3 回，リスニング・スピーキング第 3 回

4 回：テキスト読解・独作文第 4 回，リスニング・スピーキング第 4 回

- 5回：テキスト読解・独作文第5回，リスニング・スピーキング第5回
 6回：テキスト読解・独作文第6回，リスニング・スピーキング第6回
 7回：テキスト読解・独作文第7回，リスニング・スピーキング第7回
 8回：テキスト読解・独作文第8回，リスニング・スピーキング第8回
 9回：テキスト読解・独作文第9回，リスニング・スピーキング第9回
 10回：テキスト読解・独作文第10回，リスニング・スピーキング第10回
 11回：テキスト読解・独作文第11回，リスニング・スピーキング第11回
 12回：テキスト読解・独作文第12回，リスニング・スピーキング第12回
 13回：テキスト読解・独作文第13回，リスニング・スピーキング第13回
 14回：テキスト読解・独作文第14回，リスニング・スピーキング第14回

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週，リスニング，独文和訳，独作文を提出する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回課題:35% 発音:35% 授業参加:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ドイツ文学特殊研究 3A

Study in German Literature 3A

20世紀の哲学的エッセイ・評論を読む

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI176

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL5340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語原典の一次文献（および二次文献）を正確に、批判的に読む訓練を行う。ドイツ語圏文化研究の分野における研究のフロンティアについて知識を習得しつつ、自ら問題設定を行い、自律的な研究活動を遂行する力を養う。

Students will practice reading primary and secondary literatures in German correctly and critically. Students acquire knowledge about different research fields and topics in German cultural studies. Through these trainings students will develop the ability to carry out their research activities autonomously.

授業の内容 / Course Contents

20世紀の代表的な哲学者によるエッセイや評論を収録したアンソロジーの中から、いくつかピックアップして読んでいく。まずは戦後に執筆された、テオドル・アドルノやハンナ・アーレントの評論から始める予定である。

Students will read some essays and critiques written by the leading philosophers of the 20th century. We will start with a close reading of critiques by Theodor Adorno and Hannah Arendt from the post-war period.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、文献の紹介
 2回：テキスト読解と議論 (1)
 3回：テキスト読解と議論 (2)
 4回：テキスト読解と議論 (3)
 5回：テキスト読解と議論 (4)
 6回：テキスト読解と議論 (5)
 7回：テキスト読解と議論 (6)
 8回：テキスト読解と議論 (7)
 9回：テキスト読解と議論 (8)
 10回：テキスト読解と議論 (9)
 11回：テキスト読解と議論 (10)
 12回：テキスト読解と議論 (11)
 13回：テキスト読解と議論 (12)
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回担当者を決め、担当者による訳読発表を中心に授業を進めていくが、予習は全員が行う。扱うテキストだけでなく、授業で紹介する文献も自ら読んでいく積極的な姿勢が求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と授業への参加度:60% 最終レポート割合 :40%

正当な理由なく3回以上欠席した場合は、成績評価の対象とならない。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

初回の授業で紹介する。

ドイツ文学特殊研究 3B

Study in German Literature 3B

20 世紀の哲学的エッセイ・評論を読む

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI177

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL6340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語原典の一次文献（および二次文献）を正確に、批判的に読む訓練を行う。ドイツ語圏文化研究の分野における研究のフロンティアについて知識を習得しつつ、自ら問題設定を行い、自律的な研究活動を遂行する力を養う。

Students will practice reading primary and secondary literatures in German correctly and critically. Students acquire knowledge about different research fields and topics in German cultural studies. Through these trainings students will develop the ability to carry out their research activities autonomously.

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、20 世紀の代表的な哲学者によるエッセイや評論を収録したアンソロジーの中から、いくつかピックアップして読んでいく。秋学期では、「平和」をテーマにしたテキストを読んでいく予定である。

As in the spring term, we will continue to read a selection from an anthology of essays and criticism by leading 20th century philosophers. In the autumn term, we will read texts on the theme of 'peace'.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、文献の紹介
- 2回：テキスト読解と議論（1）
- 3回：テキスト読解と議論（2）
- 4回：テキスト読解と議論（3）
- 5回：テキスト読解と議論（4）
- 6回：テキスト読解と議論（5）
- 7回：テキスト読解と議論（6）
- 8回：テキスト読解と議論（7）
- 9回：テキスト読解と議論（8）
- 10回：テキスト読解と議論（9）
- 11回：テキスト読解と議論（10）
- 12回：テキスト読解と議論（11）
- 13回：テキスト読解と議論（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回担当者を決め、担当者による訳読発表を中心に授業を進めていくが、予習は全員が行う。扱うテキストだけでなく、授業で紹介する文献も自ら読んでいく積極的な姿勢が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表と授業への参加度：60% 最終レポート割合：40%

正当な理由なく3回以上欠席した場合は、成績評価の対象とならない。

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

初回の授業で紹介する。

ドイツ語教育特殊研究 1 A

Studies in German Language Teaching 1A

Wissenschaftliches Schreiben und Sprechen

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JI184

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Seminar

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL5840

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PI311

授業の目標 / Course Objectives

Die Studierenden sollen nach Absolvierung des Kurses in der Lage sein, in der Zielsprache Deutsch einfache Essays, Forschungsskizzen und Zusammenfassungen wissenschaftlicher Arbeiten (z.B. Masterarbeiten) zu verfassen sowie wissenschaftliche Kurzreferate auf Deutsch zu halten.

After completing the course, students should be able to write basic essays, research outline, and summaries of academic works (e.g. master's theses) in German, as well as deliver scientific presentations in German.

授業の内容 / Course Contents

Der Kurs beinhaltet die Anwendung wissenschaftlichen Arbeitens in deutschsprachigen Essays und Referaten. Im Zentrum stehen die sprachlichen Mittel zur Präzisen Formulierung von Hypothesen und Argumenten, der Aufbau eines wissenschaftlichen Textes bzw. eines Vortrages sowie allgemein das akademische Fachvokabular und gebräuchliche wissenschaftliche Phrasen. Die Studierenden bereiten dafür im Laufe des Semesters eigene kurze Texte und Probereferate vor, die vom Dozenten korrigiert und im Plenum diskutiert werden. Ferner werden authentische wissenschaftliche Texte und Vortragsmanuskripte analysiert und für die eigene Arbeit

fruchtbar gemacht. Am Ende des Semesters sollen die Studierenden einen eigenen Essay in der Länge eines Kurzaufsatzes verfassen und ein Referat dazu halten.

The course is designed to provide students with the necessary skills to apply scientific work in German essays and presentations. The focus is on the linguistic means for the precise formulation of hypotheses and arguments, the structure of a scientific text or presentation, as well as academic vocabulary and common scientific phrases.

Throughout the semester, students will prepare their own short texts and sample presentations, which will be corrected by the instructor and discussed in the plenary. In addition, authentic scientific texts and presentation manuscripts will be analyzed and made fruitful for one's own work. By the end of the semester, students will be expected to write their own essay of the length of a short essay and give a presentation on it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Alltagssprache und Wissenschaftssprache im Kontrast
- 2 回：Wissenschaftliches Vokabular zum Verfassen eines Essays
- 3 回：Wissenschaftliche Phrasen zum Verfassen eines Essays
- 4 回：Strukturierung eines wissenschaftlichen Texts
- 5 回：Einleitung: Inhalt und sprachliche Mittel
- 6 回：Hauptteil: Inhalt und sprachliche Mittel
- 7 回：Schluss: Inhalt und sprachliche Mittel
- 8 回：Forschungsskizzen, Zusammenfassungen: sprachliche Mittel
- 9 回：Beispiele aus dem Uni-Alltag: Analyse wissenschaftlicher Arbeiten
- 10 回：Referate halten: Do's and Don't's
- 11 回：Sprachliche Mittel für das Referat
- 12 回：Beispiele aus dem Uni-Alltag: Analyse wissenschaftlicher Referat
- 13 回：Abschlussreferate
- 14 回：Diskussion und Abschluss

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben, Textlektüre, Verfassen von Textbeispielen

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合：34%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他 / Others

Unterlagen werden im Unterricht verteilt

ドイツ語教育特殊研究 1 B

Studies in German Language Teaching 1B

Wissenschaftliches Schreiben und Sprechen

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	J1185
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	Seminar
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	GRL6840
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PI312

授業の目標 / Course Objectives

Die Studierenden sollen nach Absolvierung des Kurses in der Lage sein, in der Zielsprache Deutsch verschiedene Textsorten der akademischen Kommunikation zu beherrschen, Referate über das eigene Forschungsthema halten und sich an wissenschaftlichen Diskussionen beteiligen.

Upon completion of the course, students should be able to master various types of academic texts in the target language German, deliver presentations on their own research topic, and participate in academic discussions.

授業の内容 / Course Contents

Der Kurs beinhaltet verschiedene Formen wissenschaftlicher Textsorten wie Aufsatz, Rezension und Abstract. Es wird der Unterschied zwischen analytischen und deskriptiven Textelementen und die damit verbundenen sprachlichen Mittel erarbeitet.

Im Zentrum stehen die Einübung von Sprachmitteln zur präzisen Formulierung von Hypothesen und Argumenten, der Aufbau eines wissenschaftlichen Textes bzw. eines Vortrages sowie allgemein das akademische Fachvokabular und gebräuchliche wissenschaftliche Phrasen.

Die Studierenden bereiten dafür im Laufe des Semesters eigene kurze Texte und Probereferate vor, die vom Dozenten korrigiert und im Plenum diskutiert werden. Ferner werden authentische wissenschaftliche Texte und Vortragsmanuskripte analysiert und für die eigene Arbeit fruchtbar gemacht. Am Ende des Semesters sollen die Studierenden einen eigenen Essay verfassen und ein Referat dazu halten.

Der Kurs baut zum Teil auf jenem des Frühjahrssemesters auf, kann jedoch auch unabhängig von diesem besucht werden.

The course covers various scientific types of texts, including essays, reviews, and abstracts. Furthermore, it explores the differences between analytical and descriptive writing.

The focus is on practicing language tools to precisely formulate hypotheses and arguments, structure scientific texts and presentations, and use academic vocabulary and common scientific phrases.

Throughout the semester, students will prepare their own short texts and trial presentations, which will be corrected by the instructor and discussed in the plenum. Additionally, authentic scientific texts and presentation manuscripts will be analyzed and made fruitful for one's own work. At the end of the semester, students are expected to write an essay and give a presentation on it.

This course builds on some of the contents covered in the spring semester, but can also be taken independently.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Wissenschaftliche Textsorten
- 2 回：Zusammenfassungen schreiben
- 3 回：Rezensionen schreiben
- 4 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (1)
- 5 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (2)
- 6 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (3)
- 7 回：Analytische und deskriptive Textelemente
- 8 回：Forschungsfragen formulieren
- 9 回：Wissenschaftliche Referate halten (Textbausteine, Regeln, Tipps & Tricks)
- 10 回：An wissenschaftlichen Diskussionen teilnehmen (Wie beantwortet man Fragen? Wie stellt man Fragen?)
- 11 回：Teilnahme an Tagungen: Phrasen für die Vorstellung von Referentinnen und Referenten; Phrasen für den Dank an die Organisatoren; Überleitungen, etc.
- 12 回：Fallbeispiele
- 13 回：Probereferate mit Diskussion
- 14 回：Abschlussdiskussion, Reflexion, Ausblick (studentische Tagungen, interuniversitäre Seminare)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben; Lesen und Verfassen von Texten

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合 :34%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他 / Others

Unterlagen werden im Unterricht verteilt

現代文明学特殊研究 1

Research on Contemporary Civilizations 1

比較方法研究

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC5810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PJ301

授業の目標 / Course Objectives

本専攻独自の幅広い研究方法を身につける。

In this course, students will learn a broad range of research methods unique to this field of study.

授業の内容 / Course Contents

学生各自による報告と相互批評の切磋琢磨を行うことを目的とする。蝸壺型の研究に閉じこもることなく、相互に厳しいアカデミックな批評方法を身につける。同時にハンドアウトの作り方や、報告の仕方、論文の構成の仕方等、学会等で通用する実践的な訓練を行う。具体的には、以下を軸に進める。

- (1)これまでやってきた研究論旨の報告（論文の趣旨と構成、章立ての報告、今後の課題等）
- (2)現在進行中の研究報告（論文の章立てや各章の具体的な趣旨、なにを明らかにするか、あるいはどの点で試行錯誤しているか等）、その一部として、修士論文準備段階の人は、自分の研究テーマにとって重要な最近の書籍を1点取り上げ、書評の執筆を進めてもらう。
- (3)論文執筆の途中経過報告

どの場合も、報告ではレジュメと同時に、所定の分量の文章化した原稿を配付物とすること。議論の一環とし

て原稿の相互添削を取り入れる。

詳細は1回目の授業で説明する。

The goal of this course is for students to grow through working diligently, writing reports and constructively criticizing each other's work. Rather than having them shut themselves away with their research, this course will teach students rigorous methods of mutual academic criticism. At the same time, students will learn how to make handouts and write reports, while learning how to compose a paper. Students will receive practical training that will come in handy at academic conferences. Specifically, this course will cover the following main topics.

1. Reporting research conducted up until now (the gist and structure of the paper, reporting by section, future topics, etc.)
2. Report of research currently in progress (Each section of the paper/the specific gist of each section, what does it shed light on, or rather which parts proceed via trial and error, etc.). As a part of this, students who are preparing their master's thesis will pick up an important, recent publication relating to their research theme and write a review of it.
3. Paper writing progress reports

In each case for the report, along with an outline, students will provide an essay draft of a designated length. As part of course discussions, students will look over each other's drafts.

Specific details will be explained during the first class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業内情報検索講習会
- 3回：報告と議論（1）
- 4回：報告と議論（2）
- 5回：報告と議論（3）
- 6回：報告と議論（4）
- 7回：報告と議論（5）
- 8回：報告と議論（6）
- 9回：報告と議論（7）
- 10回：報告と議論（8）
- 11回：報告と議論（9）
- 12回：報告と議論（10）
- 13回：報告と議論（11）
- 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:40% 議論への参加度:30% 提出物（学術的書評もしくは研究経過報告）:30%
提出物の詳細は授業時に指示する。

テキスト/ Textbooks

もちいない

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

その他/ Others

この授業は比較文明学専攻の中心的授業であり、「全体授業」と位置付けられている。単位修得とは無関係に出席が推奨される。

提出物のうち書評については、立教比較文明学会紀要『境界を越えて』への投稿を想定している。査読をクリアするよう、夏休み期間中にも引き続きブラッシュアップすることが求められる。

現代文明学特殊研究 2

Research on Contemporary Civilizations 2

ポスト・ヒューマニズムの思想

坪光 生雄 (TSUBOKO IKUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PJ308

授業の目標 / Course Objectives

文献講読を通じて、近代の産業主義的な社会の諸相を批判的に捉えるイヴァン・イリイチの思想を検討し、人間の主体性について実践的に考察するための新しい視点を獲得する。

We will explore Ivan Illich's thought, which is deeply critical of the various aspects of modern industrialized societies, to gain a renewed perspective on the status of humanity and subjectivity.

授業の内容 / Course Contents

イヴァン・イリイチの著作・論文を講読します。イリイチは、産業化された近代社会をさまざまな角度から批判的に問い直し、乗り越えようとする思想を展開しました。脱成長（開発批判）、脱学校、近代医療批判といった論点で知られるイリイチの思想は、ポスト植民地主義、障害学、環境倫理、ケアの思想、ポスト世俗主義など、現代の幅広い問題関心とも結びつきます。

毎回の授業では、講読箇所と発表者を決め、その発表に基づき議論を行います。文献については、まずは下記指定のテキストを読み、その後は履修者の関心と本科目のテーマに即して選定した文献を順次検討していく予定です。

We will read and discuss Ivan Illich's books shown below.

Illich offered critical perspectives on the various aspects of modern industrialized societies. His critical take on modern educational and medical systems and global developmentalism can be associated with the contemporary themes of postcolonialism, environmental ethics, ethics of care, disability studies, and postsecularism.

Each class will be discussed based on the presenter's presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読
- 9回：文献講読
- 10回：文献講読
- 11回：文献講読
- 12回：文献講読
- 13回：文献講読
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

週ごとに指定された箇所を読んで授業にのぞむこと。また、自身が発表担当者になった回は、レジュメの作成等、発表のための準備をしていくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加:100%

テキスト / Textbooks

- イヴァン・イリイチ 『コンヴィヴィアリティのための道具』 ちくま学芸文庫 2015 9784480096883 ○
- イヴァン・イリイチ 『生きる希望：イヴァン・イリイチの遺言』 藤原書店 2006 9784894345492 ○

指定の書籍、とくに上記1については、各自入手してください。その他、授業が進むなかで新たに文献を指定することがあります。

参考文献 / Readings

参考文献は授業のなかで適宜紹介します。

現代文明学特殊研究 5

Research on contemporary Civilizations 5

文明批判論

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	JJ105
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	COC5810
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	後期課程用科目コード：PJ302

授業の目標 / Course Objectives

比較文明学基礎研究を進める。研究交流の場を提供する。

In this course, students will conduct basic research in comparative civilizations studies. This course will serve as a means to exchange research.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、学生各自による報告と相互批評の切磋琢磨を行うことを目的とする。蝸壺型の研究に閉じこもることなく、相互に厳しいアカデミックな批評方法を身につける。また同時に、ハンドアウトの作り方や、報告の仕方、論文の構成の仕方等、学会等で通用する実践的な訓練を行う。報告ではレジュメと同時に、所定の分量（4,000 字程度）の文章化した原稿を配付物とすること。議論の一環として原稿の相互添削を取り入れる。最終的には修士論文 1 章分相当の文章（10,000 字程度）を提出してもらう。

The goal of this course is for students to grow through working diligently, writing reports and constructively criticizing each other's work. Rather than having them shut themselves away with their research, this course will teach students rigorous methods of mutual academic criticism. Again, at the same time, students will learn how to

make handouts and write reports, while learning how to compose a paper. Students will receive practical training that will come in handy at academic conferences. In each case for the report, along with an outline, students will provide an essay draft of a designated length (around 4,000 characters). As part of course discussions, students will look over each other's drafts. Eventually, students will turn in an essay roughly equivalent to the size of one section of a master's thesis (about 10,000 characters).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業内情報検索講習会
- 3回：報告と議論（1）
- 4回：報告と議論（2）
- 5回：報告と議論（3）
- 6回：報告と議論（4）
- 7回：報告と議論（5）
- 8回：報告と議論（6）
- 9回：報告と議論（7）
- 10回：報告と議論（8）
- 11回：報告と議論（9）
- 12回：報告と議論（10）
- 13回：報告と議論（11）
- 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の報告準備が当然必要。そのほかは履修登録後に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告:40% 議論への参加度:30% 提出物:30%

テキスト / Textbooks

プリントなどを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

その他 / Others

この授業は比較文明学専攻の中心的授業であり、「全体授業」と位置付けられている。単位修得とは無関係に出席が推奨される。

現代文明学演習 1

Seminar on Contemporary Civilizations 1

東ユーラシア圏域史研究

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JC165「東洋史演習 3 A」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

東ユーラシア圏域（内陸アジア・東アジア・東南アジア・南アジア）の歴史を、実証的に探究する。

To empirically investigate the history of the East Eurasian Sphere (Inland Asia, East Asia, Southeast Asia, South Asia).

授業の内容 / Course Contents

履修者は各自の研究テーマを発展させるとともに、日本の歴史を東ユーラシア圏域の範疇のなかで検討する。

Students will develop their own research themes and will struggle to understand the history of Japan within the scope of the East Eurasian Sphere.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：東ユーラシア圏域とは何か

2 回：史的な思考法

3 回：履修者の研究報告

4 回：履修者の研究報告

- 5回：履修者の研究報告
 6回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 7回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 8回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 9回：東ユーラシア圏域のなかの日本史
 10回：履修者のテーマに関するレポート
 11回：履修者のテーマに関するレポート
 12回：履修者のテーマに関するレポート
 13回：東ユーラシア圏域史に関する総合討論
 14回：履修者の研究方針に関する討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献リストの作成
 研究文献の分析
 口頭発表の準備
 レポートの作成

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各自の研究テーマに基づく口頭発表:25% 各自の研究テーマに関するレポート:25% 東ユーラシア圏域史に関する口頭発表:25% 東ユーラシア圏域史に関するレポート:25%

テキスト / Textbooks

上田信 『海と帝国』(学術文庫版) 講談社 2021 9784065227770 ○

上田信 『歴史を歴史家から取り戻せ』 清水書院 2018 9784389500849 ○

参考文献 / Readings

現代文明学演習 2

Seminar on Contemporary Civilizations 2

西洋思想史文献講読

齋藤 元紀 (SAITO MOTOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ109

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ジョルジョ・アガンベンの『身体の使用』を読み解き、「使用」と「様態」の概念を学ぶとともに、みずから哲学的に思考する力を身につけることをめざす。

The goal is to read Giorgio Agamben's "The Use of the Body" to learn the concepts of "use" and "mode" and to acquire the ability to think philosophically.

授業の内容 / Course Contents

ジョルジョ・アガンベンの『身体の使用』（2014年）は、西洋哲学史における「使用」「様態」「生」といった諸概念の含意を反転させ、それら諸概念に隠された可能性を浮き彫りにすることを企てた書物である。アガンベンは、古代ギリシア由来のさまざまな哲学的概念が中世哲学や近現代哲学をとおして辿った変遷を再検討し、新たな政治的次元の究明を試みている。この授業では、『身体の使用』を読み解き、わけても「使用」と「様態」の概念を学ぶとともに、みずから哲学的に思考する力を身につけることをめざす。

Giorgio Agamben's The Use of the Body (2014) attempts to invert the implications of concepts such as "use," "mode," and "life" in the history of Western philosophy and to highlight the hidden potential of these concepts.

Agamben reexamines the transition of various philosophical concepts from ancient Greece through medieval and modern philosophy, and attempts to investigate a new political dimension. In this class, we will read "The Use of the Body" to learn the concepts of "use" and "mode," in particular, and to acquire the ability to think philosophically on our own.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：アガンベン思想
- 2回：『身体の使用』読解①「働きを欠いた人間」読解
- 3回：『身体の使用』読解②「クレーシス」読解
- 4回：『身体の使用』読解③「使用と配慮」読解
- 5回：『身体の使用』読解④「世界の使用」読解
- 6回：『身体の使用』読解⑤「自己の使用」読解
- 7回：『身体の使用』読解⑥「習慣的な使用」読解
- 8回：『身体の使用』読解⑦「生命ある道具と技術」読解
- 9回：『身体の使用』読解⑧「自分のものとして所有できないもの」読解
- 10回：『身体の使用』読解⑨「インテルメッツオ I」読解
- 11回：『身体の使用』読解⑩「存在論的装置」読解
- 12回：『身体の使用』読解⑪「ヒュポスタシスの理論」読解
- 13回：『身体の使用』読解⑫「様態的存在論のために」読解
- 14回：まとめと総復習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義資料は事前に配布するので、それらを事前に読んで予習すること。授業後は授業での内容を踏まえて講義資料を再読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当箇所報告（複数回）：60% 出席および議論参加度：40%

テキスト / Textbooks

ジョルジョ・アガンベン 『身体の使用』 みすず書房 2016 9784622079644 -

Giorgio Agamben L'uso dei corpi Neri Pozza 2014 9788854508385 -

Giorgio Agamben L'usage des corps Le Seuil 2015 9782021153941 -

Giorgio Agamben The Use of Bodies Stanford University Press 2016 9780804798402 -

Giorgio Agamben Der Gebrauch der Körper Fischer 2020 9783100024510 -

日本語訳を基本とし、イタリア語原書、英訳、独訳、仏訳も適宜参照する。

参考文献 / Readings

岡田温司 『増補 アガンベン読解』 平凡社ライブラリー 2021 9784582769258

上村忠男 『アガンベン 《ホモ・サケル》の思想』 講談社選書メチエ 2020 9784065187562

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・報告、ディスカッションを行うので、日本語の運用が問題なくできることが望ましい。
- ・哲学・思想・政治・文化に広く関心を寄せる学生の参加を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料の配布はオンラインにて行います。

その他/ Others

テキストを論理的に精読する力をつけるとともに、西洋哲学の重要な概念を体得することで、現代思想の問題群について自ら考える機会としてもらえればと思います。

現代文明学演習 3

Seminar on Contemporary Civilizations 3

中国哲学文献研究

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ110

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JG176「中国文学研究2」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 漢文訓読法を用いて中国哲学の資料を読解できる。
- ・ 資料から思想的内容を正確に読み取り、哲学的・文学的あるいは比較文明学的観点から評価できる。

The goals of this course are to

- ・ be able to read Chinese philosophical materials using the kanbun-kundoku-ho.
- ・ be able to accurately read ideological content from materials and evaluate it from a philosophical / literary or comparative civilization viewpoint.

授業の内容 / Course Contents

中国哲学の資料を、漢文訓読法を用いて読解する。あわせて、その内容がいかなる射程を備えているかについて議論する。

テキストとしては、「漢文大系」もしくは「漢籍国字解全書」所収の中国古典を用いる。

In this course, we will use methods of reading Chinese texts in Japanese in order to comprehend Chinese philosophical documents. At the same time, we will debate the scope possessed by their contents.

As the text, we use Chinese classics from “Kanbun Taikai” or “Kanseki Kokuji-kai Zensho”.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（1）
 3回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（2）
 4回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（3）
 5回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（4）
 6回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（5）
 7回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（6）
 8回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（7）
 9回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（8）
 10回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（9）
 11回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（10）
 12回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（11）
 13回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（12）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は一定量を分担し、本文ならびに注の訓読と日本語訳を用意する。担当に当たっていない参加者も、次回に読むべき範囲を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告の担当（複数回）：50% 議論への参加度：30% 最終レポート割合：20%

テキスト / Textbooks

プリントなどを配付する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール理解に対応すること。
- ・担当箇所の内容について現代日本語での訳文を含む発表資料を作成すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のため Canvas LMS を使う可能性がある。

発表資料や最終レポート作成のために PC が必要。

その他 / Others

演習形式。基本的に一回ごとに担当者を決め、所定の内容を報告してもらう。

現代文明学演習 4

Seminar on Contemporary Civilizations 4

文化環境論

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ111

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化生態学的・生態人類学的観点にたった研究の方法論を理解し、自らのテーマに関連付けて実践する。

Students will learn and put into practice methodologies for research from cultural-ecological and ecological-anthropological points of view.

授業の内容 / Course Contents

現場の問題発見と解決のための文化生態学および生態人類学の方法論について国内外の論文を精読し、問題設定、方法、分析手法を学ぶ。

参加者と取り上げる学術誌論文および基本的専門書を検討し、分担を決め、毎回の発表を行い、研究分野の基礎の習得と自分自身の研究の構想を行う。

Students will engage in careful reading of research papers from Japan and from abroad on the methodologies of cultural ecology and ecological anthropology in order to discover and resolve issues in the field, and will learn about methods for analyzing and setting issues.

Participants will examine academic journal articles and basic technical documents, will divide these up and carry

out presentations every session, and will design their own research from the fundamentals of their research fields.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文化研究の課題と展望1 / 文献紹介と説明
- 2回：文化研究の課題と展望2 / 同上
- 3回：研究課題の設定と研究レビュー1 / 各自の発表と議論
- 4回：研究課題の設定と研究レビュー2 / 同上
- 5回：研究課題の設定と研究レビュー3 / 同上
- 6回：データ収集方法の検討1 / 各自の発表と議論
- 7回：データ収集方法の検討2 / 同上
- 8回：データ収集方法の検討3 / 同上
- 9回：分析方法の検討1 / 各自の発表と議論
- 10回：分析方法の検討2 / 同上
- 11回：分析方法の検討3 / 同上
- 12回：空間的表現と説明1 / 各自の発表と議論
- 13回：空間的表現と説明2 / 同上
- 14回：空間的表現と説明3 / 同上

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連分野の専門雑誌の論文を積極的に読み、専門分野の知識と研究史を蓄積する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:30% 発表レポート:40% 授業参加態度:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜指示する

現代文明学演習 5

Seminar on Contemporary Civilizations 5

近代日本思想における自然概念

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JJ112
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： COC6810
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「自然」は多義的な概念であるばかりではなく、近年では規範的な力も持つようになった。この演習では、ジュリア・アデニー・トーマスの『近代の再構築』を精読して、近代日本の知的世界における「自然」の意味を検証する。

"Nature" is not only a polysemantic concept, but in recent years has normative force. In this course, we will intensively read Julia Adeney Thomas's "Reconfiguring Modernity: Concepts of Nature in Japanese Political Ideology" in order to examine the meaning of the nature in modern Japanese intellectual context.

授業の内容 / Course Contents

担当者はレジュメ作成（テキストの読解＋引用文献の読解）。その後でディスカッション。各自の積極的な参加を期待する。『近代の再構築』を事前に入手しておくこと。

Each class, the instructor will write a summary (reading comprehension of the textbook and the reference literature). Following this, discussions will be held. Each student will be expected to actively participate. Students will need to procure a copy of "Reconfiguring Modernity: Concepts of Nature in Japanese Political Ideology" in

advance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：テキストの読解&討議
- 3回：テキストの読解&討議
- 4回：テキストの読解&討議
- 5回：テキストの読解&討議
- 6回：テキストの読解&討議
- 7回：テキストの読解&討議
- 8回：テキストの読解&討議
- 9回：テキストの読解&討議
- 10回：テキストの読解&討議
- 11回：テキストの読解&討議
- 12回：テキストの読解&討議
- 13回：テキストの読解&討議
- 14回：テキストの読解&討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者はテキストを精読してくることを。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:50% 発表内容（複数回）:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

文明工学特殊研究 2

Research on Civilization Technology 2

河原 啓子 (KAWAHARA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： JJ119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： COC6810
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

考察力を向上させ、自己の見解を論理的に表現する力を養う。

In this course, students sharpen their analytical skills, fostering the ability to express their views logically.

授業の内容 / Course Contents

テキストを各自が現代的視点を交えながら読解してゆく。自己の感性を大切にしながらオリジナリティのある考察を行う。考察の過程を受講生の間で共有し、ディスカッションする。受講生のリクエストにも応じる。必要に応じて、ジョアン・ミロ、瀧口修造、水木しげる、柳田国男ほかの仕事を参照しながら考察する。

In this course, students adopt their own modernistic viewpoints by reading various texts. Students share the investigation process, engaging in group discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(1)
- 3 回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(2)
- 4 回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(3)

- 5回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(4)
 6回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(5)
 7回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(6)
 8回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(7)
 9回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(8)
 10回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(9)
 11回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(10)
 12回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(11)
 13回：文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション(12)
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自己の研究の充実を目指し、さまざまな文献を読み、考察し、執筆する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:40% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

ミシェル・フーコー 『フーコー・コレクション 3 言説・表象』「これはパイプではない」 ちくま学芸文庫 2006 9784480089939 ○

授業で配布するため購入を義務づけるものではない。

参考文献 / Readings

アンドレ・ブルトン 『シュルレアリスム宣言・溶ける魚』 岩波文庫 1992 9784003259016

ジョン・バージャー 『イメージ — 視覚とメディア』 ちくま学芸文庫 1986 9784480095039

ロラン・バルト 『美術論集 アルチンボルドからポップ・アートまで』「この古きもの、芸術」 みすず書房 1986 9784622004912

必要に応じて紹介する。

文明工学特殊研究 3

Research on Civilization Technology 3

漢文訓読論

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JG116「中国文学研究1」との併置科目

後期課程用科目コード：PJ304

授業の目標 / Course Objectives

- 漢文訓読法の文明史的意義について認識する。
- 漢文訓読法の概要を理解する。
- 漢文訓読法の知識を漢文資料の読解に適用する。

The purposes of this course are to (1) recognize the significance of kanbun-kundoku-ho (methods of reading classical Chinese writings in ancient Japanese) in the history of civilizations; (2) understand the overview of kanbun-kundoku-ho; and (3) apply knowledge of kanbun-kundoku-ho to reading Chinese materials.

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業時間を前半と後半に分けて実施する。

前半では、漢文訓読法の文明史的意義について、教員の講義および参加者による関係論文についての報告により理解を深める。

後半では、授業期間の最初、漢文訓読法の基礎知識の習得に努め、残りの期間においては資料読解の実践的練

習を行う。

In meetings' first half, students deepen their understanding of the significance of the kanbun-kundoku-ho (methods of reading classical Chinese writings in ancient Japanese) in the history of civilization through lectures by the instructor and readings by the participants.

In the latter half of meetings at the beginning of the semester, students strive to acquire basic knowledge of reading kanbun-kundoku-ho and practice practical reading of materials in the remaining period.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（1）
- 3回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（2）
- 4回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（3）
- 5回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（4）
- 6回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（5）
- 7回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（6）
- 8回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（7）
- 9回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（8）
- 10回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（9）
- 11回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（10）
- 12回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（11）
- 13回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（12）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告については担当者による事前準備のほか、対象テキストを他の参加者も予習する。

漢文訓読には語学学習としての側面があることから、予習と復習は必須。

詳しくは授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告の担当:50% 議論参加度:30% 最終レポート割合：:20%

テキスト / Textbooks

プリント・コピーを用意する。

参考文献 / Readings

金文京 『漢文と東アジア 訓読の文化圏』 岩波書店 2010 9784004312628

そのほかは適宜紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面にに対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・日本語学術論文を読解・要約すること。
- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール説明を理解すること（漢文訓読の経験者である必要はない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のために Canvas LMS を用いる。

発表資料を作成するために PC が必要。

その他/ Others

関係論文についての報告は一回ごとに担当を決めて演習形式で行う。

漢文読解の実践練習は、教室で必要事項を解説しつつ、参加者に理解定着のための質問を行い回答を求める。

文明工学特殊研究 5

Research on Civilization Technology 5

文化機関、芸術団体に資する運営と情報デザイン

岩渕 潤子 (IWABUCHI JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文化施設の運営に資する情報デザイン、及び、地域型アートイベントについての動向を理解し、より効果的に発展させていくための提案を行う。昨今のソーシャル・メディアの利活用を前提とするハリウッド型のコンテンツ・マーケティングについて事例を研究し、議論する。

In this course, students will get an understanding of information design, which is instrumental in the operation of cultural facilities, as well as the trends of regional art events. We will also think of proposals to help them grow more effectively. In this course, we will research and discuss examples of Hollywood style content marketing, which predates the recent advent of social media use.

授業の内容 / Course Contents

文化施設を廻る環境は、いつの時代も、国力の盛衰と共にめまぐるしい変化にさらされてきた。現代の日本社会の中で可能な芸術支援のあり方を検証する。また、文化施設といえども避けて通ることのできない情報化について、ウェブを活用した顧客情報分析、ソーシャル・メディアの使い方など、文化施設の運営に資する情報デザインを検証する。新聞・雑誌の記事、ウェブなどの資料を議論の素材として準備し、全員参加で討論を進

めていく。経済効率の改善が文化施設の運営、芸術活動の発展とどう関係するのかを中心に議論したい。非営利の芸術だけでなく、商業芸術のあり方についても議論する。

授業は8月第一週を予定しています。なお、具体的日程の詳細についてはできるだけ皆さんの要望に対応しますので、登録前に必ず学部事務1課経由で担当者に連絡をとるようお願いします。

The environments surrounding cultural facilities, in all eras, undergo hectic changes with the rising and falling of national power. We will inspect the current state of feasible support of the arts within present day Japan.

Furthermore, we will learn about computerization, which one cannot avoid when discussing cultural facilities. We will inspect patron information analysis using the web, the ways of using social media, as well as information design, which is instrumental in the operation of cultural facilities. We will prepare newspaper and magazine articles as well as web sources to be used as discussion topics, debating with every student participating. We intend to focus discussion on how better economic efficiency relates to the development of art activities and the operation of cultural facilities. We will discuss not only the state of non-profit arts, but that of commercial arts as well.

Classes are planned for: first week of August. Please note that one should make sure to contact the instructor via the staff of Section 1 at the department office for the details before registering for the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：アートマネジメントとは何か？芸術 NPO、非営利団体と商業芸術のマネジメントの違いについて
- 2回：非営利のためのアートマネジメント：美術館の場合
- 3回：非営利のためのアートマネジメント：オペラ、オーケストラ、バレエについて。組織運営と施設運営の違い
- 4回：非営利のためのアートマネジメント：観客を維持し、増やすための教育プログラムについて
- 5回：非営利のためのアートマネジメント：予算の成り立ち・・・日米欧の違い
- 6回：商業的なアートマネジメント：映画と商業演劇・・・日米欧の違い
- 7回：商業的なアートマネジメント：世界各地の映画祭、演劇祭の意味すること
- 8回：商業的なアートマネジメント：ハリウッドの意味するもの I（人材育成）
- 9回：商業的なアートマネジメント：ハリウッドの意味するもの II（配給システム）
- 10回：商業的なアートマネジメント：ハリウッドの意味するもの III（マーケティングとマーチャンダイジング）
- 11回：映画産業を支える周辺のシステム：フィルムコミッションの意味するところ
- 12回：エンタメ産業を支えるファン・ベースト・マーケティングとコンベンション
- 13回：アートマネジメントに資する情報デザイン：ソーシャル・メディアをどう使いこなすか
- 14回：アートマネジメントに資する情報デザイン：ソーシャル・メディアをどう使いこなすか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業内で関連 URL を予め告知、コピー資料を配布。都内美術館・博物館での展覧会見学なども行う予定。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート以外の課題:10% 出席および授業参加度:50% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

岩渕潤子 『ヴァチカンの正体』 筑摩書房 2014

岩渕潤子 『美術館で愛を語る』 PHP 新書 2004

岩渕潤子 『NY 午前0時 美術館は眠らない』（Kindle版） 朝日新聞社 2020

その他 / Others

履修希望者は事前に岩渕宛にメールでご連絡ください。オンラインでゲストもお招きしての授業の詳細について事前に相談させていただきます。例年だと美術館などへ赴き、専門家のお話を伺っていますが、専門家のゲストをオンラインで登場して頂きお話をして頂く可能性があります。学生の皆さんからどんな分野の方の話を聞きたいかご希望があれば、早めにお知らせ下さい。授業の開始までに、本科目専門の授業支援ブログサイトを作るので必ず確認するようにして下さい。

注意事項

- ・ 8/1(木)1～5 限(8:50～18:50)
- ・ 8/5(月)1～5 限(8:50～18:50)
- ・ 8/6(火)1～5 限(8:50～18:50)

学外実施予定日

- ・ 8/2(金)1～5 限(8:50～18:50)

教室：6205

文明工学演習 1

Seminar on Civilization Technology 1

イメージの創出——沖縄・女性という表象

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

沖縄表象に関わる文芸作品や評論の精読を通じて、書き手のスタンスや時代背景を読み解く。あわせて論文執筆に必要な批判力・描写力を身につける。

In this course, students will read literary works and criticism related to the idea of Okinawa, gaining an understanding of the stance and historical background of each writer. At the same time, students will acquire the critical abilities and power of description necessary to write a thesis.

授業の内容 / Course Contents

非沖縄人による、沖縄を描いた文芸作品や評論の精読。受講者からの要望があれば、間に修士論文の中間報告と指導も入れる。とりあげるのは比較的古い作品とする。広津和郎、火野葦平、竹中労、岡本太郎など。後半は、沖縄の人による作品を読む。詳しくは授業の初回に説明する。

Students will read literary works and criticism written by non-Okinawans that depict Okinawa. If there is demand from the students, a master's thesis interim report and guidance relating to it can be slotted in. We will be dealing

with relatively older works. Specifically, Kazuo Hirotsu, Ashihei Hino, T, Ro Takenaka, Taro Okamoto, and so on. During the latter half of the course, students will read literary works by Okinawan writers. Details will be explained at the first class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、分担決定とテキスト配布
- 2回：テキスト精読
- 3回：テキスト精読
- 4回：テキスト精読
- 5回：テキスト精読
- 6回：テキスト精読
- 7回：テキスト精読
- 8回：テキスト精読
- 9回：テキスト精読
- 10回：テキスト精読
- 11回：テキスト精読
- 12回：テキスト精読
- 13回：テキスト精読
- 14回：全体のまとめと討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定テキストを熟読し、質問やコメントを考えてくる。指定されたテキストの著者についても報告すべく、各自で調べること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ:30% 報告内容:40% 授業参加度:30%

テキスト / Textbooks

- 火野葦平 『火野葦平選集』 東京創元社 1958 -
- 広津和郎 「さまよえる琉球人」『広津和郎全集 第2巻』 中央公論社 1974 -
- 竹中労 『琉球共和国』 ちくま文庫 2002 -
- 岡本太郎 『沖縄文化論』 中公叢書 2002 -
- 四方田犬彦 『沖縄映画論』 作品社 2008 -
- 溝口泰子『受難島の人びと 日本の縮図・沖縄』 未来社、1959年

参考文献 / Readings

- 東峰夫 『オキナワの少年』 文芸春秋 1972
- 知念正真 「人類館」 その他を参照 1978
- 久住ふさ子 「滅びゆく琉球女の手記」 その他を参照 1932

目取真俊 『沖繩/草の声・根の意志』 世織書房 2001

岡本恵徳・高橋敏夫編『沖繩文学選 日本文学のエッジからの問い』勉誠出版、2003年）に参考文献の1～は収録

その他/ Others

テキストはコピーを配布する。

文明工学演習 2

Seminar on Civilization Technology 2

語りえぬ時空 II——埴谷雄高、ヴィトゲンシュタイン、武満徹

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

時間・空間の枠組みが外れた「かのような」文学・哲学・音楽について考察します。

We consider literature, philosophy, and music as if they were outside the framework of time and space.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、異なる時間・空間の情景を描く小説、埴谷雄高の『死霊』、論理を神秘的・詩的断想の形式のうちに探求したヴィトゲンシュタインの『反哲学的断章』、時間の芸術である音楽を空間へと拡張する武満徹の『音、沈黙と測りあえるほどに』を通して、存在の神秘、存在の不思議を言語によって捉え、表現することを通して、受講者の表現の幅を広げます。

In this class, we will discuss novels that depict scenes in different times and spaces, Yutaka Haniya's "The Dead", Wittgenstein's "Anti-Philosophical Fragments" that explore logic in the form of mystical and poetic contemplation, and Through Toru Takemitsu's "Sound, Silence and Measurable", which expands the art of music into space, we will expand the range of expression of the participants by capturing and expressing the mysteries of existence through language.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：埴谷雄高『死霊』①
 3回：ヴィトゲンシュタイン『反哲学的断章』①
 4回：埴谷雄高『死霊』②
 5回：ヴィトゲンシュタイン『反哲学的断章』②
 6回：埴谷雄高『死霊』③
 7回：ヴィトゲンシュタイン『反哲学的断章』③
 8回：埴谷雄高『死霊』④
 9回：武満徹『音、沈黙と測りあえるほどに』①
 10回：埴谷雄高『死霊』⑤
 11回：武満徹『音、沈黙と測りあえるほどに』②
 12回：埴谷雄高『死霊』⑥
 13回：武満徹『音、沈黙と測りあえるほどに』③
 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当箇所を精読して授業に臨んでください。1~3回、発表を担当してもらいます。発表者は、文学に対して、思想に対して、自らの視点を提示することが求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度・積極性：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

埴谷雄高『死霊』I~III、講談社文芸文庫、2003年

ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン、丘沢静也訳『反哲学的断章』青土社、1999年

武満徹『武満徹著作集〈1〉』新潮社、2000年

*テキストは各自入手してください。

*『死霊』は、II、IIIを扱います。

*『武満徹著作集〈1〉』はコピーを配布します。

参考文献 / Readings

埴谷雄高・立花隆『無限の相のもとに』平凡社、1997年

コリン・ウィルソン、中村保男訳『宗教とアウトサイダー』上・下、河出文庫、1992年

立花隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋、2016年

文明工学演習 3

Seminar on Civilization Technology 3

Samuel Beckett の小説を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ126

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンラインに授業とする。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JB155「英文学特殊研究 5 A」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

この授業では Samuel Beckett, Watt(1953), Molloy(1955)を精読します。

In this course, we will closely read Samuel Beckett's Watt(1953) and Molloy(1955).

授業の内容 / Course Contents

20 世紀イギリス・フランス文学を代表する小説家、劇作家 Samuel Beckett(1906-1989)は小説と演劇の両ジャンルで革命を起こしました。彼の破格な作品は、言語とは何か、語ることは何か、ひいては生きるとは何かについてどんな作家よりも鋭く、また深く追究しています。この授業では Watt(1953)、およびフランス語で先に書いて自ら英語に翻訳した（正確に言うと助手とともに英訳した）Molloy(1955)を読みます。これらは彼の中期の代表作と言えます。第二次世界大戦中にナチスから逃れて潜伏している間に書いた前者、そして戦後創作意欲が急激に高まったときに書いた後者を合わせ読むことで、20 世紀の文学の最先端の問題に触れ、かつベケットが固執した二人組という形象について考察します。

Samuel Beckett (1906-1989) is the most important figure in the twentieth-century English and French literature. His extraordinary work, which revolutionized both the novel and the drama, explores the fundamental questions

regarding language, story-telling and life itself, more sharply and deeply than any other author's work. In this course, we are reading Watt(1953), which he wrote while he was hiding from the Nazis during WWII, and Molloy(1955), which marks the start of his most productive period after the war. (The latter was first written in French and translated into English by the author with the help of an assistant.) By reading these novels, which represent Beckett's middle period, we will consider the most important questions of the twentieth literature, including the figure of the 'pseudocouple' that obsessed Beckett.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Watt
- 3回：Watt
- 4回：Watt
- 5回：Watt
- 6回：Watt
- 7回：Watt
- 8回：Molloy
- 9回：Molloy
- 10回：Molloy
- 11回：Molloy
- 12回：Molloy
- 13回：Molloy
- 14回：Molloy

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めて発表してもらいます。その他の参加者も全員そのときの範囲を読んで予習してることが義務付けられます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%
 平常点割合 :40% 平常の授業への参加度:40%
 欠席が3回を超えると単位を取得できません。

テキスト / Textbooks

- Samuel Beckett Watt Faber and Faber 2009 9780571244744 ○
- Samuel Beckett Molloy Faber and Faber 2009 9780571243716 ○

参考文献 / Readings

文明工学演習 4

Research on Civilization Technology 4

Samuel Beckett の戯曲を読む

田尻 芳樹 (TAJIRI YOSHIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ127

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 5回目と8回目をオンラインに授業とする。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JB156「英文学特殊研究 5 B」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

この授業では Samuel Beckett の主要な戯曲を精読します。

In this course, we will closely read Samuel Beckett's major plays.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀イギリス・フランス文学を代表する小説家、劇作家 Samuel Beckett(1906-1989)は小説と演劇の両ジャンルで革命を起こしました。彼の破格な作品は、言語とは何か、語ることは何か、ひいては生きるとは何かについてどんな作家よりも鋭く、また深く追究しています。この授業では Waiting for Godot(1953)、Endgame(1957)、Happy Days(1961)などの主要な戯曲を読みます。また視覚的にもできる限り鑑賞します。ベケットは徐々にラジオ、テレビ、映画などの別のジャンルにも手を広げたので、そのような展開にも留意します。現代演劇の極北と言われる彼の戯曲の何がアクチュアルなのかをじっくりと考えることを主眼とします。同時に彼が固執した二人組という形象についても考察していきます。

Samuel Beckett (1906-1989) is the most important figure in the twentieth-century English and French literature. His extraordinary work, which revolutionized both the novel and the drama, explores the fundamental questions

regarding language, story-telling and life itself, more sharply and deeply than any other author's work. In this course, we are reading his major plays such as *Waiting for Godot*(1953), *Endgame*(1957), and *Happy Days*(1961). We will try as much as possible to appreciate them visually too. We will also pay attention to his later forays into other media such as radio television and film. We will mainly consider what is really actually in his plays which are often called the extreme point of modern drama.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Waiting for Godot
- 3回：Waiting for Godot
- 4回：Waiting for Godot
- 5回：Waiting for Godot
- 6回：Endgame
- 7回：Endgame
- 8回：Endgame
- 9回：Happy Days
- 10回：Happy Days
- 11回：Happy Days
- 12回：Other Works
- 13回：Other Works
- 14回：Other Works

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回発表者を決めて発表してもらいます。その他の参加者も全員そのときの範囲を読んで予習してることが義務付けられます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 平常の授業への参加度:40%

欠席が3回を超えると単位を取得できません。

テキスト / Textbooks

Samuel Beckett Complete Dramatic Works Faber and Faber 1986 9780571229154 ○

参考文献 / Readings

文明工学演習 5

Seminar on Civilization Technology 5

水鏡の詩的論理

—アンドレイ・タルコフスキーをめぐって

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画芸術と言葉との関係について考察します。

We will consider the relationship between film arts and words.

授業の内容 / Course Contents

映像の詩人と呼ばれたソヴィエト連邦の映画作家アンドレイ・タルコフスキーの主要作品と著作を交互に読み解くことを通して、ユーラシア大地から飛翔する宇宙的精神と物質的記憶を考察します。

Through alternate readings of the major works and writings of Andrei Tarkovsky, a Soviet Union filmmaker known as the poet of images, we will examine the cosmic spirit and material memory that fly from the Eurasian land.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：『アンドレイ・ルブリョフ』（1967）

- 3回：『映像のポエジア』①
 4回：『惑星ソラリス』（1972）
 5回：『映像のポエジア』②
 6回：『鏡』（1975）
 7回：『映像のポエジア』③
 8回：『ストーリーカー』（1979）
 9回：『映像のポエジア』④
 10回：『ノスタルジア』（1983）
 11回：『映像のポエジア』⑤
 12回：『サクリファイス』（1986）
 13回：『映像のポエジア』⑥
 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に映画作品およびテキストの該当箇所を視聴／精読してくることが求められます。2回ほど発表を担当してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度＋積極性：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

アンドレイ・タルコフスキー、鴻英良訳『映像のポエジア』ちくま学芸文庫、2022年

*各自入手のこと。

*映画作品については担当教員のほうで準備します。

参考文献 / Readings

アンドレイ・タルコフスキー、鴻英良・佐々洋子訳『タルコフスキー日記一殉教録』キネマ旬報社、1991年

アンドレイ・タルコフスキー、扇千恵訳『タルコフスキーの映画術』水声社、2008年

言語多文化学特殊研究 2

Research on Language and Multiculturalism 2

暴虐の詩学——ヴェイユとシオラン

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ133

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 後期課程用科目コード：PJ309

授業の目標 / Course Objectives

存在と言葉が寄って立つ場所を見極め、「自分自身の」文体を確立することを目指します。

We aim to establish our own style of writing, identifying where presence and words stand together.

授業の内容 / Course Contents

一見したところ相反する資質をもつかのように見える、ふたりの思想家、シモーヌ・ヴェイユとエミール・シオランの著作を交互に読むことを通して、ユーモアとイロニーが交差する一点が不幸を美へと昇華させる「暴虐の詩学」を明らかにします。

Through alternate readings of two thinkers, Simone Weil and Emile Ciorin, who at first glance seem to have contradictory qualities, the intersection of humor and irony reveals the "Poetics of violence" that sublimates misfortune into beauty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：『根をもつこと』①

- 3回：『歴史とユートピア』①
 4回：『根をもつこと』②
 5回：『歴史とユートピア』②
 6回：『根をもつこと』③
 7回：『歴史とユートピア』③
 8回：『根をもつこと』④
 9回：『歴史とユートピア』④
 10回：『根をもつこと』⑤
 11回：『歴史とユートピア』⑤
 12回：『根をもつこと』⑥
 13回：『歴史とユートピア』⑥
 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの当該箇所を精読してることが求められます。受講者全員に、2回ほど発表を担当してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度・積極性:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

1. シモーヌ・ヴェーユ、山崎庸一郎訳『根をもつこと』[新装版] 春秋社、2020年
2. E.M.シオラン、出口裕弘訳『歴史とユートピア』紀伊國屋書店、1967年

*コピーを配布します。

*参考のため、PDFで原書も配布します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示します。

言語多文化学特殊研究 4

Research on Language and Multiculturalism 4

文化と帝国主義について考える

陣野 俊史 (JINNO TOSHIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ135

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

エドワード・サイードの後期の主要著作を読んで、いま思考すべき論点を掴む。

Read the major works of Edward Said in his later years and grasp the points we should be thinking about now.

授業の内容 / Course Contents

私たちの現在、置かれている状況において、必読と思われる思想家エドワード・サイードの代表作『文化と帝国主義』のなかで、特に必要と思われる論文を選んで読みます。

In our current situation, we will select and read essays from thinker Edward Said's masterpiece "Culture and Imperialism" that are considered essential reading in our current situation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：帝国、地理、文化

3 回：過去のイメージ、純粋なものとの混淆的なもの

4 回：ふたつのヴィジョン 『闇の奥』における

- 5回：乖離する経験
 6回：帝国を世俗的解釈とむすびつける
 7回：物語と社会空間
 8回：帝国の文化的統合
 9回：帝国の作用 ヴェルディの《アイーダ》
 10回：帝国主義の愉しみ
 11回：カミュとフランス帝国体験
 12回：統御される原住民
 13回：モダニズムについての覚書
 14回：まとめ、振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業は輪読制なので、担当者がレジユメを作成することが必要。担当の回は必ずレジユメを作成してください。もちろん毎回、当該範囲は読んでくること。テキストについては、初回に説明をします。なお、英語ではなく、日本語訳を使用する予定。必要に応じて英語も参照する形。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加度:70%

最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

エドワード・サイード 『文化と帝国主義』 みすず書房 1998 -

参考文献 / Readings

言語多文化学特殊研究 5

Research on Language and Multiculturalism 5

アフォリズムの誘惑ーヴェイユとシオラン

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ136

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アフォリズムという文体がどのようにして思考の逆説を提示するのかを考察します。

We will examine how the writing style of aphorism presents paradoxes of thought.

授業の内容 / Course Contents

異なる資質をもちながら、断片形式の叙述に天賦の才を発揮するふたりの思想家、シモーヌ・ヴェイユとエミール・シオランのアフォリズム集を交互に読むことを通して、「作品は死ぬ。断章は、かつて生きたことがない以上、死ぬこともありえない」とシオラン自身が述べるように、体系的哲学の対極にある箴言という思考のかたちが、どのようにしてわたしたちを震撼させ、覚醒させるのかを考察します。

Through reading alternately the collections of aphorisms by Simone Weil and Emile Ciorin, two thinkers with different qualities who have a natural talent for narrative in the form of fragments. As Cioran himself says, "The work dies. Since the fragment has never lived, it cannot die", we examine how thinking in the form of proverbs, the opposite of systematic philosophy, shakes and awakens us.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：『重力と恩寵』①
 3回：『生誕の災厄』①
 4回：『重力と恩寵』②
 5回：『生誕の災厄』②
 6回：『重力と恩寵』③
 7回：『生誕の災厄』③
 8回：『重力と恩寵』④
 9回：『生誕の災厄』④
 10回：『重力と恩寵』⑤
 11回：『生誕の災厄』⑤
 12回：『重力と恩寵』⑥
 13回：『生誕の災厄』⑥
 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当箇所を精読して授業に臨んでください。受講者全員に、2回ほど発表を担当してもらいます。発表者は、テキストに対して自らの視点を提示することが求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度＋積極性：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

シモーヌ・ヴェイユ、田辺保訳『重力と恩寵』ちくま学芸文庫、1995年

E. M. シオラン、出口裕弘訳『生誕の災厄〈新装版〉』紀伊國屋書店、2021年

*参考のため、原書のPDFを配布します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示します。

言語多文化学演習 1

Seminar on Language and Multiculturalism 1

『リュミエール』の余白に

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ139

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画芸術と言葉との連続性を捉えることを目標としています。

We will aim to capture the continuity between film art and language.

授業の内容 / Course Contents

蓮實重彦責任編集の『季刊リュミエール』誌全 14 号（1985～88 年）から、とりわけ、監督、撮影スタッフのインタビューを中心に取り上げ、それを踏まえ、各シネアストの作品を自らの視座から批評することを通して、映像と言語との関係について考察します。それと同時に、『リュミエール』における〈不在〉を明らかにすることで、この批評誌の企図を批判的に継承する可能性についても検討します。

Focusing on interviews with directors and film crews from all 14 issues of Quarterly Lumière (1985-88), edited by Shigehiko Hasumi, and based on those interviews, We will critique each cineaste's work from our own perspectives. Through this, we will consider the relationship between images and language. At the same time, by clarifying the "absence" in Lumière, we will consider the possibility of critically inheriting the aims of this critical journal.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ジャン・ルノワール『どん底』(1936)
- 3回：ハワード・ホークス『ヒズ・ガール・フライデー』(1940)
- 4回：ジョン・フォード『わが谷は緑なりき』(1941)
- 5回：ロベルト・ロッセリーニ『ヨーロッパ一九五一年』(1952)
- 6回：黒澤明『生きる』(1952)
- 7回：ミケランジェロ・アントニオーニ『女ともだち』(1956)
- 8回：アラン・レネ『去年マリエンバートで』(1961)
- 9回：小津安二郎『秋刀魚の味』(1962)
- 10回：ルキノ・ヴィスコンティ『山猫』(1963)
- 11回：セルジオ・レオーネ『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』(1984)
- 12回：アニエス・ヴァルダ『冬の旅』(1985)
- 13回：侯孝賢(ホウ・シャオシェン)『恋恋風塵』(1987)
- 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に当該映画を視聴しておくことと、当該インタビュー記事を熟読しておくことが求められます。受講者全員に、2回ほど発表を担当してもらいます。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 受講態度+積極性:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

蓮實重彦責任編集『季刊リュミエール』全14冊、筑摩書房、1985~88年

*当該箇所をコピーで配布します。

*視聴する映画作品は担当教員のほうで準備します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示します。

言語多文化学演習 2

Seminar on language and Multiculturalism 2

現代俳句の歴史と言語/History of Modern Haiku and its Language

堀切 克洋 (HORIKIRI KATSUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ140

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語で書かれた俳句や俳論の読解とディスカッションを通じて、言語表現についての理解を深め、各自の課題を探究する。

Through reading and discussion of haiku and its critics written in Japanese, students will deepen their understanding of language expression and explore their own issues.

授業の内容 / Course Contents

俳句における言葉の歴史的展開と構造を探究するために、この授業では、高屋窓秋（1910－1999）という俳人を事例としてとりあげる。とりわけ、1930年前後の芸術環境に注目しながら、俳句における詩的特性やレトリックについて考えてゆく予定。

In order to explore the historical development and structure of language in haiku, this class will take as its case study the haiku poet Takaya Soshu (1910-1999). In particular, we will consider the poetic characteristics and rhetoric of the poem, focusing on the artistic environment around 1930.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに(ガイダンスなど)
- 2回：近代以降の俳句(1880年代～1920年代)についての概論1＝講義。(資料は配布する。)
- 3回：近代以降の俳句(1930年代～1960年代)についての概論2＝講義。(資料は配布する。)
- 4回：近代以降の俳句(1970年代以降)についての概論3＝講義。(資料は配布する。)
- 5回：履修者による発表と討議1。
- 6回：履修者による発表と討議2。
- 7回：履修者による発表と討議3。
- 8回：履修者による発表と討議4。
- 9回：句会
- 10回：履修者による発表と討議5。
- 11回：履修者による発表と討議6。
- 12回：履修者による発表と討議7。
- 13回：履修者による発表と討議8。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者のゼミ発表によって進めていくため、授業時間外に内容とレジュメ等の準備をする必要がある。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業参加度:40% 課題の発表等:40% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

実作の経験は問わないが、俳句という詩的形式や歴史的概略(明治期以降)について、予習をしておくことが望ましい。

言語多文化学演習 3

Seminar on Language and Multiculturalism 3

Louisa May Alcott and "Blood and Thunder" Tales

大串 尚代 (OGUSHI HISAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： JJ141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC6810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： JB170「米文学特殊研究 7 B」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、19 世紀の女性作家 Louisa May Alcott のスリラー作品、いわゆる“Blood and Thunder” Tales を再考し、19 世紀の大衆娯楽と女性作家の関係を考察することを目的とする。

The purpose of this lecture is to reconsidering the thriller works of the 19th-century female writer Louisa May Alcott, commonly known as “Blood and Thunder” Tales, and to examine the relationship between 19th-century popular entertainment and female authors.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、一般的には若年層向けの作品を執筆したことで人気を博し、死後に出版された伝記でも「子供たちの友」と称された Louisa May Alcott のもうひとつの側面である、スリラー作家としての顔を見ていく。経済的な理由から、時に別名義を用いながら執筆されたとする作品群であるが、中には Alcott の筆が冴え、単に金銭的理由から書いたとは思えないような楽しさが伝わってくるように思われる作品もある。本講義では、現在 Alcott が執筆したことが判明しているスリラー作品を読みつつ、19 世紀における大衆小説の出版状況や、女性作家の位置を探るものである。

授業では“Pauline's Passion and Punishment,” “A Whisper in the Dark,” “Behind a Mask”を取り上げ、その成立背景とともに、作品を読解する。授業は基本的に発表形式で行われ、その後クラス全体でディスカッションを行う。

In this lecture, we will explore another facet of Louisa May Alcott, who gained popularity for her works generally targeted towards a younger audience and was posthumously referred to as the “Children's Friend” in her biography. Allegedly due to economic reasons, she occasionally wrote thriller stories under pseudonyms, but within these works, Alcott's talent shines through, and it is possible for us to sense her enjoyment that goes beyond mere financial motivations. This lecture aims to examine Alcott's thriller works, considering the publishing conditions of popular novels in the 19th century and exploring the position of female writers. The class will focus on “Pauline's Passion and Punishment,” “A Whisper in the Dark,” and “Behind a Mask,” putting these works along with their historical context. The format of the class primarily involves presentations, followed by a class discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション（取り扱う作品の説明、発表についての説明）

2 回：19 世紀における女性のオーサーシップ

Susan S. Williams, Reclaiming Authorship: Literary Women in America 1850-1900 から抜粋を読みディスカッション

3 回：女性と匿名性

Judith Gardiner, “On Female Identity”を読み、ディスカッション

4 回：19 世紀の大衆小説

David Reynolds, Beneath the American Renaissance からの抜粋を読み、ディスカッション

5 回：“Pauline's Passion and Punishment” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

6 回：“Pauline's Passion and Punishment” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

7 回：“Pauline's Passion and Punishment” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

8 回：“A Whisper in the Dark” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

9 回：“A Whisper in the Dark” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

10 回：“A Whisper in the Dark” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

11 回：“Behind a Mask” 1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

12 回：“Behind a Mask” 2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

13 回：“Behind a Mask” 3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

14 回：全体のディスカッションおよび総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを事前に読了してから授業に参加することが求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストについては、授業内で指示する。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

テキスト配布、およびレポートの提出のために LMS を活用する予定であるため、それが可能な機材を持っていることが望ましいが、難しい場合は個別に相談されたい。

研究指導

Tutorial Session

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB157
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB159
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB208
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB209
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

英文学特論 1 B

Special Topics in English Literature 1B

William Wordsworth: The Prelude

藤巻 明 (FUJIMAKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

イギリス・ロマン主義詩人 William Wordsworth の自伝的長篇叙事詩 The Prelude（1805 年版）の選りすぐりの箇所を読んで、ロマン主義文学における自我と自己表現の問題について考える。併せて、現代の批評を通して、文学作品を解釈して自分なりの見方を構築する方法も学ぶ。なお、授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準が求められる。

This course aims to read some of the very best passages chosen from an English Romantic poet William Wordsworth's autobiographical epic The Prelude (1805) and consider the problems of self and self-expression in Romantic literature. At the same time, through consultation with various modern literary criticism, we will learn how to interpret literary works and construct our own view on them as well. A higher level of achievement than master's students is required for course objectives and every evaluation criterion.

授業の内容 / Course Contents

詩人の湖水地方における幼少期から大学時代を経て、フランス革命への期待が裏切られて絶望し、そこから想像力の力によって立ち直るまでを描く自伝的長篇詩の抜粋箇所を熟読するだけでなく、時に批評を参照してテ

クスト理解を深める。授業では、以下の授業計画に沿って1回に100行前後を読む予定だが、受講者の希望によって多少の修正を施す可能性はある。

We will peruse some chosen passages from the long autobiographical epic, depicting from the poet's childhood in the Lake District, through his Cambridge days and his hopes for the French Revolution to be followed by utter disillusionment, to the final recovery from despair by the power of imagination and deepen our comprehension of the text by referring to modern literary criticism as well. In each class we will read about 100 lines of poetry according to the lesson plan shown below. This plan could be slightly revised depending on students' wishes. Details will be provided in the course syllabus given on the first day of class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction with a short video and M. H. Abrams, 'The Idea of The Prelude.'
- 2回：Criticism 1 and The Prelude Book I, lines 1-54.
- 3回：The Prelude Book I, lines 274-374.
- 4回：The Prelude Book I, lines 375-492.
- 5回：The Prelude Book II, lines 237-341.
- 6回：The Prelude Book II, lines 341-434.
- 7回：The Prelude Book IV, lines 361-63, 400-505.
- 8回：Criticism 2.
- 9回：The Prelude Book VI, lines 338-60, 452-68 and 488-548.
- 10回：The Prelude Book XI, lines 258-345.
- 11回：The Prelude Book XI, lines 345-97 and Book XII, lines 145-84.
- 12回：The Prelude Book XIII, 1-119.
- 13回：The Prelude Book XIII, lines 367-452.
- 14回：Criticism 3 & Review.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講希望者は第1回の授業までに上記 M. H. Abrams, 'The Idea of The Prelude'（テキストに指定した Nicholas Halmi 編 Norton Critical Edition, pp. 678-83 所収）を読んでおく。それ以後は、毎回扱う詩行と批評を予め読んで授業に臨み、授業後は紹介された参考文献を読んで詩についての理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 常日頃の授業への貢献度と担当時の発表内容:50%

全ての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準が求められる。

テキスト / Textbooks

Nicholas Halmi (ed.) Wordsworth's Poetry and Prose: A Norton Critical Edition W. W. Norton 2014
9780393924787 -

上記書籍を購入するか、立教大学図書館に蔵書があるので該当箇所を参照するか、いずれかの方法で各自準備

する。

参考文献 / Readings

Stephen Gill William Wordsworth: A Life Oxford UP 1989 9780198817116

ウィリアム・ワーズワス著、岡三郎訳 『序曲』 国文社 1968 9784772001168

山内久明編訳 『対訳ワーズワス詩集』 岩波文庫 1998 9784003221822

1805年版の隣に1850年版が収録されている Norton や Penguin などの The Prelude を併せて持っている则便利。その他、授業中折に触れて紹介する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

英文学特論 3A

Special Topics in English Literature 3A

小説と相続の問題：ジェイン・オースティンの場合

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PB305
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EAL7313
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

ジェイン・オースティン（1775-1817）の *Sense and Sensibility* を精読することによって、オースティンが描いた市民社会において相続という問題がいかなる意味を帯びていたか、オースティンがそれをいかに表象したかを考察します。

By closely reading Jane Austen's *Sense and Sensibility*, the class will try to understand what the act of inheritance meant in the civil society of Austen's time and how Austen represented the theme in her novel.

授業の内容 / Course Contents

相続という問題は、あらゆる社会の存続にとって核心的な位置を占めるものです。そこで意味されるのは金銭的・経済的な相続のみならず、政治的な相続(社会体制の受け継ぎ)や文化的な相続(国家的・家族的・個人的な自己定義の受け継ぎ)でもあります。市民社会とともに発展してきたイギリスの小説において、その重要性は暗黙のうちに隅々まで浸透していると言えるでしょう。春学期はジェイン・オースティンの *Sense and Sensibility* を扱い、個々人のロマンスや結婚をめぐるプロットの背後に相続という問題のネットワークがいかに張り巡らされているかを考えます。

毎回、発表者を決めて報告してもらい、それを出発点としてディスカッションに入ってゆきます。発表者のみならず、全参加者の積極的な発言を期待します。

The problem of inheritance occupies a pivotal place in the continuation of any form of society. What is meant there is not only monetary/ economic take-over, but political take-over (the inheritance of social systems) and cultural take-over (the inheritance of national/ familial/ personal self-definitions). In the British novel, which developed along with the growth of civil society, its importance implicitly penetrates every corner of the genre. In the spring semester, we take up Jane Austen's *Sense and Sensibility* and consider how the network of inheritance works behind the plots around individual romances and marriages.

In each class, we will appoint presenters and use their report as the starting point for the discussion. It is expected that not only the presenters, but all participants will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Sense and Sensibility 講読第1回
- 3回：Sense and Sensibility 講読第2回
- 4回：Sense and Sensibility 講読第3回
- 5回：Sense and Sensibility 講読第4回
- 6回：Sense and Sensibility 講読第5回
- 7回：Sense and Sensibility 講読第6回
- 8回：Sense and Sensibility 講読第7回
- 9回：Sense and Sensibility 講読第8回
- 10回：Sense and Sensibility 講読第9回
- 11回：Sense and Sensibility 講読第10回
- 12回：Sense and Sensibility 講読第11回
- 13回：Sense and Sensibility 講読第12回
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当の回は、レジュメを丹念に用意してください。その以外の回も、次回の範囲を精読しておくようにしてください。参考文献が指定された場合は、それもじっくり読んでおいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への貢献度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Jane Austen *The Annotated Sense and Sensibility* Anchor Books 2011 9780307390769 ○

参考文献 / Readings

受講者の理解度を見極めながら、授業内で適宜指示してゆきます。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

英文学特論 3 B

Special Topics in English Literature 3B

小説と相続の問題：チャールズ・ディケンズの場合

小山 太一 (KOYAMA TAICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB306

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

チャールズ・ディケンズ（1812-70）の Bleak House を精読することによって、ディケンズが相続という問題をヴィクトリア朝社会の閉塞感とどのように結び付けて描き出そうとしたか、ディケンズのトレードマークであったヒューマニズムはそこにおいてどの程度まで有効であったかを考察します。

By closely reading Charles Dickens's Bleak House, the class will try to analyse how Dickens tried to connect the problem of inheritance with the Victorian sense of social stagnation and to what extent Dickens's trade-mark humanism was effective in the plot and solution of the novel.

授業の内容 / Course Contents

相続という問題は、あらゆる社会の存続にとって核心的な位置を占めるものです。そこで意味されるのは金銭的・経済的な相続のみならず、政治的な相続(社会体制の受け継ぎ)や文化的な相続(国家的・家族的・個人的な自己定義の受け継ぎ)でもあります。市民社会とともに発展してきたイギリスの小説において、その重要性は暗黙のうちに隅々まで浸透していると言えるでしょう。秋学期はチャールズ・ディケンズの後期作品 Bleak House を扱い、相続という問題のネットワークがいかに個々人の社会的・個人的生活を束縛するものとして作

者によって緻密に張り巡らされているかを考えます。

毎回、発表者を決めて報告してもらい、それを出発点としてディスカッションに入ってゆきます。発表者のみならず、全参加者の積極的な発言を期待します。

The problem of inheritance occupies a pivotal place in the continuation of any form of society. What is meant there is not only monetary/ economic take-over, but political take-over (the inheritance of social systems) and cultural take-over (the inheritance of national/ familial/ personal self-definitions). In the British novel, which developed along with the growth of civil society, its importance implicitly penetrates every corner of the genre. In the spring semester, we take up Charles Dickens's Bleak House and consider how the network of inheritance is meticulously constructed by the author as something that powerfully constricts the social and personal lives of the individuals.

In each class, we will appoint presenters and use their report as the starting point for the discussion. It is expected that not only the presenters, but all participants will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Bleak House 講読第1回
- 3回：Bleak House 講読第2回
- 4回：Bleak House 講読第3回
- 5回：Bleak House 講読第4回
- 6回：Bleak House 講読第5回
- 7回：Bleak House 講読第6回
- 8回：Bleak House 講読第7回
- 9回：Bleak House 講読第8回
- 10回：Bleak House 講読第9回
- 11回：Bleak House 講読第10回
- 12回：Bleak House 講読第11回
- 13回：Bleak House 講読第12回
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

発表担当の回は、レジюмеを丹念に用意してください。その以外の回も、次回の範囲を精読しておくようにしてください。参考文献が指定された場合は、それもしっかり読んでおいてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への貢献度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Charles Dickens Bleak House Penguin 2003 9780141439723 ○

参考文献 / Readings

受講者の理解度を見極めながら、授業内で適宜指示してゆきます。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 1 A

Special Topics in American Literature 1A

詩人たちの想像——アメリカン・ルネサンス期の詩を読む

澤入 要仁 (SAWAIRI YOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

エマソンは複数の講演をまとめた晩年のエッセイ“Poetry and Imagination”（1876）の中で、自然の真の意義は、その実相ではなくその象徴の中にあるとし、詩人は想像力を使って、その象徴を透かし見る、と述べていました。そのような想像力をもった者のみが詩人の名に値する、というのです。

そこで本科目では、広義のアメリカン・ルネサンス期の詩人たちの想像力ゆたかな秀作を地道にそしてクリティカルに読み、その詩人たる所以を探ることによって、カリキュラム・マップに示された「内容を分析総合する能力」と、「的確で客観的な調査を行う技能」を養うとともに、作品の魅力を翫味することができるようになります。最終的には、学術雑誌へ投稿可能な高いレベルのレポート執筆を目指します。

In his late essay “Poetry and Imagination”（1876）, which consolidated several lectures, Emerson asserted that the true significance of nature lies not in its tangible reality but in its symbols. He stated that poets, utilizing their imagination, perceive these symbols as if seeing through its actuality. Only those with such imaginative power, he maintained, are worthy of the title of poet.

In this course, we will meticulously and critically read the imaginative works of poets from the broader

American Renaissance period. By exploring the reasons behind their status as poets, students will be able to appreciate the appeal of their works and to develop “the ability to analyze as well as synthesize content” and “the skills to conduct accurate and objective surveys” as outlined in the Curriculum Map. At the end of the course, students are expected to write a research paper at a high level that can be submitted to an academic journal.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、「アメリカン・ルネサンス期」を広くとらえ、新しいアメリカ詩の黎明を告げたというべきブライアントの“Thanatopsis”（執筆 1811 頃、初出 1817）からメルヴィルの“In a Bye-Canal”（執筆 1857 頃、初出 1891）までカバーしています。“Thanatopsis”のような、文学史には必ず言及されるものの精読されることが少ない作品や、詩人たちの代表作とはいえないが想像力の飛翔が愉快的な作品を集めました。なお詩人たちを取り巻いていたアメリカの文化や社会についてもしばしば光を当ててゆきます。文化や社会が理解できなければ、文学を理解したことにはなりません。

本演習は、あらかじめ定められた担当者がハンドアウトに基づいて発表することによって進められます。担当でない参加者もみずからすすんで翫味しなければなりません。

In this course, we will take a broad view of the “American Renaissance period,” spanning from Bryant’s “Thanatopsis” (written around 1811, first published in 1817), which can be considered the dawn of new American poetry, to Melville’s “In a Bye-Canal” (written around 1857, first published in 1891). Our selection includes works like “Thanatopsis,” which, though often referenced in literary history, are seldom closely examined, as well as pieces that may not be the poets’ representative works but are delightful for their imaginative flights.

This seminar will proceed through presentations conducted by assigned individuals based on provided handouts. Participants who are not presenting are also required to actively engage in savoring and exploring the materials on their own.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：英語詩入門
- 2 回：アメリカン・ルネサンスの詩人たち
- 3 回：William Cullen Bryant, “Inscription for the Entrance to a Wood”
- 4 回：William Cullen Bryant, “Thanatopsis” 1
- 5 回：William Cullen Bryant, “Thanatopsis” 2
- 6 回：Henry Wadsworth Longfellow, “The Belfry of Bruges”
- 7 回：Henry Wadsworth Longfellow, “The Children’s Hour”
- 8 回：John Greenleaf Whittier, “Telling the Bees”
- 9 回：Edgar Allan Poe, “Alone,” “A Dream within a Dream”
- 10 回：Oliver Wendell Holmes, “The Chambered Nautilus”
- 11 回：Jones Very, “The Prayer,” “The Dead”
- 12 回：Henry David Thoreau, “Fog,” “Smoke,” “The Inward Morning”
- 13 回：Walt Whitman, “Song of Myself” Section 11
(Michael Moon, “The Twenty-Ninth Bather”)
- 14 回：Herman Melville, “In a Bye-Canal,” “Shiloh”

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : ○ グループ発表 : ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後にオンラインでおこないます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表と応答（議論・貢献度など）:60% 最終レポート割合 :40%

全ての評価方法において、博士前期課程と比べ高度な水準が要求されます。特に学期末レポートに関しては、学会誌へ投稿可能なレベルが求められます。

テキスト / Textbooks

プリントを配付します。

参考文献 / Readings

Richard Gray A History of American Poetry Wiley Blackwell 2015 1118795350

John Hollander, ed. American Poetry: The Nineteenth Century, vol. 1 The Library of America 1993
0940450607

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 3 A

Special Topics in American Literature 3A

The European Fairy Tale Tradition: Straparola, Basile, Perrault, and Grimm

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB325

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Learning how to critically interpret the literary fairy tale and write a coherent literary analysis.

授業の内容 / Course Contents

Folklorist and literary translator, Jack Zipes, writes: “Each innovative retelling and rewriting of a well-known tale in the cultural heritage is an independent human act seeking to align itself with the original utopian impulse of the first-told tale.” And by tracing the parallel structures of the fairy tale — across culture, time, and place — these “utopian impulses” can be analysed for their narrative dimensions and ideological contents. In this course, we will be reading and comparing works by Straparola, Basile, Perrault, and the Grimm brothers (among others), with the intention of using these works as a source for understanding how the fairy tale serves as a blueprint for social structures, cultural logic, and systems of morality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Week 1: Course syllabus, class rules, and general introduction

2 回：Week 2: The Great Fairy Tale Tradition

Incestuous Fathers

1.Straparola, "Tebaldo"

2.Basile, "The Bear"

3 回 : Week 3: The Great Fairy Tale Tradition The Wishes of Fools

1.Straparola, "Pietro the Fool"

2.Basile, "Peruonto"

4 回 : Week 4: The Great Fairy Tale Tradition Wild Men

1.Straparola, "Guerrino and the Wild Man"

2.de Mailly, "Prince Guerini"

5 回 : Week 5: The Great Fairy Tale Tradition

Shrewd Cats

1.Perrault, "The Master Cat; or, Puss in Boots"

2.Grimm, "Puss in Boots"

6 回 : Week 6: The Great Fairy Tale Tradition

The Revenge and Reward of Neglected Daughters

1.Perrault, "Cinderella; or, the Glass Slipper"

2.d'Aulnoy, "Finette Cendron"

7 回 : Week 7: The Great Fairy Tale Tradition The Power of Love

1.Basile, "Petrosinella"

2.Schultz, "Rapunzel"

8 回 : Week 8: The Great Fairy Tale Tradition

Magical Transformations

1.Basile, "The Three Animal Kings"

2.Grimm, "The Crystal Ball"

9 回 : Week 9: The Great Fairy Tale Tradition

The Fate of Spinning

1.Lhéritier, "Ricdin-Ricdon"

2.Grimm, "Rumpelstilskin"

10 回 : Week 10: The Great Fairy Tale Tradition

The Fruitful Sleep

1.Basile, "Sun, Moon, and Talia"

2.Grimm, "Brier Rose"

11 回 : Week 11: The Great Fairy Tale Tradition

Abandoned Children

1.Basile, "Ninnillo and Nennella"

2.Grimm, "Hansel and Gretel"

12 回 : Week 12: The Great Fairy Tale Tradition

Bloodthirsty Husbands

1.Perrault, "Bluebeard"

2.Grimm, "Bluebeard"

13 回 : Week 13: The Great Fairy Tale Tradition

Dangerous Wolves and Naïve Girls

1.Perrault, “Little Red Riding Hood”

2.Grimm, “Little Red Cap”

14 回：Final Quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will have reading assignments every week and will engage in research for the final report. Each session of the course will require at least 1 hour of reading, writing, and/or other preparation.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Assignments:30% Research:10% Academic Writing:30% Final Quiz:30%

テキスト / Textbooks

Jack Zipe The Great Fairy Tale Tradition: From Straparola and Basile to the Brothers Grimm Norton 2001
9780393976366 ○

参考文献 / Readings

注意事項

For Course Objectives and every evaluation criterion, a higher level of achievement than master's students is required.

米文学特論 3 B

Special Topics in American Literature 3B

Postmodern Fairytales: Angela Carter, The Bloody Chamber & Other Stories

イエイツ, M. (YATES MICHAEL D. H.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB326

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Learning how to critically interpret the postmodern fairy tale and write a coherent literary analysis.

授業の内容 / Course Contents

As a writer, critic, and translator of tales and traditions from a variety of cultures and social contexts, Angela Carter's literary project is as multifaceted as it is rich in evocative detail. This course will focus on the works in Carter's most famous collection of stories, *The Bloody Chamber* (1979). Through a reading of these stories in comparison to Carter's translations of Charles Perrault's fairytales (*Histoires ou Contes du Temps Passé avec des Moralités*, 1697), this course will explore the language of Carter's enchanted tales and critically engage with the ideas, characters, and politics of Carter's postmodern folklore.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course syllabus, class rules, and general introduction

Reading:

"Ashputtle or, The Mother's Ghost," from Angela Carter, *Burning Your Boats*, 1996.

(Copies will be provided.)

2 回：The Bluebeard Tradition – (1)

Reading:

“The Bloody Chamber” (Bloody Chamber, pages 1-19)

&

“Bluebeard,” from Angela Carter, *The Fairy Tales of Charles Perrault*.

(Copies will be provided.)

3 回：The Bluebeard Tradition – (2)

Reading:

“The Bloody Chamber” (Bloody Chamber, pages 19-42)

4 回：Beauty and the Beast – (1)

Reading:

“The Courtship of Mr. Lyon” (Bloody Chamber, pages 43-55)

&

“Beauty and the Beast” from Joseph Jacobs, *Europa’s Fairy Book*, 1916.

(Copies will be provided.)

5 回：Beauty and the Beast – (2)

Reading:

“The Tiger’s Bride” (Bloody Chamber, pages 56-75)

6 回：Puss-in-Boots

Reading:

“Puss-in-Boots” (Bloody Chamber, pages 76-95)

&

“Puss in Boots” from Angela Carter, *The Fairy Tales of Charles Perrault*.

(Copies will be provided.)

7 回：Enchanted Transformations – (1)

Reading:

“The Erl-King” (Bloody Chamber, pages 96-104)

8 回：Enchanted Transformations – (2)

Reading:

“The Snow Child” (Bloody Chamber, pages 105-06)

&

“The Snow Maiden,” from Edith M. S. Hodgetts, *Tales and Legends from the Land of the Tzars*, 1891.

(Copies will be provided.)

9 回：Academic Writing Session

Reading:

Sections from *MLA Handbook for Writers of Research Papers*

&

A selection of essays and journal articles related to the study of Carter’s *Bloody Chamber*

(Copies will be provided.)

10 回：Vampires and Occult Magic

Reading:

“The Lady of the House of Love” (Bloody Chamber, pages 107-25)

11 回：Thrown to the Wolves – (1)

Reading:

“The Werewolf” (Bloody Chamber, pages 126-28)

&

“Mr. Fox” from Joseph Jacobs, Europa’s Fairy Book, 1916.

(Copies will be provided.)

12 回：Thrown to the Wolves – (2)

Reading:

“The Company of Wolves” (Bloody Chamber, pages 129-39)

&

“Little Red Riding Hood” from Angela Carter, The Fairy Tales of Charles Perrault.

(Copies will be provided.)

13 回：Thrown to the Wolves – (3)

Reading:

“Wolf-Alice” (Bloody Chamber, pages 140-49)

14 回：Final Quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each session will involve a lecture component, brief student presentations, and a close reading of the text(s) assigned for the week (mostly short stories and excerpts from longer texts). Students should be prepared to analyze each of the readings from a number of perspectives. Also, students will be expected to have read the assigned text(s) prior to each session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly Assignments:30% Final Quiz:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Angela Carter The Bloody Chamber and Other Stories Vintage 2006 9780099588115 ○

参考文献 / Readings

注意事項

For Course Objectives and every evaluation criterion, a higher level of achievement than master's students is required.

米文学特論 5 A

Special Topics in American Literature 5A

Herman Melville 研究

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB329

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学作品の徹底的な精読を行いつつ、作品の背後にある歴史的・文化的コンテキストの理解を深める。最終的には、代表的な批評も踏まえた上で、学会誌への投稿を前提とした高いレベルの学期末レポートを執筆する。

While conducting a thorough close reading of American literary works, students will deepen their understanding of the historical and cultural contexts behind the works. Finally, students will write a final essay publishable in an academic journal.

授業の内容 / Course Contents

Herman Melville, *Moby-Dick* (1851) を読解する。言わずと知れたアメリカ文学を代表する傑作であるが、その難解さと長大さゆえ、通読したことのある読者はそこまで多くはないだろう。そこで本演習では、教員が読みどころと歴史的・文化的背景を示しつつ、クラスで協力し合いながら全体を読み切ることを目指す。その上で、アメリカとは何か、個人主義とは何か、民主主義とは何かなど、この作品が取り組んでいる壮大な諸問題について考察してみたい。この名作はあらゆる読解の可能性に開かれているので、各自の問題意識のもとに読

解に取り組んでほしい。

In this seminar, we will read Herman Melville's *Moby-Dick* (1851). It is a well-known masterpiece of American literature, but not many readers have read it in its entirety due to its difficulty and length. We will discuss a variety of issues the work addresses, such as individualism and American democracy. As this masterpiece is open to every possibility of reading and interpretation, students are encouraged to bring their own perspectives into their reading of this novel.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Moby-Dick 読解 (1)
- 3回：Moby-Dick 読解 (2)
- 4回：Moby-Dick 読解 (3)
- 5回：Moby-Dick 読解 (4)
- 6回：Moby-Dick 読解 (5)
- 7回：Moby-Dick 読解 (6)
- 8回：Moby-Dick 読解 (7)
- 9回：Moby-Dick 読解 (8)
- 10回：Moby-Dick 読解 (9)
- 11回：Moby-Dick 読解 (10)
- 12回：Moby-Dick 読解 (11)
- 13回：Moby-Dick 読解 (12)
- 14回：Moby-Dick 読解 (13)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週 500words ほどの英語によるレスポンス・ペーパーの提出を義務づけ、毎回添削の上で返却する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの貢献度:30% 毎週のレスポンスペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Herman Melville *Moby-Dick* Norton 2017 0393285006 ○

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること (PC、タブレット、スマートフォンなど)。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 5 B

Special Topics in American Literature 5B

奴隷制と19世紀アメリカ文学（2）

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB330

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学作品の徹底的な精読を行いつつ、作品の背後にある歴史的・文化的コンテキストの理解を深める。最終的には、代表的な批評も踏まえた上で、学会誌への投稿を前提とした高いレベルの学期末レポートを執筆する。

While conducting a thorough close reading of American literary works, students will deepen their understanding of the historical and cultural contexts behind the works. Finally, students will write a final essay publishable in an academic journal.

授業の内容 / Course Contents

Harriet Beecher Stowe, *Uncle Tom's Cabin* (1852) を読解する。アンテベラム期アメリカを理解するうえで必読の古典であるが、その長大さゆえ味読される機会が少ない作品でもある。本書の読解を通じて奴隷制度をめぐる当時の言説を理解することはもちろん、感傷小説というジャンルへの理解を深め、さらには本作品の審美的価値に関しても吟味検討したい。Jane Tompkins が古典的研究書 *Sensational Designs* において本作品を再評価してから 40 年近く経過した現在において、この作品をどのような見地から評価できるだろうか。

さらに、本授業では作品だけではなく代表的な批評の読解も行い、論文とは何か、論文とはどうあるべきかなどのプラクティカルな問題についても討議する。

In this seminar, we will read Harriet Beecher Stowe's *Uncle Tom's Cabin* (1852). This is a must-read classic for understanding antebellum America, but it is also a work that is rarely read in its entirety for its length. Reading this book will help us better understand not only the discourse of slavery at the time but also the genre of sentimental fiction. In this seminar, we will also reexamine the aesthetic, cultural, and historical values of this classic novel by putting it in conversation with the current critical climate, nearly forty years after Jane Tompkins reappraised the novel in *Sensational Designs*.

In addition to Stowe's text, we will also read the criticism of this work and debate practical issues such as what an academic essay is and how it should be written.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Uncle Tom's Cabin 読解 (1)
- 3回：Uncle Tom's Cabin 読解 (2)
- 4回：Uncle Tom's Cabin 読解 (3)
- 5回：Uncle Tom's Cabin 読解 (4)
- 6回：Uncle Tom's Cabin 読解 (5)
- 7回：Uncle Tom's Cabin 読解 (6)
- 8回：Uncle Tom's Cabin 読解 (7)
- 9回：Uncle Tom's Cabin 読解 (8)
- 10回：Uncle Tom's Cabin 読解 (9)
- 11回：批評読解 (1)
- 12回：批評読解 (2)
- 13回：批評読解 (3)
- 14回：レポート構想発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週 500words ほどの英語によるレスポンス・ペーパーの提出を義務づけ、毎回添削の上で返却する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、ディスカッションへの貢献度:30% 毎週のレスポンスペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Harriet Beecher Stowe *Uncle Tom's Cabin* Norton 2017 9780393283785 ○

参考文献 / Readings

授業内で指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 7A

Special Topics in American Literature 7A

Ralph Ellison, Invisible Man 研究

新田 啓子 (NITTA KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PB333
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EAL7313
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代アメリカにおいて最も重要な黒人作家の 1 人 Ralph Ellison の最高傑作、Invisible Man (1952) の精読を行い、作品理解を深めるとともに、小説の背景となっているジムクロウ時代の文化的推移、ならびに哲学から政治学まで、作家が物語に込めた思想についての理解を深める。また、学期を通して担当者の指導のもと、前期課程よりも高度な知識やスキルを身に付けることを目標に置き、各自の博士論文や論文の出版に役立てる。 This course intends a comprehensive analysis of Ralph Ellison's seminal work, Invisible Man (1952), one of the most significant works of modern American literature. Through close examination, students are required to analyze the multifaceted layers of the narrative as well as elucidate its thematic richness and cultural significance within the context of the Jim Crow era. In addition, under the guidance of the instructor throughout the semester, students will engage in acquiring more advanced knowledge and skills, and utilize them in the pursuit of their doctoral dissertations.

授業の内容 / Course Contents

Ralph Ellison (1914-94) は、先駆者である Richard Wright, そして James Baldwin とともに、現代アメリ

カ黒人文学の完成者であると考えられている。だが、Baldwin もまたそうであったように、この作家も、Wright 流の抗議文学の流れを汲んだ創作から出発しながら、その範疇に括ることはできない極めてオリジナルな作家である。彼の唯一の長編小説にして、現代アメリカ文学史上最も重要な作品の 1 つに数えられる *Invisible Man* は、シュールリアリズム的な心理描写、黒人霊歌やジャズ音楽のイメージ、さらには民話をはじめとする黒人の民俗伝統を取り入れた、モダニズム色の強い独自の芸術を達成している。

本講では、アメリカ黒人文学としてのみならず、西洋芸術の一つの成果となることを強く意識して創作されたこの小説を丹念に読み、現在に至るまで蓄積された黒人の文化的経験と芸術的達成を多角的に考察することを目的とする。受講者は、本講を通して得た知識を援用し、各自、出版を目指した完成度の高い研究論文を作成することが望まれる。

Like Richard Wright and James Baldwin, Ralph Ellison (1914-94) stands as a luminary in contemporary African American literature. Ellison's seminal and only full-length novel, *Invisible Man*, defies categorization within traditional protest literature, employing surrealistic psychological descriptions, evocative imagery from black spirituals and jazz, and a mosaic of folk traditions.

This course aims to meticulously unpack this novel, recognizing its dual identity: a cornerstone of African American literature and a literary work representing the Western artistic canon. It seeks to explore modern African American authors' original explorations of cumulative cultural experiences and artistic achievements while illuminating Ellison's deliberate departure from conventional literary confines. By utilizing knowledge acquired through the course, students are supposed to write a high-quality research paper on the assigned text and submit that to an appropriate journal.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業内容、テキストの説明
- 2 回：Invisible Man (1)
- 3 回：Invisible Man (2)
- 4 回：Invisible Man (3)
- 5 回：Invisible Man (4)
- 6 回：Invisible Man (5)
- 7 回：Invisible Man (6)
- 8 回：Invisible Man (7)
- 9 回：Invisible Man (8)
- 10 回：Invisible Man (9)
- 11 回：Invisible Man (10)
- 12 回：批評研究 (1)
- 13 回：批評研究 (2)
- 14 回：批評研究 (3)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワーポイント等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習範囲は毎回 40-50 ページにわたる。各自の英語力に合わせた予習時間が毎週 8-10 時間程度必要になると思われる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表における準備状況:35% ディスカッション・リーディングのパフォーマンス:30%

最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

Ellison, Ralph Invisible Man Vintage International 1995 9780679732761 ○

参考文献 / Readings

Ralph Ellison の評論や学术论文に関しては、授業時に適宜提供する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎週決められた箇所を予習してくる計画性と積極性。英語の解読ならびに解釈に必要な調査を大学図書館のオンラインデータベースにアクセスして行う勤勉さと熱心さ。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

発表のためのハンドアウトを作成し、授業で使う LMS にアクセスするためのコンピュータ。大学図書館におけるオンラインデータベース。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 7 B

Special Topics in American Literature 7B

Louisa May Alcott and "Blood and Thunder" Tales

大串 尚代 (OGUSHI HISAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB334

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、19 世紀の女性作家 Louisa May Alcott のスリラー作品、いわゆる“Blood and Thunder”Tales を再考し、19 世紀の大衆娯楽と女性作家の関係を考察することを目的とする。

The purpose of this lecture is to reconsidering the thriller works of the 19th-century female writer Louisa May Alcott, commonly known as “Blood and Thunder” Tales, and to examine the relationship between 19th-century popular entertainment and female authors.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、一般的には若年層向けの作品を執筆したことで人気を博し、死後に出版された伝記でも「子供たちの友」と称された Louisa May Alcott のもうひとつの側面である、スリラー作家としての顔を見ていく。経済的な理由から、時に別名義を用いながら執筆されたとする作品群であるが、中には Alcott の筆が冴え、単に金銭的理由から書いたとは思えないような楽しさが伝わってくるように思われる作品もある。本講義では、現在 Alcott が執筆したことが判明しているスリラー作品を読みつつ、19 世紀における大衆小説の出版状況や、女性作家の位置を探るものである。

授業では“Pauline's Passion and Punishment,” “A Whisper in the Dark,” “Behind a Mask”を取り上げ、その成立背景とともに、作品を読解する。授業は基本的に発表形式で行われ、その後クラス全体でディスカッションを行う。

In this lecture, we will explore another facet of Louisa May Alcott, who gained popularity for her works generally targeted towards a younger audience and was posthumously referred to as the “Children's Friend” in her biography. Allegedly due to economic reasons, she occasionally wrote thriller stories under pseudonyms, but within these works, Alcott's talent shines through, and it is possible for us to sense her enjoyment that goes beyond mere financial motivations. This lecture aims to examine Alcott's thriller works, considering the publishing conditions of popular novels in the 19th century and exploring the position of female writers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション（取り扱う作品の説明、発表についての説明）

2回：19世紀における女性のオーサーシップ

Susan S. Williams, *Reclaiming Authorship: Literary Women in America 1850-1900* から抜粋を読みディスカッション

3回：女性と匿名性

Judith Gardiner, “On Female Identity”を読み、ディスカッション

4回：19世紀の大衆小説

David Reynolds, *Beneath the American Renaissance* からの抜粋を読み、ディスカッション

5回：“Pauline's Passion and Punishment”1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

6回：“Pauline's Passion and Punishment”2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

7回：“Pauline's Passion and Punishment”3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

8回：“A Whisper in the Dark”1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

9回：“A Whisper in the Dark”2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

10回：“A Whisper in the Dark”3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

11回：“Behind a Mask”1

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

12回：“Behind a Mask”2

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

13回：“Behind a Mask”3

担当者による発表、その後クラスでのディスカッション

14回：全体のディスカッションおよび総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : ○ グループ発表 : ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストを事前に読了してから授業に参加することが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストについては、授業内で指示する。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

テキスト配布、およびレポートの提出のために LMS を活用する予定であるため、それが可能な機材を持っていることが望ましいが、難しい場合は個別に相談されたい。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 8A

Special Topics in American Literature 8A

ポリアモリーと人種

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB335

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカの文学を精読することで、その審美的な手触り確かめるとともに、人種・ジェンダー・セクシュアリティの歴史的・文化的諸相を探り、日英両言語による自己表現能力を養う。なお、授業レポートは、将来的な学会誌への投稿を前提にした水準を目指すものとする。

By reading American literary works, we will not only experience the aesthetic feeling they provide but also explore the historical and cultural aspects of race, gender, and sexuality. In doing so, we will cultivate self-expression skills in both Japanese and English. A term paper should meet the standards for future submission to academic journals.

授業の内容 / Course Contents

文学研究における交差性（intersectionality）の概念に注目が集まる昨今、とりわけ人種とセクシュアリティの問題系は、その抑圧と抵抗の力学において、連動的に理解されねばならない。この授業では、性的少数派でありつつアフリカ系アメリカ人でもあるという二重のマイノリティ性に向き合った作家、James Baldwin の *Another Country* を取り上げ、時代の規範を攪乱する性と人種の諸相を考える。

なお、授業は、あらかじめ指名された担当者による英語の発表を出発点に、前半は英語、後半は日本語によるディスカッション形式で行うので、受講者の積極的な発言が期待される。

In the present period when attention is focused on the concept of intersectionality in literary studies, the issues of race and sexuality, in particular, must be understood interactively in the dynamics of oppression and resistance. In this course, we will examine *Another Country* by James Baldwin, a writer who confronts the dual identity of being a sexual minority and an African American. Through this exploration, we will contemplate the various aspects of sexuality and race that disrupt the norms of the time.

Please note that the English presentation by the designated presenter will be followed by a Q&A session in English during the first half and in Japanese during the second half of the class. Therefore, it is expected that students will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションならびに発表担当者の決定
- 2回：James Baldwin, *Another Country* を読む (1)
- 3回：James Baldwin, *Another Country* を読む (2)
- 4回：James Baldwin, *Another Country* を読む (3)
- 5回：James Baldwin, *Another Country* を読む (4)
- 6回：James Baldwin, *Another Country* を読む (5)
- 7回：James Baldwin, *Another Country* を読む (6)
- 8回：James Baldwin, *Another Country* を読む (7)
- 9回：James Baldwin, *Another Country* を読む (8)
- 10回：James Baldwin, *Another Country* を読む (9)
- 11回：James Baldwin, *Another Country* を読む (10)
- 12回：今学期の総括
- 13回：レポート中間報告会 (1)
- 14回：レポート中間報告会 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

とりわけ授業前半の英語によるディスカッションに積極的な貢献ができるよう、毎週、事前にテキストを精読するとともに、自分の問題意識を整理し、それをメモにまとめたうえで授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の担当発表とディスカッションへの参加:60% 最終レポート:40%

すべての評価基準において、博士前期課程の受講生とは異なる高度な達成水準が求められる。

テキスト / Textbooks

James Baldwin *Another Country* Penguin Classics 2001 9780141186375 ○

参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業時に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

米文学特論 8B

Special Topics in American Literature 8B

ポリアモリーと人種

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB336

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7313

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカの文学を精読することで、その審美的な手触り確かめるとともに、人種・ジェンダー・セクシュアリティの歴史的・文化的諸相を探り、日英両言語による自己表現能力を養う。なお、授業レポートは、将来的な学会誌への投稿を前提にした水準を目指すものとする。

By reading American literary works, we will not only experience the aesthetic feeling they provide but also explore the historical and cultural aspects of race, gender, and sexuality. In doing so, we will cultivate self-expression skills in both Japanese and English. A term paper should meet the standards for future submission to academic journals.

授業の内容 / Course Contents

文学研究における交差性（intersectionality）の概念に注目が集まる昨今、とりわけ人種とセクシュアリティの問題系は、その抑圧と抵抗の力学において、連動的に理解されねばならない。この授業では、アフリカ系アメリカ人作家 Raven Leilani の Luster (2020) と、韓国系アメリカ人作家 Joon Oluchi Lee の Neotenica (2020) を読む。前者は、2020 年の Kirkus Prize（小説部門）を受賞した非規範的な家族の物語であり、後者は、2021

年，LGBTQ 文学に対して授与される Lambda Literary Awards を受賞した攪乱的前衛小説である。評価が定まっておらず，先行研究もほぼ存在しない現在進行形の作家について，みずからの判断力をもった的確な分析を行う訓練の機会としたい。

なお，授業は，あらかじめ指名された担当者による英語の発表を出発点に，前半は英語，後半は日本語によるディスカッション形式で行うので，受講者の積極的な発言が期待される。

In this course, we will read *Luster* (2020) by African American author Raven Leilani and *Neotenica* (2020) by Korean American author Joon Oluchi Lee. The former is an unconventional family narrative that won the 2020 Kirkus Prize in the fiction category, while the latter is a disruptive avant-garde novel that received the Lambda Literary Award (for LGBTQ literature) in 2021.

Please note that the English presentation by the designated presenter will be followed by a Q&A session in English during the first half and in Japanese during the second half of the class. Therefore, it is expected that students will proactively speak up in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクションならびに発表担当者の決定
- 2 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (1)
- 3 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (2)
- 4 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (3)
- 5 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (4)
- 6 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (5)
- 7 回：Raven Leilani, *Luster* を読む (6)
- 8 回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (1)
- 9 回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (2)
- 10 回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (3)
- 11 回：Joon Oluchi Lee, *Neotenica* を読む (4)
- 12 回：今学期の総括
- 13 回：レポート中間報告会 (1)
- 14 回：レポート中間報告会 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

とりわけ授業前半の英語によるディスカッションに積極的な貢献ができるよう，毎週，事前にテキストを精読するとともに，自分の問題意識を整理し，それをメモにまとめたうえで授業にのぞむこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の担当発表とディスカッションへの参加:60% 最終レポート:40%

すべての評価基準において，博士前期課程の受講生とは異なる高度な達成水準が求められる。

テキスト / Textbooks

Raven Leilani Luster Picador Paper 2021 9781250798671 ○

Joon Oluchi Lee Neotenica Nightboat Books 2020 9781643620206 ○

参考文献 / Readings

参考文献は必要に応じて授業時に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

英語学特論 1 A

Special Topics in English Philology and Linguistics 1A

古英語文献講読

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古英語文献の読解を通じ、古英語文学や英語文献学の分野における研究の基礎を学ぶ。また、同分野において英語論文を書くために必要な英作文能力の養成を目指す。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Acquiring reading skills in Old English and writing skills of academic English in the field of English philology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では Oxford, Bodleian Library, Junius 11 写本に含まれる古英詩 Genesis B を精読しながら、古英語や古英詩、また、古英詩を記録した写本、同時代の歴史や文化について学ぶ。Genesis B は古英詩としては特殊なバックグラウンドを持った作品であることを踏まえ、より伝統的な古英詩と比較し、その異同を確認する作業を通じ、伝統的な古英詩の特徴および Genesis B の特異性について考える。これに加え、毎回、受講生の研究テーマに沿った内容の短い英文を予め作文しておいてもらい、これについて添削しながら、この分野における英語論文等の書き方を指導する。

We will read the Old English texts listed below and also do some training in academic English composition.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：Genesis B 講読 1
 3回：Genesis B 講読 2
 4回：Genesis B 講読 3
 5回：Genesis B 講読 4
 6回：Genesis B 講読 5
 7回：Genesis B 講読 6
 8回：Genesis B 講読 7
 9回：Genesis B 講読 8
 10回：Genesis B 講読 9
 11回：Genesis B 講読 10
 12回：Genesis B 講読 11
 13回：Genesis B 講読 12
 14回：Genesis B 講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で読むテキストは事前に必ず良く予習しておいてください。また、各回には事前に用意した英作文も使いますので、指示に従って英文を事前に準備してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み (英作文、発表、授業内発言等) :100%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業内で適宜紹介する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

英語学特論 1 B

Special Topics in English Philology and Linguistics 1B

古英語文献講読

唐澤 一友 (KARASAWA KAZUTOMO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PB352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EAL7413

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古英語文献の読解を通じ、古英語文学や英語文献学の分野における研究の基礎を学ぶ。また、同分野において英語論文を書くために必要な英作文能力の養成を目指す。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Acquiring reading skills in Old English and writing skills of academic English in the field of English philology.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、春学期に引き続き、Oxford, Bodleian Library, Junius 11 写本に含まれる古英詩 Genesis B を精読しながら、古英語や古英詩、また、古英詩を記録した写本、同時代の歴史や文化について学ぶ。Genesis B は古英詩としては特殊なバックグラウンドを持った作品であることを踏まえ、より伝統的な古英詩と比較し、その異同を確認する作業を通じ、伝統的な古英詩の特徴および Genesis B の特異性について考える。これに加え、毎回、受講生の研究テーマに沿った内容の短い英文を予め作文しておいてもらい、これについて添削しながら、この分野における英語論文等の書き方を指導する。

We will read the Old English texts listed below and also do some training in academic English composition.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：Genesis B 講読 1
 3回：Genesis B 講読 2
 4回：Genesis B 講読 3
 5回：Genesis B 講読 4
 6回：Genesis B 講読 5
 7回：Genesis B 講読 6
 8回：Genesis B 講読 7
 9回：Genesis B 講読 8
 10回：Genesis B 講読 9
 11回：Genesis B 講読 10
 12回：Genesis B 講読 11
 13回：Genesis B 講読 12
 14回：Genesis B 講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で読むテキストは事前に必ず良く予習しておいてください。また、各回には事前に用意した英作文も使いますので、指示に従って英文を事前に準備してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み (英作文、発表、授業内発言等) :100%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業内で適宜紹介する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小野沢 あかね (ONozAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC157
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC159
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC160
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC161
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

沼尻 晃伸 (NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC209
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC210
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC211
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

後藤 雅知 (GOTO MASATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

上田 信 (UEDA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

深津 行徳 (FUKATSU YUKINORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

浦野 聡 (URANO SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

高林 陽展 (TAKABAYASHI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小澤 実 (OZAWA MINORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC260
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

松原 宏之 (MATSUBARA HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC261
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： HIS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

史学研究方法論 A

Methods of History A

小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野 沢 あかね／沼尻 晃伸 (OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/ FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE/NUMAJIRI AKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC301
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 1
科目ナンバリング： HIS7510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文執筆に向けて、歴史学の研究動向を探求し、テーマ設定の仕方や研究の進め方について理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

履修者は研究報告を行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わし、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究発表 1
- 2 回：研究発表 2
- 3 回：研究発表 3
- 4 回：研究発表 4

- 5回：研究発表5
- 6回：研究発表6
- 7回：研究発表7
- 8回：研究発表8
- 9回：研究発表9
- 10回：研究発表10
- 11回：研究発表11
- 12回：研究発表12
- 13回：研究発表13
- 14回：研究発表14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論、発表方法・内容:100%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

史学研究方法論 B

Methods of History B

浦野 聡／小澤 実／高林 陽展／上田 信／四日市 康博／松原 宏之／深津 行徳／佐藤 雄基／後藤 雅知／小野沢 あかね (URANO SATOSHI/ OZAWA MINORU/ TAKABAYASHI AKINOBU/ UEDA MAKOTO/ YOKKAICHI YASUHIRO/ MATSUBARA HIROYUKI/FUKATSU YUKINORI/SATO YUKI/GOTO MASATOSHI/ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 1

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文執筆に向けて、歴史学の研究動向を探求し、テーマ設定の仕方や研究の進め方について理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

履修者は研究報告を行い、各コースの教員や出席者と質疑応答を交わし、指導を受ける。発表は、各自一回ずつで、いつ行うかは初回に決める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究発表 1

2 回：研究発表 2

3 回：研究発表 3

4 回：研究発表 4

- 5回：研究発表5
- 6回：研究発表6
- 7回：研究発表7
- 8回：研究発表8
- 9回：研究発表9
- 10回：研究発表10
- 11回：研究発表11
- 12回：研究発表12
- 13回：研究発表13
- 14回：研究発表14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

あらかじめレジュメを用意して発表に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:100%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本史特論 B

Japanese History B

日本中世史演習

菊地 大樹 (KIKUCHI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本中世史に関する研究論文、および中世史料の読解力を向上し、各自の論文作成に向けての準備を促進する。

This course will enhance students' comprehension of medieval historical sources and research papers on medieval Japan, which will help students writing their essays and dissertations.

授業の内容 / Course Contents

- ①日本中世の公家日記に関する輪読・研究
- ②日本中世（特に院政期・鎌倉期）の研究書・学術論文の講読
- ③参加者の研究報告（執筆中の草稿の検討・討論を含む）

以上の三つを行う予定である。

①について、講読史料については初回の授業で参加者とともに相談して決定する。具体的には、「亀山天皇凶事記」（『公衡公記』）、『中右記部類』など、天皇・公家の崩御および仏神事関係の古記録を考えている。また、随時、参加者の研究テーマに即した研究報告を行う。

ゼミのやり方としては、毎回、報告者を決めて、分担箇所について関連史料・研究文献を調査してもらい、そのレジュメをもとに参加者全員で討議を行う。

②③については、初回に参加者と相談して決定する。

(1) Group reading and research for court journals in medieval Japan

(2) Reviews of academic bibliographies on medieval Japan (particularly the Insei and Kamakura period, 1068-1333)

(3) Research reports by participant

Students will engage in these three projects.

Regarding (1), Professor will discuss what documents will be appreciated with participants at the first session. Professor will suggest reading court journals including entries of the death of emperor Kameyama ("Kinhirakoki") and the collection of court rituals from "Chuyuki" ("Chuyuki-burui"). The course will also have participants conduct research reports in regard to their research.

In every session the assigned student report his or her appointed part of documents by researching referred materials and essays. The reporter should prepare handouts. for the participants.

With regard to (2) and (3), these will be decided in the first session in consultation with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

2回：中世史料輪読（1）

3回：中世史料輪読（2）

4回：中世史料輪読（3）

5回：中世史料輪読（4）

6回：中世史文献講読（1）

7回：中世史文献講読（2）

8回：中世史文献講読（3）

9回：中世史文献講読（4）

10回：個人研究報告（1）

11回：個人研究報告（2）

12回：個人研究報告（3）

13回：個人研究報告（4）

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告:50% 授業への参加度:50%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。無断欠席は原則認めない。

テキスト/ Textbooks

菊地康明他校訂 『葉黄記1・2』 続群書類従完成会 1971~ 9784797102963 -

今江広道他校訂 『公衡公記1~4』 八木書店 2014 9784840632881 -

東京大学史料編纂所編 『中右記』別巻 岩波書店 2011 4000097369 -

「四条天皇凶事記」「亀山天皇凶事記」などは未翻刻のため、教員から写本の利用について説明し、便宜を図る。刊本史料については、授業内で指示するので、それまで購入等の必要はない。『中右記』別巻についても、受講者と利用方法について相談するので、それまで購入等の必要はない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本中世史を専門的に学ぶための、高度な和風漢文読解能力を身に付けることを目的とする。高校レベルの基礎的な漢文テキスト読解能力を身に付けていることが望ましく、十分でない場合には自習が必要である。

その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

授業中に適宜指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本史特論 C

Japanese History C

木村 涼 (KIMURA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC313
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS7510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近世史に関する研究論文、および近世史料（活字史料）の読解力を向上し、近世史についての理解を深めることを目標とする。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

参加者の状況によって、史料の輪読とするか、論文の輪読とするか、あるいはその両者の組み合わせとするか考える。論文を理解するためにも、史料が読めることは必須であるので、史料読解を重視していきたいと考えている。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：史料もしくは論文の輪読（1）
- 3 回：史料もしくは論文の輪読（2）
- 4 回：史料もしくは論文の輪読（3）
- 5 回：史料もしくは論文の輪読（4）

- 6回：史料もしくは論文の輪読（5）
 7回：史料もしくは論文の輪読（6）
 8回：史料もしくは論文の輪読（7）
 9回：史料もしくは論文の輪読（8）
 10回：史料もしくは論文の輪読（9）
 11回：史料もしくは論文の輪読（10）
 12回：史料もしくは論文の輪読（11）
 13回：史料もしくは論文の輪読（12）
 14回：史料もしくは論文の輪読（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

史料および論文について、事前に検討することが求められる。とくに史料については、用語を事前に調べ、また文脈を重視して解釈し、どのようなことが読み取れるのかを正確に探り出すことが肝要となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加態度:50% 報告内容:50%

全ての評価方法において高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本史特論 D

Japanese History D

倉敷 伸子 (KURASHIKI NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC314
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS7510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の近現代、特に生活意識に関する史料および研究状況についての理解を深める。

Students taking this course will explore historical materials and current historical research about modern and contemporary history of Japan focusing on the consciousness of life.

授業の内容 / Course Contents

- (1)日本の近現代史、特に生活意識に関する史料、主要文献の講読
- (2)史料に対する多角的視点、特にジェンダーに留意した視点による検討

- (1)Reading historical documents about consciousness of life
- (2)Examining historical materials from multiple perspectives, particularly paying attention to gender issues

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：史料・文献の講読と議論 (1)
- 2 回：史料・文献の講読と議論 (2)

- 3回：史料・文献の講読と議論（3）
 4回：史料・文献の講読と議論（4）
 5回：史料・文献の講読と議論（5）
 6回：史料・文献の講読と議論（6）
 7回：史料・文献の講読と議論（7）
 8回：史料・文献の講読と議論（8）
 9回：史料・文献の講読と議論（9）
 10回：史料・文献の講読と議論（10）
 11回：史料・文献の講読と議論（11）
 12回：史料・文献の講読と議論（12）
 13回：史料・文献の講読と議論（13）
 14回：史料・文献の講読と議論（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前に、受講生各自が文献・史料の講読と検討、論点の抽出を行っておくこと。その他は授業内で指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 議論への参加とその内容：60% 報告の内容：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本史特論 E

Japanese History E

戦後日本における空間性と食/Spatiality and Eating in Postwar Japan

塚原 浩太郎 (TSUKAHARA KOTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC315
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS7510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本演習は、主として第二次世界大戦後の日本における「食」をテーマとする。とりわけ空間性と食という観点から関連する史料を輪読し、史料についてのディスカッションを通じて、現在に至る「食」の歴史的な変遷を検討する。また関連史料の検索方法について参加者の間で共有を図り、歴史的な調査の行い方について知見を深める。

This seminar focuses on "eating" in post-war Japan. We will read historical materials related to "eating" and especially to spatiality. Through discussion of the historical materials, we will learn about the historical changes in "eating" up to the present. We will also learn how to search for related historical materials.

授業の内容 / Course Contents

戦後日本の空間性と食について史料をもとにした発見や理解を得ることを目指す。あわせて、「食」をはじめとする身近なテーマを歴史的に考える方法を習得することを目指す。

The aim of this seminar is to understand the relationship between spatiality and eating in post-war Japan and is to learn how to think historically about ordinary things like eating.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：食をめぐる諸論点
 (演習を通して議論したい点を提示する)
 3回：史料講読一食と身体①
 4回：史料講読一食と身体②
 5回：史料講読一食と身体③
 6回：史料講読一食と身体④
 7回：史料講読一食と他者①
 8回：史料講読一食と他者②
 9回：史料講読一食と他者③
 10回：史料講読一食と他者④
 11回：史料講読一食と空間①
 12回：史料講読一食と空間②
 13回：史料講読一食と空間③
 14回：総括と展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の史料を読んで事前にコメント (A4 一枚以内) を提出するため、2 時間ほど予習の時間を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のコメントの提出:70% 議論への参加:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本史特論 F

Japanese History F

日本中世史演習

佐藤 雄基 (SATO YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC316

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本中世史に関する研究論文、および中世史料の読解力を向上し、各自の論文作成に向けての準備を促進する。

This course will enhance students' comprehension of medieval historical materials and research papers concerning medieval Japanese history, and will promote students' preparations for writing their own theses.

授業の内容 / Course Contents

春学期の日本史特殊研究 2 A の継続である。今年度は荘園文書をテーマにしたい。具体的には、高野山領備後国大田荘に関する古文書を輪読する予定である。戦前以来、様々な視点から重厚な研究が積み重ねられてきた荘園であり、同荘を素材にして荘園研究の研究史及び基本的な研究方法を習得する。

ゼミのやり方としては、毎回、報告者を決めて、分担箇所について関連史料・研究文献を調査してもらい、そのレジュメをもとに参加者全員で討議を行う。

また、随時、参加者の研究テーマに関する個人報告を行う。

(1) Group reading and investigation concerning historical materials from the Middle Ages of Japan

(2) Joint reviews of research books and scholarly articles concerning Japan's Middle Ages (particularly the cloistered rule period and Kamakura period)

(3) Research reports by participants

The above three activities are planned.

With regard to (2) and (3), these will be decided in the first session in consultation with participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：中世史料輪読（1）
- 3回：中世史料輪読（2）
- 4回：中世史料輪読（3）
- 5回：中世史料輪読（4）
- 6回：中世史文献講読（1）
- 7回：中世史文献講読（2）
- 8回：中世史文献講読（3）
- 9回：中世史文献講読（4）
- 10回：個人研究報告（1）
- 11回：個人研究報告（2）
- 12回：個人研究報告（3）
- 13回：個人研究報告（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の報告:40% 授業への参加度:40% レポート:20%

単位修得のためには、80%以上の出席を必要とする。無断欠席は原則認めない。

テキスト / Textbooks

-
-
-
-
-

鎌倉佐保ほか編『荘園研究の論点と展望 中世史を学ぶ人のために』（吉川弘文館、2022年）所収の土山祐之「備後国大田荘」が研究の現状を示している。必要な史料集・研究書に関しては、コピーを参加者に配布する。

参考文献 / Readings

佐藤進一 『中世法制史料集 第6巻』 岩波書店 2005 9784000013864

黒田俊雄 『寺院法』 集英社 2015 9784081970209

佐藤進一 『中世政治社会思想 下巻』 岩波書店 1981 9784007305283

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

探究心

その他/ Others

東京大学史料編纂所データベース <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>

授業中に適宜指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

東洋史特論 C

Asian History C

奥 美穂子 (OKU MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PC323
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： HIS7510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

オスマン帝国史を中心に歴史研究の手法や史料・文献を読み解く力を習得し、各自の研究の進展をはかる。
The aim of this course is to acquire historical research methods and the ability to read and understand historical documents and literature, with a focus on the history of the Ottoman Empire, in order to advance their own research.

授業の内容 / Course Contents

受講者が研究報告を行い、参加者全体で討論を行う。その他の内容については、受講者と相談の上、柔軟に対応する。

Participants present their research reports, which are discussed by the group. The contents of the course will be flexibly adapted in consultation with the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：受講者による報告と全体討論（1）
 3回：受講者による報告と全体討論（2）
 4回：受講者による報告と全体討論（3）
 5回：受講者による報告と全体討論（4）
 6回：受講者による報告と全体討論（5）
 7回：受講者による報告と全体討論（6）
 8回：受講者による報告と全体討論（7）
 9回：受講者による報告と全体討論（8）
 10回：受講者による報告と全体討論（9）
 11回：受講者による報告と全体討論（10）
 12回：受講者による報告と全体討論（11）
 13回：受講者による報告と全体討論（12）
 14回：総括ならびに補足説明

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

東洋史特論 D

Asian History D

神田 惟 (KANDA YUI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PC324
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS7510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する研究成果や史料を整理・検討する力をつける。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Throughout this course, students will enhance their ability to analyze and structure research discoveries and historical resources related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history. The course is structured to provide students with a higher level of knowledge and skills compared to what was covered in the master course.

授業の内容 / Course Contents

イスラーム美術史（イスラーム物質文化史）、西アジア史に関する文献講読・史料精読を行う。毎回、報告者を定めて報告を行った上で議論し、研究史と近年の研究状況、史料を解釈する上での多様な手法に関して理解を深める。

In this seminar, participants will explore literature and documents related to the history of Islamic art (the material culture of Islam) and Middle Eastern history. Each class will include a designated presenter delivering a

report, leading discussions aimed at enhancing understanding of previous literatures, recent trends in the field, and various approaches to interpreting historical sources.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／授業の目的と進め方の説明
- 2回：受講者による報告と全体討論（1）
- 3回：受講者による報告と全体討論（2）
- 4回：受講者による報告と全体討論（3）
- 5回：受講者による報告と全体討論（4）
- 6回：受講者による報告と全体討論（5）
- 7回：受講者による報告と全体討論（6）
- 8回：受講者による報告と全体討論（7）
- 9回：受講者による報告と全体討論（8）
- 10回：受講者による報告と全体討論（9）
- 11回：受講者による報告と全体討論（10）
- 12回：受講者による報告と全体討論（11）
- 13回：受講者による報告と全体討論（12）
- 14回：受講者による報告と全体討論（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を事前に読んで授業に臨む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告の内容:50% 討論への参加・貢献度:50%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

西洋史特論 A

Western History A

荒井 雅子 (ARAI MASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PC331
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS7510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

自らの専門性に立脚しつつ、より広い歴史的文脈に自身の専門領域を置く視点を養う。そのために、専門性をより多くの人々と共有するための技能を習得する。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

The purpose of this course is to help students develop a perspective that places their own expertise in a broader historical context. To this end, students will acquire the skills to share their area of expertise with a broad audience.

Students enrolled in the Doctorate Program will acquire higher level skills than those in the Master's Program.

授業の内容 / Course Contents

履修生の研究・関心テーマについて確認したのち、履修生の専門以外の分野も含めて、幅広く研究論文を輪講します。近接諸地域や類似現象について理解することで、比較の視点を養いつつ、自身の専門性をより広い文脈に位置づけることを目指します。専門分野に限らず、幅広く現在の歴史学ではどのような研究がなされているのかを理解すること・伝えることをゴールとします。

After reviewing the students' research topics, the course will cover a wide range of research papers including

topics outside of the students' field of research, in order to better understanding their own fields within larger contexts. By understanding neighboring regions and similar phenomena, students will develop the ability to employ a comparative perspective and place their own major within a broader context. The goal of the course is to provide students with an understanding of current research in a wide range historical, not limited to their own field of specialization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究・関心テーマについての簡単な紹介、調査分野についての振り分け、文献の選定
- 2 回：文献講読（関連事項の発表）
- 3 回：文献講読（関連事項の発表）
- 4 回：文献講読（関連事項の発表）
- 5 回：文献講読（関連事項の発表）
- 6 回：文献講読（関連事項の発表）
- 7 回：文献講読（関連事項の発表）
- 8 回：文献講読（関連事項の発表）
- 9 回：文献講読（関連事項の発表）
- 10 回：文献講読（関連事項の発表）
- 11 回：文献講読（関連事項の発表）
- 12 回：文献講読（関連事項の発表）
- 13 回：文献講読（関連事項の発表）
- 14 回：プレゼン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

各種研究会への参加を推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表:50% リアクションペーパー:30% レポート:20%

全ての評価方法に於いて前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

桃木至朗 市民のための歴史学 大阪大学出版会 2022 9784872597561 ○

参考文献 / Readings

史学会 史学雑誌第 132 編 5 号 山川出版社 2023

『史学雑誌』各編 5 号(回顧と展望)、『岩波講座 世界歴史』を必要に応じて参照します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

初回授業時に A4 1 枚程度のレジюмеを準備し、自身の研究計画を報告できるようにしておくこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンまたはタブレット等

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

西洋史特論 B

Western History B

グローバル・フェミニズム史

小田原 琳 (ODAWARA RIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC332

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・フェミニズムの思想と実践について、グローバルな視点から学ぶ
 - ・フェミニズムの多様な歴史について、基本的な知識を身につける
 - ・歴史上のさまざまなフェミニズムに関する課題について議論する
 - ・それぞれの問題関心と関連づけて議論する
- Learn about feminist thought and practice from a global perspective
- Acquire basic knowledge about the diverse history of feminism
- Discuss various issues related to feminism throughout history
- Discuss each issue in relation to your interests.

授業の内容 / Course Contents

- ・ Lucy Delap, *Feminisms: a global history* (The University of Chicago Press, 2020) の講読と、受講生の研究課題との関連性を重視したディスカッションを行う
- ・ 各回の担当者 2 名は内容のレジュメ作成と議論のモデレートを行う

- ・ 受講生は期末に、それぞれの問題関心を主題と関連づけて研究発表を行う
- We will read Lucy Delap's *Feminisms: A Global History* (The University of Chicago Press, 2020) and discuss the relevance to the students' research questions.
- Two students in each session will make a resume of the content and moderate the discussion.
- The students will present on research topics related to the course theme at the term end.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：1. Dreams
- 3 回：2. Ideas
- 4 回：3. Spaces
- 5 回：4. Objects
- 6 回：5. Looks
- 7 回：6. Feelings
- 8 回：7. Actions
- 9 回：8. Songs
- 10 回：Conclusion
- 11 回：受講生による研究発表
- 12 回：受講生による研究発表
- 13 回：受講生による研究発表
- 14 回：全体のふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習、問題点の整理を行う

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジюме作成:30% ディスカッションへの参加度:35% 研究発表:35% 最終レポート割合 :0% 最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

初回授業で指示します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語のリーディング能力を必須とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

初回授業で指示します。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

西洋史特論 C

Western History C

中世～近代のヨーロッパ商人と経済発展

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC333

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン実施回は科目担当者に確認をすること

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： KA213「欧州経済史特論1」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパ経済史に関する知識を獲得し、ヨーロッパ経済の構造について考察できるようになる。それに基づき、経済史研究における問題の所在や議論の枠組みを理解する。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

Students will acquire knowledge on Europe economic history and be able to analyze its economic structure. Based on that, students will understand problems found in economic history researches and their discussion frameworks.

授業の内容 / Course Contents

社会・経済は、どのようにして発展するのでしょうか。この授業では、そのことを歴史的に考察・分析します。とくに注目するのは、商人・企業家が果たした役割です。商人・企業家は、人びとが求めるモノを調達し、商業で世界各地を結びつけ、また、さまざまな部門でイノベーションを引き起こします。

中世から近代にかけてのヨーロッパの商人について、英語を含む専門文献の精読を基に解説と議論を行います。

受講者は授業で与えられた課題（テーマに関する簡単なメモないしレジュメの作成，受講者の研究に関する自由発表）をこなすことが求められます。毎回何らかの課題が与えられます。

How society and economy develop? In this seminar, we consider and analyze this subject from the historical approaches. A special focus is put on the role of merchants/entrepreneurs. They procure products people demand, connect and integrate all parts of the world, create innovation in various economic sectors.

We argue the role of merchants/entrepreneur of Europe from the Middle Ages to the 19th century. Main topics will be "merchants/entrepreneur".

Students must complete assignments given in the class (create simple note or summary on these subjects or free research presentation). Professor will give assignment in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 3回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 4回：中世ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 5回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 6回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 7回：近世ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 8回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 9回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（1）
- 10回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（2）
- 11回：近代ヨーロッパ商人／企業家の役割（3）
- 12回：受講者による自由発表と議論
- 13回：受講者による自由発表と議論
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献（日本語・英語）を事前に指示あるいは配布します。それを授業前までに精読し，論点をまとめてくること。自由発表の準備を計画的に進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加（事前準備・議論への参加）:80% 発表:20%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

とくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

参考文献 / Readings

ここではとくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求められません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組めば理解できる内容になっています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはタブレット端末

西洋史特論 D

Western History D

ハンザ史

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PC334
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンライン実施回は科目担当者に確認をすること
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	HIS7510
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	KA214「欧州経済史特論 2」との併置科目

授業の目標 / Course Objectives

「ハンザ」というテーマから、ヨーロッパ経済の地域的特徴を考察できるようになる。とくに制度やネットワークが経済発展に果たした役割について理解できるようになる。前期課程よりも高度な知識・スキルを身に付けることを目標とする。

Consider the regional characteristics from the perspective of the "Hanseatic History". Understand the role of institutions and networks for the economic development.

授業の内容 / Course Contents

「ハンザ」の歴史を学ぶことを通じて、ヨーロッパ経済の地域的・歴史的特徴とその発展過程を考察します。その際は、とくにハンザの制度やネットワークが果たした役割に注目します。

中世から近代にかけてのハンザ、またはハンザ都市およびハンザ商人の発展、衰退または構造変化について、英語を含む専門文献の精読を基に解説と議論を行います。

受講者は授業で与えられた課題（テーマに関する簡単なメモないしレジュメの作成、受講者の研究に関する自由発表）をこなすことが求められます。毎回何らかの課題が与えられます。

We consider the regional and historical characteristics of European economy and the process of its development through the history of the German Hanse. A special attention is put on the role of the institutions and networks of the Hanse.

We argue the historical development, decline, or structural change of the Hanse as well as Hanseatic cities and merchants, reading and discussing the relevant literature written in Japanese and English.

Students must complete assignments given in the class (create simple note or summary on these subjects or free research presentation). Professor will give assignment in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：ハンザ形成前の北海・バルト海地域（1）
- 3 回：ハンザ形成前の北海・バルト海地域（2）
- 4 回：ハンザの形成と興隆（1）
- 5 回：ハンザの形成と興隆（2）
- 6 回：ハンザの構造とハンザ経済（1）
- 7 回：ハンザの構造とハンザ経済（2）
- 8 回：ハンザの構造とハンザ経済（3）
- 9 回：ハンザの構造とハンザ経済（4）
- 10 回：ハンザの衰退をめぐって
- 11 回：近世・近代のハンザ（1）
- 12 回：近世・近代のハンザ（2）
- 13 回：近世・近代のハンザ（3）
- 14 回：まとめと研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献（日本語・英語）を事前に指示あるいは配布します。それを授業前までに精読し、論点をまとめてくること。自由発表の準備を計画的に進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加（事前準備・議論への参加）:80% 発表:20%

すべての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

とくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

参考文献 / Readings

ここではとくに指定しません。文献は授業中に適宜指示します。文献は英語のものを含みます。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外は、特別な能力は求め

られません。ヨーロッパの歴史に関する予備知識がなくても、授業にしっかり取り組めば理解できる内容になっています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC または タブレット 端末

史学史研究 A

Historiography A

歴史学の最近の研究動向と古典

成川 岳大 (NARIKAWA TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

史学史中の重要なテーマに関する古典と最新の双方の文献に目を通すことで、歴史理論と史料解釈の方法論の基礎固めを行う。

なお、博士課程後期課程の受講者については外国語での研究動向についてのより深い理解に基づく達成度を求めるので了解されたい。

By looking at both classical and recent literature on important themes in historiography, the course will lay the foundations of a methodology for interpreting historical theories and historical materials.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、現在の歴史学の基本となっている古典、基礎的著作、そして近年刊行された最新の文献の双方の精読を通じて、大学院で研究の端緒についた大学院生に対し、自らのよってたつ「歴史学」という学問そのものに対する理解を深めてもらい、自己の歴史研究の史学史上の位置付けに対しより自覚的になってもらうことを念頭に置いている。また、狭義の専門とは異なる受講生との対話や討論を通じ、幅広い視野から「歴史学」という学問を見る視座を身に付けてもらえれば幸いである。

具体的には、学期ごとにある一定のテーマに沿った古典、あるいは最新の著作の何点かに目を通し、担当者がレジュメを作成してそれに対して討論を行う形式で進める予定である。春学期のテーマとしては「歴史学研究の古典と新潮流」を予定しているが、具体的に扱う教材については受講者と相談の上で決定したい。

In the class, graduate students who are beginning research at the graduate school will deepen their understanding of the academic discipline of historical studies itself, through detailed readings of the classics and fundamental writings that form the basis of present-day historical studies. The goal is to make students more aware of the positioning of their own history studies research within historiography. In addition, it is hoped that students will acquire a footing that views the academic discipline of historical studies from a broad perspective, through dialog and discussions with other course takers from outside the students' own narrowly-defined specialties.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：教材の選定
- 2回：講読①
- 3回：講読②
- 4回：講読③
- 5回：講読④
- 6回：講読⑤
- 7回：講読⑥
- 8回：講読⑦
- 9回：講読⑧
- 10回：講読⑨
- 11回：講読⑩
- 12回：講読⑪
- 13回：講読⑫
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各週で扱う教材の該当部分に予め目を通してきてもらうことが、参加する上での前提となる。あわせて、レジュメ作成の担当となった週にはレジュメの準備を担当者は行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と討論:100%

テキスト / Textbooks

受講者とイントロダクションで相談の上、具体的に決定する。

参考文献 / Readings

- 荒川正晴ほか 『岩波講座 世界歴史1：世界史とは何か』 岩波書店 2021 9784000114110
- リン・ハント 『グローバル時代の歴史学』 岩波書店 2016 9784000226400

土肥恒之 『日本の西洋史学 先駆者たちの肖像』 講談社学術文庫 2023 9784065312636

南塚信吾 『「世界史」の誕生 ヨーロッパ中心史観の淵源』 ミネルヴァ書房 2023 9784000114110

ソニア・O・ローズ 『ジェンダー史とは何か』 法政大学出版局 2017 9784588350085

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

史学史研究 B

Historiography B

歴史学の最近の研究動向と古典

成川 岳大 (NARIKAWA TAKAHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PC342

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： HIS7510

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

史学史中の重要なテーマに関する古典と最新の双方の文献に目を通すことで、歴史理論と史料解釈の方法論の基礎固めを行う。

By looking at both classical and recent literature on important themes in historiography, the course will lay the foundations of a methodology for interpreting historical theories and historical materials.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、現在の歴史学の基本となっている古典、基礎的著作、そして近年刊行された最新の文献の双方の精読を通じて、大学院で研究の端緒についた大学院生に対し、自らのよってたつ「歴史学」という学問そのものに対する理解を深めてもらい、自己の歴史研究の史学史上の位置付けに対しより自覚的になってもらうことを念頭に置いている。また、狭義の専門とは異なる受講生との対話や討論を通じ、幅広い視野から「歴史学」という学問を見る視座を身に付けてもらえれば幸いである。

具体的には、学期ごとにある一定のテーマに沿った古典、あるいは最新の著作の何点かに目を通し、担当者がレジュメを作成してそれに対して討論を行う形式で進める予定である。秋学期のテーマとしては「グローバ

ル・ヒストリー」を予定しているが、具体的に扱う教材については受講者と相談の上で決定したい。

なお、博士課程後期の受講者については、海外および外国語文献の動向も踏まえたより深い水準での議論や問題提起を求めるものとする点を了解願いたい。

In the class, graduate students who are beginning research at the graduate school will deepen their understanding of the academic discipline of historical studies itself, through detailed readings of the classics and fundamental writings that form the basis of present-day historical studies. The goal is to make students more aware of the positioning of their own history studies research within historiography. In addition, it is hoped that students will acquire a footing that views the academic discipline of historical studies from a broad perspective, through dialog and discussions with other course takers from outside the students' own narrowly-defined specialties.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：教材の選定
- 2回：講読①
- 3回：講読②
- 4回：講読③
- 5回：講読④
- 6回：講読⑤
- 7回：講読⑥
- 8回：講読⑦
- 9回：講読⑧
- 10回：講読⑨
- 11回：講読⑩
- 12回：講読⑪
- 13回：講読⑫
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各週で扱う教材の該当部分に予め目を通してきてもらうことが、参加する上での前提となる。あわせて、レジュメ作成の担当となった週にはレジュメの準備を担当者は行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レジュメ作成と討論:100%

テキスト / Textbooks

受講者とイントロダクションで相談の上、具体的に決定する。

参考文献 / Readings

ゼバスティアン・コンラート 『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』 岩波書店 2021

9784000226448

リン・ハント 『グローバル時代の歴史学』 岩波書店 2016 9784000226400

スヴェン・ベッカート 『綿の帝国—グローバルヒストリーはいかに生まれたか』 紀伊国屋書店 2022
9784314011952

ヤン・ド・フリース 『勤勉革命』 筑摩書房 2021 9784480861375

荒川正晴ほか 『岩波講座世界歴史 11—構造化される世界 14～19 世紀』 岩波書店 2022
9784000114219

シドニー・W・ミンツ 『甘さと権力—砂糖が語る近代史』 ちくま学芸文庫 2021 9784480510488

ケイトリン・ローゼンタール 『奴隷会計—支配とマネジメント』 みすず書房 2022 9784622095248

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

丸山 浩明 (MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ*) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD208
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

細井 尚子 (HOSOI NAOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

丸山 浩明 (MARUYAMA HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

野中 健一 (NONAKA KENICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

山下 王世 (YAMASHITA KIMIYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： ICS7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

地域社会調査特殊研究 A

Research on Area Survey A

野中 健一／橋本 栄莉 (NONAKA KENICHI/ HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD301
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICS7610
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域研究をおこなう際の方法論を、人文地理学・文化人類学および関連する学問分野から学び、それを実際にどのように生かすかを具体的に検討する。なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

授業では、履修者がそれぞれの関心と現在の研究テーマに即して順次発表をおこなう。複数の関連教員と専攻の大学院生全員が常に出席して、コメントと討議を重ねる。発表は学会や研究会での口頭発表に準ずるものになるよう、発表者は資料の提示や論旨の組み立て、研究の位置づけなどにおいて、それぞれ説得力を発揮することが期待されている。

履修者の発表の順番は、大学院の新入生の学部での卒論紹介、本年度修士論文執筆予定者のスケジュール、フィールドワークの予定、所属学会の研究大会の日程などを勘案して定める。初回の授業時に学期（一部は年間）の発表予定を決めるので、かならず出席すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：大学院生による発表と議論 1 初回は新入大学院生による
 3回：大学院生による発表と議論 2
 4回：大学院生による発表と議論 3
 5回：大学院生による発表と議論 4
 6回：大学院生による発表と議論 5
 7回：大学院生による発表と議論 6
 8回：大学院生による発表と議論 7
 9回：大学院生による発表と議論 8
 10回：大学院生による発表と議論 9
 11回：大学院生による発表と議論 10
 12回：大学院生による発表と議論 11
 13回：大学院生による発表と議論 12
 14回：大学院生による発表と議論 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に担当教員と打ち合わせをしておくことが望まれる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論、発表方法・内容:100%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

地域社会調査特殊研究 B

Research on Area Survey B

丸山 浩明／野中 健一／橋本 栄莉 (MARUYAMA HIROAKI/ NONAKA KENICHI/ HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PD302
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICS7610
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域研究を行う際の方法論を、人文地理学・文化人類学および関連する学問分野から学び、それを実際にどのように生かすかを具体的に検討する。春学期の地域社会調査特殊研究 A を履修した大学院生が継続して本授業を履修し、さらに修学を深化させる。したがって春学期の地域社会調査特殊研究 A から継続して履修することが期待される。

なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。

From human geography, cultural anthropology, and related disciplines, students will learn methodologies for conducting regional research, and will specifically examine how to put those into practice. Graduate students who took Research on Area Survey A in the spring semester continue on to this class to deepen their studies. Therefore, students expected to continue on to this course from Research on Area Survey A in the spring semester.

授業の内容 / Course Contents

履修者がそれぞれの関心と現在の研究テーマに即して順次発表を行う。複数の関連教員と専攻の大学院生全員が常に出席して討議を重ねる。発表は学会や研究会での口頭発表に準ずるものとなるよう、発表者は資料の提

示や論旨の組み立て、研究の位置づけなどにおいて、それぞれ説得力を発揮することが期待されている。博士論文執筆、各種学会誌への投稿、各種研究学会での発表に向けて、日程を調整しながら内容の高度化を図る。Course takers will deliver presentations on their current research themes of interest. Multiple related faculty members and all graduate students in the course will attend to engage in discussions. Presenters will be expected to demonstrate persuasiveness in the presentation of materials, assembly of main points, positioning of research, etc., so that presentations will conform to oral presentations in academic meetings or study groups. Adjusting the class schedule as required, the course will aim to enhance the content of students' doctor's degree theses, submissions to academic journals, and presentations in study groups.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：大学院生による発表と議論 1
- 3 回：大学院生による発表と議論 2
- 4 回：大学院生による発表と議論 3
- 5 回：大学院生による発表と議論 4
- 6 回：大学院生による発表と議論 5
- 7 回：大学院生による発表と議論 6
- 8 回：大学院生による発表と議論 7
- 9 回：大学院生による発表と議論 8
- 10 回：大学院生による発表と議論 9
- 11 回：大学院生による発表と議論 1 0
- 12 回：大学院生による発表と議論 1 1
- 13 回：大学院生による発表と議論 1 2
- 14 回：大学院生による発表と議論 1 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指導教員と十分な打ち合わせをしておくことが望まれる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の議論:40% 発表方法・内容:60%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

地域社会調査実習 A

Practice on Area Survey A

沖縄を聴き、歩き、考える

阿部 小涼 (ABE KOSUZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PD311

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第2、3、4、14週はオンライン予定

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS7630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、秋学期に沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, and by collecting and empirically elucidating data, students will learn theories and methods of regional studies and cultural environment studies.

授業の内容 / Course Contents

春学期は、日米関係史、沖縄・琉球史、沖縄社会論などの文献を購読して、各自の調査テーマを定める。授業での事前学習を踏まえ、春学期中もしくは夏季休業中に神奈川県横須賀（予定）をフィールドにして、予備調査を実施し、秋学期中に実施する本調査のための準備を進める。

Based on prior learning in classes, the course will schedule a one-day program during the summer vacation period or spring semester to search for regional topics, with Yokosuka (tentative), Kanagawa Prefecture, as the

field site. The course will conduct a preliminary survey based on participants' interests and will prepare for the main survey to be conducted in Okinawa during the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／本授業の目的や進め方の説明。
- 2回：研究発表1／研究テーマに即して、文献研究、資料調査を進める。調査計画を発表し、議論を通じて内容を深化させ、調査準備を行う。
- 3回：研究発表2／同上
- 4回：研究発表3／同上
- 5回：研究発表4／同上
- 6回：研究発表5／同上
- 7回：研究発表6／同上
- 8回：研究発表7／同上
- 9回：研究発表8／同上
- 10回：研究テーマ・分担の確定1／各自の発表を踏まえて現地調査のテーマとグルーピングを行い、役割分担を決める。
- 11回：研究テーマ・分担の確定2／同上。
- 12回：現地予備調査1／関係各位に挨拶および調査便宜供与の依頼。その後、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。なお、交通費・食事・宿泊費などは自己負担になる。
- 13回：現地予備調査2／フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 14回：総合討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:30% フィールドワークへの参加:40% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

地域社会調査演習 A（春学期）の受講者は、続けて地域社会調査演習 B（秋学期）を受講し、同じ調査地での本調査を実施して報告書をまとめることが強く推奨される。この科目は「その他登録」で、最初の授業時に登録申請をする必要があるため、履修希望者はかならず出席すること。ここで履修申し込みをすると、秋も自動的に履修登録される。

フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合は選考することもある。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

地域社会調査実習 B

Practice on Area Survey B

沖縄を聴き、歩き、考える

阿部 小涼 (ABE KOSUZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PD312

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 第1、12、13、14週はオンライン予定

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICS7630

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域に根ざした人々の生活、社会、文化について実際にフィールドワークを行い、データを収集して実証的に解明し、その成果を報告書にまとめることで、実証的論文執筆の方法を習得する。

今年度は日米関係史をひとつの軸として学びながら、沖縄でのフィールドワークを実施する。

By conducting actual fieldwork on the lifestyles, societies, and cultures of people rooted in communities, collecting and empirically elucidating data, and summarizing reports based on the findings, students will learn methods for writing empirical papers.

授業の内容 / Course Contents

地域社会調査演習 A（春学期）の予備調査の結果をふまえて、秋学期中に4泊5日の予定で、沖縄（予定）をフィールドに各自のテーマに即して本調査を実施する。また、その成果を報告書にまとめる。

Based on the findings of the preliminary survey performed in Practice on Area Survey A (spring semester), the course will schedule a 5-day, 4-night program during the fall semester to perform main surveys in line with students' themes, with Okinawa (tentative) as the field site. Students will then summarize the findings in

reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／本授業の目的や進め方などを説明する。予備調査をふまえて、本調査での研究テーマや分担を確認し、調査計画を練るので、受講希望者は必ず出席すること。
- 2回：本調査の準備1／本調査のテーマと実施計画などを、全体討論を経て決定する。
- 3回：本調査の準備2／同上
- 4回：現地調査1／関係各位に挨拶および本調査の便宜供与依頼。その後、フィールドワークを行う。なお、交通費・食費・宿泊費などは自己負担になる。
- 5回：現地調査2／引き続き、フィールドワークを行い、ミーティングで報告する。
- 6回：現地調査3／同上
- 7回：現地調査4／同上
- 8回：現地調査5／同上
- 9回：報告書作成1／調査報告を行い、そのまとめ方について全体討論を行いつつ、論文の執筆を進めていく。
- 10回：報告書作成2／同上
- 11回：報告書作成3／同上
- 12回：報告書作成4／同上
- 13回：報告書作成5／同上
- 14回：総合討議

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献の収集、読解、報告準備や、報告書の作成に相応の時間を要する。

また、予備調査の調査結果（フィールドノート）を整理したり、入手した資料や統計を分析したりして、各自が本調査に向けた準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表や議論への参加:20% フィールドワークへの参加:40% 報告書レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

その他 / Others

この授業は、地域社会調査演習 A（春学期）の事前学習や予備調査の成果をもとに発展させるものである。

「その他登録」であり、履修希望者は地域社会調査演習 A（春学期）のガイダンス時に必ず出席すること。このガイダンス時にフィールドワーク I1 に履修申し込みをすると、秋学期の地域社会調査演習 B も自動的に履修登録される。フィールドワークを実施することを考慮し、履修希望者が多数の場合には、受講者を選考する

こともある。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF112
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF157
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF159
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF160
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF161
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF162
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF163
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF208
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF209
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF210
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF211
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF212
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF213
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ*) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

室町 さやか (MUROMACHI SAYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF260
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF261
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

和田 悠 (WADA YU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF262
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF263
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： EDU7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育哲学基礎研究

Studies in Philosophy of Education

教育哲学

河野 哲也 (KONO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PF301
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU7710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「人間にとってそもそも教育とは何か」という教育哲学の根本問題について、学生による発表と文献講読を通して考察してゆきます。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキル、論文作成力を身に付けることを目標とする。

Through student presentations and literature readings, we will examine the fundamental question of the philosophy of education, "What is education for human beings in the first place?"

The goal is for students to acquire more advanced knowledge, skills, and the ability to write papers than in the first semester.

授業の内容 / Course Contents

「教育とは何か」について哲学的に考察していきます。教育哲学、教育政策の原理、教育倫理、道徳教育、特別支援教育の哲学といったテーマを扱いますが、基本的に受講者それぞれによる発表とディスカッションを中心に進めていきます。今年度は、身体性認知やパフォーマンスの哲学をテーマにします。教科書として、The Oxford Handbook of 4E Cognition を挙げておきますが、受講者から共同して文献講読を行いたい希望があっ

た場合には、それを取り上げます。また修士論文・博士論文に関連する発表を定期的に行います。

This course is a philosophical study of "what education is. Themes such as philosophy of education, principles of educational policy, educational ethics, moral education, and philosophy of special-needs education will be covered, basically through presentations and discussions by each participant. This year, we will focus on the philosophy of embodied cognition and performance. The Oxford Handbook of 4E Cognition will be listed as the textbook, but if students wish to collaborate on literature reading, that will be taken up as well. Students will also give periodic presentations related to their master's thesis or doctoral dissertation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：講義内容と方法の説明
- 2回：受講者による発表（1）
- 3回：受講者による発表（2）
- 4回：受講者による発表（3）
- 5回：受講者による発表（4）
- 6回：受講者による発表（5）
- 7回：受講者による発表（6）
- 8回：受講者による発表（7）
- 9回：受講者による発表（8）
- 10回：受講者による発表（9）
- 11回：受講者による発表（10）
- 12回：受講者による発表（11）
- 13回：受講者による発表（12）
- 14回：まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の準備を怠らないこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表(複数回):70% 最終レポート割合：30%

最終レポートはかならず提出すること。すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Gallagher, S. Performance/Art: The Venetian Lectures Mimesis International 2022 8869773361 -

Kemp, R. Embodied Acting Routledge 2012 041550788 -

Newen, A. et al. The Oxford Handbook of 4E Cognition Oxford 2018 0198735413 -

それ以外は随時指定します。

参考文献 / Readings

Steven M. Cahn Philosophy of Education: The Essential Texts Routledge 2009 9780415994408

Harvey Siegel The Oxford Handbook of Philosophy of Education Oxford 2012 0199915725

Randall Curren Philosophy of Education: An Anthology Wiley-Blackwell 2006 9781405130233

Nicholson, David W. Philosophy of Education in Action Routledge 2016 9781138843042

Bailey, R. et al. (ed.) The Sage handbook of Philosophy of Education Sage 2010 9781446270417

それ以外は随時指定します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

それぞれの独創性を養う指導をしていきますので、目的意識や動機をしっかりとってください。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本教育史基礎研究

Studies in the Hist. of Educ. in Japan

柏木 敦 (KASHIWAGI ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF303
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU7710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の教育に関わる歴史的視点を養い、研究到達点の確認、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術、史料読解に関わる知識などを習得する。特に一次史料の収集、読解に重点を置き、前期課程よりも高い水準で研究能力を身につけることを目指す。

授業の内容 / Course Contents

日本近代の教育制度政策史や教育に関わる、あるいは教育を取り巻く諸事実に関する研究を検討し、教育史研究における研究到達点、課題設定方法、研究論文作成に関わる基礎的な技術などを習得する。テキストや論文を読み、関連する史料を収集し、読解するなどの作業を通して、受講者の課題意識、方法意識を明確にする。「教育」が形作られていく過程を、幅広い観点から捉え、検証することを心がけたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：文献講読と史料読解 1
- 3 回：文献講読と史料読解 2
- 4 回：文献講読と史料読解 3

- 5回：文献講読と史料読解 4
 6回：文献講読と史料読解 5
 7回：文献講読と史料読解 6
 8回：文献講読と史料読解 7
 9回：文献講読と史料読解 8
 10回：文献講読と史料読解 9
 11回：文献講読と史料読解 10
 12回：文献講読と史料読解 12
 13回：文献講読と史料読解 13
 14回：文献行動および史料読解の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読文献をあらかじめ読み込んでおくこと。

関連資料の検索、調査、確認などを行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:40% 発表および資料の内容:40% 質疑への参加:20%

全ての評価方法において、前期課程より高い到達水準を求める。

テキスト / Textbooks

使用しない。受講者のテーマに合わせて適宜指示する。

参考文献 / Readings

花井信 『論文の手法 日本教育史研究法序説』 川島書店 2000年 9784761007188

古田島洋介 『日本近代史を学ぶための文語文入門 漢文訓読体の地平』 吉川弘文館 2013年
9784642080934

佐藤秀夫 『教育の文化史』1（学校の構造） 阿吽社 2004年 9784900590809

佐藤秀夫 『教育の文化史』2（学校の文化） 阿吽社 2005年 9784900590816

日本近代教育史料研究会編 『編集復刻日本近代教育史料大系 公文類聚』第21巻-第41巻 龍溪書舎
2014-2016年

教育史学会編 『教育史研究の最前線Ⅱ』 六花出版 2018 9784866170428

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育社会学基礎研究

Studies in Sociology of Education

秋葉 昌樹 (AKIBA YOSHIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF307
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU7710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

内外の教育社会学系論文の批判的読解力を向上させること。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

内外の教育社会学や応用演劇の読解する力を養うこと

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読

- 9回：文献講読
 10回：文献講読
 11回：文献講読
 12回：文献講読
 13回：文献講読
 14回：文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する文献を積極的に探し出しつつ、参加者間でシェアしていけるよう、受講者相互に研究能力を高めあえるような関係を常に築いていかれたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告、ディスカッション等の授業内活動:100%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

相談して決定する

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育心理学基礎研究

Studies in Educational Psychology

実践分析入門：学習と発達に対する社会文化歴史的アプローチ

石黒 広昭 (ISHIGURO HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間の発達と学習の過程を研究するための分析手法として、今期は実践分析について学ぶ。特に専門家 (professional) になる過程について検討したい。現代社会は常に学習を求められる生涯学習社会であると言われるが、そうした状況において人が専門家になるとはどのようなことをいうのであろうか。この点について既に基本文献として定着しているショーン (Donald A. Schön) の「省察的実践とは何か：プロフェッショナルの行為と思考 (The Reflective Practitioner)」を取り上げ、批判的に検討していく。本書は技術者、教師、科学者、建築家、経営者など、さまざまな領域の実践専門家の技 (art) の学習を考察する上で興味深い問いを提起している。現在では、専門家になること、熟達することが集合的で、協働的な「もつれ (entanglement)」と考えられるようになり、省察 (reflection) も回折 (diffraction) として捉え直されるなど、ポストヒューマニズム的な潮流の中で実践の理解も変化しつつある。こうした潮流を理解する上でも改めて既に古典となった本書を、さまざまな領域の学習過程に関心を持つ初学者が検討することには一定の意味があろう。履修者には自らの研究課題について実践分析を進める基礎的な知識をつけることが目標となる。

In this term, we will study practice analysis as an analytical method to study the process of human development

and learning. In particular, we would like to study the process of becoming a professional. Modern society is said to be a lifelong learning society that demands constant learning, but what does it mean for a person to become a professional in such a situation? In this regard, we will take up Donald A. Schön's "The Reflective Practitioner: How professionals think in action," which has already been established as an essential reference work, and critically examine it. The book raises interesting questions in examining the learning of the art of practicing professionals in various domains, such as engineers, teachers, scientists, architects, and managers. Today, becoming an expert or becoming proficient is considered to be a collective, collaborative "entanglement," and reflection is being reinterpreted as diffraction. In order to understand these trends, it will make a certain amount of sense for beginning students interested in learning processes in various fields to review this book, which has already become a classic. The goal of the course is to provide students with the basic knowledge to analyze their own research projects.

授業の内容 / Course Contents

学習と発達に関わる共通課題論文の検討を中心に、必要に応じて履修者の研究報告、データセッションも随時行われる。共通課題論文は輪番での報告が求められるので、十分時間を掛けて事前準備をしてほしい。授業後には総括レポートを提出し、理解の確認を行う。海外ゲストなどが授業に参加し、特別授業を行うこともある。

The class consists of (1) a discussion of the papers concerning learning and development and (2) research studies and data sessions that are freely set according to the interests of each student. Since the common assignment will be presented in advance, students will read it to confirm unclear points and deepen their understanding through discussions. In the research review, students will introduce the papers they are interested in and the research studies they are currently working on.

Talk and think deeply in this community of research practice. Guests, including overseas researchers, will join our discussion anytime.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：論文検討あるいは研究検討
- 3 回：論文検討あるいは研究検討
- 4 回：論文検討あるいは研究検討
- 5 回：論文検討あるいは研究検討
- 6 回：論文検討あるいは研究検討
- 7 回：論文検討あるいは研究検討
- 8 回：論文検討あるいは研究検討
- 9 回：論文検討あるいは研究検討
- 10 回：論文検討あるいは研究検討
- 11 回：論文検討あるいは研究検討
- 12 回：論文検討あるいは研究検討
- 13 回：論文検討あるいは研究検討
- 14 回：論文検討あるいは研究検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 スライド* (パワポ* 等) の使用 上記以外の視聴覚教材の使用

個人発表 :○ グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート :○
 実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :○
 上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に検討論文の講読と研究報告準備が必要である。また、授業終了時には授業内容を各自が総括したレポートの提出が求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献報告（複数回）:50% 研究報告:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

ドナルド.A.ショーン 省察的実践とは何か 鳳書房 2007 9784902455113 -

検討予定の本は現在絶版であり、授業開始時に入手できない場合には、複写物を使用する予定である。また、履修者の関心によっては、相談の上購読テキストを変更したり、関連する日本語、英語の文献を読むことがある。

参考文献 / Readings

佐伯胖 他 『心理学と教育実践の間で』 東京大学出版会 2013 9784130065092

石黒広昭 『社会文化的アプローチの実際』 北大路書房 2004 9784762823893

石黒広昭・亀田達也 『文化と実践』 新曜社 2010 9784788511866

石黒広昭 『子どもたちは教室で何を学ぶのか』 東京大学出版会 2016 9784130530880

その他 / Others

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ishiguro/>

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育方法学基礎研究

Studies in Curriculum, Instruction and Assessment

伊藤 実歩子 (ITO MIHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF311
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU7710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育方法学がその射程とする、授業論、カリキュラム論、学力論、教育評価論などの、基本的な理論枠組みを獲得する。その上で、それぞれの研究テーマ、問題意識を、教育方法学の理論的枠組みから照らし返すことによって、一層深めることができる。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

ポスト近代社会において、初等教育から高等教育にいたるまで、さまざまな能力が、経済先進諸国で共通して教育目標に掲げられ、評価されるようになってきた。このような「新しい能力」の登場は、OECD が実施する PISA の影響が大きい。これまでの知識重視型とも、態度重視型とも異なる学力／能力が、現代に生きる子どもから成人に至るまですべての人間に必要とされているのである。この「新しい能力」の内実とそれに基づいた国内外の教育改革の動向およびそのような動向に対する批判的検討を、本研究では行いたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション：研究の進め方

2 回：文献講読・発表と議論

- 3回：文献講読・発表と議論
- 4回：文献講読・発表と議論
- 5回：文献講読・発表と議論
- 6回：文献講読・発表と議論
- 7回：文献講読・発表と議論
- 8回：個別テーマ発表
- 9回：個別テーマ発表
- 10回：個別テーマ発表
- 11回：個別テーマ発表
- 12回：個別テーマ発表
- 13回：個別テーマ発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定されたテキストの論文あるいは講義中に配布した資料などを毎回必ず読み、議論したい点などをもって毎回の授業に臨むこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミでの発表:30% ゼミでの議論への参加:30% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

伊藤実歩子 『変動する大学入試』 大修館書店 2020 446922272

伊藤実歩子 『変動する総合・探究学習』 大修館書店 2023 9784469222784

その他 / Others

受講者数や受講生の様子を見て、講義内容などを変更する可能性がある

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

社会教育学基礎研究

Studies in Adult and Community Education

辻浩の社会教育研究に学ぶ

和田 悠 (WADA YU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PF313
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	EDU7710
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

辻浩の社会教育研究に学ぶことを通じて、社会教育を研究するにあたっての理論や方法を獲得する。そのなかでも社会教育研究の一環としての教育福祉論についての理解や認識を深める。

Through studying Tsuji Yutaka's research, this course aims to help students learn about theories and methods for researching adult and community education. In particular, students will deepen their understanding of educational welfare approach.

授業の内容 / Course Contents

辻浩『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』（旬報社、2022年）を検討し、教育福祉論の歴史、理論と方法について学びます。その後は同書の内容に関連するいくつかの論文を検討します。検討する論文に関しては学生の興味関心や研究テーマに応じて決めていきます。

By examining Tsuji Yutaka's book "Social Education of Symbiosis and Self-governance": Polyphony of Educational Welfare and Community Building (Jyunposya, 2022), students will study the history, theories and methods of adult and community education. After that, we will review several articles related to the content of the

book. The papers to be reviewed will be decided according to the interests and research themes of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 3回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 4回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 5回：『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』の検討
- 6回：関連文献講読
- 7回：関連文献講読
- 8回：関連文献講読
- 9回：関連文献講読
- 10回：関連文献講読
- 11回：関連文献講読
- 12回：関連文献講読
- 13回：関連文献講読
- 14回：関連文献講読

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポーターとしての発表・授業への取り組み・コメントなどにおける貢献度:100%

テキスト / Textbooks

辻浩 『〈共生と自治〉の社会教育—教育福祉と地域づくりのポリフォニー』 旬報社 2022

9784845117765 ○

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

比較教育学基礎研究

Studies in Comparative Education

人の移動と教育

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

比較教育学研究の論文講読の技能習得・向上を目指すとともに、参加学生間で各人の研究テーマの共有をはかる。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

演習形式での文献講読を行う。

各回の担当学生は、文献の概要をまとめるとともに、その内容をふまえた発展調査を事前に行い、成果を授業時間に報告する。この報告をもとに、質疑応答に続いてディスカッションを行う。

今年度は前年度に引き続き、「教育と植民地・ポスト植民地主義」の問題を比較教育学の視点から取り上げたい。文献の候補として Malini Schueller 著 Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) または Charlie Veric 著 Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) を考えている。

担当は毎週1回ずつのローテーションを予定しているが、参加人数によって調整の可能性がある。

Students will do literature readings in a seminar format.

Each discussion leader, along with summarizing concepts from the literature, conducts an extended survey in advance based on the contents of those readings and reports the results. Along with this report, students continue question-and-answer sessions and carry out discussions.

This academic year aims to continue from the previous year, taking on the issue of “education and colonialism/postcolonialism” from a comparative education perspective. Malini Schueller’s Campaigns of Knowledge (Temple University Press 2019) and Charlie Veric’s Children of the Postcolony (Ateneo de Manila University press 2020) are being considered as potential literature.

Students in charge rotate each week, but this might be adjusted depending on the number of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：文献講読 1
- 3 回：文献講読 2
- 4 回：文献講読 3
- 5 回：文献講読 4
- 6 回：文献講読 5
- 7 回：文献講読 6
- 8 回：文献講読 7
- 9 回：文献講読 8
- 10 回：文献講読 9
- 11 回：文献講読 10
- 12 回：文献講読 11
- 13 回：文献講読 12
- 14 回：文献講読 13

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全員が事前に精読する。各回の担当学生は文献の概要をまとめる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の講読・討論への参加:100%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

内容は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育思想史基礎研究

Studies in the Hist.of Educ. Thought

明治・大正期の教育学説史：槇山栄次の検討を中心に

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF317

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 明治・大正期の文献の読解に習熟する。
 - 授業を通して、先行研究のレビュー、先行研究の問題点の抽出、それを乗り越えるための方策の見極めといった、研究の基礎を体験的に学ぶ。
 - 槇山栄次の理論と思想を理解する。
- Students will become proficient in reading and understanding Meiji and Taisho period literature.
 - Students will learn the basics of research through the class, such as reviewing previous research, identifying problems in previous research, and identifying measures to overcome these problems.
 - Students will gain an understanding of Eiji Makiyama's theory and thought.

授業の内容 / Course Contents

- 樋口勘次郎の著作を手がかりに、明治・大正期の教育方法史の課題を探る。
- 槇山栄次に関する先行研究をレビューし、槇山研究の到達点を把握する。
- 槇山栄次の著作を講読する。

- 1) Students will explore issues in the history of educational methods in the Meiji and Taisho periods, using the writings of Higuchi Kanjiro as a starting point.
- 2) Students will review previous studies on Eiji Makiyama to understand the reach of Makiyama's research.
- (3) Students will review Eiji Makiyama's writings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション (1) 槇山栄次を取り上げる理由に関する説明、受講者の研究状況報告
 - 2回：イントロダクション (2) 導入として樋口勘次郎を取り上げる意味、先行研究の紹介、輪読する槇山の著作の決定
 - 3回：これまで論じられてこなかった教育史上における槇山の役割 (1) 『学習研究』の論稿から
 - 4回：これまで論じられてこなかった教育史上における槇山の役割 (2) 大正新教育期の実践者との関わり
 - 5回：樋口勘次郎『統合主義新教授法』の講読 (1)
 - 6回：同上 (2)
 - 7回：同上 (3)
 - 8回：院生の研究状況報告 (1)
 - 9回：槇山の著作の講読 (1)
- ※講読する著作は受講者と相談の上決定する
- 10回：同上 (2)
 - 11回：同上 (3)
 - 12回：同上 (4)
 - 13回：院生の研究状況報告 (2)
 - 14回：授業のまとめ、秋学期のゼミに向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

レポーターは当該担当箇所を報告するための準備が必要となる。レポーター以外も事前に文献を読みこんで議論に参加できるように準備する必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告資料の作成、議論への貢献:70% 最終レポート割合 :30%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

講読する明治・大正期の文献は、すべて国会図書館のデジタルライブラリーで閲覧可能であるので、基本的にこちらで文献を入手することになる。

参考文献 / Readings

渡辺哲男 『「国語」教育の思想：声と文字の諸相』 勁草書房 2010 9784326250653

森田伸子編 『言語と教育をめぐる思想史』 勁草書房 2013 9784326250820

森田尚人・森田伸子編 『教育思想史で読む現代教育』 勁草書房 2013 9784326250875

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023
9784771037236

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC を毎回準備すること。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 1

Seminar in Educational Research 1

科学的な視点から発達障害の特別支援教育について考える

渥美 剛史 (ATSUMI TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF341

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

発達障害者が抱える問題を理解し、特別支援教育のあり方について考えられる。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

To acquire the ability to think about special needs education based on an understanding of the challenges faced by people with developmental disabilities.

Note that doctoral students are required to acquire specialised knowledge and skills compared to master's students.

授業の内容 / Course Contents

特別支援教育において発達障害をもつ児童生徒の理解に基づく支援が求められている。特に近年では、発達障害当事者の多くが抱える感覚過敏や感覚鈍麻といった、感覚の特性が適応困難の背景にある可能性が注目されている。本講義は、こうした感覚の問題を始め、発達障害当事者の社会性、運動などの特性に関する科学的知見を理解し、教育の視点に引きつけた問題提起やその解決について考える機会を提供する。

Supports based on an understanding of students with developmental disabilities is required in education. In

recent years, attention has focused on the possibility that sensory characteristics such as sensory hyper/hyporesponsivity, in which many people with developmental disabilities have, may underlie their maladaptation. Students will be given the opportunity to understand the scientific evidence on these sensory issues, as well as the other social and motor characteristics of people with developmental disabilities, and to consider the related problems and their solutions from an educational perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 講義の進め方
- 2 回：発達障害の概要（学習障害、ADHD、自閉スペクトラム症等）
- 3 回：発達障害者の社会コミュニケーション困難
- 4 回：発達障害者の感覚・運動の問題
- 5 回：発達障害中核症状についての考察
- 6 回：発達障害者の感覚処理に関する実証的証拠（1）認知神経科学の知見
- 7 回：発達障害者の感覚処理に関する実証的証拠（2）情動・不安傾向
- 8 回：発達障害と自律神経、身体の不調
- 9 回：困り事の客観的な測定・解釈についての考察
- 10 回：発達性協調運動障害とそのアセスメント
- 11 回：発達障害における感覚—運動の協応に関する実証的証拠
- 12 回：発達障害における豊かな感性と表現
- 13 回：発達障害の心理社会的課題についての考察
- 14 回：科学から見た特別支援教育についての総合考察

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表の担当者は発表資料を用意し、議論に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% コメントペーパー:20% 授業での発表:40% 最終レポート割合：:40%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

井手正和 『科学から理解する 自閉スペクトラム症の感覚世界』 金子書房 2022 9784760826858 ○

参考文献 / Readings

井手正和 『発達障害の人には世界がどう見えるのか』 SB新書 2022 4815617953

岩永竜一郎 『発達障害のある子の感覚・運動への支援』 金子書房 2022 9784760895588

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 2

Seminar in Educational Research 2

相互行為における行為の構成

西阪 仰 (NISHIZAKA AUG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF342

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「会話分析」の分析手法を体系的に学習する。その過程において、そもそも人間の相互行為とはどのように成り立っているのかについての、様々な洞察を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、エスノメソドロジエ的相互行為分析、とくに「会話分析」と呼ばれる分析法の基本的な考え方や方法を体系的に紹介する。社会の基盤である社会的相互行為がどのように組織されているかを、行為の構成に焦点を絞りながら考察する。会話分析は、実際の会話の録音・録画を、発話の重なりやわずかな沈黙を見逃さずに、詳細に検討する。そのような詳細な分析がなぜ必要なのか、人間の行為にとって、そのような細かなことからはどのような意味があるのかなどを、考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション。実際の会話の録音を検討することにより、相互行為の詳細を見ることの意味を考える。それにより、本講義が何を指すかの感覚を得てもらう。第 2 回のための読書課題を提示するので、第 1 回目に欠席した者は、必ず担当者（下の授業ホームページ内の連絡先）に連絡すること。

- 2回：J. L. オースティンの言語行為論。エスノメソドロジー的相互行為分析の一つのバックグラウンドとして、言語を用いることと、行為との関係についての古典的な考えを検討する。第3回のための読書課題を提示する。
- 3回：隣接ペア。相互行為における行為の組織を考える上での最も基本的な概念である「隣接ペア」について、John Heritage の文章をもとに検討する。第4回のための分析課題を提示する。
- 4回：発話連鎖の組織。発話と発話の関係、その関係の関係を、実際の会話の録音をとおして考える。第5回のための読書課題を提示する。
- 5回：E.A. シェグロフの「プレプレ」論文について検討する。第6回のための分析課題を提示する。
- 6回：先行連鎖・挿入連鎖。実際の会話の録音を検討しながら、隣接ペアどうしの関係について理解を深める。第7回のための分析課題を提示する。
- 7回：実際の会話の録音を検討しながら、先行連鎖・挿入連鎖についての理解を深める。第8回のための分析課題を提示する。
- 8回：実際の会話の録音を検討しながら、発話連鎖の組織についての理解を深める。第9回のための読書課題を提示する。
- 9回：優先組織。A. Pomerantz の文章を検討しながら、優先組織について検討する。第10回のための分析課題を提示する。
- 10回：実際の会話の録音を検討しながら、優先組織についての理解を深める。第11回のため読書課題を提示する。
- 11回：成員カテゴリー化装置。H. サックスの「ホットロッダー」講義をてがかりに、成員カテゴリー化装置について検討する。第12回のための分析課題を提示する。
- 12回：実際の会話の録音を検討しながら、成員カテゴリー化装置についての理解を深める。第13回のための分析課題を提示する。
- 13回：言葉の選択。実際の会話の録音を検討しながら、発話における言葉の選択と行為の構成との関係を考える。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は、読書課題、講義、分析課題、ディスカッションのサイクルによって成り立つ。毎週必ず、読書課題もしくは分析課題がでる。毎回の課題はすべて必ず提出することが、単位認定の必要条件である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題の内容:50% ディスカッションへの参加度:50%

テキスト / Textbooks

毎回、読書課題用のテキストを教室で指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

相互行為に関心があれば、誰でも参加できる。ただし、. 授業は、実際に録音・ビデオを分析するための訓練として組織されるので、自身の研究で、録音・ビデオの分析を計画していることが望ましい

その他/ Others

2024年9月中に次のURLに授業ホームページを作成するので、そちらを必ず参照すること。

www.augnishizaka.com/rikkyo/2024ca2.html

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 3

Seminar in Educational Research 3

質的研究法概論

能智 正博 (NOCHI MASAHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PF343
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： EDU7710
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育学や教育心理学において近年注目されている質的研究法に関し、その多様な理論的基礎を概観し、より質の高い研究を行うための手続きの理解を深める。

This course provides an overview of the theoretical foundations of qualitative research methods, which have recently attracted attention in pedagogy and educational psychology, and deepens understanding of the procedures for conducting high-quality research.

授業の内容 / Course Contents

学期の前半では、多様な質的研究法の理論について学んだ後、インタビュー研究を例にとってその過程をたどって必要となるスキルを身につける。学期の後半では文献にあたり、質の高い質的研究論文を書くための基準について学ぶ。

In the first half of the semester, the students will learn about the theories of various qualitative research methods, and follow the process of interview research to develop the necessary skills. In the second half of the semester, the literature will be reviewed, and the students will learn the criteria for writing a good qualitative research paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction of qualitative research
- 2 回：Background of qualitative research (1)
- 3 回：Background of qualitative research (2)
- 4 回：Collecting qualitative data
- 5 回：Reading and interpreting qualitative data
- 6 回：Initial coding of qualitative data
- 7 回：Making categories from qualitative data
- 8 回：Constructing a story from qualitative data
- 9 回：Reporting Standard (1)
- 10 回：Reporting Standard (2)
- 11 回：Reporting Standard (3)
- 12 回：Reporting Standard (4)
- 13 回：Evaluating qualitative research papers
- 14 回：Wrap up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストには必ず目を通してから授業を受けてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業参加度:20% レジюме 1:20% レジюме 2:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

H. M. レヴィット 『心理学における質的研究の論文作法』 新曜社 2023 9784788518285 ○

参考文献 / Readings

能智正博 『質的研究法』 東京大学出版会 2011 9784130151368

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 4

Seminar in Educational Research 4

ヴィゴツキー理論における「体験」概念の検討

高木 光太郎 (TAKAGI KOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF344

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

L. S. ヴィゴツキーの心理学理論における「体験（ペレジバーニエ）」概念の検討を通して、心理学における「体験」の捉え方について新たな理論的展望を得ることを目指すと共に、理論的な文献を検討するための高度な読解技法を身につけることを目標とする。

The course aims to explore the concept of "experiencing" in the psychological theory of L. S. Vygotsky, to gain new theoretical perspectives on how "experience/experiencing" is understood in psychology. Additionally, the course aims to equip students with the advanced skills for examining theoretical literature.

授業の内容 / Course Contents

ヴィゴツキー理論の概要について講義形式で解説したのち、指定された文献を検討する。受講者はその回で検討する箇所を予め精読したうえで授業に参加し、授業内ではグループワークおよびディスカッション形式で該当箇所の論理展開、理論的含意、現代的な研究課題への適用可能性などの検討を行う。

The course will begin with a lecture-style explanation of the overview of Vygotsky's theory, followed by a

discussion of selected literature. Participants are expected to pre-read the assigned sections before each session and actively participate in the class. In-class activities will involve group work and discussions, focusing on the logical development, theoretical implications, and the applicability of the discussed sections to contemporary research issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ヴィゴツキー理論の概要について講義形式で解説する。
- 2回：ヴィゴツキー学派の現代的展開について講義形式で解説する。
- 3回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 4回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 5回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 6回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 7回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 8回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 9回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 10回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 11回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 12回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 13回：ヴィゴツキー理論における「体験」概念について、指定された文献に基づき、グループワークおよびディスカッション形式で検討する。
- 14回：授業のまとめと総括的な討論を行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献を検討する回については、あらかじめ検討箇所を精読し、論の展開について口頭で説明できるよう準備したうえで、検討箇所について独自の所見を用意しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献の事前検討・報告:30% 質疑・討論への参加:30%
合 :40%最終テスト割合 :0%

最終レポート割

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 5

Seminar in Educational Research 5

近代日本における非正規の学びの実態史

三上 敦史 (MIKAMI ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF345

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

近代日本の教育制度の広がりについて説明できること。

Students will acquire enough knowledge to be able to explain the expansion of the modern Japanese education system.

授業の内容 / Course Contents

近代日本の教育制度は、諸学校令に基づく文部省所管の学校のみで形成されていたわけではない。代表的なものは、以下の3点である。

- ① 正規の学校制度には位置づかない各種学校・青年訓練所・私塾の形態で授業を行う夜間中学・夜間女学校。
- ② 鉄道省・通信省・陸軍省・海軍省など文部省以外の省庁が持っていた中等・高等教育程度の学校。
- ③ 正規の学校制度のバイパスとなる多様な検定制度。

これらについて知見を得ることで、近代日本の教育制度の広がりについて理解を深めてもらう。

Modern Japan's educational system was not only formed by schools under the jurisdiction of the Ministry of

Education based on various school ordinances. Typical examples are as follows.

- ① Night middle schools and night girls' middle schools in the form of various schools, youth training centers, and private schools that are not part of the formal school system.
- ② Secondary and higher education level schools owned by ministries other than the Ministry of Education, such as the Ministry of Railways, the Ministry of Communications, the Ministry of War, and the Ministry of the Navy.
- ③ Diverse examination systems that bypass the formal school system.

By gaining knowledge about these things, students will deepen their understanding of the spread of the modern Japanese education system.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要）
- 2回：夜間中学①（夜間中学の誕生と拡大）
- 3回：夜間中学②（「北海道庁中等夜学校準則」と関東大震災の与えた影響）
- 4回：夜間中学③（「専検指定」の時代）
- 5回：鉄道教習所①（鉄道教習所の誕生）
- 6回：鉄道教習所②（「省教」開設と「東教専門部」への縮小）
- 7回：鉄道教習所③（戦時拡大から学校教育廃止まで）
- 8回：通信講習所
- 9回：軍学校
- 10回：各種検定試験①（「専検」）
- 11回：各種検定試験②（「実検」「高検」）
- 12回：各種検定試験③（教員検定）
- 13回：各種検定試験④（「高文」「普文」）
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義へのコメント（リアクションペーパーの提出）：60% レポートや講義時間内の筆記テスト：40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

授業中、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校で学習する日本史の知識があることが望ましい（必須ではない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付，授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので，授業に PC を持参すること。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 6

Seminar in Educational Research 6

質的調査法の理論と実践

額賀 美紗子 (NUKAGA MISAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF346

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的方法論の特長と多様なアプローチについて学び、質的方法を使って研究論文を執筆するための知識とスキル獲得をめざす。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

This course aims to provide students with opportunities to learn about the characteristics of qualitative methods and various approaches within them. Students can acquire the knowledge and skills required to write a coherent and convincing paper using qualitative methods.

授業の内容 / Course Contents

本授業は以下の3つによって構成される。

- 1) 質的方法論の基本的知識に関するレクチャーとディスカッション
- 2) 質的方法論を使った文献についてのディスカッション
- 3) 参与観察・インタビューの実践およびデータ分析

This course requires students to engage in discussion about readings and to conduct qualitative data collection as

well as analysis: 1) a lecture and a discussion about basic principles of qualitative methods, 2) discussion based on literature using a qualitative method, and 3) practicing fieldwork and interviews followed by data analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：質的研究法の特長・リサーチデザイン・発展の経緯
- 2回：参与観察を行う：現場のメモからフィールドノートへ
- 3回：フィールドノートを書く①：何をどう見てどのように書くのか
- 4回：フィールドノートを書く②「分厚い記述」
- 5回：質的テキストを分析する：コーディングとグラウンデッドセオリーアプローチの実践
- 6回：研究者のポジショナリティ、リフレクシビリティと研究倫理
- 7回：研究計画を立てる
- 8回：話を聴く：半構造化インタビュー、ライフストーリー、生活史調査
- 9回：グループプロジェクト：インタビューテーマの設定とインタビューガイドの作成
- 10回：インタビューの技法：授業内ミニ実践
- 11回：インタビューを使った文献講読
- 12回：インタビューの分析①：コーディング
- 13回：インタビューデータの分析②：仮説生成へ
- 14回：インタビュープロジェクトの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

フィールドノートの作成やインタビューデータの収集が求められます。また、ディスカッションの多い授業になるので積極的に参加してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 通常の授業における複数回の課題提出:50% 出席および授業参加度:10% 最終レポート割合：:40%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小田博志 『エスノグラフィー入門—<現場>を質的研究する』 春秋社 2010
- 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』 有斐閣ストゥディア 2016
- 藤田結子・北村文 『現代エスノグラフィー：新しいフィールドワークの理論と実践（ワードマップ）』 新曜社 2013
- 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社 2002

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 7

Seminar in Educational Research 7

美的教育の条件変化——シラーとベンヤミン

今井 康雄 (IMAI YASUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF347

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

(1) 美的教育に関する古典的理念を理解するとともに、(2) その理念を支えていた諸条件の 20 世紀以降の社会における変化を考察し、(3) 美的教育の現代的可能性を探ることを目標とします。

To understand both (1) the classical idea of the aesthetic education and (2) its changing conditions in the 20th century onward, and (3) to considerate possibilities of the aesthetic education in our time.

授業の内容 / Course Contents

(1) (2)についてはそれぞれ以下のテキストを読んで討論を行います。

(1) シラー「美的教育に関する連続書簡」

(2) ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」

(3)については今井が行った共同研究を紹介して討論を行います。

Concerning (1) and (2), discussing on the basis of the following texts:

(1) Schiller: On the Aesthetic Education of Man

(2) Benjamin: The Work of Art in the Age of Its Mechanical Reproduction.
Concerning (3), discussing on the basis of my own empirical and theoretical investigations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本授業への導入
- 2回：シラー「人間の美的教育について」書簡第一～第十
- 3回：シラー「人間の美的教育について」書簡第十一～第十六
- 4回：シラー「人間の美的教育について」書簡第十七～第二十三
- 5回：シラー「人間の美的教育について」書簡第二十四～第二十七
- 6回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」I～III
- 7回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」IV～VI
- 8回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」VII～X
- 9回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XI～XIII
- 10回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XIV～XVI
- 11回：ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」XVII～XIX
- 12回：今井編『モノの経験の教育学』(1)
- 13回：今井編『モノの経験の教育学』(2)
- 14回：まとめの討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当の回についてはレジュメ等の準備をしてください。また、担当以外の回にも対象となるテキストを精読して授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 個人発表（複数回）：80% 討論参加：20%

テキスト / Textbooks

- シラー 『美学芸術論集』 富山房 1993 ○
ベンヤミン 『ベンヤミン・コレクション 1』 筑摩書房 1995 ○

参考文献 / Readings

今井康雄 『モノの経験の教育学——アート制作から人間形成論へ』 東京大学出版会 2021

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

教育学特論 8

Seminar in Educational Research 8

教育学における社会調査／量的調査を中心に

遠藤 健 (ENDO TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PF348

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： EDU7710

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では教育学分野で実施される量的な社会調査について、基礎から学び、履修者自身が社会調査の意義や方法を理解し、自ら仮説を立て、データを分析し、結果をまとめることができる能力を身につけることを目指します。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身につけることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、授業の目標達成に向けて①基礎理解、②調査企画・分析方法の理解、③実践の3部構成となります。なお、各履修者の研究関心や調査方法の理解度、修得度を十分に考慮して進め、復習や補習用のオンデマンド教材も用います。

第一部では、社会調査の基礎や社会調査を取り巻く状況を概説します。

第二部では、調査の企画・分析方法について概説します。

第三部では、授業内で利用できるデータを実際に使用し、分析を行い報告書を取りまとめます（授業内で調査自体は行いません）。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業全体の目標や内容、進め方を説明します。履修者のテーマや関心、社会調査の理解度や修得度もヒアリングします。
- 2回：社会調査の基礎①：社会調査を取り巻く状況（科学的根拠の重要性、研究倫理等）について概説し、社会調査の意義を説明します。※参考：「社会と調査」第21号 特集：エビデンス・ベースド・ポリシーと教育調査、同第12号 特集：社会調査とデータの利用をめぐる研究倫理の動向
- 3回：社会調査の基礎②：社会調査をはじめる前の作業（先行調査の整理など）について説明します。※参考：「社会と調査」第8号 特集：データ・アーカイブと二次分析の最前線、同27号 特集：社会調査の再現可能性とデータ標準
- 4回：社会調査の基礎③：社会調査でどのような事が明らかにできるのか概説します。※参考：「社会と調査」第17号 特集：社会調査と政策のあいだ
- 5回：調査の企画・分析方法①：調査の企画を具体化する手順（仮説の設定等）を説明します。
- 6回：調査の企画・分析方法②：実際の調査の進め方について説明します。※参考：「社会と調査」第2号 特集：調査のフィールドとしての学校
- 7回：調査の企画・分析方法③：サンプリングの考え方や方法について説明します。※参考：「社会と調査」第5号 特集：回収率を考える
- 8回：調査の企画・分析方法④：調査票の作成手順や方法を説明します。
- 9回：調査の企画・分析方法⑤：収集したデータの整理（データクリーニング等）について説明します。
- 10回：調査の企画・分析方法⑥：データを分析するにあたっての基礎（単純集計、クロス集計等）を説明します。
- 11回：分析実践①：これまでの授業を踏まえ、問題関心と仮説の設定、データ分析について実践します。
- 12回：分析実践②：これまでの授業を踏まえ、単純集計票を作成します。
- 13回：分析実践③：これまでの授業を踏まえ、報告書としてとりまとめ、履修者間で批判的に検討します。
- 14回：分析実践④：前回授業の振り返りを踏まえ、修正報告書を取りまとめ報告します。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1部、第2部では、テキストの予習を必須とし、担当履修者は該当章を要約する。復習は、授業後に設定する小テストにて理解度を確認し、知識の定着を図ります。

第3部では履修者が事前にある程度の分析や報告書のとりまとめを実践したことを前提に授業を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の小テスト：60% 最終レポート割合：40%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

森岡清志 『ガイドブック社会調査（第2版）』 日本評論社 2007（第2版は2016） 9784535582460 -

参考文献 / Readings

「社会と調査」(社会調査協会)各号も参考とする。

その他/ Others

履修にあたっては、各人の社会調査への理解度や分析スキル等は問いません。初学者の方も歓迎します。データ分析にあたっては、授業の教育として利用可能なデータ（できるだけ履修者の関心に違いデータを想定）を分析し、とりまとめてもらう予定です。分析ソフトは授業ではIBMのSPSSを使用する予定です。大学への利用申請等によって利用できる環境にしてください（初回の授業でも確認します）。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG157
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG159
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG208
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG209
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

井野 葉子 (INO YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

金子 明雄 (KANEKO AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

家永 香織 (IENAGA KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

尾崎 名津子 (OZAKI NATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

水谷 隆之 (MIZUTANI TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

平井 吾門 (HIRAI AMON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： JAL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本文学特殊研究 P 1 A

Studies in Japanese Literature P1A

古文辞学と国学における詩歌論とその思想との連関

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 古文辞学・国学における詩論・歌論の連続性を理解する。
 - (2) 古文辞学・国学における詩論・歌論とその思想との結びつきを考察する。
 - (3) 英語圏の研究者による日本前近代の文献を対象とした議論の方法を学ぶ。
- (1) To understand the continuity of poetics in Kobunjigaku and Kokugaku.
 - (2) To examine the connection between poetics in Kobunjigaku and Kokugaku and their thought.
 - (3) Learn how to discuss the pre-modern Japanese literature through studies in English-speaking countries

授業の内容 / Course Contents

古文辞学と国学との関係を論じた以下の英文研究書を訳読します。

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

江戸中期において古代の人間感情や社会のあり方の究明を目指した古文辞学・国学が、最も重視した対象が詩・歌でした。彼らは単に理想的な詩歌の制作方法を探究・試作しただけではなく、その思想的根幹にある古

代社会へのアクセスのための方法論を詩歌に則して論じました。

本演習では上掲書を訳読しながら、古文辞学と国学の詩歌論はいかにその思想と連関しているのかを受講者とともに議論していきます。

該当書の目次は以下の URL から確認できます。

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

We will translate and read the following English-language research book that discusses the relationship between Kobunjigaku and Kokugaku.

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

In the mid-Edo period, Kobunjigaku and Kokugaku, which aimed to investigate ancient human emotions and the nature of society, placed the greatest emphasis on poetry and song. They not only explored and developed ideal methods of poetry production, but also discussed the methodology for accessing ancient society, which was at the root of their ideology, in terms of poetry.

In this course, we will translate the above book and discuss with participants how the poetic theory of Kobunjigaku and Kokugaku is linked to their thought.

The table of contents of the book can be found at the following URL

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：発表方法の共有
- 3 回：発表・討議 1
- 4 回：発表・討議 2
- 5 回：発表・討議 3
- 6 回：発表・討議 4
- 7 回：発表・討議 5
- 8 回：中間総括
- 9 回：発表・討議 6
- 10 回：発表・討議 7
- 11 回：発表・討議 8
- 12 回：発表・討議 9
- 13 回：発表・討議 10
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する訳読箇所を翻訳した上で、議論すべきトピックについてまとめてくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表（複数回）:50% 討議への参加度:20% 最終レポート割合 :30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Peter Flueckiger *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism* Stanford University Press 2010 0804761574 -

参考文献 / Readings

W. J. Boot and Takayama Daiki, eds *Tetsugaku Companion to Ogyu Sorai : The Thought and Reception of Japan's Most Innovative Confucian Philosopher* Springer 2019 9783030154745

板東 洋介 『徂徠学派から国学へ 表現する人間』 ペリかん社 2019 4831515302

酒井直樹 『過去の声 18世紀日本の言説における言語の地位』 以文社 2002 4753102211

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ 英語文献を読んでいく粘り強さ
- ・ 自身の研究の視野を広げようとする柔軟さ

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P 1 B

Studies in Japanese Literature P1B

古文辞学と国学における詩歌論とその思想との連関

藤井 嘉章 (FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 古文辞学・国学における詩論・歌論の連続性を理解する。
 - (2) 古文辞学・国学における詩論・歌論とその思想との結びつきを考察する。
 - (3) 英語圏の研究者による日本前近代の文献を対象とした議論の方法を学ぶ。
- (1) To understand the continuity of poetics in Kobunjigaku and Kokugaku.
 - (2) To examine the connection between poetics in Kobunjigaku and Kokugaku and their thought.
 - (3) Learn how to discuss the pre-modern Japanese literature through studies in English-speaking countries

授業の内容 / Course Contents

春学期に引き続き、古文辞学と国学との関係を論じた以下の英文研究書を訳読します。

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

江戸中期において古代の人間感情や社会のあり方の究明を目指した古文辞学・国学が、最も重視した対象が詩・歌でした。彼らは単に理想的な詩歌の制作方法を探究・試作しただけではなく、その思想的根幹にある古

代社会へのアクセスのための方法論を詩歌に則して論じました。

本演習では上掲書を訳読しながら、古文辞学と国学の詩歌論はいかにその思想と連関しているのかを受講者とともに議論していきます。

該当書の目次は以下の URL から確認できます。

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

We will translate and read the following English-language research book that discusses the relationship between Kobunjigaku and Kokugaku.

Peter Flueckiger. 2010. *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism*. Stanford University Press.

In the mid-Edo period, Kobunjigaku and Kokugaku, which aimed to investigate ancient human emotions and the nature of society, placed the greatest emphasis on poetry and song. They not only explored and developed ideal methods of poetry production, but also discussed the methodology for accessing ancient society, which was at the root of their ideology, in terms of poetry.

In this course, we will translate the above book and discuss with participants how the poetic theory of Kobunjigaku and Kokugaku is linked to their thought.

The table of contents of the book can be found at the following URL

https://www.sup.org/books/extra/?id=16499&i=Table_of_Contents_pages

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：発表方法の共有
- 3 回：発表・討議 1
- 4 回：発表・討議 2
- 5 回：発表・討議 3
- 6 回：発表・討議 4
- 7 回：発表・討議 5
- 8 回：中間総括
- 9 回：発表・討議 6
- 10 回：発表・討議 7
- 11 回：発表・討議 8
- 12 回：発表・討議 9
- 13 回：発表・討議 10
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

担当する訳読箇所を翻訳した上で、議論すべきトピックについてまとめてくる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習発表（複数回）:50% 討議への参加度:20% 最終レポート割合 :30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Peter Flueckiger *Imagining Harmony: Poetry, Empathy, and Community in Mid-Tokugawa Confucianism and Nativism* Stanford University Press 2010 0804761574 -

参考文献 / Readings

W. J. Boot and Takayama Daiki, eds *Tetsugaku Companion to Ogyu Sorai : The Thought and Reception of Japan's Most Innovative Confucian Philosopher* Springer 2019 9783030154745

板東 洋介 『徂徠学派から国学へ 表現する人間』 ペリかん社 2019 4831515302

酒井直樹 『過去の声 18世紀日本の言説における言語の地位』 以文社 2002 4753102211

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・英語文献を読んでいく粘り強さ
- ・自身の研究の視野を広げようとする柔軟さ

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P3A

Studies in Japanese Literature P3A

龍澤 彩 (RYUSAWA AYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG305
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL7310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

絵巻や屏風、扇面画などの絵画作品を通じて、視覚的イメージの読み解き方を学ぶこと。美術史研究の対象と研究方法を理解し、各自が博士論文のために取り組んでいる研究に応用、活用できるようになること。

The goal of this lecture is to learn how to read and interpret visual images through pictorial works such as emaki, folding screens, and fan paintings. To understand the subject matter and research methods of art history research, and to be able to apply and utilize them in the research that each student is undertaking for their doctoral dissertation.

授業の内容 / Course Contents

物語絵をテーマに、美術史の流れをふまえつつ、絵巻や扇面画、屏風絵などを取りあげ、源氏物語や平家物語、御伽草子などのテキスト内容がどのように絵画化されているかを読み解く。講義では画像を用いて、同一主題の図様が描き継がれる事例や、制作者や媒体によって表現が変わる事例などを示しつつ、文学作品の享受史の一形態について講じる。

また、作品の見方を実地で学ぶため、展覧会見学と、大学図書館で、絵巻や扇面画、屏風絵などの貴重書の閲覧を予定している。本科目の内容は、秋学期の「日本文学特殊研究 P3B」と連動しているため、あわせて履修

することが望ましい。

The lecture will focus on the theme of narrative pictures, taking up picture scrolls, fan paintings, and byobu-e (folding screen paintings), while taking into account the flow of art history, to decipher how the contents of texts such as The Tale of Genji, The Tale of the Heike, and The Tale of Otogi-zoshi (fairy tales) are depicted in paintings. Using images, the lecture will discuss a form of history of the reception of literary works, showing examples of paintings of the same subject matter that have been passed down through generations, as well as examples in which the expression has changed depending on the creator and medium.

In addition, in order to learn how to look at works of literature, we will visit exhibitions and browse rare books such as emaki (picture scrolls), fan paintings, and byobu-e (folding screen paintings) at the university library. Since the content of this course is linked to "Japanese Literature P3B" in the fall semester, it is recommended that students take this course in conjunction with Japanese Literature P3B.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス 美術史の対象と研究方法
- 2 回：日本の物語絵概説①（題材・媒体）
- 3 回：日本の物語絵概説②（絵師・画派）
- 4 回：作品調査（立教大学図書館にて貴重書閲覧）①
- 5 回：作品調査（立教大学図書館にて貴重書閲覧）②
- 6 回：調査結果のまとめと展示見学のガイダンス
- 7 回：展覧会见学・実地指導①（東京国立博物館本館）
- 8 回：展覧会见学・実地指導②（東京国立博物館本館）
- 9 回：展覧会见学・実地指導③（東京国立博物館平成館）
- 10 回：展覧会见学・実地指導④（東京国立博物館東洋館）
- 11 回：テキストとイメージ（源氏物語・平家物語・御伽草子ほか）
- 12 回：研究報告とディスカッション①
- 13 回：研究報告とディスカッション②
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 口頭発表（研究報告）：30% リアクションペーパー：30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

- ・ 8/2(金)3～4 限(13:25～17:00)
- ・ 8/5(月)2～5 限(10:45～18:50)
- ・ 8/6(火)2～5 限(10:45～18:50)*学外実施予定日
- ・ 8/7(水)2～5 限(10:45～18:50)

教室：6206

日本文学特殊研究 P 3 B

Studies in Japanese Literature P3B

龍澤 彩 (RYUSAWA AYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PG306
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンライン回は第3、5、9、10、11、14回
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL7310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

源氏物語を主題とする絵画「源氏絵」を通じて、テキストの絵画化について理解を深めること。美術史研究の基本を学びつつ、源氏絵を文学作品受容の一形態として捉える視点を得て、その方法論を各自の研究に活用できるようにすること。

The purpose of this lecture is to deepen understanding of the pictorialization of texts through "Genji-e," paintings based on The Tale of Genji. While learning the basics of art history research, students will also be able to apply this methodology to their own research by viewing Genji-e as a form of reception of literary works.

授業の内容 / Course Contents

講義では主として、源氏物語を主題とする絵画「源氏絵」を取りあげる。源氏物語は美術史においても、平安時代から現代まで視覚化され続けてきている希有な主題であり、毎回の講義では、多様な作品を画像を用いて紹介しながら図様の継承と変容について講じる。物語絵を文学作品受容の一形態として捉え、受講者各自がそれぞれの研究において視覚的イメージを活用していけるよう、方法論を共有し、ディスカッションを交えながら進める。この講義は「日本文学特殊研究 P3A」と連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

The lectures will focus mainly on "Genji-e," paintings based on The Tale of Genji. The Tale of Genji is a rare

subject that has been visualized in art history from the Heian period to the present, and in each lecture, we will introduce various works using images and discuss the inheritance and transformation of the motifs. The lectures will share methodologies and engage in discussion so that each student can utilize visual images in their own research, viewing story pictures as a form of reception of literary works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：源氏絵概説
- 3回：徳川・五島本源氏物語絵巻①（オンライン）
- 4回：徳川・五島本源氏物語絵巻②
- 5回：徳川・五島本源氏物語絵巻③（オンライン）
- 6回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション①
- 7回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション②
- 8回：中世の源氏絵
- 9回：近世の源氏絵①（オンライン）
- 10回：近世の源氏絵②（オンライン）
- 11回：源氏絵と工芸デザイン（オンライン）
- 12回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション③
- 13回：源氏絵を題材とする報告とディスカッション④
- 14回：近現代の源氏絵とアレンジ(オンライン)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術館・博物館での展覧会見学に基づく課題を出題する予定である（学期中に講義内容に適した展覧会が開催される場合）。詳細は講義内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート:30% リアクションペーパー:10% 研究報告:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P4A

Studies in Japanese Literature P4A

日本の戦後文学に関するアダプテーションの理論—小説をめぐる映画・演劇・翻訳と異文化表象

久保田 裕子 (KUBOTA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG307

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

戦後文学における小説と映画・演劇という領域のメディア特性に関わる問題及び、翻訳という共同性に基づく表現の問題について、アダプテーションの理論に基づき分析し、その方法論を理解することを目標とする。さらに戦後文学においてアジア地域が表象化された経緯を理解することで、異文化の受容と表象化の観点から、政治や文化をめぐる同時代言説などの資料をテキスト分析に応用する方法論を身に付ける。

The goal is to analyze issues related to the media characteristics of novels, movies, and plays in postwar literature, as well as issues of expression based on the communal nature of translation, based on the theory of adaptation, and to understand the methodology. Furthermore, by understanding how the Asian region came to be represented in postwar literature, you will acquire a methodology for applying materials such as contemporary discourses on politics and culture to textual analysis from the perspective of the acceptance and representation of different cultures.

授業の内容 / Course Contents

小説が映画化、演劇化される創作過程における相互の関係性において、メディア特性に応じてどのような創造

的変質を遂げていくかという問題をアダプテーションの理論を援用しつつ考察する。戦後文学においてアジアが表象化されてきた経緯と共に、翻訳を通じた戦後文学の国際的受容という問題について、テキストの背後にある政治や文化との比較の位相のもとに明らかにする。

In the interrelationship between novels in the creative process of being made into movies and dramatizations, we will consider the question of how the novel undergoes a creative transformation according to the characteristics of the media, using the theory of adaptation. In addition to the background of the representation of Asia in postwar literature, the issue of international acceptance of postwar literature through translation will be clarified in the context of comparison with the politics and culture behind the texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス—文学研究における方法論…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 2 回：小説と映画のあいだ①—『愛の渇き』をめぐる 1960 年代の日活映画…ICT の活用による学習活動
- 3 回：小説と映画のあいだ②—小説と映画の表現特性とアダプテーションの理論…ICT の活用による学習活動
- 4 回：戦後演劇とアダプテーション①—三島由紀夫『鹿鳴館』…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 5 回：戦後演劇とアダプテーション②—三島由紀夫『鹿鳴館』…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 6 回：戦後文学の国際的受容①—三島由紀夫の被翻訳テキスト……受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 7 回：戦後文学の国際的受容②—翻訳とアダプテーションの理論…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 8 回：戦後文学におけるアジア表象①村上春樹『タイランド』における文化の力学…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 9 回：戦後文学におけるアジア表象②村上春樹『タイランド』における文化の力学…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 10 回：戦後文学におけるアジア表象③—三島由紀夫『暁の寺』とアジアの王権…受講生による討論、意見交換を通じた学習活動
- 11 回：戦後文学におけるアジア表象④—三島由紀夫『暁の寺』と 1950 年代の占領下の文学と政治…受講生相互の討論を踏まえた小テストによる学習活動
- 12 回：戦後文学におけるアジア表象⑤—三島由紀夫『文化防衛論』と 1960 年代の保守政治…受講生の小テストについてのフィードバックを通じた学習活動
- 13 回：研究課題を考える①—研究課題の設定と文学研究の方法論の検討…受講生の課題発表を通じて、演習発表の口頭発表資料とレポートを表現特性に応じて書く学習活動
- 14 回：研究課題を考える②—研究課題の設定と文学研究の方法論の検討…受講生の課題発表を通じて、演習発表の口頭発表資料とレポートを表現特性に応じて書く学習活動

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【授業計画】で取り上げる予定作品は各自で準備し、事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内における課題となる小レポート:30% 授業内発表:20% 出席および授業参加度:20% 最終レポート割合 :30%

後期課程の学生は、授業において講義した文学研究の方法論を身に付けた上で、自分自身の研究に応用できる観点を提示できるなど、全ての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。ただし取り上げる予定作品は各自準備すること。説明資料は授業中に配布する。

参考文献 / Readings

有元伸子・久保田裕子編著 『21世紀の三島由紀夫』 翰林書房 2015 9784877373917

井上隆史・久保田裕子・田尻芳樹・福田大輔・山中剛史編著 『混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界』 水声社 2016 9784801002012

井上隆史・久保田裕子・田尻芳樹・福田大輔・山中剛史編著 『三島由紀夫小百科』 水声社 2021 9784801006010

リンダ・ハッチオン、片渕悦久、鴨川 啓信、武田 雅史訳 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 9784771022676

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

- ・ 8/5(月)3～5 限(13:25～18:50)
- ・ 8/6(火)2～5 限(10:45～18:50)
- ・ 8/7(水)2～5 限(10:45～18:50)
- ・ 8/8(木)2～4 限(10:45～17:00)

教室：4255

日本文学特殊研究 P4B

Studies in Japanese Literature P4B

原爆・戦争文学を読み直す

川口 隆行 (KAWAGUCHI TAKAYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PG308
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	講義と演習
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	JAL7310
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

日本の近現代文学（小説、詩歌、評論、証言など）とその隣接領域（絵画などの視覚文化、雑誌メディア）についての知見を整理したうえで、新たな課題を見つけ、理論的・実証的あるいは実践的に研究を遂行する能力を身に付ける。

Acquire the ability to organize knowledge of modern and contemporary Japanese literature (novels, poetry, criticism, testimonies, etc.) and its adjacent fields (painting and other visual culture, magazine media), find new issues, and carry out theoretical, empirical, or practical research.

授業の内容 / Course Contents

原爆や戦争を描いた文学について、研究史や研究動向を概観しながら、作品の新たな読み直しを実践することで、「戦後」や「戦争」あるいは「平和」といった概念を問い直す。具体的には、授業前半では川口隆行『広島抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動』（琥珀書房、2022）を講読、授業後半では、講談社学芸文庫『戦争小説短篇名作選』（講談社、2015）所収の作品の演習をそれぞれ行う。

The class will review the history and trends of research on literature depicting the atomic bombing and war, and

practice new readings of works to question the concepts of "postwar", "war", or "peace". Specifically, in the first half of the class, students will subscribe to Kawaguchi Takayuki's "The Poetics of Resistance in Hiroshima-Analyses of A-Bomb Literature and Post-World War II Cultural MovementS" (Kohaku Shobo, 2022), and in the second half of the class, they will practice reading works from the Kodansha Gakugei Bunko "A Short Masterpiece of War Fiction" (Kodansha, 2015).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：研究史・研究動向概説

※教員による講義

2回：講読1：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第1、2、3章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

3回：講読2：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第4章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

4回：講読3：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第一部（第5章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

5回：講読4：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第6章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

6回：講読5：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第7、8章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

7回：講読6：『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』第二部（第9章）

※該当箇所について受講者が事前に準備していた質問や疑問をもとに議論する。

8回：演習1：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

9回：演習2：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

10回：演習3：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

11回：演習4：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

12回：演習5：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

13回：演習6：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

14回：演習7：『戦争小説短篇名作選』収録作品

※教科書収録作品（遠藤周作「あまりに碧い空」、小松左京「召集令状」、佐藤泰志「青春の記憶」、竹西寛子「儀式」、田中小実昌「北川はぼくに」、野坂昭如「八月の風船」、林京子「曇り日の行進」、目取真俊「伝令兵」、吉村昭「虹」、吉行淳之介「華麗な夕暮」）から一篇選んで、受講者が自由にテーマを設定して発表する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読の回については、あらかじめ講読テキストを読み、質問や疑問点を整理した配付資料（A4一枚程度でも良い）を各自用意しておくこと。演習の回については、演習担当者は発表の準備を行い、ほかの受講生は作品を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講読における質疑：40% 演習の発表：60%

演習の発表を担当しない場合は、質疑の内容で評価する。

テキスト / Textbooks

川口隆行 『広島 抗いの詩学』 琥珀書房 2022 9784910723273 -

遠藤周作ほか 『戦争小説短篇名作選』 講談社 2015 9784062902779 -

参考文献 / Readings

川口隆行 『原爆文学という問題領域』 創元社 2008 9784881465769

石川巧・川口隆行 『戦争を〈読む〉』 ひつじ書房 2013 9784894766440

川口隆行編 『〈原爆〉を読む文化事典』 青弓社 2017 9784787234230

五味渕典嗣 『「負け方」の問題』 有志舎 2024 9784908672699

その他 / Others

教科書二冊については、図書館等で借りるなり、購入するなりして各自準備してください。『広島 抗いの詩学—原爆文学と戦後文化運動—』については、購入する場合は出版社のホームページ

(<https://kohakubooks.com/>) から申込みすれば、割引購入できるようにしておきます。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

・ 11/1(金)3～5限(13:25～18:50)

・ 11/2(土)2～5限(10:45～18:50)

教室：6401

・ 12/6(金)3～5限(13:25～18:50)

・ 12/7(土)1～5限(08:50～18:50)

※12/6、7は通常の授業期間である。他科目と曜日時限重複のないよう注意すること
教室：4408

日本文学特殊研究 P 5 A

Studies in Japanese Literature P5A

平井 吾門／水谷 隆之／家永 香織／石川 巧／金子 明雄／尾崎 名津子／鈴木 彰／藤井 嘉章
(HIRAI AMON/MIZUTANI TAKAYUKI/ IENAGA KAORI/ ISHIKAWA TAKUMI/ KANEKO AKIO/
OZAKI NATSUKO/SUZUKI AKIRA /FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG309
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL7310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本文学研究における多種多様な方法や視点について、徹底した知識の獲得とその理解を身につけるための自主講座。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身につけることを目標とする。

This is an independent course designed to deepen students' knowledge and understanding of various methods and perspectives in the study of Japanese literature.

The course aims to acquire more advanced knowledge and skills than the same course in the first semester.

授業の内容 / Course Contents

学生主導による自主講座として、それぞれ明確なテーマと問題意識のもとに演習や調査あるいは読書会などのプロジェクトを組む。各テーマに応じて、指導教員の指導や助言を受けるとともに、参加者全員の自主的な活動が中心となる。

In this course, as an independent course led by students, each student organizes a project such as an exercise,

survey, or reading group based on a clear theme and awareness of the problem. The course is based on the guidance and advice of the faculty advisor for each theme, as well as on the independent activities of all participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業内容・テーマについてのガイダンス
- 2 回：発表と質疑応答 1
- 3 回：発表と質疑応答 2
- 4 回：発表と質疑応答 3
- 5 回：発表と質疑応答 4
- 6 回：発表と質疑応答 5
- 7 回：発表と質疑応答 6
- 8 回：発表と質疑応答 7
- 9 回：発表と質疑応答 8
- 10 回：発表と質疑応答 9
- 11 回：発表と質疑応答 1 0
- 12 回：発表と質疑応答 1 1
- 13 回：発表と質疑応答 1 2
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プロジェクトの計画と運営に積極的に加わることを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 平常の参加・活動:60% 報告書:40%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

履修する学生の主体的な選択にゆだねる。

参考文献 / Readings

指導教員の指示による。

その他 / Others

指導教員の指示による。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P 5 B

Studies in Japanese Literature P5B

平井 吾門／水谷 隆之／家永 香織／石川 巧／金子 明雄／尾崎 名津子／鈴木 彰／井野 葉子／藤井 嘉章 (HIRAI AMON/ MIZUTANI TAKAYUKI/IENAGA KAORI/ ISHIKAWA TAKUMI/ KANEKO AKIO/ OZAKI NATSUKO/SUZUKI AKIRA/INO YOKO/ FUJII YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PG310
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： JAL7310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本文学研究における多種多様な方法や視点について、徹底した知識の獲得とその理解を身につけるための自主講座。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身につけることを目標とする。

The purpose of this independent course is to deepen students' knowledge and understanding of various methods and perspectives in the study of Japanese literature.

The course aims to acquire more advanced knowledge and skills than the same course in the first semester.

授業の内容 / Course Contents

学生主導による自主講座として、それぞれ明確なテーマと問題意識のもとに演習や調査あるいは読書会などのプロジェクトを組む。各テーマに応じて、指導教員の指導や助言を受けるとともに、参加者全員の自主的な活動が中心となる。

In this course, as an independent course led by students, each student organizes a project such as an exercise,

survey, or reading group based on a clear theme and awareness of the problem. The course is based on the guidance and advice of the faculty advisor for each theme, as well as on the independent activities of all participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業内容・テーマについてのガイダンス
- 2回：発表と質疑応答1
- 3回：発表と質疑応答2
- 4回：発表と質疑応答3
- 5回：発表と質疑応答4
- 6回：発表と質疑応答5
- 7回：発表と質疑応答6
- 8回：発表と質疑応答7
- 9回：発表と質疑応答8
- 10回：発表と質疑応答9
- 11回：発表と質疑応答10
- 12回：発表と質疑応答11
- 13回：発表と質疑応答12
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

プロジェクトの計画と運営に積極的に加わることを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常の参加・活動:60% 報告書:40%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

履修する学生の主体的な選択にゆだねる。

参考文献 / Readings

指導教員の指示による。

その他 / Others

指導教員の指示による。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P 6 A

Studies in Japanese Literature P6A

戦後詩における「私」……貫戦期 (trans-war regime)における詩の変容を意識しながら

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主として戦後詩を扱う。その際には、関東大震災後、日中戦争、アジア・太平洋戦争、GHQ 占領期、冷戦期における詩と時代と文化の関係を意識し考察する。

宮沢賢治、鮎川信夫、谷川俊太郎、川崎洋、天沢退二郎らの作品を扱う。

前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

This class mainly deals with postwar poetry. In doing so, we will consider the relationship between poetry, time, and culture after the Great Kanto Earthquake to the Sino-Japanese War, the Asia-Pacific War, the GHQ occupation period, and the Cold War period.

The class will cover poems by Kenji Miyazawa, Nobuo Ayukawa, Shuntaro Tanikawa, Hiroshi Kawasaki, and Taijiro Amasawa.

The goal is to acquire more advanced knowledge and skills than the first semester.

授業の内容 / Course Contents

この授業はゼミナール形式で行う。

理論研究と模擬授業の後に、各自の論文課題の研究報告を行う。

理論研究においては詩論・アダプテーション・パロディについてとりあげる。

This class will be held in a seminar format.

After theoretical research and mock classes, each student will present a research report on their thesis topic.

In theoretical research, we will focus on poetics, adaptation, and parody.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション。研究課題、発表分担の確認。
- 2 回：理論研究 1
- 3 回：理論研究 2
- 4 回：模擬授業
- 5 回：研究発表
- 6 回：研究発表
- 7 回：研究発表
- 8 回：研究発表
- 9 回：研究発表
- 10 回：研究発表
- 11 回：研究発表
- 12 回：理論研究 3
- 13 回：理論研究 4
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

発表者はレジュメを準備してくる。

発表の後、フォローアップを行う。

各自研究発表を担当した課題についてレポートを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:30% ディスカッションへの積極的参加:30% フォローアップ:10%

最終レポート割合：:30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

リンダ・ハッチオン 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 4771022674

岩田 和男、武田 美保、武田 悠一編 『アダプテーションとは何か』 世織書房 2017 4902163942

リンダ・ハッチオン 『パロディの理論』 未来社 1993 4624710606

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本文学特殊研究 P 6 B

Studies in Japanese Literature P6B

戦後文学における「義」……貫戦期 (trans-war regime)における日本文学の変容を意識しながら

大島 丈志 (OSHIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主として戦後の散文作品を扱う。その際には、関東大震災後、日中戦争、アジア・太平洋戦争、GHQ 占領期、冷戦期における散文と時代と文化の関係を意識し考察する。考察を通じて、散文作品に描かれた「義」について考えていきたい。

宮沢賢治、太宰治、大江健三郎、深沢七郎らの作品を扱う。

前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Mainly deals with postwar prose works. In doing so, we will consider the relationship between prose, time, and culture after the Great Kanto Earthquake to the Sino-Japanese War, the Asia-Pacific War, the GHQ occupation period, and the Cold War period. Through this discussion, I would like to think about the "righteousness" depicted in prose works.

We handle works by Kenji Miyazawa, Osamu Dazai, Kenzaburo Oe, Shichiro Fukazawa, and others.

The goal is to acquire more advanced knowledge and skills than the first semester.

授業の内容 / Course Contents

この授業はゼミナール形式で行う。

理論研究と模擬授業の後に、各自の論文課題の研究報告を行う。

理論研究においてはアダプテーション・パロディについてとりあげる。

This class will be held in a seminar format.

After theoretical research and mock classes, each student will present a research report on their thesis topic.

In theoretical research, we will focus on adaptation, and parody.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション。研究課題、発表分担の確認。
- 2 回：理論研究 1
- 3 回：理論研究 2
- 4 回：模擬授業
- 5 回：研究発表
- 6 回：研究発表
- 7 回：研究発表
- 8 回：研究発表
- 9 回：研究発表
- 10 回：研究発表
- 11 回：研究発表
- 12 回：理論研究 3
- 13 回：理論研究 4
- 14 回：まとめ。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

理論研究及び受講生各自の研究発表関連テキストを共有し、あらかじめ予習してくる。

発表者はレジュメを準備してくる。

各自研究発表を担当した課題についてレポートを作成する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究発表:30% ディスカッションへの積極的参加:30% フォローアップ:10%

最終レポート割合：:30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石川巧他編 『文学研究の扉をひらく』 ひつじ書房 2023 4823411366

リンダ・ハッチオン 『アダプテーションの理論』 晃洋書房 2012 4771022674

大島丈志 『現代文化のなかの〈宮沢賢治〉』 新典社 2023 4787968696

尾崎真理子 『大江健三郎の「義」』 講談社 2022 4065284449

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本語学特殊研究 P 1 A

Studies in the Japanese Language P1A

日本語史とコーパス言語学

大川 孔明 (OHKAWA KOMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語史に関する問題について、コーパスを用いて検討・解決できるようになる。

前期課程よりも高度な知識や技術を身につけ、問題解決ができるようになる。

Student will be able to examine and solve problems related to the history of the Japanese language using corpora.

授業の内容 / Course Contents

日本語の歴史には、いまだ多くの問題・疑問が残る。これを解決するには、さまざまなアプローチ方法が考えられるのだが、そのひとつにコーパスというものの利用が挙げられる。コーパスは非常に手軽に利用でき、また利便性の高いツールであるが、気をつけなければいけない点も多く存在する。

そこで本授業では、コーパスの利用法を学ぶとともに、コーパスを用いて日本語史上の問題について分析・検討し、日本語史研究への理解を深めることを実践的に目指す。

Many problems and questions still remain in the history of the Japanese language. There are various approaches that can be taken to solve these problems, one of which is the use of corpus. Although corpus are very easy to use and highly convenient tools, there are many points to be aware of.

In this class, students will learn how to use corpus, analyze and discuss issues in the history of the Japanese language using corpus, and deepen their understanding of the history of the Japanese language in a practical way.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・コーパス概観
- 2回：コーパス言語学とは
- 3回：『日本語歴史コーパス』とその周辺 (1)
- 4回：『日本語歴史コーパス』とその周辺 (2)
- 5回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (1)
- 6回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (2)
- 7回：日本語史研究における『日本語歴史コーパス』活用の実例 (3)
- 8回：コーパスを利用した日本語史上の問題発見 (1)
- 9回：コーパスを利用した日本語史上の問題発見 (2)
- 10回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (1)
- 11回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (2)
- 12回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (3)
- 13回：コーパスを利用した日本語史上の問題についての検討 (4)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日常的にコーパスを利用し、慣れること。本授業はコーパスを利用した日本語史上の問題を検討することに主眼を置くため、具体的な調査や考察を授業外で行う必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間課題:40% 授業参加態度:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 田中牧郎 『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の歴史』 朝倉書店 2020 9784254516548
 田中牧郎他 『コーパスによる日本語史研究 近代編』 ひつじ書房 2021 9784823410970
 青木博史他 『コーパスによる日本語史研究 中古編』 ひつじ書房 2022 9784823411335

授業内で適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット等、コーパスにアクセスできる環境を整えてください。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本語学特殊研究 P 1 B

Studies in the Japanese Language P1B

日本語史と計量言語学

大川 孔明 (OHKAWA KOMEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本語の歴史的な問題について、計量的な手法を用いて検討できるようになる。

前期課程よりも高度な知識や技術を身につけ、問題解決ができるようになる。

Students will be able to examine historical issues in the Japanese language using quantitative methods.

授業の内容 / Course Contents

日本語の歴史についての研究は、さまざまな方法でなされてきた。その中には、対象の言語要素の数量に着目した方法（計量言語学）が存在する。計量的手法を用いることで、言語事象について客観的に検討することが可能となる。

本授業では、計量言語学的方法論に基づいて日本語の歴史的な問題について検討し、議論する中で、計量言語学と日本語史に関する知識を理解し、また研究上の技術を身につけることを目指す。

In this class, students will examine and discuss historical issues of the Japanese language based on metrolinguistic methodology, aiming to understand knowledge about metrolinguistics and the history of the Japanese language, as well as to acquire research skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・計量言語学とは
- 2回：計量言語学と日本語史研究
- 3回：計量言語学の手法（1）
- 4回：計量言語学の手法（2）
- 5回：計量言語学の手法（3）
- 6回：計量的手法を用いた日本語史研究の実例（1）
- 7回：計量的手法を用いた日本語史研究の実例（2）
- 8回：計量的手法を用いた日本語の問題発見（1）
- 9回：計量的手法を用いた日本語の問題発見（2）
- 10回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（1）
- 11回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（2）
- 12回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（3）
- 13回：コーパスを利用した日本語の問題についての検討（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は日本語の問題を検討することに主眼を置くため、具体的な調査や考察を授業外で行う必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間課題:40% 授業参加態度:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

村上征勝他 『計量文献学の射程』 勉誠出版 2016 9784585240075

金明哲 『テキストアナリティクスの基礎と実践』 岩波書店 2021 9784000298964

授業内で適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット等、コーパスにアクセスできる環境を整えてください。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本語学特殊研究 P 2 A

Studies in the Japanese Language P2A

アカデミックライティング基礎

Introduction to Academic Writing

川瀬 卓 (KAWASE SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG353

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アカデミックライティングの基礎的な力を身につけることを目標とします。なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とします。

The aim of this course is for students to acquire basic academic writing skills.

授業の内容 / Course Contents

テキストを読み進めながら、レポート・論文の執筆方法（レポート・論文とはどういうものか、テーマの決め方、研究方法、論文の構成、引用の作法など）を学んでいきます。

Through reading the text, students will learn how to write reports and papers (what reports and papers are, how to decide on a topic, research methodology, paper structure, citation style, etc.).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：取材 (1) 読むこと

- 3回：取材（2）聴くこと
 4回：取材（3）調べること、考えること
 5回：補足：論文の読み方、「先行研究」とは
 6回：執筆（1）文章の基本構造
 7回：執筆（2）構成の考え方
 8回：補足：文章の構成—論文の場合—
 9回：執筆（3）原稿のスタイル
 10回：執筆（4）原稿をつくる
 11回：補足：引用の作法
 12回：推敲（1）推敲の方法
 13回：推敲（2）原稿を書き上げる
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。また、授業時に示される参考文献もあわせて読み、自身の研究にどう生かせるか考えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題:20% 口頭発表:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

古賀史健 『取材・執筆・推敲—書く人の教科書』 ダイヤモンド社 2021 9784478112748 ○

参考文献 / Readings

トーマス・S・マラニー／クリストファー・レア著、安原和見訳 『リサーチのはじめかた—「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』 筑摩書房 2023 9784480837257

読書猿 『独学大全—絶対に「学ぶこと」をあきらめたくない人のための55の技法』 ダイヤモンド社 2020 9784478108536

小熊英二 『基礎からわかる論文の書き方』 講談社 2022 9784065280867

そのほか、授業時に紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレットなどを用意してください。

なお、Google Classroom を使用予定です。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

日本語学特殊研究 P 2 B

Studies in the Japanese Language P2B

アカデミックライティング応用

Developing Academic Writing skills

川瀬 卓 (KAWASE SUGURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG354

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

達成目標は次のとおりです。

- 著者の意図するところをくみとりながら、論文の内容を過不足なく押さえられるようになる。
- 先行研究を発展的に継承して、論文執筆を行えるようになる。
- 調査・考察した内容をわかりやすく説得力のある文章で表現できるようになる。

そして、これらをふまえ、全国的な査読付き雑誌の掲載水準を満たす学術論文を作成できるようになることを目標とします。

なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とします。

This course aims for students

(1) to become able to understand the content of an article appropriately, taking into account the author's intention.

(2) to become able to write papers while critically reviewing previous research.

(3) to become able to express research results and discussions intelligibly and to form persuasive sentences.

授業の内容 / Course Contents

学術論文の読解、および研究発表を行います。学術論文の読解では、日本語学の研究方法、分析の観点を学ぶとともに、論文の読み方を学びます。研究発表では、各自の興味・関心に応じたテーマについて具体的な課題を設定し、調査した結果を発表します。

Students will read academic papers on Japanese linguistics and present their research. In reading academic papers, they will learn research methods and analytical perspectives in Japanese linguistics, as well as how to read papers. In the student research presentations, students will present the results of their research on specific topics of interest to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：受講者による報告 (1)
- 3 回：受講者による報告 (2)
- 4 回：受講者による報告 (3)
- 5 回：読むこと
- 6 回：調べること、考えること
- 7 回：先行研究
- 8 回：受講者による報告 (4)
- 9 回：受講者による報告 (5)
- 10 回：受講者による報告 (6)
- 11 回：受講者による報告 (7)
- 12 回：受講者による報告 (8)
- 13 回：レポート・ピアレビュー
- 14 回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（予習）演習担当者は入念に準備を行ってください。見やすく、要点を押さえた演習資料を作成してください。担当者以外の受講生も、取り上げられる論文をあらかじめ読み、講読票を作成することが求められます。用語を調べるなどして内容を理解しておくとともに、議論になりそうな点を考えておいてください。

（復習）授業で話題となった事象について関連文献を調べたり、授業中に紹介された参考文献を読んだりして、理解を深めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表:40% 討議への参加状況:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、授業時に資料を配布します。

参考文献 / Readings

適宜、授業時に紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレットなどを用意してください。

なお、Google Classroom を使用予定です。

その他/ Others

取り上げる論文は受講生と相談の上、決定します。扱う分野やテーマなど、授業内容の調整をすることもあります。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

中国文学特殊研究 P 1 A

Studies in Chinese Literature P1A

漢文訓読論

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG371

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 漢文訓読法の文明的意義について認識する。
- 漢文訓読法の概要を理解する。
- 漢文訓読法の知識を漢文資料の読解に適用する。
- 上記の知見を踏まえることにより、各自の研究を進めるための高次の視点を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業時間を前半と後半に分けて実施する。

前半では、漢文訓読法の文明的意義について、教員の講義および参加者による関係論文についての報告により理解を深める。

後半では、授業期間の最初、漢文訓読法の基礎知識の習得に努め、残りの期間においては資料読解の実践的練習を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（1）
 3回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（2）
 4回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（3）
 5回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（4）
 6回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（5）
 7回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（6）
 8回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（7）
 9回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（8）
 10回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（9）
 11回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（10）
 12回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（11）
 13回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（12）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告については担当者による事前準備のほか、対象テキストを他の参加者も予習する。
 漢文訓読には語学学習としての側面があることから、予習と復習は必須。
 詳しくは授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告(複数回):50% 授業参加度:50%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

プリント・コピーを用意する。

参考文献 / Readings

金文京 『漢文と東アジア 訓読の文化圏』 岩波書店 2010 9784004312628

そのほかは適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・日本語学術論文を読解・要約すること。
- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール説明を理解すること（漢文訓読の経験者である必要はない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のため Canvas LMS を使う可能性がある。

発表資料作成のために PC が必要。

その他 / Others

関係論文についての報告は一回ごとに担当者を決めて演習形式で行う。

漢文読解の実践練習は、教室で必要事項を解説しつつ、参加者に理解定着のための質問を行い回答を求める。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

中国文学特殊研究 P 1 B

Studies in Chinese Literature P1B

中国哲学文献研究

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PG372

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： JAL7310

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 漢文訓読法を用いて中国哲学の資料を読解できる。
- 資料から思想的内容を正確に読み取り、哲学的・文学的あるいは比較文明学的観点から評価できる。
- 上記の知見を踏まえることにより、各自の研究を進めるための高次の視点を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

中国哲学の資料を、漢文訓読法を用いて読解する。あわせて、その内容がいかなる射程を備えているかについて議論する。

テキストとしては、「漢文大系」もしくは「漢籍国字解全書」所収の中国古典を用いる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（1）

3 回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（2）

4 回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（3）

- 5回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（4）
 6回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（5）
 7回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（6）
 8回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（7）
 9回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（8）
 10回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（9）
 11回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（10）
 12回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（11）
 13回：中国哲学資料の漢文訓読による読解と議論（12）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は一定量を分担し、本文ならびに注の訓読と日本語訳を用意する。担当に当たっていない参加者も、次回に読むべき範囲を予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告(複数回):50% 授業参加度:50%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

プリントなどを配付する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール理解に対応すること。
- ・担当箇所の内容について現代日本語での訳文を含む発表資料を作成すること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のため Canvas LMS を使う可能性がある。

発表資料作成のため PC が必要。

その他 / Others

演習形式。基本的に一回ごとに担当者を決め、所定の内容を報告してもらう。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ*) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PH256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： FRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

フランス文学特殊研究 2 A

Study in French Literature 2A

20 世紀フランス小説と批評を読む

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH303

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀フランス文学を代表する小説や批評を素材にして、フランス語テキストの精読をおこないながら、論文を書くうえで役に立つ文学研究の方法論を習得する。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

20 世紀の小説の抜粋や研究論文を読みながら、フランス文学の原典を分析し論じるためのコツを身につけてもらう。必要に応じて、おもにプルースト研究を例にとり、伝記研究、テーマ批評、ナラトロジー（物語の技法論）、脱構築、表象文化史的アプローチ、ディスクール分析、草稿研究（生成批評）など、フランス文学研究の方法論、批評の歴史について紹介する。学んだ読解の技法を、受講者自身の研究対象に応用する機会にもしたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：精読と発表 1

- 3回：精読と発表2
- 4回：精読と発表3
- 5回：精読と発表4
- 6回：精読と発表5
- 7回：精読と発表6
- 8回：精読と発表7
- 9回：精読と発表8
- 10回：精読と発表9
- 11回：精読と発表10
- 12回：精読と発表11
- 13回：精読と発表12
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合 : :30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

初回授業時に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス文学特殊研究 2 B

Study in French Literature 2B

20 世紀フランス小説と批評を読む

坂本 浩也 (SAKAMOTO HIROYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH304

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀フランス文学を代表する小説や批評を素材にして、フランス語テキストの精読をおこないながら、論文を書くうえで役に立つ文学研究の方法論を習得する。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

20 世紀の小説の抜粋や研究論文を読みながら、フランス文学の原典を分析し論じるためのコツを身につけてもらう。必要に応じて、おもにプルースト研究を例にとり、伝記研究、テーマ批評、ナラトロジー（物語の技法論）、脱構築、表象文化史的アプローチ、ディスクール分析、草稿研究（生成批評）など、フランス文学研究の方法論、批評の歴史について紹介する。学んだ読解の技法を、受講者自身の研究対象に応用する機会にもしたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：精読と発表 1

- 3回：精読と発表2
 4回：精読と発表3
 5回：精読と発表4
 6回：精読と発表5
 7回：精読と発表6
 8回：精読と発表7
 9回：精読と発表8
 10回：精読と発表9
 11回：精読と発表10
 12回：精読と発表11
 13回：精読と発表12
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

初回授業時に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス文学特殊研究 3 A

Study in French Literature 3A

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PH305
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL7813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

フランス現代哲学の原書講読を通して、テキスト読解の力を深めるとともに、思想と文学の基本的な知識の習得を目指す。

Students will learn the Modern French philosophy and learn about methodology of literature research, by reading French text.

授業の内容 / Course Contents

フランス現代思想や文芸評論の重要なテキストを原文で精読することによって、テキスト読解の技法を深めるとともに、現代思想の基本的な流れについても学ぶ。

参加者は毎回、テキストを丁寧に予習するのみならず、基本的な概念などについても十分に調べた上で参加すること。

Students will deepen the techniques of reading texts and learn the basic flow of modern thought by reading the important texts of French contemporary thought and literary criticism in the original text.

Participants should not only prepare for the text carefully, but also thoroughly study basic concepts before participating.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入授業
- 2回：演習・作業1
- 3回：演習・作業2
- 4回：演習・作業3
- 5回：演習・作業4
- 6回：演習・作業5
- 7回：演習・作業6
- 8回：演習・作業7
- 9回：演習・作業8
- 10回：演習・作業9
- 11回：演習・作業10
- 12回：演習・作業11
- 13回：演習・作業12
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ただの訳読にとどまらず、関連項目などを調べて、授業に臨むこと。自分の研究テーマと接続させる形で、テキストを読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

履修者と相談の上、決めることにします。

参考文献 / Readings

授業時に随時、指示します。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス文学特殊研究 3B

Study in French Literature 3B

澤田 直 (SAWADA NAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	文学研究科
科目コード等：	PH306
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	FRL7813
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

フランス現代哲学の原書講読を通して、テキスト読解の力を深めるとともに、思想と文学の基本的な知識の習得を目指す。

なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

フランス現代思想や文芸評論の重要なテキストを原文で精読することによって、テキスト読解の技法を深めるとともに、現代思想の基本的な流れについても学ぶ。

参加者は毎回、テキストを丁寧に予習するのみならず、基本的な概念などについても十分に調べた上で参加すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入授業
- 2 回：演習・作業 1
- 3 回：演習・作業 2
- 4 回：演習・作業 3

- 5回：演習・作業4
 6回：演習・作業5
 7回：演習・作業6
 8回：演習・作業7
 9回：演習・作業8
 10回：演習・作業9
 11回：演習・作業10
 12回：演習・作業11
 13回：演習・作業12
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ただの訳読にとどまらず、関連項目などを調べて、授業に臨むこと。自分の研究テーマと接続させる形で、テキストを読むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:40% 発表:30% 最終レポート割合 : :30%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

履修者と相談の上、決めることにします。

参考文献 / Readings

授業時に随時、指示します。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス文学特殊研究 4 B

Study in French Literature 4B

フランス語テキストの精読（中世）

横山 安由美 (YOKOYAMA AYUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中世・ルネサンスの作品を中心にフランス語テキストの精読を行う。

Students will read French texts of the Middle Ages and Renaissance.

授業の内容 / Course Contents

中世・ルネサンスのテキストを取り上げ、精読を行う。学生の関心とレベルに応じて内容を検討。必要に応じて古フランスや中フランス語の文法説明を行う。あわせて背景となるフランスの文化や歴史についても案内を行う予定。

学生による各自の研究テーマの簡単な発表も予定している。

Students will read French texts of the Middle Ages and Renaissance. They will learn elementary grammar of the Old French and the Middle French. At the same time, students will be introduced to background French culture and history.

Students will also make simple presentations on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：中世概論
- 3回：文法
- 4回：講読
- 5回：講読
- 6回：講読
- 7回：講読
- 8回：講読
- 9回：講読
- 10回：講読
- 11回：講読
- 12回：発表1
- 13回：発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行う予定。また各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基礎的な現代フランス語の力

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス文学特殊研究 5 A

Study in French Literature 5A

ルソー『告白』から：フランス自伝文学の世界への招待

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

2022,23 年度に続き、『告白』を精読します。2022,23 年度とは異なる観点から分析します。

自伝の終わり？自伝のはじまり？フランス自伝文学の最高傑作、ジャン＝ジャック・ルソーの『告白』を読みます。ところで、『告白』は、「これまでに例がなく、そしてこれからも誰も真似ておこなうことのないであろう企図」、つまりは反自伝ともいえる作品です。自伝でありながら自伝ではない…そのようなものとしてこのあまりにも有名な作品を読み解いていきます。なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とします。

Is this the end of autobiography? Or the beginning of it? Students will read the best of French autobiographies, Jean-Jacques Rousseau's *Les Confessions*. By the way, *Les Confessions* was written so that no such work had been written and no imitation work will be done. In other words, it is an anti-autobiography. It is and isn't an autobiography at the same time... Students will read and understand this overtly popular work.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀以降のフランス文学・思想はこの作品なしでは正確に理解できません。たえず『告白』以前にさかの

ぼりながら、そして『告白』以降の文学史・思想史を想起しながら、この作品を読んでいきます。またこの授業では「草稿」も（少しだけ）読みます。いわゆる「草稿研究」をおこなうわけではありませんが、「草稿」が思いがけぬ「発見」、あるいは読解のヒントを与えてくれることを確認し、博士論文執筆の参考となるようにします。加えて、これまた博士論文執筆の参考となるよう、海外の研究サイト、電子版の利用の仕方についても考えます。

Without this work, students will not understand post-19th century French literature and thinking. Students will read this work by continuously tracing time before *Les Confessions* and imagining history of literature and thinking after *Les Confessions*. In addition, students will also read draft in this class. Students will not conduct the draft research literally, but students will check draft to find clues to help them understand the text.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：作品の背景について
- 3回：テキスト読解（1）
- 4回：テキスト読解（2）
- 5回：テキスト読解（3）
- 6回：テキスト読解（4）
- 7回：テキスト読解（5）
- 8回：テキスト読解（6）
- 9回：テキスト読解（7）
- 10回：テキスト読解（8）
- 11回：テキスト読解（9）
- 12回：テキスト読解（10）
- 13回：テキスト読解（11）
- 14回：テキスト読解（12）＋まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストと草稿の読解はもちろんのこと、作品全体の理解につとめてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加態度:30% 課題:30% 授業内での報告:30% テキスト理解度:10%

テキスト / Textbooks

コピー配布。さらに電子版テキストを使用。

参考文献 / Readings

参考文献等については一回目の授業で指示します。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス語学特殊研究 1 A

Study in the French Language 1A

フランス語テキストの精読と文学研究の方法論

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH351

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文を書くために必要な文学研究の方法論を習得しながら、フランス語テキストの精読を行う。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Students will learn literature research methods required to write their doctoral thesis. Students will read French texts carefully.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学研究に必要な、テーマの選び方、文献調査の仕方、論文の構成方法などを紹介し、受講生の関心とレベルに合わせて具体的な訓練を行い、学生自身による研究発表も行う。

また、ユゴー、スタンダール、フローベールなど 19 世紀文学の主要なテキストの抜粋を読む。

Students will be introduced to methods to select subjects, research literatures, and compose thesis, which are required in French literature research. Students will receive specific training according to their interests and levels and make their own presentations.

In addition, students will read excerpts from major texts in 19th century literature, including Hugo, Stendhal, and

Flaubert.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：文学研究の方法論 1
- 3 回：文学研究の方法論 2
- 4 回：先行研究の調べ方、まとめ方、図書館ガイダンス
- 5 回：仏語辞書の引き方
- 6 回：テキスト精読 1
- 7 回：テキスト精読 2
- 8 回：テキスト精読 3
- 9 回：テキスト精読 4
- 10 回：テキスト精読 5
- 11 回：テキスト精読 6
- 12 回：学生発表 1
- 13 回：学生発表 2
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行うので、準備が必要。また、各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

工藤庸子 恋愛小説のレトリック 東京大学出版会 1998 9784130830263

その他/ Others

オンラインの仏語辞書サイト

<http://micmap.org/dicfro/>

立教大学 Master of Writing, Master of Presentation

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofWriting.pdf>

<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MasterofPresenta>

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

フランス語学特殊研究 1 B

Study in the French Language 1B

フランス語テキストの精読と文学研究の方法論

菅谷 憲興 (SUGAYA NORIOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PH352

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： FRL7813

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文を書くために必要な文学研究の方法論を習得しながら、フランス語テキストの精読を行う。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

Students will learn literature research methods required to write their doctoral thesis and read French texts carefully.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学研究に必要な、テーマの選び方、文献調査の仕方、論文の構成方法などを紹介し、具体的な訓練を行う。春学期に扱った作品のほか、他の時代のテキストを取り上げ、精読を行う。あわせて背景となるフランスの文化や歴史についても案内を行う。

学生による各自の研究テーマの簡単な発表も予定している。

Students will be introduced to methods to select subjects, research literatures, and compose thesis, while receiving specific training. In addition to works introduced in the spring semester, students will select and read carefully several texts of other centuries. At the same time, students will be introduced to background French

culture and history.

Students will also make simple presentations on their research subjects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：文学研究の方法論1
- 3回：文学研究の方法論2
- 4回：先行研究の調べ方、まとめ方
- 5回：フランス語文法の確認・書誌作成の練習
- 6回：テーマ的検討1
- 7回：テーマ的検討2
- 8回：精読の技法1
- 9回：精読の技法2
- 10回：精読の技法3
- 11回：精読の技法4
- 12回：発表1
- 13回：発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回訳読を行うので、準備が必要。また各自の研究テーマについても精読と文献調査を並行して行い、発表に備えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・参加態度・訳読・口頭発表・課題など：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリントを配布。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

研究指導

Tutorial Session

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

新野 守広 (NIINO MORIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

坂本 貴志 (SAKAMOTO TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

宮崎 麻子 (MIYAZAKI ASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PI255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： GRL7843
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ドイツ文学特殊研究 8 B

Study in German Literature 8B

Krabat - ein sorbisches Epos

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PI302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Seminar

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL7342

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Im Mittelunkt des Seminars steht der Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976) von Jurji Brezan. Die Studierenden sollen die Geschichte des Krabat-Stoffs vor dem Hintergrund seiner Verankerung in der sorbischen Minderheit verstehen. Die vergleichende Analyse der Krabat-Adaptionen von Brezan, Nowak-Neumann und Preußler soll ferner auf die Differenz zwischen der Literaturgeschichte der BRD (Preußler) und der DDR (Nowak-Neumann, Brezan) hinweisen.

The objective of this course is to provide students with an understanding of the history of the literary Krabat tradition and its significance in the context of the Sorbian minority

授業の内容 / Course Contents

Peter Hankde weist in seinem Vorwort zu Jurij Brezans Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976) auf Parallelen zu Günter Grass' "Deutschen-Epos" "Die Blechtrommel" hin und bezeichnet den Krabat-Stoff in Analogie dazu als "Sorben-Epos".

Im vorliegenden Seminar soll die Genese dieses "Epos" literaturgeschichtlich nachgezeichnet und vor dem

Hintergrund der wechselhaften Geschichte der sorbischen Sprach- und Kulturminderheit analysiert werden. Im Mittelpunkt der Betrachtung steht schließlich Brezans Roman "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976). Die ebenfalls dem Krabat-Stoff gewidmete Erzählung "Schwarze Mühle" (1968) und der 1993 nachfolgende Roman "Krabat oder die Beahrung der Welt" desselben Autors werden auch berücksichtigt. Ferner werden Asuzüge aus den Kinder- und Jugendbücher von Otfried Preußler ("Krabat", Roman 1971) und Mercin Nowak-Neumann ("Meister Krabat der gute sorbische Zauberer", aus dem sorbischen übersetzt von Jurij Brzan, Erzählung, sorbisch: 1954, deutsch: 1955) gelesen und in Kontrast zu den Texten von Brezan analysiert.

In the preface to Jurij Brezans's novel "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976), Peter Handke discerns parallels with Günter Grass' "Epos of the Germans" "Die Blechtrommel" and designates Krabat as an "Epos of the Sorbs". The seminar explores the development of the Krabat tradition, tracing its roots within literary history, while concurrently subjecting it to an analysis in the face of the Sorbian minority. The focal point of this seminar lies in the analyses of Brezan's novel "Krabat oder die Verwandlung der Welt" (1976). Additionally, attention is devoted to the narrative "Die Schwarze Mühle" (1968), which similarly delves into the Krabat tradition, and the subsequent novel "Krabat oder die Bewahrung der Welt" (1993), both penned by Brezan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Einführung: Die sorbische Minderheit, die Krabat-Tradition, Krabat-Fassungen
- 2 回： Der Krabat-Stoff nach 1945/1949 vor dem Hintergrund der Literaturgeschichte in Ost- und Westdeutschland (mit einer Einführung in Leben und Werk der Autoren Jurij Brezan, Mercin Nowak-Neumann und Otfried Preußler)
- 3 回： Jrij Brezan: Krabat oder die Verwandlung der Welt (1976):
Textanalyse Teil 1
- 4 回： Textanalyse Teil 2
- 5 回： Textanalyse Teil 3
- 6 回： Textanalyse Teil 4
- 7 回： Textanalyse Teil 5
- 8 回： Textanalyse Teil 6
- 9 回： Erzählung Die Schwarze Mühle (1968) und der Roman Krabat oder die Bewahrung der Welt (1993) von Jurij Brezan.
- 10 回： Analyse von Mercin Nowak-Neumanns Erzählung Meister Krabat der gute Sorbische Zauberer
- 11 回： Analyse von Otfried Preußlers Roman Krabat.
- 12 回： Vergleichende Analyse Brezan, Preußler, Nowak-Neumann
- 13 回： Referate
- 14 回： Abschlussdiskussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワーポイント等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合 :34%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Jurij Brezan Krabat oder die Verwandlung der Welt Suhrkamp 2004

Otfried Preußler Krabat Thienemann 2021

Mercin Nowak-Neumann Meister Krabat der gute Sorbische Zauberer Domowina 2020

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他 / Others

Verschiedene Texte werden im Unterricht verteilt

注意事項

For Course Objectives and every evaluation criterion, a higher level of achievement than master's students is required.

ドイツ語教育特殊研究 1 A

Studies in German Language Teaching 1A

Wissenschaftliches Schreiben und Sprechen

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PI311

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Seminar

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL7840

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Die Studierenden sollen nach Absolvierung des Kurses in der Lage sein, in der Zielsprache Deutsch einfache Essays, Forschungsskizzen und Zusammenfassungen wissenschaftlicher Arbeiten (z.B. Masterarbeiten) zu verfassen sowie wissenschaftliche Kurzreferate auf Deutsch zu halten.

After completing the course, students should be able to write basic essays, research outline, and summaries of academic works (e.g. master's theses) in German, as well as deliver scientific presentations in German.

授業の内容 / Course Contents

Der Kurs beinhaltet die Anwendung wissenschaftlichen Arbeitens in deutschsprachigen Essays und Referaten. Im Zentrum stehen die sprachlichen Mittel zur Präzisen Formulierung von Hypothesen und Argumenten, der Aufbau eines wissenschaftlichen Textes bzw. eines Vortrages sowie allgemein das akademische Fachvokabular und gebräuchliche wissenschaftliche Phrasen. Die Studierenden bereiten dafür im Laufe des Semesters eigene kurze Texte und Probereferate vor, die vom Dozenten korrigiert und im Plenum diskutiert werden. Ferner werden authentische wissenschaftliche Texte und Vortragsmanuskripte analysiert und für die eigene Arbeit

fruchtbar gemacht. Am Ende des Semesters sollen die Studierenden einen eigenen Essay in der Länge eines Kurzaufsatzes verfassen und ein Referat dazu halten.

The course is designed to provide students with the necessary skills to apply scientific work in German essays and presentations. The focus is on the linguistic means for the precise formulation of hypotheses and arguments, the structure of a scientific text or presentation, as well as academic vocabulary and common scientific phrases.

Throughout the semester, students will prepare their own short texts and sample presentations, which will be corrected by the instructor and discussed in the plenary. In addition, authentic scientific texts and presentation manuscripts will be analyzed and made fruitful for one's own work. By the end of the semester, students will be expected to write their own essay of the length of a short essay and give a presentation on it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Alltagssprache und Wissenschaftssprache im Kontrast
- 2 回： Wissenschaftliches Vokabular zum Verfassen eines Essays
- 3 回： Wissenschaftliche Phrasen zum Verfassen eines Essays
- 4 回： Strukturierung eines wissenschaftlichen Texts
- 5 回： Einleitung: Inhalt und sprachliche Mittel
- 6 回： Hauptteil: Inhalt und sprachliche Mittel
- 7 回： Schluss: Inhalt und sprachliche Mittel
- 8 回： Forschungsskizzen, Zusammenfassungen: sprachliche Mittel
- 9 回： Beispiele aus dem Uni-Alltag: Analyse wissenschaftlicher Arbeiten
- 10 回： Referate halten: Do's and Don't's
- 11 回： Sprachliche Mittel für das Referat
- 12 回： Beispiele aus dem Uni-Alltag: Analyse wissenschaftlicher Referat
- 13 回： Abschlussreferate
- 14 回： Diskussion und Abschluss

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben, Textlektüre, Verfassen von Textbeispielen

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合 :34%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他 / Others

Unterlagen werden im Unterricht verteilt

注意事項

For Course Objectives and every evaluation criterion, a higher level of achievement than master's students is required.

ドイツ語教育特殊研究 1 B

Studies in German Language Teaching 1B

Wissenschaftliches Schreiben und Sprechen

シュレンドルフ (SCHLOENDORFF LEOPOLD)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PI312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Seminar

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： GRL7840

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Die Studierenden sollen nach Absolvierung des Kurses in der Lage sein, in der Zielsprache Deutsch verschiedene Textsorten der akademischen Kommunikation zu beherrschen, Referate über das eigene Forschungsthema halten und sich an wissenschaftlichen Diskussionen beteiligen.

Upon completion of the course, students should be able to master various types of academic texts in the target language German, deliver presentations on their own research topic, and participate in academic discussions.

授業の内容 / Course Contents

Der Kurs beinhaltet verschiedene Formen wissenschaftlicher Textsorten wie Aufsatz, Rezension und Abstract. Es wird der Unterschied zwischen analytischen und deskriptiven Textelementen und die damit verbundenen sprachlichen Mittel erarbeitet.

Im Zentrum stehen die Einübung von Sprachmitteln zur präzisen Formulierung von Hypothesen und Argumenten, der Aufbau eines wissenschaftlichen Textes bzw. eines Vortrages sowie allgemein das akademische Fachvokabular und gebräuchliche wissenschaftliche Phrasen.

Die Studierenden bereiten dafür im Laufe des Semesters eigene kurze Texte und Probereferate vor, die vom Dozenten korrigiert und im Plenum diskutiert werden. Ferner werden authentische wissenschaftliche Texte und Vortragsmanuskripte analysiert und für die eigene Arbeit fruchtbar gemacht. Am Ende des Semesters sollen die Studierenden einen eigenen Essay verfassen und ein Referat dazu halten.

Der Kurs baut zum Teil auf jenem des Frühjahrssemesters auf, kann jedoch auch unabhängig von diesem besucht werden.

The course covers various scientific types of texts, including essays, reviews, and abstracts. Furthermore, it explores the differences between analytical and descriptive writing.

The focus is on practicing language tools to precisely formulate hypotheses and arguments, structure scientific texts and presentations, and use academic vocabulary and common scientific phrases.

Throughout the semester, students will prepare their own short texts and trial presentations, which will be corrected by the instructor and discussed in the plenum. Additionally, authentic scientific texts and presentation manuscripts will be analyzed and made fruitful for one's own work. At the end of the semester, students are expected to write an essay and give a presentation on it.

This course builds on some of the contents covered in the spring semester, but can also be taken independently.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Wissenschaftliche Textsorten
- 2 回：Zusammenfassungen schreiben
- 3 回：Rezensionen schreiben
- 4 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (1)
- 5 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (2)
- 6 回：Textbausteine des wissenschaftlichen Aufsatzes (3)
- 7 回：Analytische und deskriptive Textelemente
- 8 回：Forschungsfragen formulieren
- 9 回：Wissenschaftliche Referate halten (Textbausteine, Regeln, Tipps & Tricks)
- 10 回：An wissenschaftlichen Diskussionen teilnehmen (Wie beantwortet man Fragen? Wie stellt man Fragen?)
- 11 回：Teilnahme an Tagungen: Phrasen für die Vorstellung von Referentinnen und Referenten; Phrasen für den Dank an die Organisatoren; Überleitungen, etc.
- 12 回：Fallbeispiele
- 13 回：Probereferate mit Diskussion
- 14 回：Abschlussdiskussion, Reflexion, Ausblick (studentische Tagungen, interuniversitäre Seminare)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Hausaufgaben; Lesen und Verfassen von Texten

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation (Referat):33% Class room participation (Mitarbeit):33% 最終レポート割合 :34%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Deutschkenntnisse

その他/ Others

Unterlagen werden im Unterricht verteilt

注意事項

For Course Objectives and every evaluation criterion, a higher level of achievement than master's students is required.

研究指導

Tutorial Session

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 みどり (HAYASHI MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ156
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ157
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ201
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

福嶋 亮大 (FUKUSHIMA RYOTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド* (パワポ* 等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

林 みどり (HAYASHI MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

菅野 聡美 (KANNO SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

蜂飼 耳 (HACHIKAI MIMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ256
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： その他
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

研究指導

Tutorial Session

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 文学研究科
科目コード等： PJ257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： COC7840
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士學位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワー等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :
個人発表 : ○ グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

比較文明学特殊研究 1

Research on Comparative Civilizations 1

比較方法研究

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PJ301

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC7810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本専攻独自の幅広い研究方法を身につける。

In this course, students will learn a broad range of research methods unique to this field of study.

授業の内容 / Course Contents

学生各自による報告と相互批評の切磋琢磨を行うことを目的とする。蝸壺型の研究に閉じこもることなく、相互に厳しいアカデミックな批評方法を身につける。同時にハンドアウトの作り方や、報告の仕方、論文の構成の仕方等、学会等で通用する実践的な訓練を行う。具体的には、以下を軸に進める。

- (1)これまでやってきた研究論旨の報告（論文の趣旨と構成、章立ての報告、今後の課題等）
- (2)現在進行中の研究報告（論文の章立てや各章の具体的な趣旨、なにを明らかにするか、あるいはどの点で試行錯誤しているか等）、その一部として、修士論文準備段階の人は、自分の研究テーマにとって重要な最近の書籍を1点取り上げ、書評の執筆を進めてもらう。
- (3)論文執筆の途中経過報告

どの場合も、報告ではレジュメと同時に、所定の分量の文章化した原稿を配付物とすること。議論の一環とし

て原稿の相互添削を取り入れる。

詳細は1回目の授業で説明する。

The goal of this course is for students to grow through working diligently, writing reports and constructively criticizing each other's work. Rather than having them shut themselves away with their research, this course will teach students rigorous methods of mutual academic criticism. At the same time, students will learn how to make handouts and write reports, while learning how to compose a paper. Students will receive practical training that will come in handy at academic conferences. Specifically, this course will cover the following main topics.

1. Reporting research conducted up until now (the gist and structure of the paper, reporting by section, future topics, etc.)
2. Report of research currently in progress (Each section of the paper/the specific gist of each section, what does it shed light on, or rather which parts proceed via trial and error, etc.). As a part of this, students who are preparing their master's thesis will pick up an important, recent publication relating to their research theme and write a review of it.
3. Paper writing progress reports

In each case for the report, along with an outline, students will provide an essay draft of a designated length. As part of course discussions, students will look over each other's drafts.

Specific details will be explained during the first class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業内情報検索講習会
- 3回：報告と議論（1）
- 4回：報告と議論（2）
- 5回：報告と議論（3）
- 6回：報告と議論（4）
- 7回：報告と議論（5）
- 8回：報告と議論（6）
- 9回：報告と議論（7）
- 10回：報告と議論（8）
- 11回：報告と議論（9）
- 12回：報告と議論（10）
- 13回：報告と議論（11）
- 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告:40% 議論への参加度:30% 提出物（学術的書評もしくは研究経過報告）:30%
提出物の詳細は授業時に指示する。

テキスト/ Textbooks

もちいない

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

その他/ Others

この授業は比較文明学専攻の中心的授業であり、「全体授業」と位置付けられている。単位修得とは無関係に出席が推奨される。

提出物のうち書評については、立教比較文明学会紀要『境界を越えて』への投稿を想定している。査読をクリアするよう、夏休み期間中にも引き続きブラッシュアップすることが求められる。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

比較文明学特殊研究 2

Research on Comparative Civilizations 2

文明批判論

渡名喜 庸哲 (TONAKI YOTETSU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PJ302

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC7810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

比較文明学基礎研究を進める。研究交流の場を提供する。

In this course, students will conduct basic research in comparative civilizations studies. This course will serve as a means to exchange research.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、学生各自による報告と相互批評の切磋琢磨を行うことを目的とする。蝸壺型の研究に閉じこもることなく、相互に厳しいアカデミックな批評方法を身につける。また同時に、ハンドアウトの作り方や、報告の仕方、論文の構成の仕方等、学会等で通用する実践的な訓練を行う。報告ではレジュメと同時に、所定の分量（4,000 字程度）の文章化した原稿を配付物とすること。議論の一環として原稿の相互添削を取り入れる。最終的には修士論文 1 章分相当の文章（10,000 字程度）を提出してもらう。

The goal of this course is for students to grow through working diligently, writing reports and constructively criticizing each other's work. Rather than having them shut themselves away with their research, this course will teach students rigorous methods of mutual academic criticism. Again, at the same time, students will learn how to

make handouts and write reports, while learning how to compose a paper. Students will receive practical training that will come in handy at academic conferences. In each case for the report, along with an outline, students will provide an essay draft of a designated length (around 4,000 characters). As part of course discussions, students will look over each other's drafts. Eventually, students will turn in an essay roughly equivalent to the size of one section of a master's thesis (about 10,000 characters).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業内情報検索講習会
- 3回：報告と議論（1）
- 4回：報告と議論（2）
- 5回：報告と議論（3）
- 6回：報告と議論（4）
- 7回：報告と議論（5）
- 8回：報告と議論（6）
- 9回：報告と議論（7）
- 10回：報告と議論（8）
- 11回：報告と議論（9）
- 12回：報告と議論（10）
- 13回：報告と議論（11）
- 14回：全体の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の報告準備が当然必要。そのほかは履修登録後に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 報告:40% 議論への参加度:30% 提出物:30%

テキスト / Textbooks

プリントなどを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

その他 / Others

この授業は比較文明学専攻の中心的授業であり、「全体授業」と位置付けられている。単位修得とは無関係に出席が推奨される。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

比較文明学特殊研究 4

Research on Comparative Civilizations 4

漢文訓読論

林 文孝 (HAYASHI FUMITAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PJ304

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC7810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 漢文訓読法の文明的意義について認識する。
- 漢文訓読法の概要を理解する。
- 漢文訓読法の知識を漢文資料の読解に適用する。
- 上記の知見を踏まえることにより、各自の研究を進めるための高次の視点を獲得する。

授業の内容 / Course Contents

毎回の授業時間を前半と後半に分けて実施する。

前半では、漢文訓読法の文明的意義について、教員の講義および参加者による関係論文についての報告により理解を深める。

後半では、授業期間の最初、漢文訓読法の基礎知識の習得に努め、残りの期間においては資料読解の実践的練習を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（1）
 3回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（2）
 4回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（3）
 5回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（4）
 6回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（5）
 7回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（6）
 8回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（7）
 9回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（8）
 10回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（9）
 11回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（10）
 12回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（11）
 13回：講義・報告と議論、漢文読解の実践練習（12）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

報告については担当者による事前準備のほか、対象テキストを他の参加者も予習する。
 漢文訓読には語学学習としての側面があることから、予習と復習は必須。
 詳しくは授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表・報告(複数回):50% 授業参加度:50%

全ての評価方法において、前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

プリント・コピーを用意する。

参考文献 / Readings

金文京 『漢文と東アジア 訓読の文化圏』 岩波書店 2010 9784004312628

そのほかは適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

以下の場面に対応できる日本語能力があることが望ましい。

- ・日本語学術論文を読解・要約すること。
- ・文語文法を使用することを含め、漢文訓読のルール説明を理解すること（漢文訓読の経験者である必要はない）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料共有等のため Canvas LMS を使う可能性がある。

発表資料作成のために PC が必要。

その他 / Others

関係論文についての報告は一回ごとに担当者を決めて演習形式で行う。

漢文読解の実践練習は、教室でテキスト内容を解説しつつ、参加者に理解定着のための質問を行い回答を求める。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

比較文明学特殊研究 8

Research on Comparative Civilizations 8

ポスト・ヒューマニズムの思想

坪光 生雄 (TSUBOKO IKUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PJ308

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC7810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文献講読を通じて、近代の産業主義的な社会の諸相を批判的に捉えるイヴァン・イリイチの思想を検討し、人間の主体性について実践的に考察するための新しい視点を獲得する。

なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。

We will explore Ivan Illich's thought, which is deeply critical of the various aspects of modern industrialized societies, to gain a renewed perspective on the status of humanity and subjectivity.

授業の内容 / Course Contents

イヴァン・イリイチの著作・論文を講読します。イリイチは、産業化された近代社会をさまざまな角度から批判的に問い直し、乗り越えようとする思想を展開しました。脱成長（開発批判）、脱学校、近代医療批判といった論点で知られるイリイチの思想は、ポスト植民地主義、障害学、環境倫理、ケアの思想、ポスト世俗主義など、現代の幅広い問題関心とも結びつきます。

毎回の授業では、講読箇所と発表者を決め、その発表に基づき議論を行います。文献については、まずは下記指定のテキストを読み、その後は履修者の関心と本科目のテーマに即して選定した文献を順次検討していく予

定です。

We will read and discuss Ivan Illich's books shown below.

Illich offered critical perspectives on the various aspects of modern industrialized societies. His critical take on modern educational and medical systems and global developmentalism can be associated with the contemporary themes of postcolonialism, environmental ethics, ethics of care, disability studies, and postsecularism.

Each class will be discussed based on the presenter's presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読
- 3回：文献講読
- 4回：文献講読
- 5回：文献講読
- 6回：文献講読
- 7回：文献講読
- 8回：文献講読
- 9回：文献講読
- 10回：文献講読
- 11回：文献講読
- 12回：文献講読
- 13回：文献講読
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

週ごとに指定された箇所を読んで授業にのぞむこと。また、自身が発表担当者になった回は、レジュメの作成等、発表のための準備をしてくる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への参加:100%

テキスト / Textbooks

- イヴァン・イリイチ 『コンヴィヴィアリティのための道具』 ちくま学芸文庫 2015 9784480096883 ○
- イバン・イリイチ 『生きる希望：イバン・イリイチの遺言』 藤原書店 2006 9784894345492 ○

指定の書籍、とくに上記1については、各自入手してください。その他、授業が進むなかで新たに文献を指定することがあります。

参考文献 / Readings

参考文献は授業のなかで適宜紹介します。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

比較文明学特殊研究 9

Research on Comparative Civilizations 9

暴虐の詩学——ヴェイユとシオラン

今村 純子 (IMAMURA JUNKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 文学研究科

科目コード等： PJ309

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： COC7810

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

存在と言葉が寄って立つ場所を見極め、「自分自身の」文体を確立することを目指します。

We aim to establish our own style of writing, identifying where presence and words stand together.

授業の内容 / Course Contents

一見したところ相反する資質をもつかのように見える、ふたりの思想家の著作、シモーヌ・ヴェイユとエミール・シオランを交互に読むことを通して、ユーモアとイロニーが交差する一点が不幸を美へと昇華させる「暴虐の詩学」を明らかにし、それを自分自身の言葉で表現できることを目指します。

Through alternate readings of two thinkers, Simone Weil and Emile Ciorin, who at first glance seem to have contradictory qualities, the intersection of humor and irony reveals the "Poetics of violence" that sublimates misfortune into beauty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：『根をもつこと』①
 3回：『歴史とユートピア』①
 4回：『根をもつこと』②
 5回：『歴史とユートピア』②
 6回：『根をもつこと』③
 7回：『歴史とユートピア』③
 8回：『根をもつこと』④
 9回：『歴史とユートピア』④
 10回：『根をもつこと』⑤
 11回：『歴史とユートピア』⑤
 12回：『根をもつこと』⑥
 13回：『歴史とユートピア』⑥
 14回：まとめと補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの当該箇所を精読してくることが求められます。受講者全員に、2~3回、発表を担当してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 受講態度+積極性:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

1. シモーヌ・ヴェーユ、山崎庸一郎訳『根をもつこと』[新装版] 春秋社、2020年
2. E.M.シオラン、出口裕弘訳『歴史とユートピア』紀伊國屋書店、1967年

*コピーを配布します。

*PDFで原書も配布します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

学生間の議論を統括して、テキストを有機的に継承する能力が求められます。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。